

仙台市文化財調査報告書第 488 集

桜ヶ岡公園遺跡

— 第 6 次発掘調査報告書 —

2021 年 2 月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第 488 集

桜ヶ岡公園遺跡

— 第 6 次発掘調査報告書 —

2021 年 2 月

仙台市教育委員会



調査区北側 II層全景（南から）



調査区南側 IV層全景（南から）



調査区全景（写真上が北）

序 文

仙台市の文化財行政に対しまして、日頃よりご理解、ご協力をいただき、担当する仙台市教育委員会にとりましては、まことに感謝に堪えません。

西公園として市民に親しまれている桜ヶ岡公園一帯は桜ヶ岡公園遺跡に含まれています。これまでに、地下鉄東西線建設事業や桜ヶ岡公園再整備事業に伴って第5次までの発掘調査が行われ、大きな成果が得られています。

本報告書には、桜ヶ岡公園南側の試掘調査の結果により拡大された、桜ヶ岡公園遺跡内のマンション建設に先立って実施した第6次発掘調査の成果を収録しています。当該地は江戸時代の絵図によると、伊達家の重臣の屋敷地等に当たり、近世の屋敷跡等の検出が予想されていました。

今回の調査では、遺構の残存状況は良好ではなかったものの、江戸時代から明治時代にかけての時期と考えられる遺構が検出され、大量の瓦や陶磁器等の遺物が発見される等、江戸時代からのこの場所における土地利用の変遷がうかがわれる資料が得られました。

先人たちの残した文化遺産を保護し、活用しながら、市民の宝として長く後世に伝えていくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことと考えます。ここに報告する調査成果が、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

令和3年2月

仙台市教育委員会

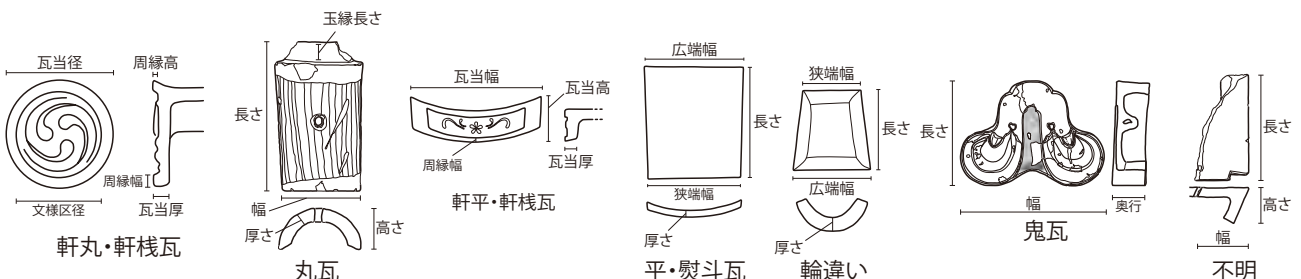
教育長 佐々木 洋

例言

1. 本書は共同住宅建設に伴い実施された、桜ヶ岡公園遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会が株式会社イビソク仙台支店へ委託して実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 主濱光朗・高橋純平の監理のもとに、株式会社イビソク仙台支店 稲垣裕二・名久井伸哉が担当した。
4. 本書に掲載している絵図は、各所蔵機関の許可を得ている。
5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示をいただき、多岐にわたってご協力を賜った。記して謝意を表す（敬称略、順不同）。
藤澤敦（東北大学学術資源研究公開センター）
仙台市博物館 仙台市歴史民俗資料館 宮城県図書館
6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
7. 報告書掲載陶磁器の産地及び年代等は、佐藤洋氏の鑑定による。

凡例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 2016 年版）に準拠している。
2. 図中の座標値は世界測地系（2011）を使用した。
3. 本文図版等で使用した方位は座標北を基準としている。
4. 標高値は海拔高度（TP）を示し、値は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災後の修正座標を使用している。
5. 遺構図は 1/60 縮尺を基本とし、遺構の規模に合わせて 1/80 縮尺も使用した。詳細については各図のスケールを参照されたい。
6. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
7. 遺構図内のトーンの詳細については、遺構図にある凡例を参照されたい。
8. 遺構・遺物の整理・登録及び報告書での記載には、以下の分類と略号を使用した。
SA：柱列跡、SB：建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SK：土坑、SX：性格不明遺構、P：ピット
Ca：土師質土器、Da：土師質土器（ロクロ）、F：軒丸・丸瓦、G：軒平・平瓦、Ha：軒棧・棧瓦、Hb：鬼瓦、Hc：そのほかの瓦、I：陶器、J：磁器、Ka：石匙、Kb：磨製石斧、Kd：そのほかの石製品、N：金属製品、Na：古銭、T：瓦質土器、P：土製品・瓦塔、Q：骨角器
9. 遺物実測図は、原則 1/3 縮尺としたが、瓦は 1/5、石匙は 2/3、土製品は 1/2 で掲載した。
10. 遺物観察表内の法量の記載で、「」書きの数値は残存値、() 書きの数値は復元推定値を示している。瓦の計測箇所に関しては下図を参照されたい。



目次

序 文
例 言
凡 例

第1章 調査概要	1	ピット	83
第1節 調査に至る経緯	1	第5節 II層上面	84
第2節 調査要項	1	建物跡	85
第2章 位置と環境	2	柱列跡	85
第1節 地理的環境	2	井戸跡	87
第2節 歴史的環境	2	土坑	87
第3節 これまでの発掘調査	7	性格不明遺構	88
第3章 調査の方法と概要	7	ピット出土遺物	88
第1節 現地調査	7	土塁	90
第2節 調査経過と概要	7	第6節 遺構外出土遺物	93
第3節 整理作業	10	各層出土遺物	93
第4章 基本層序	10	第6章 出土遺物と検出遺構の検討	112
第5章 検出遺構と遺物	16	第1節 出土遺物	112
第1節 VI・VII層上面	16	第2節 大火後の整地変遷	120
建物跡	17	第3節 絵図と検出された通路跡との比較	123
柱列跡	18	第7章 まとめ	124
土坑	18	引用・参考文献	
性格不明遺構	19	写真図版	
第2節 V層上面	36	報告書抄録	
柱列跡	36		
溝跡	38		
土坑	41		
性格不明遺構	42		
第3節 IV層上面	56		
柱列跡	57		
性格不明遺構	57		
ピット	60		
第4節 III層上面	61		
通路跡	62		
谷地形	62		
柱列跡	71		
性格不明遺構	73		

図版目次

第 1 図	宮城県・仙台市位置図	2	第 43 図	SX21 性格不明遺構 出土遺物 (2)	45・46
第 2 図	河岸段丘分布図・断面模式図	3	第 44 図	SX22 性格不明遺構 出土遺物	47
第 3 図	周辺遺跡分布図	4	第 45 図	SX24 性格不明遺構 平面図・断面図	48
第 4 図	絵図 1	5	第 46 図	SX24 性格不明遺構 出土遺物	48
第 5 図	絵図 2	6	第 47 図	SX26 性格不明遺構 出土状況図・平面図	49
第 6 図	既調査区配置図	8	第 48 図	SX26 性格不明遺構 断面図	50
第 7 図	グリッド配置図	9	第 49 図	SX26 性格不明遺構 出土遺物 (1)	51
第 8 図	調査区西壁断面図	12	第 50 図	SX26 性格不明遺構 出土遺物 (2)	52
第 9 図	南北ベルト断面図	13	第 51 図	SX29 性格不明遺構 平面図・断面図	53
第 10 図	調査区南壁、東西ベルト断面図	14	第 52 図	SX29 性格不明遺構 出土遺物	53
第 11 図	Ⅵ・Ⅶ層遺構配置図	16	第 53 図	SX30 性格不明遺構 平面図・断面図	54
第 12 図	SB6 建物跡 平面図・断面図	17	第 54 図	SX30 性格不明遺構 出土遺物 (1)	54
第 13 図	SA9 柱列跡 平面図・断面図	18	第 55 図	SX30 性格不明遺構 出土遺物 (2)	55
第 14 図	SK22 土坑 平面図・断面図	18	第 56 図	SX60 性格不明遺構 平面図・断面図	55
第 15 図	SK22 土坑 出土遺物	19	第 57 図	Ⅳ層上面遺構配置図	56
第 16 図	SX23 性格不明遺構 平面図・断面図	19	第 58 図	SA8 柱列跡 平面図・断面図	57
第 17 図	SX23 性格不明遺構 出土遺物	19	第 59 図	SX12 性格不明遺構 平面図・断面図	58
第 18 図	SX25 性格不明遺構 平面図	21	第 60 図	SX12 性格不明遺構 出土遺物	58
第 19 図	SX25 性格不明遺構 断面図 (1)	22	第 61 図	SX17 性格不明遺構 出土状況図・平面図	58
第 20 図	SX25 性格不明遺構 断面図 (2)	23	第 62 図	SX17 性格不明遺構 断面図	59
第 21 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (1)	24	第 63 図	SX17 性格不明遺構 出土遺物	59
第 22 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (2)	25	第 64 図	SX41 性格不明遺構 平面図・断面図	60
第 23 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (3)	26	第 65 図	SX62 性格不明遺構 平面図・断面図	60
第 24 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (4)	27	第 66 図	SX62 性格不明遺構 出土遺物	60
第 25 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (5)	28	第 67 図	Ⅲ層上面遺構配置図	61
第 26 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (6)	29	第 68 図	通路跡 平面図・断面図・立面図	63・64
第 27 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (7)	30	第 69 図	通路跡内-SK1 平面図・断面図	65
第 28 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (8)	31	第 70 図	SX59 性格不明遺構 出土遺物	65
第 29 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (9)	32	第 71 図	通路跡 出土遺物	66
第 30 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (10)	33	第 72 図	谷地形 平面図・断面図	67・68
第 31 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (11)	34	第 73 図	谷地形 出土遺物 (1)	69
第 32 図	SX25 性格不明遺構 出土遺物 (12)	35	第 74 図	谷地形 出土遺物 (2)	70
第 33 図	SX28 性格不明遺構 平面図・断面図	36	第 75 図	谷地形 出土遺物 (3)	71
第 34 図	SX28 性格不明遺構 出土遺物	36	第 76 図	SA7 柱列跡 平面図・断面図	72
第 35 図	Ⅴ層上面遺構配置図	37	第 77 図	SX42 性格不明遺構 平面図・断面図	73
第 36 図	SD6 溝跡 出土遺物	38	第 78 図	SX42 性格不明遺構 出土遺物	73
第 37 図	SA3・5 柱列跡、SD6・7・9・10・12・13 溝跡 平面図・断面図	39・40	第 79 図	SX43 性格不明遺構 平面図・断面図	74
第 38 図	SK17 土坑 平面図・断面図	41	第 80 図	SX43 性格不明遺構 出土遺物	74
第 39 図	SK17 土坑 出土遺物	41	第 81 図	SX44 性格不明遺構 平面図・断面図	74
第 40 図	SX21・22 性格不明遺構 平面図	42	第 82 図	SX44 性格不明遺構 出土遺物	75
第 41 図	SX21・22 性格不明遺構 立面図・断面図	43	第 83 図	SX45 性格不明遺構 出土状況図・平面図	75
第 42 図	SX21 性格不明遺構 出土遺物 (1)	44	第 84 図	SX45 性格不明遺構 断面図	76
			第 85 図	SX45 性格不明遺構 出土遺物 (1)	76

第 86 図	SX45 性格不明遺構	出土遺物 (2)	……………77	第 106 図	SK37 土坑	出土遺物	……………88
第 87 図	SX45 性格不明遺構	出土遺物 (3)	……………78	第 107 図	SX2 性格不明遺構	平面図・断面図	……………89
第 88 図	SX46 性格不明遺構	出土状況図・平面図・断面図	……………79	第 108 図	SX2 性格不明遺構	出土遺物	……………89
第 89 図	SX46 性格不明遺構	出土遺物	……………79	第 109 図	P8	出土遺物	……………90
第 90 図	SX48 性格不明遺構	平面図・断面図	……………79	第 110 図	P45	出土遺物	……………90
第 91 図	SX48 性格不明遺構	出土遺物	……………80	第 111 図	調査区北側土塁	平面図・立面図	……………91・92
第 92 図	SX49 性格不明遺構	出土状況図・平面図・断面図	……………80	第 112 図	調査区北側土塁	断面図	……………93
第 93 図	SX51 性格不明遺構	平面図・断面図	……………81	第 113 図	V 層	出土遺物	……………94
第 94 図	SX51 性格不明遺構	出土遺物	……………81	第 114 図	IV 層	出土遺物 (1)	……………95
第 95 図	SX52 性格不明遺構	平面図・断面図	……………81	第 115 図	IV 層	出土遺物 (2)	……………96
第 96 図	SX52 性格不明遺構	出土遺物	……………82	第 116 図	IV 層	出土遺物 (3)	……………97
第 97 図	SX53 性格不明遺構	平面図・断面図	……………82	第 117 図	IV 層	出土遺物 (4)	……………98
第 98 図	SX53 性格不明遺構	出土遺物	……………82	第 118 図	IV 層	出土遺物 (5)	……………99
第 99 図	SX58 性格不明遺構	平面図・断面図	……………83	第 119 図	Ⅲ層	出土遺物 (1)	……………100
第 100 図	Ⅱ層上面遺構配置図		……………84	第 120 図	Ⅲ層	出土遺物 (2)	……………101
第 101 図	SD3 溝跡	出土遺物	……………85	第 121 図	Ⅱ層	出土遺物 (1)	……………102
第 102 図	SB1 ～ 4 建物跡、SA1 柱列跡、SD3 溝跡	平面図・断面図・エレベーション図	……………86	第 122 図	Ⅱ層	出土遺物 (2)、Ⅰ層	出土遺物 (1) ……103
第 103 図	SE1 井戸跡	平面図・断面図	……………87	第 123 図	Ⅰ層	出土遺物 (2)	……………104
第 104 図	SE1 井戸跡	出土遺物	……………87	第 124 図	瓦当分類集成図		……………118
第 105 図	SK37 土坑	平面図・断面図	……………88	第 125 図	軒平瓦・軒椽瓦唐草文比較図		……………119
				第 126 図	刻印集成図		……………120
				第 127 図	享保 12 年 (1727) 大火消失推定範囲		……………121
				第 128 図	SX25 焼土検出範囲・整地方向		……………122

写真図版目次

写真図版 1	基本層序	……………129	写真図版 18	出土遺物 (6)	……………146
写真図版 2	SB6、SA9・3・7 (層位順)、SD6・7・9・10・12・13	……………130	写真図版 19	出土遺物 (7)	……………147
写真図版 3	SX23・28、29・30・60、17、42・43・45・48・51・58 (層位順)	……………131	写真図版 20	出土遺物 (8)	……………148
写真図版 4	SX25 (1)	……………132	写真図版 21	出土遺物 (9)	……………149
写真図版 5	SX25 (2)	……………133	写真図版 22	出土遺物 (10)	……………150
写真図版 6	SX21・22	……………134	写真図版 23	出土遺物 (11)	……………151
写真図版 7	SX24・26	……………135	写真図版 24	出土遺物 (12)	……………152
写真図版 8	通路跡	……………136	写真図版 25	出土遺物 (13)	……………153
写真図版 9	谷地形	……………137	写真図版 26	出土遺物 (14)	……………154
写真図版 10	SB1 ～ 5、SE1	……………138	写真図版 27	出土遺物 (15)	……………155
写真図版 11	北側土塁、その他	……………139	写真図版 28	出土遺物 (16)	……………156
写真図版 12	遺物出土状況	……………140	写真図版 29	出土遺物 (17)	……………157
写真図版 13	出土遺物 (1)	……………141	写真図版 30	出土遺物 (18)	……………158
写真図版 14	出土遺物 (2)	……………142	写真図版 31	出土遺物 (19)	……………159
写真図版 15	出土遺物 (3)	……………143	写真図版 32	出土遺物 (20)	……………160
写真図版 16	出土遺物 (4)	……………144	写真図版 33	出土遺物 (21)	……………161
写真図版 17	出土遺物 (5)	……………145	写真図版 34	出土遺物 (22)	……………162
			写真図版 35	出土遺物 (23)	……………163
			写真図版 36	出土遺物 (24)	……………164

写真図版 37 出土遺物 (25) ……………	165	写真図版 40 出土遺物 (28) ……………	168
写真図版 38 出土遺物 (26) ……………	166	写真図版 41 出土遺物 (29) ……………	169
写真図版 39 出土遺物 (27) ……………	167	写真図版 42 出土遺物 (30) ……………	170

表目次

第 1 表 遺跡地名表……………	4	第 17 表 遺構観察表 ピット (2) ……………	109
第 2 表 既調査区成果内容……………	8	第 18 表 遺構観察表 ピット (3) ……………	110
第 3 表 基本層土層注記表……………	15	第 19 表 遺構観察表 ピット (4) ……………	111
第 4 表 遺構観察表 建物跡……………	105	第 20 表 陶器 遺構、層別掲載資料一覧表……………	113
第 5 表 遺構観察表 柱列跡 (1) ……………	105	第 21 表 磁器 遺構、層別掲載資料一覧表……………	113
第 6 表 遺構観察表 柱列跡 (2) ……………	106	第 22 表 土師質土器 遺構、層別掲載資料一覧表……………	114
第 7 表 遺構観察表 通路跡……………	106	第 23 表 土製品 遺構、層別掲載資料一覧表……………	114
第 8 表 遺構観察表 谷地形……………	106	第 24 表 瓦質土器 遺構、層別掲載資料一覧表……………	114
第 9 表 遺構観察表 溝跡……………	106	第 25 表 石器・石製品、骨角器 遺構、層別掲載資料一覧表……………	114
第 10 表 遺構観察表 井戸跡……………	106		
第 11 表 遺構観察表 土坑 (1) ……………	106	第 26 表 金属製品 遺構、層別掲載資料一覧表……………	115
第 12 表 遺構観察表 土坑 (2) ……………	107	第 27 表 瓦 遺構、層別掲載資料一覧表……………	116
第 13 表 遺構観察表 性格不明遺構 (1) ……………	107	第 28 表 瓦当 種類別一覧表……………	117
第 14 表 遺構観察表 性格不明遺構 (2) ……………	108	第 29 表 瓦塔 遺構、掲載資料一覧表……………	120
第 15 表 遺構観察表 土塁……………	108	第 30 表 仙台城下の宝永～享保年間の主な火災記録……………	122
第 16 表 遺構観察表 ピット (1) ……………	108	第 31 表 仙台城下の地震記録……………	123

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

桜ヶ岡公園遺跡は、平成16・17年度に仙台市高速鉄道東西線建設工事に伴う試掘確認調査によって、近世を中心とした時期の遺構・遺物が確認されたことから、平成18年度に新規登録された遺跡である（宮城県遺跡登録番号01562）。平成20年度には、桜ヶ岡公園再整備事業に伴う試掘確認調査が行われ、その結果によって北側に遺跡範囲が拡大されている。

当該地区については、平成28年度に実施された試掘調査によって、近世と考えられる建物跡等の遺構が確認され、瓦や陶磁器等の遺物が出土したことから遺跡範囲を南に拡大した。

平成30年3月9日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取り扱いについて(協議)」(平成30年3月19日付、H29教生文第103－098号で回答)に基づき、共同住宅の建設範囲及び、その範囲内にある樹齢300年余りのシダレザクラ(仙台市保存樹木)の移植について、申請者と協議を行い、平成30年6月12日付、H30教生文第745号で申請者と委託契約を締結した。それに基づき、平成30年6月29日付、H30教生文第818号で民間調査組織と業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

第2節 調査要項

調査要項

遺 跡 名：桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡登録番号01562）

所 在 地：宮城県仙台市青葉区大手町206・207番地

調 査 原 因：共同住宅建設

調 査 主 体：仙台市教育委員会

調 査 担 当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

専門員 主濱光朗 主事 高橋純平

調 査 組 織：株式会社イビソク仙台支店

主任調査員 稲垣裕二 調査員 名久井伸哉 計測員 奥田弘和 計測補助員 高橋貴到

調 査 期 間：平成30年7月9日～平成31年3月20日

調 査 面 積：2,197㎡

報告書作成要項

[1年次]

整 理 担 当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

調査指導係：専門員 主濱光朗 主事 高橋純平

整 理 組 織：株式会社イビソク仙台支店

主任調査員 稲垣裕二 調査補助員 名久井伸哉 計測員 奥田弘和

整 理 期 間：令和元年5月7日～令和2年3月19日

[2年次]

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

調査指導係：専門員 主濱光朗 主事 高橋純平

整理組織：株式会社イビスク仙台支店 主任調査員 稲垣裕二

整理期間：令和2年4月27日～令和3年2月19日

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、広瀬川が形成した河岸段丘、仙台中町面・仙台下町面群に立地する。今回の調査地点は、平成19・21・22年度調査区南側の仙台中町面上に位置し、周辺には西側から南側にかけて標高差10mの仲の町崖がある。その崖線上から広瀬川まで仙台下町面群(完新世Ⅰ～Ⅲ面)が連続する。広瀬川が形成した河岸段丘は上位より青葉山面群・台ノ原面群・仙台上町面・仙台中町面・仙台下町面に区分



第1図 宮城県・仙台市位置図

される。仙台下町面の形成時期は、完新世Ⅰ面が約9,100～9,500年前、完新世Ⅱ面が約2,010年前とされており、完新世Ⅲ面は完新世Ⅱ面の形成から近世期の間形成されたものと考えられている(松本・熊谷2010)。

調査地点の標高は約40mである。調査区Ⅰ区では河岸段丘堆積物である黒褐色シルト層直下、標高約39mで砂礫層を確認した。調査区Ⅱ区では、南北グリッド4ラインより北側で表土直下、標高約39.8mで砂礫層及び岩盤層を確認した。本調査区より北側、西公園内の調査では仲の町崖から15mの地点で黄褐色粘土質シルト層の河岸段丘堆積物直下に礫層(標高30.2m)および砂礫層(標高29.6m)を確認している。しかし、岩盤層は崖面から23m離れた深掘地点では標高25.6mでも確認出来ず、これらの様相は、広瀬川が浸食と堆積を繰り返していたものであると報告されている(仙台市教委2012)。これらのことから、今回の調査地点は、遺跡範囲内でも、広瀬川の浸食・堆積の影響が少ない位置であったと考えられる。

第2節 歴史的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、仙台藩初代藩主伊達政宗によって築かれた仙台城の本丸跡(第3図-2)から北に約850m、二の丸跡から東北東へ約700mの広瀬川の対岸に位置する。遺跡周辺には仙台城跡の他に、仙台城周辺に配置された大身武家屋敷地の一部である川内A遺跡(第3図-3)、川内B遺跡(第3図-4)等が所在する。

慶長5年(1600)以降、伊達政宗によって仙台城の縄張りと城下の町割りが行われているが、調査地点は、寛文4年(1664)の『仙台城絵図』(第4図-①)に伊達家の重臣である「伊達上野殿」の記載があり、それ以降幕末に至るまでこの地は重臣の屋敷地となっていた。

天和2年(1682)の『奥州仙台城并城下絵図』(第4図-②)には、「侍屋敷」とある。また、同絵図までは本調査対象地の西側と南側に道路が描かれているが、それ以降の絵図には描かれていない。

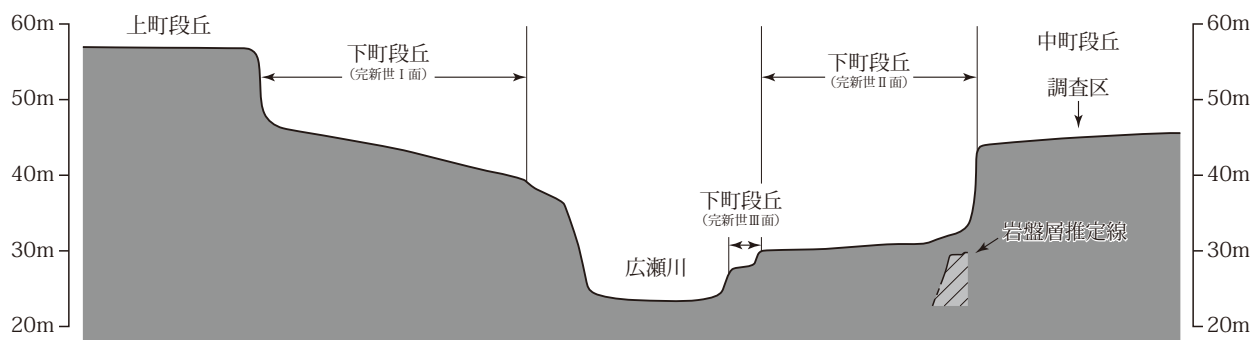
元禄4～5年(1691～92)の『仙台城下五釐掛絵図』(第4図-③)には、左に「古内新十郎」右に「荒物御蔵」とあり、これまで1区画であった屋敷地が2区画に変わっていることがわかる。

安政3～6年（1856～59）の『安政補正改革仙府絵図』（第4図-④）には、左に「石母田勘解由」右に「三澤信濃殿」とあり、元禄以後の区割りが踏襲されている。

幕末から近代にかけては、文久2年（1862）の文久二年仙台北下絵図（第5図）に屋敷が描かれている。また、明治元年（1868）の仙台北下屏風（第5図）にも屋敷が描かれており、明治に入ってからもしばらくは屋敷地として利用されていたことが見てとれる。

明治13年（1880）の『宮城県仙台区全図』（第4図-⑤）には「養蚕試験場」の記載がある。明治6年（1873）1月に明治政府から発せられた廃城令に伴い各屋敷も解体・撤去されることとなり、これまで屋敷地であった当地が、明治の近代化に大きく貢献した養蚕の試験場として活用されたと考えられる。但し、試験場の運用期間や建物の規模等については資料が乏しく詳細は不明である。

「養蚕試験場」として活用されていたこの地は、以降、明治22年（1889）の『改正仙台市明細全図』には「控訴院用地」と記載されており、現在に至るまで裁判所官舎が置かれていた。



第2図 河岸段丘分布図・断面模式図(松本・熊谷2010の図を一部改変)



第3図 周辺遺跡分布図

第1表 遺跡地名表

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格	番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
1	桜ヶ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区桜ヶ岡公園	武家屋敷・散布地	16	愛宕山横穴墓群 B・C地点	古墳・奈良	太白区向山4丁目他	横穴墓
2	仙台城跡	中世～近世	青葉区川内・荒巻	城館跡	17	大年寺山横穴墓群	古墳	太白区向山4丁目	横穴墓
3	川内 A 遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山2丁目	武家屋敷・散布地	18	八木山緑町遺跡	弥生・奈良・平安	太白区八木山緑町	集落地
4	川内 B 遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	武家屋敷	19	萩ヶ丘遺跡	縄文晩・奈良・平安	太白区萩ヶ丘	散布地
5	経ヶ峯伊達家墓所	近世	青葉区霊屋下	墓所	20	土樋遺跡	縄文	青葉区土樋1丁目	散布地
6	川内武家屋敷跡	近世	青葉区川内	武家屋敷	21	向山高裏遺跡	縄文中期	太白区八木山緑町	散布地
7	長徳寺板碑	中世	青葉区向山2丁目	板碑	22	青葉山 E 遺跡	縄文早・中・晩・弥生・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
8	川内古碑群	中世	青葉区川内・荒巻	板碑	23	青葉山 B 遺跡	縄文早・中・弥生・奈良・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
9	片平仙台大神宮の板碑	中世	青葉区片平1丁目	板碑	24	松ヶ丘遺跡	縄文	太白区八木山本庁1丁目	散布地
10	瀬不動尊文永十年板碑	中世	青葉区広瀬町	板碑	25	二ツ沢遺跡	縄文	太白区八木山弥生町	散布地
11	茂ヶ崎城跡	中世	太白区茂ヶ崎1丁目他	城館跡	26	萩ヶ丘 B 遺跡	縄文	太白区萩ヶ丘・長嶺	散布地
12	青山二丁目遺跡	奈良・平安	太白区青山2丁目	横穴墓	27	青山二丁目 B 遺跡	旧石器・縄文	太白区青山2丁目	散布地
13	茂ヶ崎横穴墓群	古墳末・奈良	太白区二ツ沢	横穴墓	28	杉土手遺跡	近世	太白区茂ヶ崎3丁目他	鹿除土手
14	二ツ沢横穴墓群	古墳	太白区二ツ沢	横穴墓					
15	愛宕山横穴墓群 A地点	古墳	太白区向山4丁目他	横穴墓					



①寛文4年(1664)仙台下絵図
「伊達上野殿」(宮城県図書館所蔵)



④安政3~6年(1856~59)安政補正改革仙府絵図
左:「石母田勘解由」 右:「三澤信濃殿」



②天和2年(1682)奥州仙台北城下絵図:幕府提出
「侍屋敷」(宮城県図書館所蔵)



⑤明治13年(1880)宮城県仙台区全図
「養蚕試験場」(仙台市歴史民俗資料館所蔵)



③元禄4~5年(1691~92)仙台下五釐掛絵図
左:「古内新十郎」 右:「荒物御蔵」(仙台市博物館所蔵)

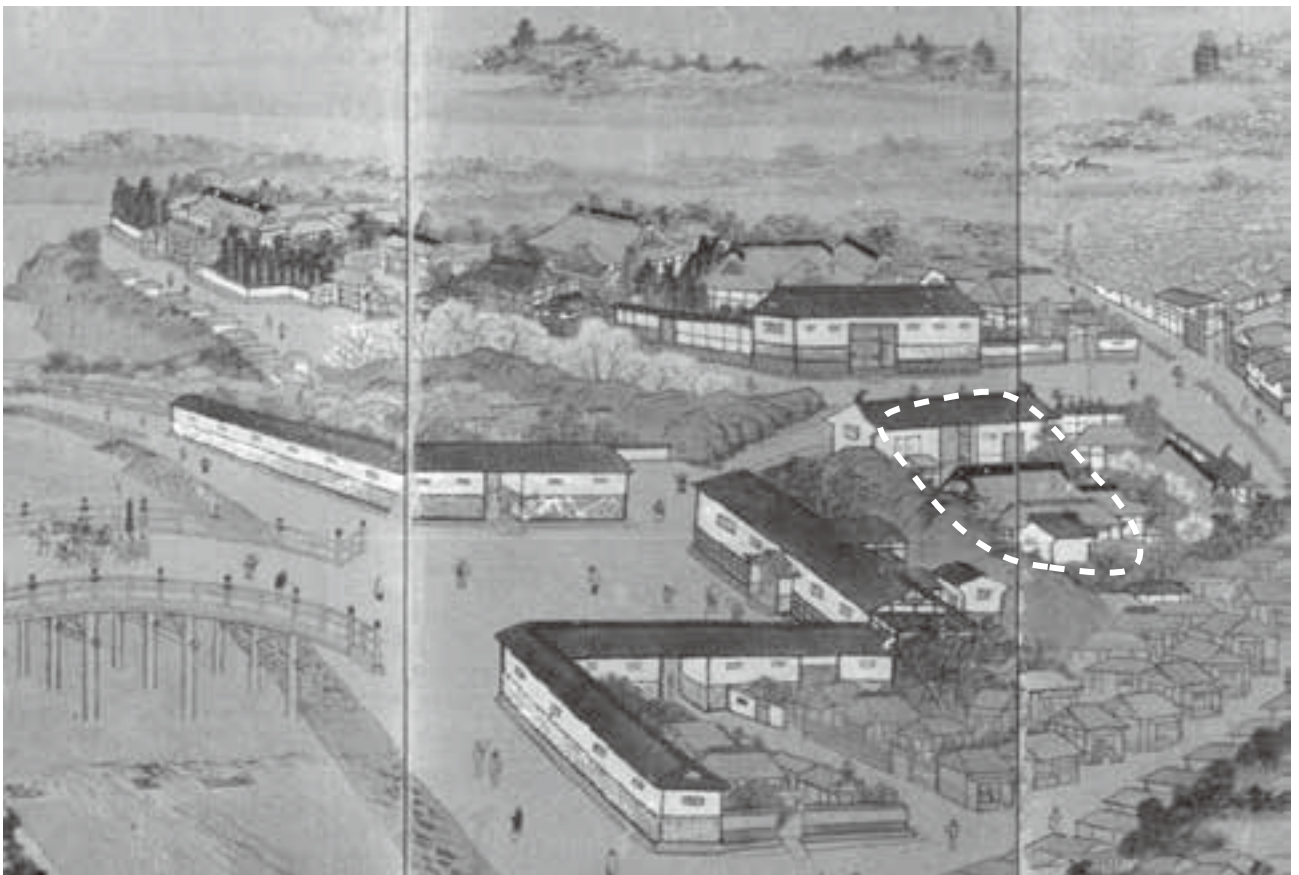


⑥明治22年(1889)改正仙台市明細全図
「控訴院用地」(仙台市歴史民俗資料館所蔵)

第4図 絵図1(破線○内が調査区推定位置)



文久二年仙台下絵図 文久2年（1862）（仙台市博物館所蔵）



慶応元年仙台下図屏風 慶応元年（1865）（一部）（仙台市博物館所蔵）

第5図 絵図2（破線○内が調査区推定位置）

第3節 これまでの発掘調査

桜ヶ岡公園遺跡では、これまで5次の発掘調査が行われている（第6図）。地下鉄東西線建設に伴う第1次調査地点で、本調査区から北へ約60mの平成19・20年度の調査地点が最も近く、武家屋敷の一部と考えられる掘立柱建物跡5棟や区画溝が確認されている。本調査区より北西へ約200mの地点、桜ヶ岡公園の下段で実施された平成19・21・22年度の調査では、金箔瓦・金箔土師質土器が出土している。また、公園整備に伴って第2～5次調査が平成19・20・22・27・28・令和元年に実施され、第4次調査では、県内三例目となる鍋島焼が出土している。

第3章 調査の方法と概要

第1節 現地調査

現地調査は、平成28年度に行われた試掘調査の結果を受けて、平成30年7月9日から平成31年3月20日までの期間で実施した。調査面積は2,197㎡である。

排土置場及び作業のバックヤード確保を目的に調査区を2区に分割し、南側をⅠ区、北側をⅡ区とした（以下Ⅰ区、Ⅱ区と記す）。試掘調査結果から遺構・遺物量が多いと想定されたⅠ区から調査を開始し、Ⅰ区調査終了後Ⅱ区の調査を行った。両区とも、始めに表土・アスファルト・砕石層を重機で掘削・除去し、作業員の安全を十分に確保できる範囲まで重機掘削が進んだ後、人力での掘削を開始した。試掘調査結果と照合しつつ各面ごとに段階的に掘り下げを行い、記録作成・写真撮影を行った。撮影は近代遺構及び堆積土が単層の遺構に関してはデジタル一眼レフカメラで、それ以外は加えて35mmフィルムカメラ2台（カラーポジ・モノクロ）を用いて撮影を行った。また、試掘調査によってⅠ区で検出が想定されていた谷状の落ち込みの範囲や整地層の範囲等を正確に記録することを目的に、各過程においてドローン（phantom3 professional）による写真撮影を行った。

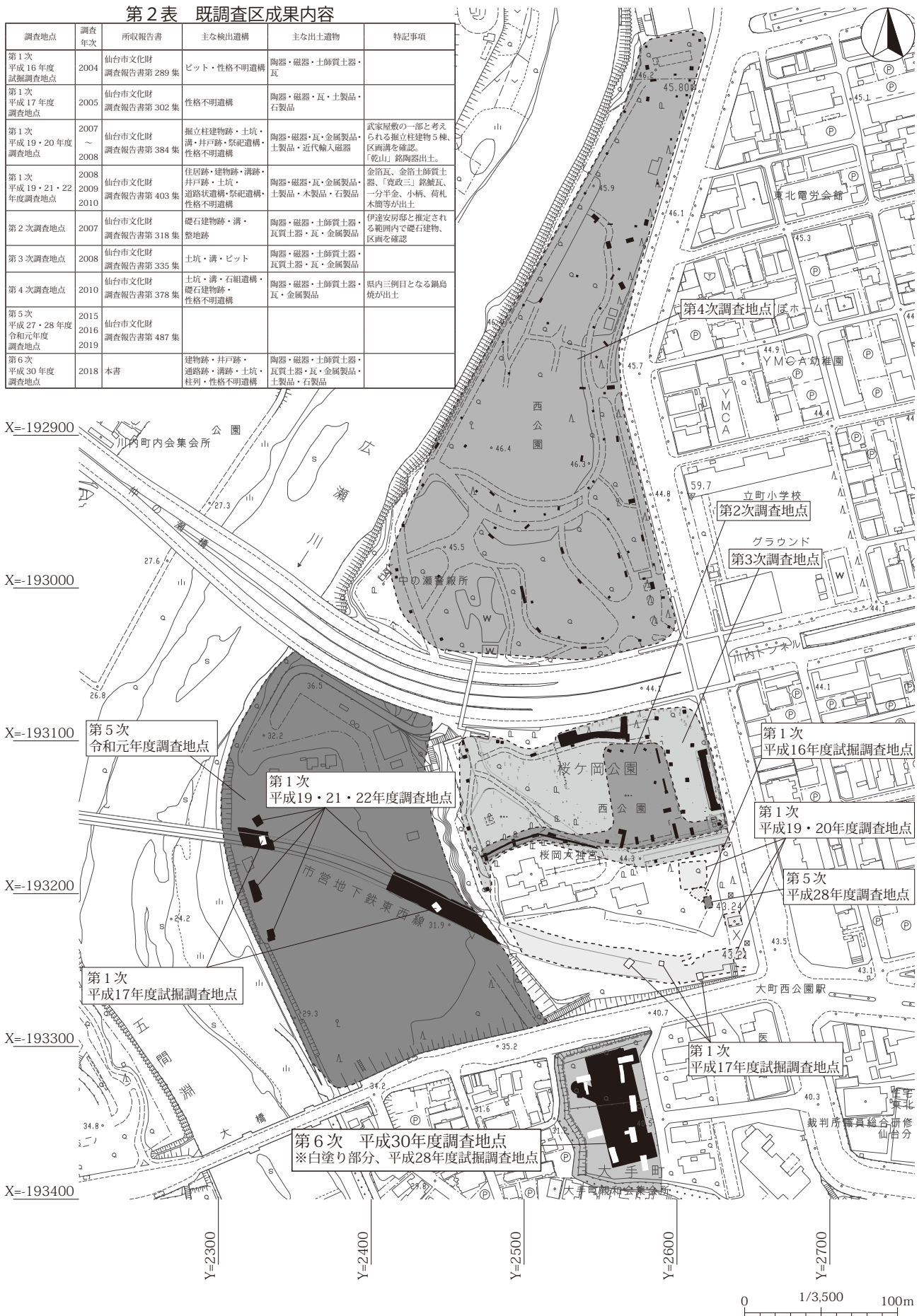
計測作業は、世界測地系座標を基に設置された基準点から、今回の調査で必要な位置に複数箇所新点を設置しグリッドの設定、遺構平面・断面・立面記録、遺物出土地点記録を行った。使用機材は、トータルステーション：杭ナビ、電子平板：TOUGHPAD FZ-G1（本体）、X-FIELD（記録・編集ソフト）である。調査区のグリッドは、世界測地系（2011）を基に調査区を覆う範囲に設定した。調査区北西のX=-193290、Y=2525を原点とし5m単位の方眼を組み込んだ。グリッドの表示は、北から南へアラビア数字で1・2・3…、西から東へアルファベット大文字でA・B・C…とし、それらを組み合わせでA1・B1とした。なお、調査時には5m単位でグリッドを設定したが整理作業の際に10m単位に変更している。

第2節 調査経過と概要

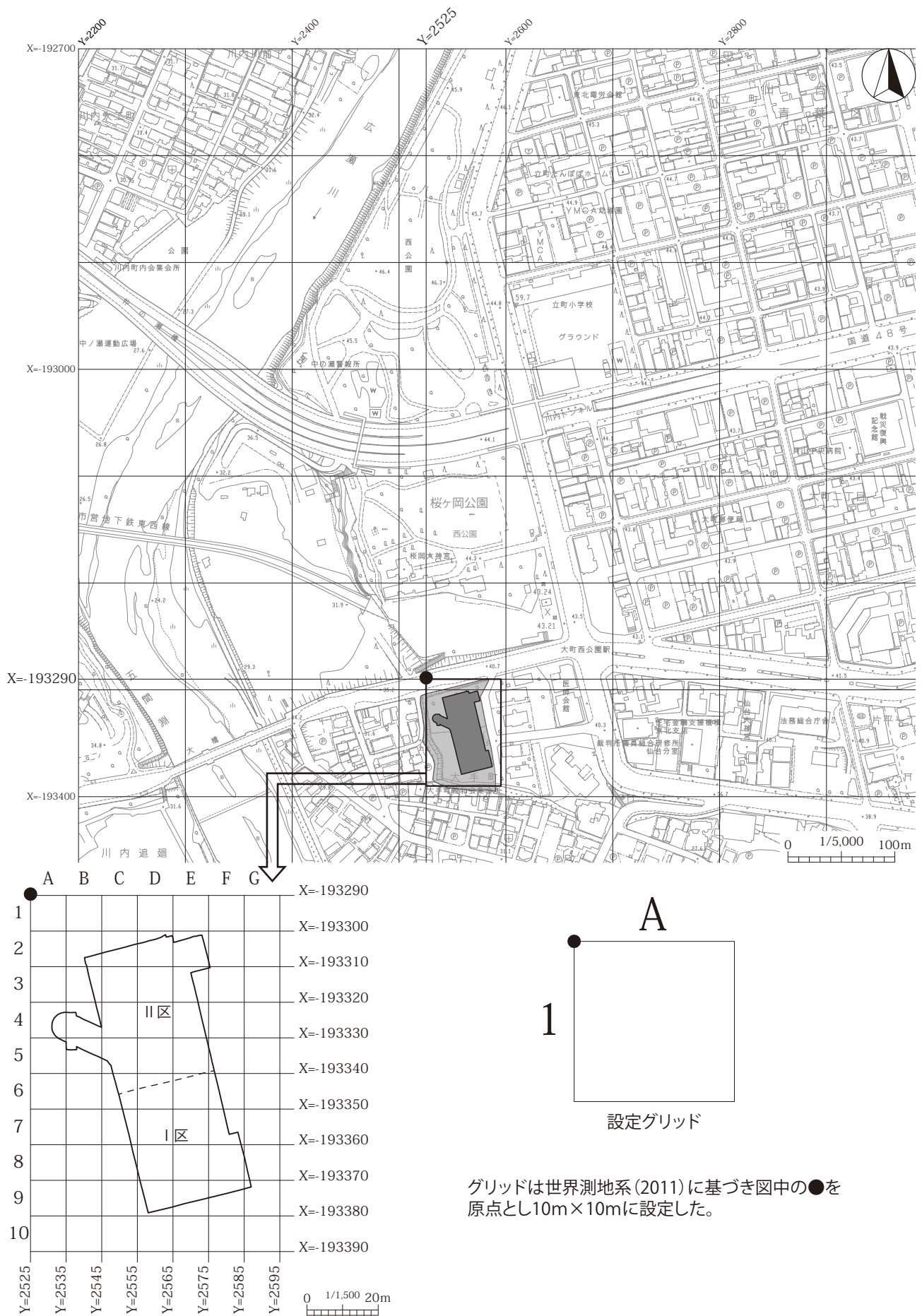
平成30年7月9日に調査区設定を行い、17日よりⅠ区の重機掘削を開始した。近代1面、近世4面の遺構検出面を確認し、近代面では大型の柱穴が並ぶ建物跡、最終面では試掘調査報告にあった谷状の落ち込みを検出した。Ⅰ区の調査は、谷状の落ち込み部分の補足調査を含め同年12月20日に終了し、25日に埋戻しを完了した。26日から28日にかけてⅡ区内の保存樹木移植先の試掘調査を先行して実施し、27日からは並行してⅡ区の重機掘削を開始した。年内の作業は28日で終了し、翌31年1月4日からⅡ区の調査を再開した。Ⅰ区と同様に近代

第2表 既調査区成果内容

調査地点	調査年次	所収報告書	主な検出遺構	主な出土遺物	特記事項
第1次 平成16年度 試掘調査地点	2004	仙台市文化財 調査報告書第289集	ピット・性格不明遺構	陶器・磁器・土師質土器・瓦	
第1次 平成17年度 調査地点	2005	仙台市文化財 調査報告書第302集	性格不明遺構	陶器・磁器・瓦・土製品・石製品	
第1次 平成19・20年度 調査地点	2007 ~ 2008	仙台市文化財 調査報告書第384集	掘立柱建物跡・土坑・溝・井戸跡・祭祀遺構・性格不明遺構	陶器・磁器・瓦・金属製品・土製品・近代輸入磁器	武家屋敷の一部と考えられる掘立柱建物5棟、区画溝を確認。「乾山」銘陶器出土。
第1次 平成19・21・22 年度調査地点	2008 2009 2010	仙台市文化財 調査報告書第403集	住居跡・建物跡・溝跡・井戸跡・土坑・道路状遺構・祭祀遺構・性格不明遺構	陶器・磁器・瓦・金属製品・土製品・木製品・石製品	金箔瓦・金箔土師質土器、「寛政三」銘磁瓦、一分半金、小瓶、荷札木簡等が出土。
第2次調査地点	2007	仙台市文化財 調査報告書第318集	礎石建物跡・溝・塹地跡	陶器・磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦・金属製品	伊達安房邸と推定される範囲内で礎石建物、区画を確認
第3次調査地点	2008	仙台市文化財 調査報告書第335集	土坑・溝・ピット	陶器・磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦・金属製品	
第4次調査地点	2010	仙台市文化財 調査報告書第378集	土坑・溝・石組遺構・礎石建物跡・性格不明遺構	陶器・磁器・土師質土器・瓦・金属製品	区内三例目となる銅鳥焼が出土
第5次 平成27・28年度 令和元年度 調査地点	2015 2016 2019	仙台市文化財 調査報告書第487集			
第6次 平成30年度 調査地点	2018	本書	建物跡・井戸跡・通路跡・溝跡・土坑・柱列・性格不明遺構	陶器・磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦・金属製品・土製品・石製品	



第6図 既調査区配置図



第7図 グリッド配置図

1面、近世4面の遺構検出面を確認し、I区とは別の谷状の落ち込みや、屋敷に付随すると考えられる通路跡を検出した。各面ごとに記録作業を進め平成31年3月13日に調査を終了し、16日までに埋戻しを、20日までに仮施設・資機材一式の搬出と仮設電柱・水道の撤去を終え、撤収作業を完了させた。

第3節 整理作業

整理作業及び報告書作成作業は、1年次として令和元年5月7日から令和2年3月19日まで、2年次として令和2年4月27日から令和3年2月19日に実施した。

遺構平面図及び断面図は、現地で計測したデータを福井コンピュータ社製「ブルートレンド」で編集し、検出面・堆積土・出土遺物等を確認して帰属年代・性格を検討して、Adobeシステム社製「Illustrator」上で個別遺構図を作製した。

出土遺物は、コンテナ284箱で、近世～近現代の陶磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦が主体である。

遺物は洗浄作業を行い、十分な乾燥状態を確認した後に、接合関係を確認し注記・接合作業を行った。注記は、作業前に監督員と記載内容を十分に確認した上で実施した。接合は陶器・磁器・土師質土器・瓦質土器ごとに大別した後、種別ごとに細別しながら作業を行った。接合作業と並行して、遺物の簡易撮影を行い資料化しながら、産地・時期が判別できる遺物の抽出を行い、産地・種類別集計等を行った。接合後、仙台市指定の充填剤を用い復元（充填）作業を行った。大型の遺物に関しては、監督員と遺物の状態を確認しながら復元率を決定した。一部の遺物に関しては、今後の展示普及活動を見据え着色作業を行った。

金属製品は実測・撮影後に保存処理を行った。

遺物は種別・種類・器種を基に抽出を行い、実測図・デジタルトレースを作成し、遺物撮影後に、遺物図版・写真図版を作製した。同器種で抽出しなかったものは写真撮影・登録集計のいずれかの記録保存とした。

遺物実測には、適宜オルソイメージャー（完全正射投影・深焦点システム）で撮影した画像データを用いた。また、Adobeシステム社製の画像編集ソフト「Photoshop」を用いてデジタル正射投影画像から陶磁器の文様を抽出した。実測図トレースは、同社の「Illustrator」で線画を作成し、同時に前述した文様の抽出画像のはめ込みを行った。

本書掲載遺構図の縮尺は全体図1/400、各遺構図1/60を基本としているが、遺構の規模・特徴等必要に応じて適宜に用いている。また、本書掲載の遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、種別・遺物の大きさ・特徴等必要に応じて1/2・2/3・1/5の縮尺を用いたものがある。

報告書レイアウト作業は、Adobe社製の「InDesign」を用いた。

第4章 基本層序

今回の調査によって確認された基本層序は、I層からVII層の大別7層、細別60層である。VII層の下層は岩盤層である。I～VII層は調査区全体で確認し、細別層は、検出面ごとに分布範囲を精査し、主体となる土色及び土質を基準に整地層の単位ごとにまとめ7層に大別し、II・III層はそれぞれa・b、IV層をa～dに細分した。

II層は近・現代の盛土及び整地層で、その下位III・IV層は近世の整地層、V層以下は自然堆積層で、VII層は砂礫層、以下は岩盤である。遺構は、I区ではII～VII層上面、II区ではII～VII層及び岩盤上面で確認した。

I層：暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質シルトで現在の表土である。層厚は10～30cmで、北側ほど厚くなる。調査区全体に分布し、部分的に攪乱を受けている。

Ⅱ a 層：シルトと砂質シルトで構成される層で、6層に細別される。主体となる色調は暗灰黄色（2.5Y5/2）である。粘性は無く、しまりは強い。近代の整地層で、層厚は10～40cm前後で、Ⅱ区北側の岩盤より以南に分布する。

Ⅱ b 層：シルト層で2層に細別される。主体となる色調は黄灰色（2.5Y4/1）である。粘性は無く、しまりは強い。近代の整地層で、層厚は10～40cm前後で、調査区北東部に分布する。

Ⅲ a 層：細砂及び径3～15cmの礫で構成される砂礫層で、色調は灰黄色（2.5Y7/2）である。粘性は無く、しまりは弱い。近世の整地層と考えられ、礫主体で他の整地層とは様相が異なるが、Ⅱ a 層に覆われている。層厚は20～30cmで、C6グリッドの西壁面付近でのみ確認した。

Ⅲ b 層：シルトと砂質シルトで構成される層で、7層に細別される。色調は暗灰黄色（2.5Y4/2）である。近世の整地層で、層厚は10～30cmである。Ⅱ区北側岩盤以南に分布する。北側の東西断面では東から西に向かって斜行堆積していることが確認される。Ⅲ層上面が近世最上面の遺構検出面である。

Ⅳ a 層：シルト、砂質シルト、礫層で構成される層で、34層に細別され、主体となる色調は褐灰色（10YR4/1）である。層厚は20～80cmで、Ⅰ区に分布する。東側の南北断面では、北から南、又は南から北へ斜行堆積しており、北側の東西断面では東から西へ斜行堆積していることが確認される。一定の深度まで埋没していたSX25の窪地を複数の方向から埋め立てたものと考えられる。また、D8グリッド付近では、径20cmを超える大型の礫が大量に混入していたが、規則的な面や列を成しておらず整地作業の際に土壌とともに埋められたものと考えられる。

Ⅳ b 層：シルトと砂質シルトで構成される層で、3層に細別され、色調はⅣ a 層に比べ黄色基調で黄灰色（2.5Y5/1）である。層厚は20～40cmで、F7グリッド付近に分布する。Ⅳ a 層同様東から西へ斜行堆積している。

Ⅳ c 層：シルト層で、2層に細別され、色調は暗灰黄色（2.5Y4/2）である。層厚は20～30cmで、Ⅱ区北東部に分布する。東側の南北断面では狭い範囲の落ち込みとして確認できるが、平面プランが判然としなかったため整地層とした。

Ⅳ d 層：砂質シルト層で、色調は灰黄褐色（10YR4/2）である。粘性は無く、しまりは強い。層厚は10～30cmで、Ⅰ区F9グリッド付近にのみ分布する。Ⅳ層上面が近世の遺構検出面である。

Ⅴ層：シルト層で、主体となる色調は黒褐色（2.5Y3/2）である。粘性は無く、しまりがある。層厚は20～40cmで北側に向かって厚くなる。整地層で、Ⅱ区の岩盤以南に分布する。この層の上面が近世の遺構検出面である。

Ⅵ層：シルト層で、色調は黒褐色（2.5Y3/2）である。粘性は無く、しまりがある。層厚は10～150cmで北に向かって極端に厚みを増す。Ⅰ区からⅡ区にかけての、グリッドE6にのみ分布する自然堆積層である。遺物の出土は無い。

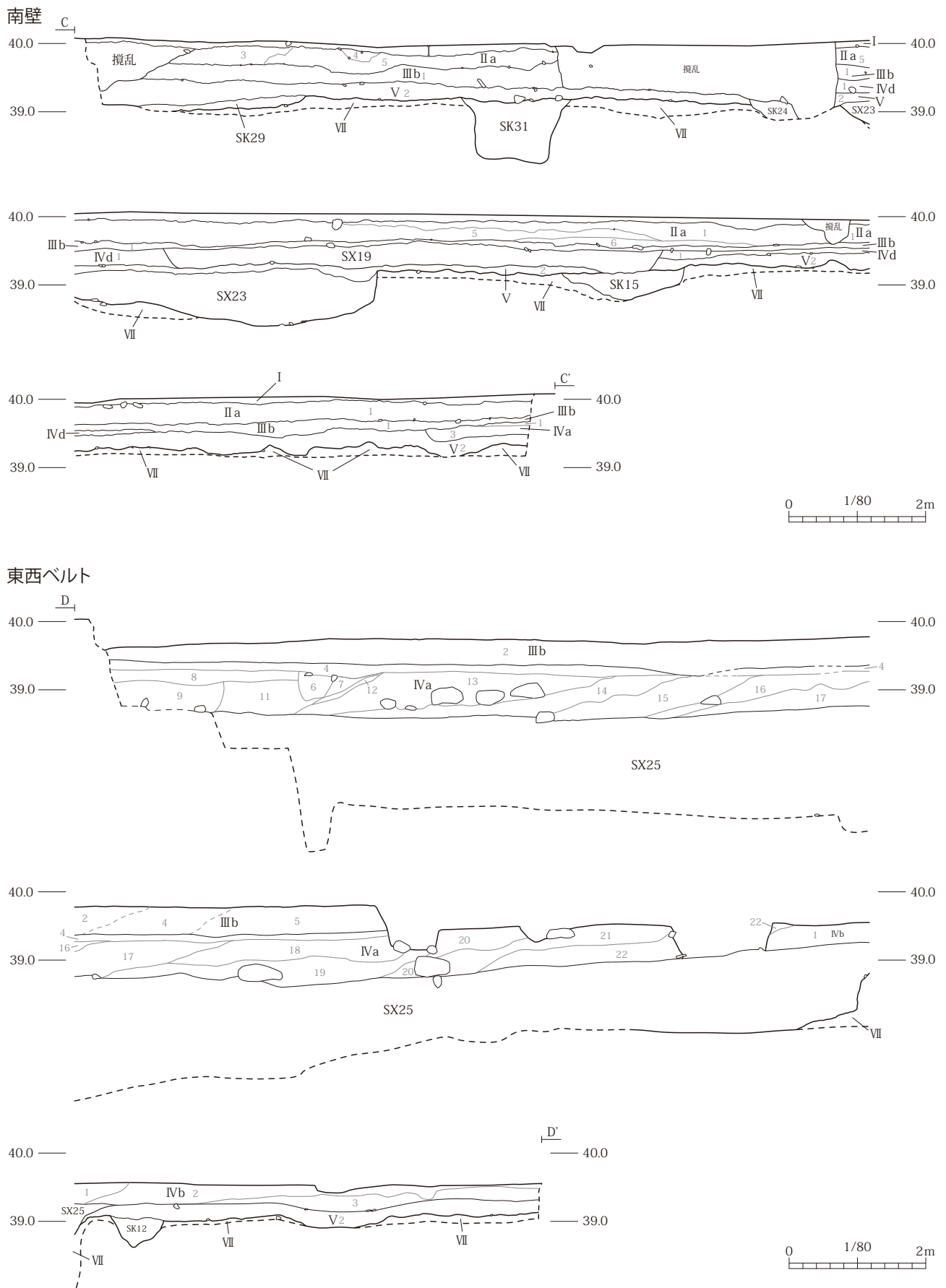
Ⅶ層：砂礫層で、色調は明黄褐色（2.5Y7/6）である。粘性・しまりともに無い。層厚は確認していないが、Ⅰ・Ⅱ区境界、6グリッドラインを重機で掘削したところ層厚は150cm以上で、北側に向かって厚くなる。

Ⅵ層及びⅦ層上面が近世の最も下位の遺構検出面である。

岩盤：色調は灰白色（2.5Y8/2）である。Ⅱ区、4グリッドライン以北の、Ⅰ層直下で確認された。この層の上面は、近代から近世にかけて全ての時期の遺構が掘り込まれている。



第9図 南北ペリト断面図



第10図 調査区南壁、東西ベルト断面図

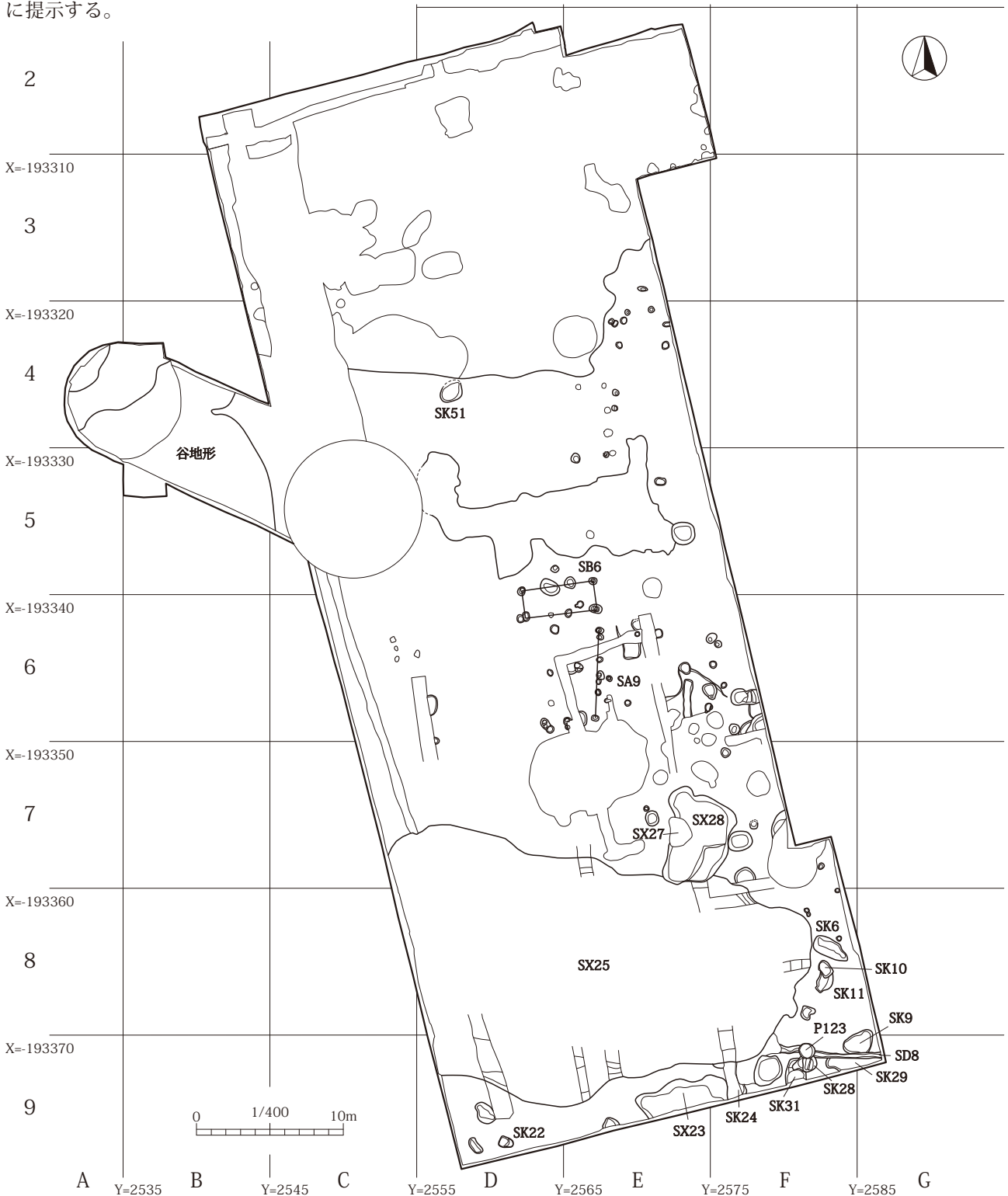
第3表 基本層土層注記表

大別層名	細別層名	土色		土質	混入物・備考
I		2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	表土
II a	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	径1～3cmの礫多量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	径3cm以下の礫少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫少量
	4	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫少量 3よりややしまり強い
	5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	径5cm以下の礫多量 径1～3cmのにぶい黄褐色シルトブロック少量
	6	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫多量 径3～10cmの黄褐色シルトブロック少量
II b	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫少量
	2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫少量 径3～10cmの黄褐色シルトブロック少量
III a		2.5Y7/2	灰黄色	砂礫	細砂及び径3～15cmの砂礫層
III b	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫多量 径3～5cmのしまったにぶい黄色シルトブロック多量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径3～5cmの礫多量 径1cmの炭化物少量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	径3cm以下の礫少量
	4	10YR3/1	黒褐色	シルト	径1～10cmの礫多量 径1cmの黄褐色シルトブロック少量
	5	10YR5/1	褐灰色	シルト	径1～5cmの礫少量
	6	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	径1～5cmの礫少量 径1cmの明褐色シルトブロック少量
	7	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	径1～3cmの礫少量
IV a	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径5～10cmの礫多量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径3cm以下の礫少量
	3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫少量
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径3～5cmの礫少量 径1cmの炭化物少量 径3cmの黄褐色シルトブロック少量
	5	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	径5cmの礫少量 瓦含む
	6	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	径3～5cmの礫少量
	7	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	径3cm以下の礫少量
	8	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	径3～5cmの礫少量 径3cmの明褐色シルトブロック少量
	9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径5～10cmの礫多量 径20cm強の大礫多量 瓦多量に含む
	10	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径20cm強の大礫多量
	11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径3～5cmの礫少量
	12	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	径3cmの礫極少量含む
	13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径3cmの礫少量含む 瓦含む
	14	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	径3～5cm 礫少量含む 瓦含む
	15	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	黄褐色シルト、帯状に混入
	16	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	径3cmの黄褐色シルトブロック少量
	17	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	径1～2cmの黒褐色シルトブロック多量
	18	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	径3～5cmの礫少量 瓦含む
	19	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	径3～5cmの礫少量
	20	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	径3cmの礫少量 径3cmの明褐色シルトブロック少量
	21	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	径3cmの明褐色シルトブロック多量 焼土層
	22	10YR3/2	黒褐色	シルト	径3cmの明褐色シルトブロック多量 瓦多量に含む焼土層
	23	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	径3cm以下の礫少量
	24	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	径1cm以下の礫少量
	25	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	径3cm以下の礫少量
	26	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径3cm以下の礫多量
	27	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	径2cm以下の明褐色シルトブロック多量 焼土層
	28	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径2cm以下の礫多量
	29	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径2cm以下の礫多量
	30	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	径5～10cmの礫少量
	31	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	径20cm強の大礫少量含む 瓦含む焼土層
	32	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	明黄褐色砂礫、帯状に含む
	33	2.5Y7/6	明黄褐色	砂礫	径10cmの黄灰色シルトブロック少量含む 砂礫層
	34	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	非常に固くしまった層
IV b	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	径3～5cmの礫少量 径3cmの明黄褐色シルトブロック少量
	2	5Y5/1	灰色	シルト	径2cm以下の礫少量
	3	5Y4/1	灰色	シルト	径2cm以下の礫少量
IV c	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径3～10cmの礫少量
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径2～5cmの礫多量 径3cmの黄褐色シルトブロック多量
IV d		10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	径3cm以下の礫少量 径3cmの黄褐色シルトブロック少量
V	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	径1cm以下の礫少量
	2	2.5Y2/1	黒色	シルト	径1cm以下の礫少量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	径3cmの黄褐色シルトブロック全体に含む
	4	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	径1～5cmの淡黄色シルト質粘土ブロック多量
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	径3cm以下の礫少量
	6	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	径3cm以下の礫少量
VI		2.5Y3/2	黒褐色	シルト	細砂僅かに含む
VII		2.5Y7/6	明黄褐色	砂礫	砂礫層
岩盤		2.5Y8/2	灰白色	シルト	岩盤層

第5章 検出遺構と遺物

第1節 VI層・VII層上面

VI層およびVII層上面で検出した遺構は、建物跡1棟、性格不明遺構6基、土坑25基、溝跡1条、ピット53基、柱列跡3列である。その内主要な性格不明遺構3基、土坑1基、柱列跡3列を報告する。その他の遺構は一覧表に提示する。



第11図 VI・VII層遺構配置図

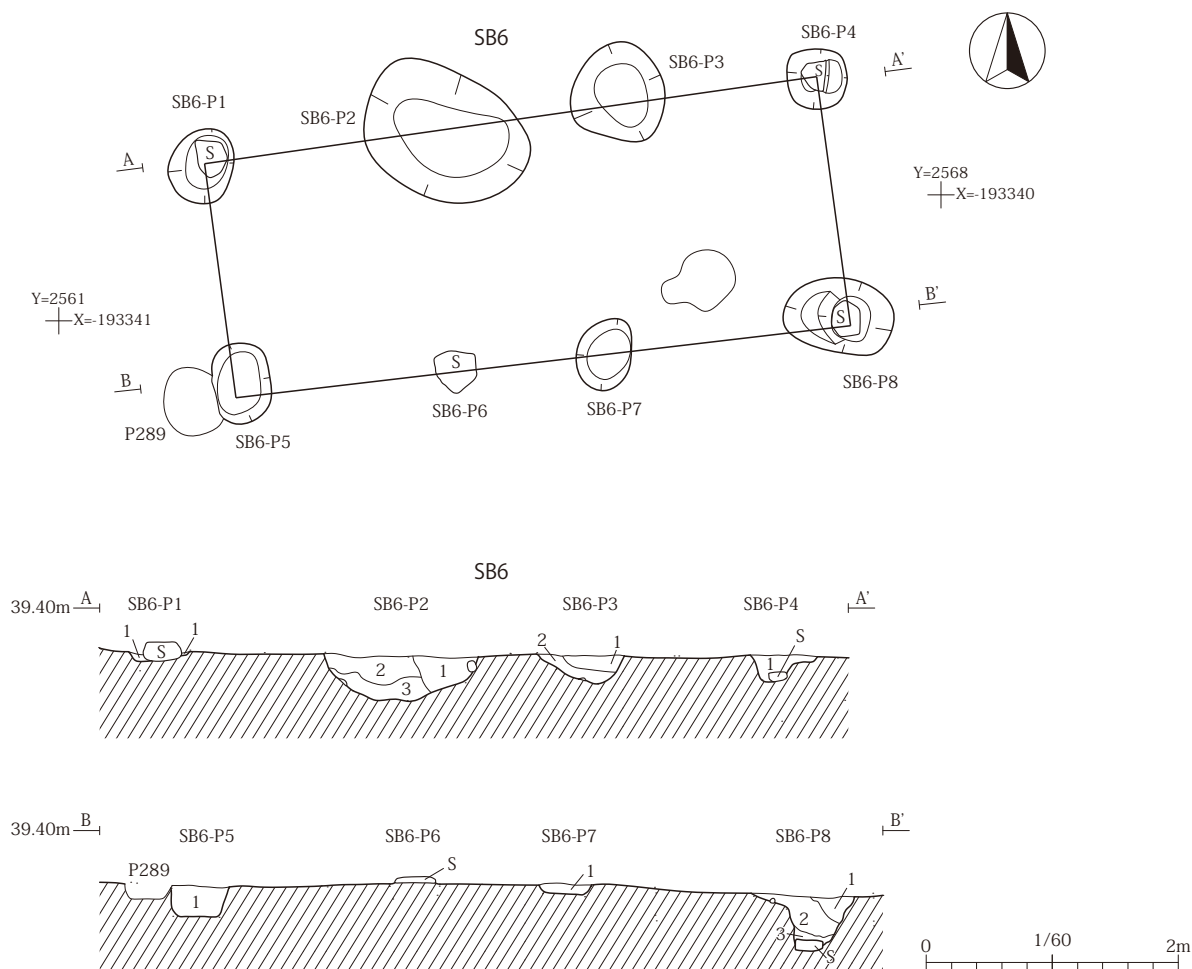
建物跡

SB6 建物跡 (第12図 写真図版2)

D5、E5・6グリッドに位置する。8基の柱穴からなる建物跡である。桁行き検出長486cm(3間)、梁行き検出長183cm(1間)の東西棟である。柱間寸法は桁行方向P1-P2が192cm(6尺4寸)、P2-P3が138cm(4尺6寸)、P3-P4が156cm(5尺1寸)で、方向はN-82°-Eである。P5はP289と重複し、P289が新しい。各柱穴の平面形は円形であるが、P6は根石と考えられる石のみを検出した。断面形はP1～3・7が皿形、P4・5・8が逆台形でP8は東側に段を有する。また、P1・4の底面からはP6と同様の根石と考えられる石が出土している。柱痕跡は確認できなかった。

規模から、住居跡ではなく物置または厩のような性格が考えられるが、整地に伴う削平により柱穴が部分的に失われている可能性があるため、不明である。

各柱穴から遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SB6-P1	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	小礫少量含む
	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径1～2cmの礫、暗褐色土含む
SB6-P2	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	小礫含む
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	径1～2cmの黒褐色土含む
SB6-P3	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径10cm以内の礫含む
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径1～2cmの黄褐色砂質土含む
SB6-P4	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	小礫少量含む

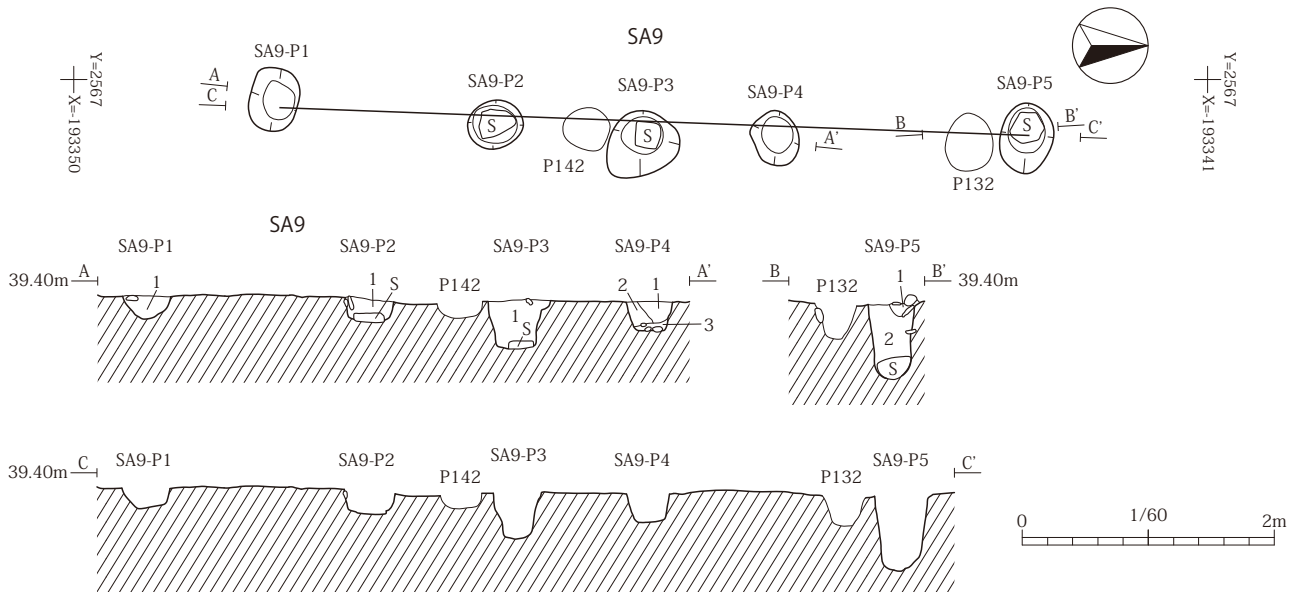
遺構	層位	土色	土性	備考
SB6-P5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径15cm以内の礫含む
SB6-P7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	小礫少量含む 径5mm～1cmの黒褐色・黄褐色土含む
	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	小礫含む 径5mm～1cmの黒褐色土含む
SB6-P8	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径10cm以内の礫含む
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	小礫含む

第12図 SB6建物跡 平面図・断面図

柱列跡

SA9 柱列跡 (第13図 写真図版2)

E6 グリッドに位置する。5基の柱穴からなる柱列跡である。調査時は断面A・Bそれぞれを別々の柱列と考え記録を行ったが、再検討した結果、C断面の5基で構成される柱列と考えられる。検出された規模は、総長603cmで、柱間の寸法はP1-P2間180cm(5尺9寸)、P2-P3間120cm(3尺9寸)、P3-P4間105cm(3尺4寸)、P4-P5間198cm(6尺5寸)、である。方向はN-3°Eを示す。各柱穴の平面形は円形である。断面形はP1が浅い皿形、P2がU字形、P3・4が逆台形、P5がU字形である。P2・3・5の底面から根石と考えられる石が出土している。各柱穴から遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SA9-P1	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径10cm以内の礫含む 径5mmの黒褐色土多量含む	SA9-P4	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	小礫含む
						2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	小礫含む
SA9-P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	小礫含む 径5mm~1cmの黒褐色土含む	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	小礫含む 径5mm~1cmの黄褐色土含む	
SA9-P3	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径15cm以内の礫含む 径5mmの焼土・炭化物含む	SA9-P5	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径10cm以内の礫含む 径5mmの褐色土含む
						2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	小礫微量含む

第13図 SA9柱列跡 平面図・断面図

土坑

SK22 土坑 (第14・15図)

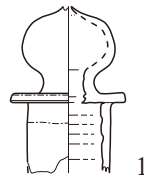
D9 グリッドに位置する。検出された規模は、長軸98cm、短軸73cm、深さ18cmである。平面形は不整楕円形で、底面は平坦である。断面形は逆台形で、東側に段を有する。堆積土は1層で砂質シルトである。

遺物は、陶器が1点出土し、図示した。19世紀頃の瀬戸美濃の蓋である。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK22	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径10cm以内の礫含む

第14図 SK22土坑 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							長さ	幅	高さ		
1	SK22	陶器	瓶蓋	瓶の蓋	瀬戸美濃	19C	[6.6]	4.6	—	13-1	I-1

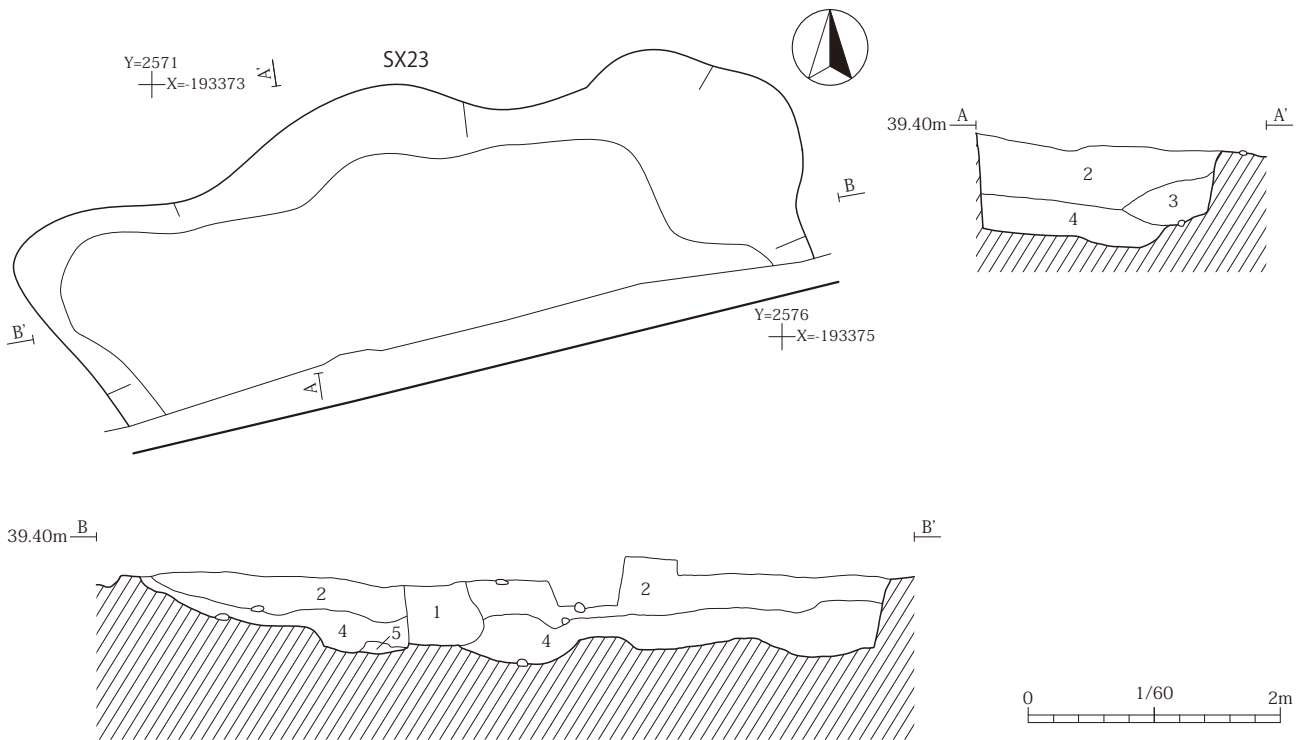
第15図 SK22土坑 出土遺物

性格不明遺構

SX23 性格不明遺構 (第16・17図 写真図版3)

E・F9 グリッドに位置する。南側は調査区外へ延びる。規模は、東西 623cm、南北 205cm 以上、深さ 78cm である。平面形は不整形で、底面は起伏する。断面形は浅い皿形である。堆積土は 5 層で、1～4 層が砂質シルト、5 層が砂礫層である。

遺物は、1～3 層から陶磁器、土師質土器、瓦等が出土している。その内、磁器 1 点を図示した。



遺構	層位	土色	土性	備考
SX23	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	礫含む 焼土少量含む 攪乱
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	礫含む 瓦多量含む 焼土含む
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	礫微量含む 地山土含む

遺構	層位	土色	土性	備考
SX23	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	礫少量含む 地山土多量含む
	5	10YR4/6 褐色	砂礫	

第16図 SX23性格不明遺構 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX23	磁器	猪口	山水文の染付?	瀬戸美濃	19C 中葉以降	(6.9)	(2.8)	2.8	13-2	J-1

第17図 SX23性格不明遺構 出土遺物

SX25 性格不明遺構（第18～32図 写真図版4・5・12）

D7～9・F8グリッドの範囲に位置する。西側は調査区外へ延びる。規模は東西26.8m以上、南北19.6m、深さは最も深いところで約3.1mである。長軸方向はN-88°-Wで、平面形は不整形である。断面形は、播鉢状であるが、壁面上部は垂直気味に落ち込む。また、調査終了後に調査区西側のグリッドB・C8付近下層で防空壕の痕跡が認められたため、立会い調査を行った結果、調査区内より浅い深度で砂礫層（Ⅶ層）を確認した。このことから、SX25はDグリッドラインで最も広くなり、そこから西に向かって窄まっているものと考えられる。したがって試掘調査時点では、SX25を谷地形と想定したが、自然地形ではなく人為的に掘られた落ち込みの可能性が考えられる。但し、今回の調査では、安全確保の観点から部分的なトレンチ掘りにとどめたため、壁面や底面を人工的に削り取ったような痕跡を確認することはできなかった。

堆積土は20層で、大きく灰褐色基調のシルト層・焼土層・礫層に大別され、東から西へ緩く斜行堆積する。灰褐色基調のシルト層が落ち込みの範囲全体に、焼土層はそれらの上位に堆積している。灰褐色シルトを主体とする1～6層が上位層、7～12層が炭化物層・焼土層が中位層、上位層と同様に灰褐色シルトを主体とする13～20層が下位の層である。下位に堆積する層は、北・南・東方向から遺構中央部に向かって斜行堆積している。また、礫層は北側斜面に大量に投棄された径10～20cmの玉石の層である。焼土層は、礫層・下位層の上位に堆積しているが、下位層と同様に北・南・東方向から斜行堆積している。

遺物は、陶磁器・土師質土器・瓦質土器・金属製品が出土した。下位層にのみ17世紀後半～18世紀初頭と考えられる肥前系の遺物が認められるが、下位層・焼土層とも主体となる遺物の年代は18世紀代のものであり、土質は異なるが各層の堆積時期に大きな差は無いと考えられる。上位層は、下位層及び焼土層の後に、新たに埋戻した層と考えられる。一部の堆積層には帯状に砂層が堆積し、グライ化している部分があることから、整地した後に沈下し、池状に水が溜まっていた時期があったと考えられる。上位層からは18世紀代と考えられる肥前系の陶磁器類が出土している。また、堆積土上部には径10～40cmの玉石・礫が大量に混入しており、これらは、落ち込みの下部が埋められた後に行われた埋戻しの際に投棄されたものと考えられる。また、SX21・22は、位置関係からこの埋戻しの際に、土止めもしくは整地範囲を示す目安に用いられた施設である可能性が考えられる。

出土遺物は陶器が1,572点、磁器が993点、土師質土器が235点、土製品が12点、瓦質土器が109点、瓦が1,846点、石製品が50点、金属製品が38点である。その内、陶器38点、磁器21点、土師質土器8点、土製品2点、瓦質土器4点、瓦68点、石製品4点、金属製品15点を図示し、陶器19点、磁器11点、土師質土器6点、土製品1点、縄文土器1点、瓦16点、金属製品33点を写真掲載した。

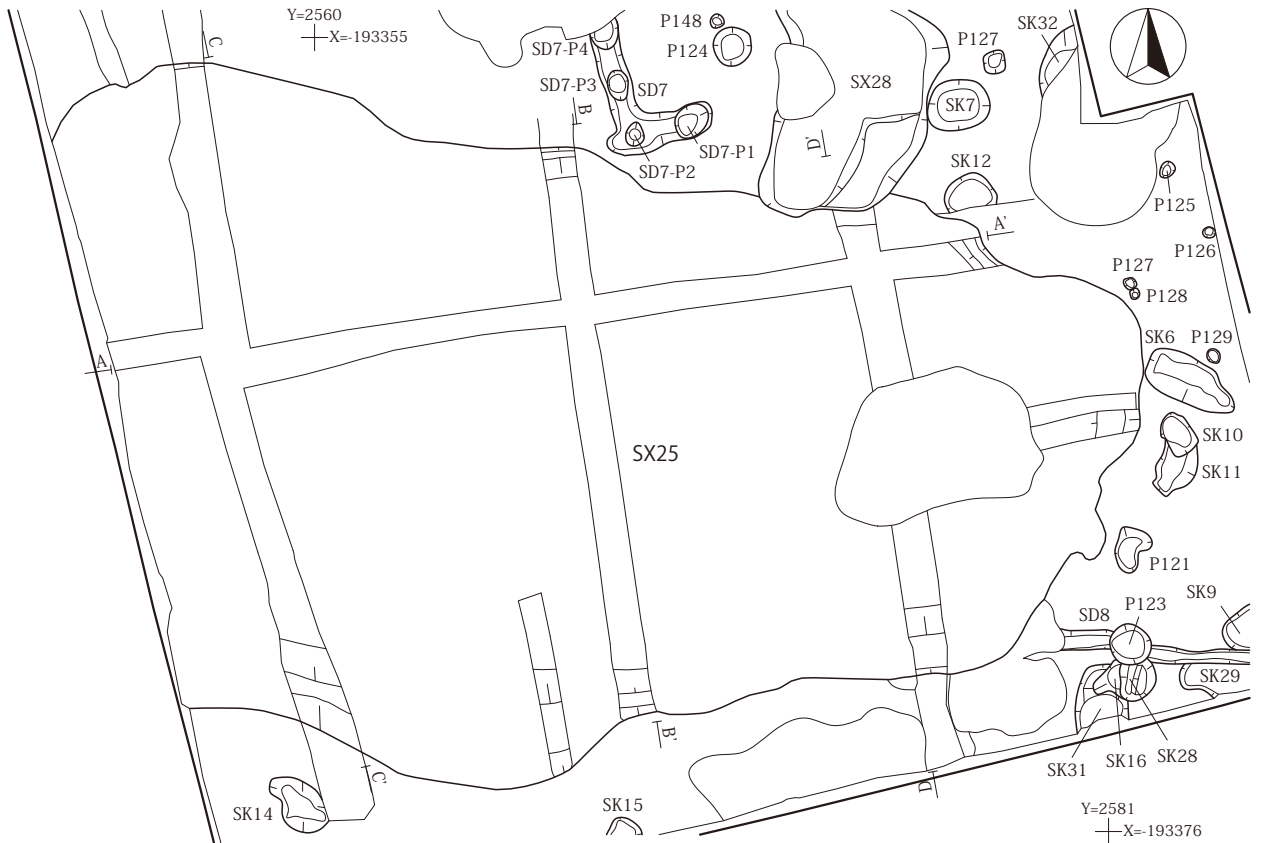
SX28 性格不明遺構（第33・34図 写真図版3）

E・F7グリッドに位置する。SX25・27と重複し、SX27より古くSX25より新しい。規模は、長軸636cm、短軸479cm、深さ148cmである。平面形は不整形円形である。底面は平坦であるが、南東部に底面から78cmの位置に段を有する。断面形は箱形である。堆積土は5層で、1・2・4層は砂質シルト、3・5層はシルトである。

遺物は、1～3層から磁器3点、土師質土器45点、瓦が2点出土している。その内、土師質土器1点を図示した。

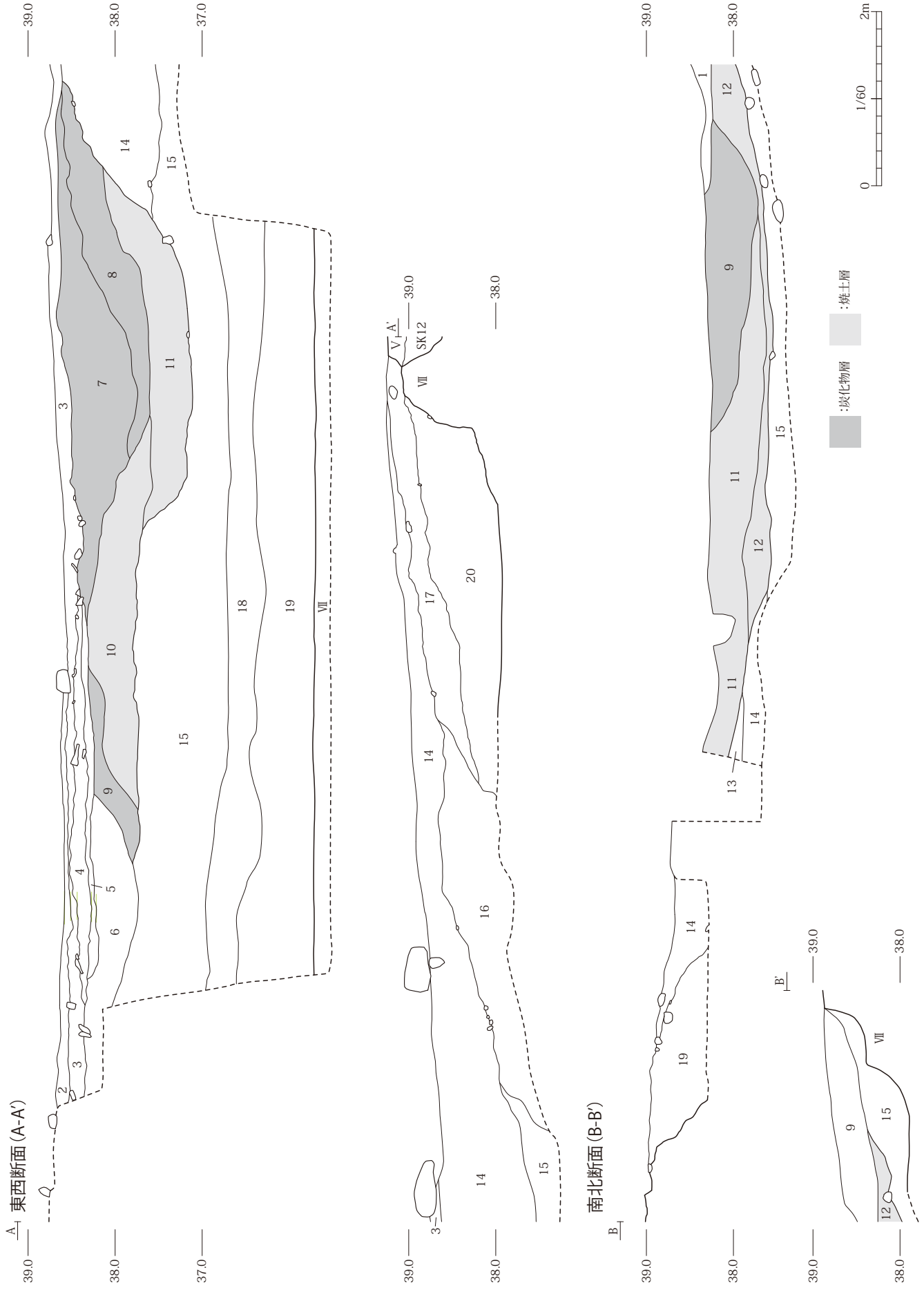


SX25上層検出

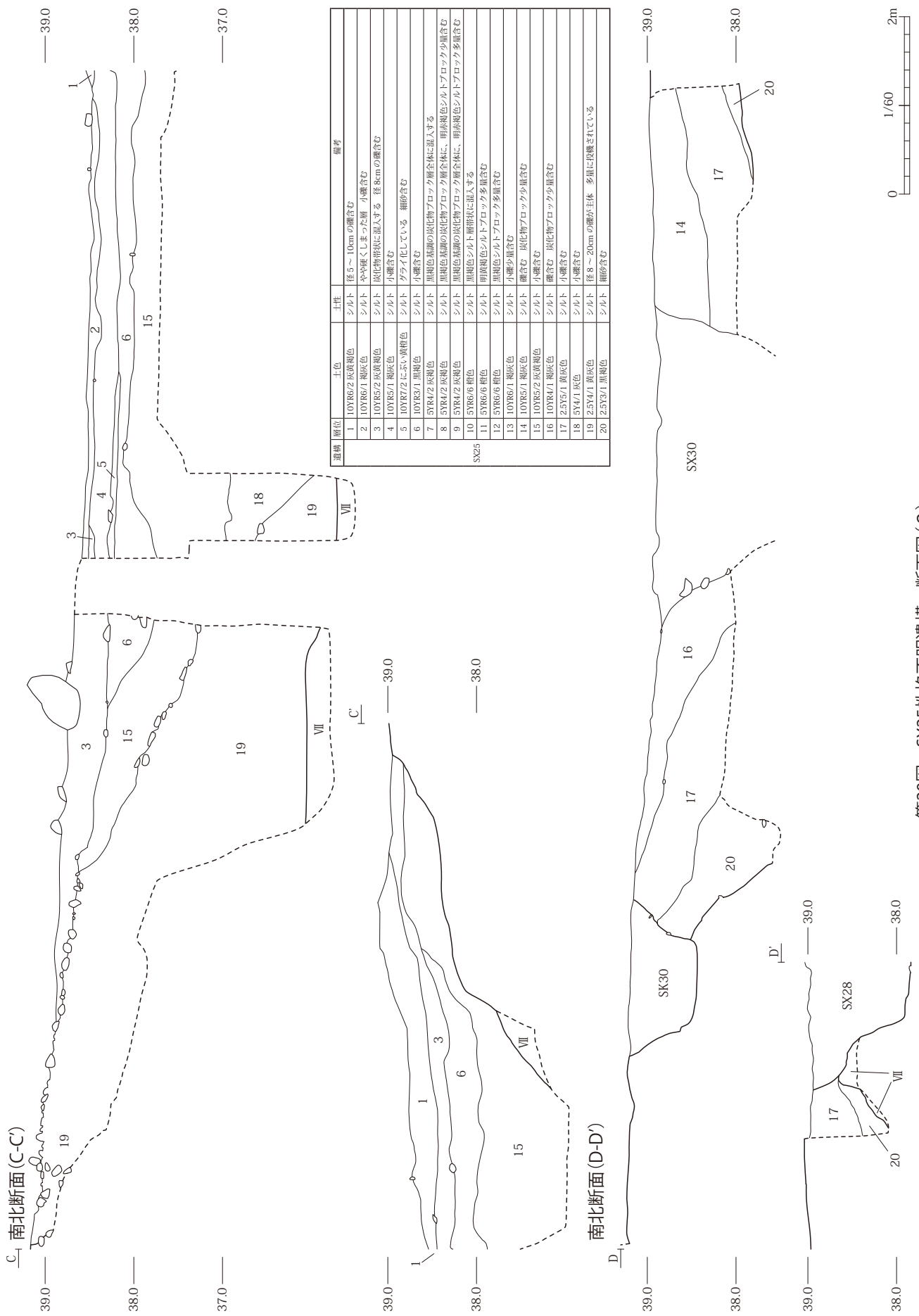


SX25掘削終了状況

第18図 SX25性格不明遺構 平面図

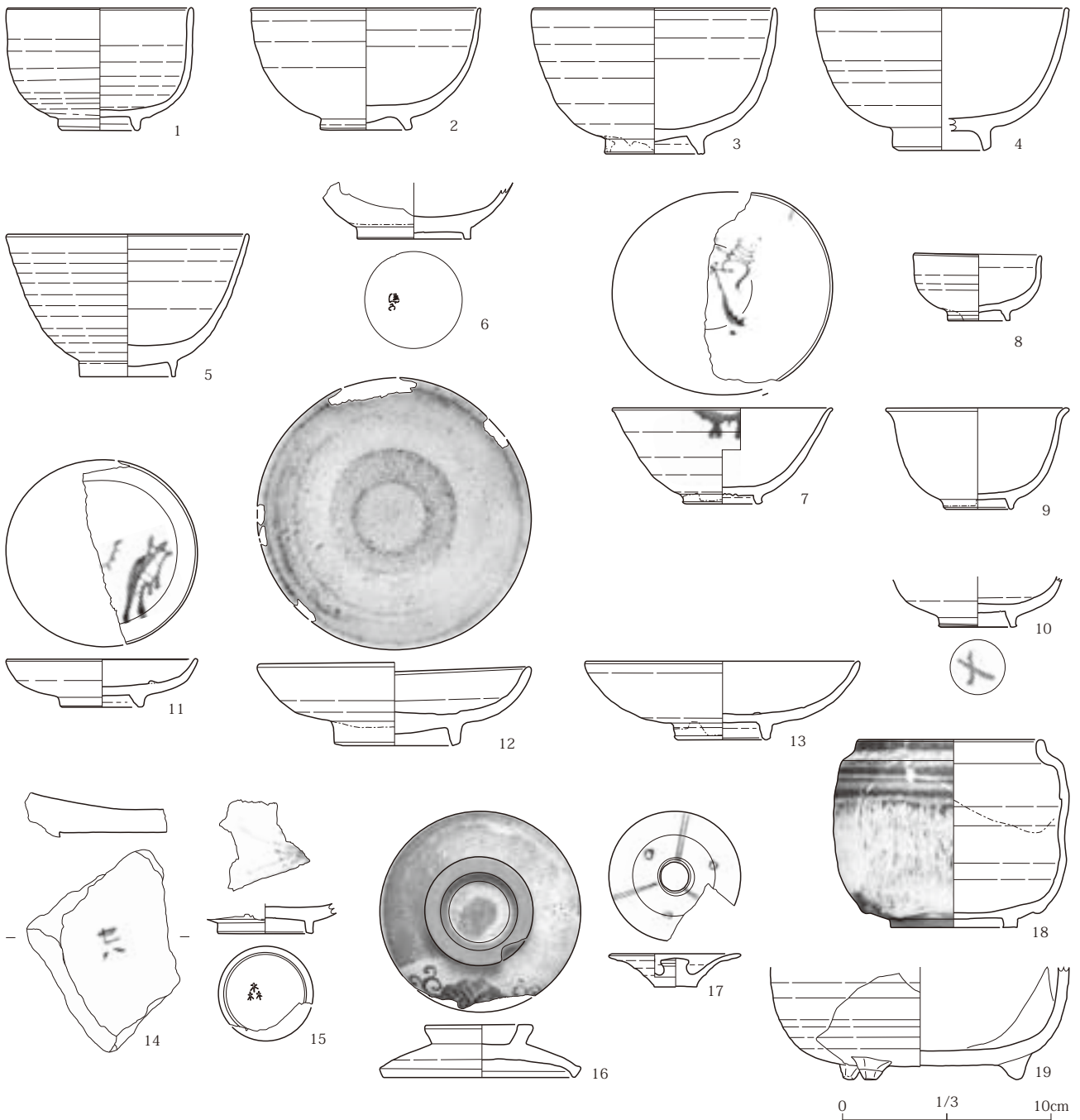


第19圖 SX25性格不明遺構 断面図(1)



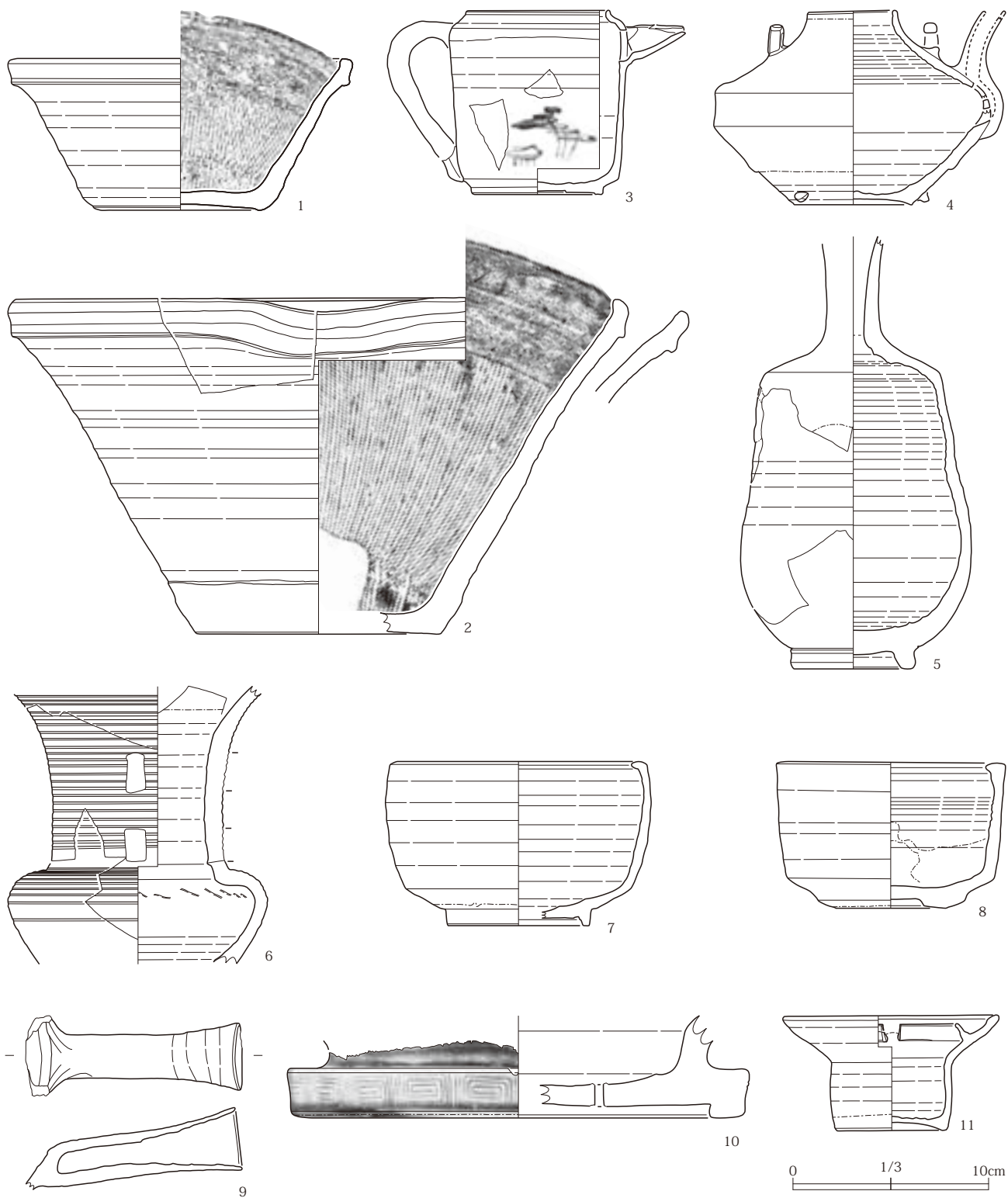
第20図 SX25性格不明遺構 断面図(2)

第1節



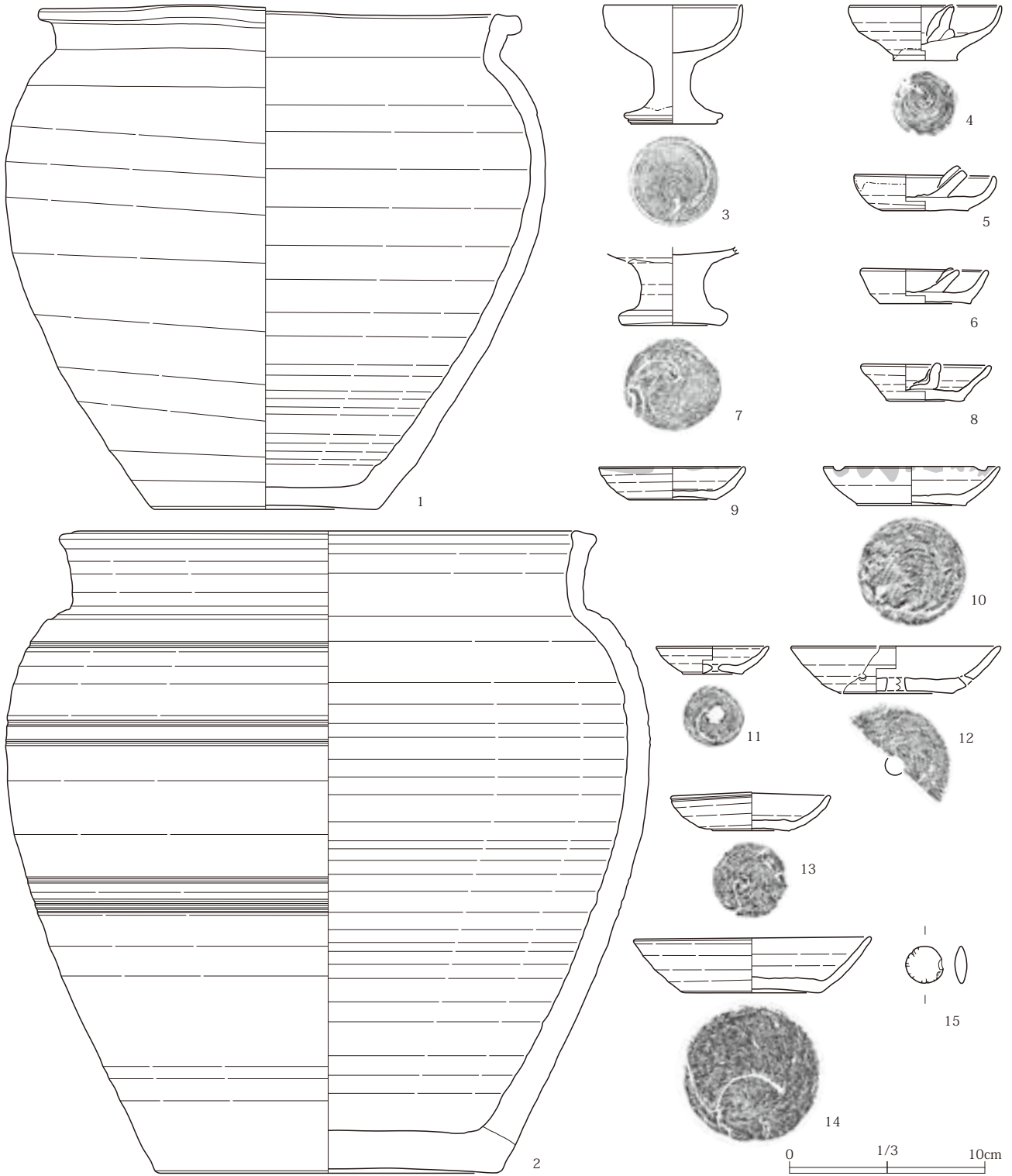
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.
							口径	底径	器高		
1	SX25 15層	陶器	碗	灰釉	肥前	18C	(8.8)	3.7	5.9	13-3	I-2
2	SX25 15層	陶器	碗		大堀相馬	18C	(10.8)	4.3	5.9	13-4	I-3
3	SX25 15層	陶器	碗	淡青色釉 見込みに目跡	小野相馬	18C	(11.5)	4.8	7.0	13-5	I-4
4	SX25 15層	陶器	碗		肥前	18C	(12.0)	(4.0)	「6.85」	13-6	I-5
5	SX25 15層	陶器	碗	刷毛目文	肥前	18C	(11.5)	4.6	6.8	13-7	I-6
6	SX25 8層	陶器	碗	灰釉 高台内面に線刻	京焼風	17C後半	—	(5.4)	「2.7」	13-8	I-7
7	SX25	陶器	小杯?	白濁釉に一部流し 見込みに走馬	大堀相馬	19C初～前	(10.6)	3.4	4.6	13-9	I-8
8	SX25 11層	陶器	小杯	白濁釉 鉄粧付着	大堀相馬	18C後半	6.1	3.0	3.25	13-10	I-9
9	SX25	陶器	小杯	白濁釉	大堀相馬	19C初～前	(8.6)	3.1	4.82	13-11	I-10
10	SX25 15層	陶器	小杯?	灰釉 高台内面に「×」墨書	大堀相馬	18C	—	3.5	「2.4」	13-12	I-11
11	SX25	陶器	皿	鉄絵 字は灰釉	大堀相馬	19C前半	(9.0)	(3.8)	2.3	13-13	I-12
12	SX25 8層	陶器	皿	淡青色釉	小野相馬	18C	12.95	5.3	4.0	13-14	I-13
13	SX25	陶器	皿	白濁釉から鉄絵 見込みに目跡	大堀相馬	19C初～前	(13.1)	4.2	3.8	13-15	I-14
14	SX25 15層	陶器	大皿 or 大鉢	灰釉 高台内面に「巴八」墨書	瀬戸美濃	17C or 18C	—	—	「2.1」	13-16	I-15
15	SX25 11層	陶器	碗	鉄絵 山水文 高台内面に線刻	京焼風	17C後半	—	4.5	「1.3」	13-17	I-16
16	SX25	陶器	蓋	銅の蓋 白い化粧の後に草文 透明の鉛釉	不明	19C前半	9.65	5.1	2.5	13-18	I-17
17	SX25	陶器	蓋	灰釉と鉄絵 つまみ径 1.3cm	大堀相馬	19C前半	6.3	2.0	1.6	13-19	I-18
18	SX25	陶器	小型壺	ナマコ釉?	不明	19C前半	8.9	3.1	9.0	13-20	I-19
19	SX25 15層	陶器	鉢	軟質な胎土 被熱で釉が剥がれたか火入れに使った可能性有り	不明	不明	—	(7.4)	「5.4」	13-21	I-20

第21図 SX25性格不明遺構 出土遺物(1)



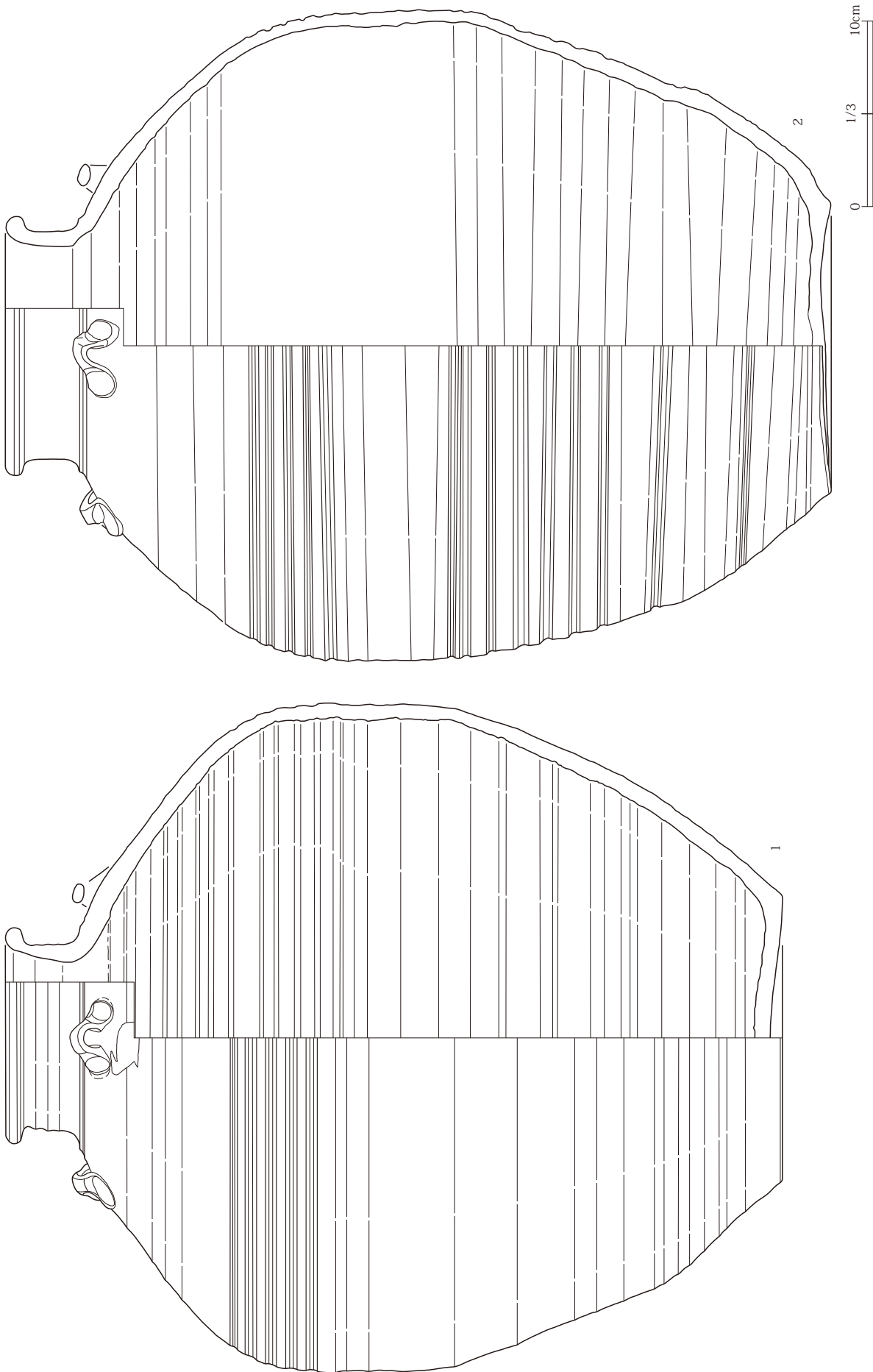
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX25	陶器	摺鉢	鉄釉 内外面焼けはじけ多	堤焼?	19C 前半?	(16.7)	8.5	7.7	13-22	I-21
2	SX25	陶器	摺鉢		堤焼	19C	(30.8)	(12.6)	17.2	13-23	I-22
3	SX25	陶器	水注	鉄絵 灰釉	大堀相馬	19C 前半	(7.4)	6.5	9.4	13-24	I-23
4	SX25 8層	陶器	土瓶	白濁釉	大堀相馬	18C 後半以降	4.5	6.0	9.95	13-25	I-24
5	SX25 8層	陶器	徳利	被熱が著しい	不明	江戸	—	6.3	(24.0)	13-26	I-25
6	SX25 14層	陶器	花瓶	鉄釉 仏花瓶	大堀相馬	18C	—	—	14.2	13-27	I-26
7	SX25 14層	陶器	香炉	灰釉に胎釉流し	大堀相馬	18C 後半	(12.8)	(7.2)	8.4	13-28	I-27
8	SX25 8層	陶器	香炉 or 火入れ		波佐見	18C 前半	16.5	5.6	7.5	13-29	I-28
9	SX25	陶器	焙烙		堤焼	19C 前半	「11.1」	3.45	—	13-30	I-29
10	SX25	陶器	瓶掛け	緑釉 雷文	瀬戸美濃	19C 初頭	(22.8)	—	「3.4」	13-31	I-30
11	SX25 14層	陶器	油受け	黒釉	大堀相馬	17C 後半	10.6	5.6	6.2	13-32	I-31

第22図 SX25性格不明遺構 出土遺物(2)



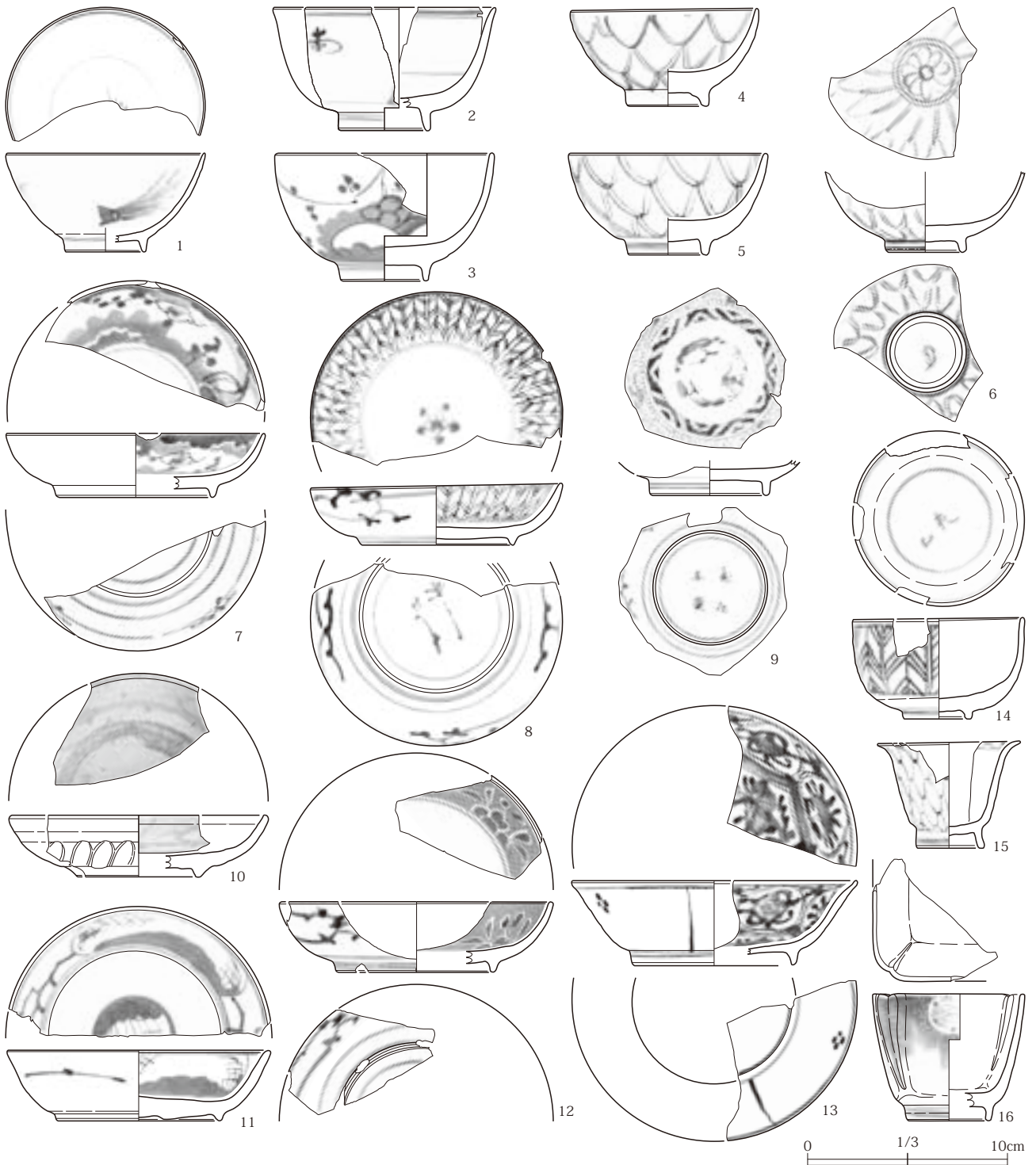
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX25 8層	陶器	甕		不明	江戸	24.1	11.4	25.9	13-33	I-32
2	SX25	陶器	甕	黒釉	不明	18C後~19C	(27.4)	17.4	32.9	13-34	I-33
3	SX25	陶器	仏飯具	灰釉に鉛釉流し	大堀相馬	18C終~19C初	7.0	4.4	6.1	13-35	I-34
4	SX25	陶器	灯明皿	鉄釉	大堀相馬	18C~19C	7.9	3.3	2.9	13-36	I-35
5	SX25	陶器	灯明皿	黒釉	小野 or 大堀相馬	19C	7.2	4.4	1.8	13-37	I-36
6	SX25	陶器	灯明皿	鉄釉	大堀相馬?	19C?	6.4	4.7	1.8	13-38	I-37
7	SX25 14層	土師質土器	台座		在地	江戸	-	5.0	「4.0」	13-39	Ca-1
8	SX25 14層	土師質土器	灯明皿	芯立部のみ炭化物付着	在地	江戸	6.5	4.0	1.9	13-40	Da-1
9	SX25 14層	土師質土器	皿		在地	江戸	7.4	4.4	1.7	13-41	Da-2
10	SX25 14層	土師質土器	皿	内外部に炭化物付着	在地	江戸	9.0	5.6	2.0	13-42	Da-3
11	SX25 8層	土師質土器	小皿		在地	江戸	(5.6)	3.1	1.4	14-1	Da-4
12	SX25 14層	土師質土器	皿		在地	江戸	(10.6)	6.0	2.45	14-2	Da-5
13	SX25 14層	土師質土器	皿		在地	江戸	8.1	3.9	2.0	14-3	Da-6
14	SX25 19層	土師質土器	皿		在地	江戸	12.0	7.0	2.9	14-4	Da-7
15	SX25 14層	土師質土器	碁石	土製の碁石 表面に指紋?	在地	江戸	(長さ)1.9	(幅)「1.9」	(厚さ)0.6	14-5	Ca-2

第23図 SX25性格不明遺構 出土遺物(3)



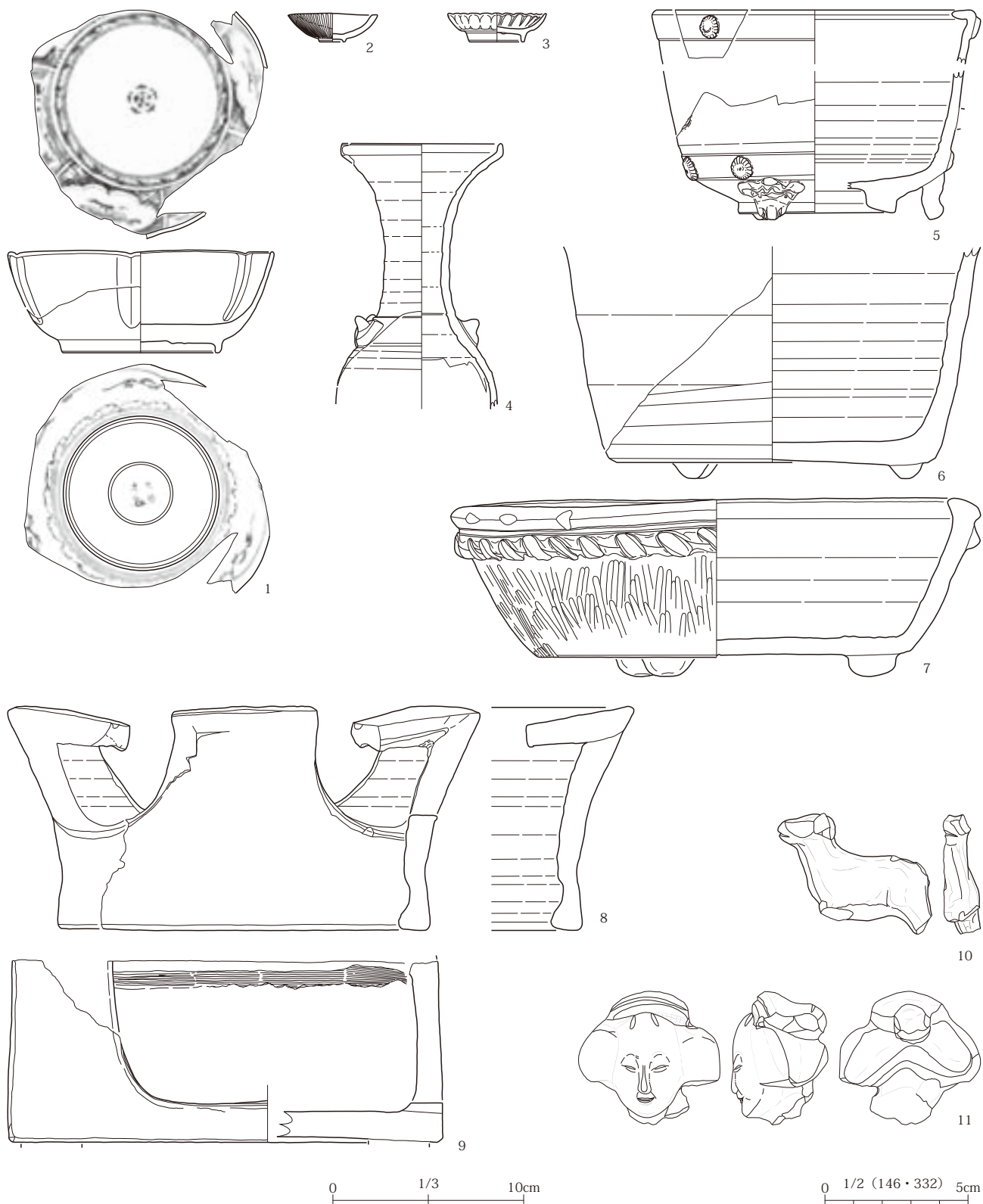
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)		写真図版	登録 No.
							口径	底径		
1	SX25 8層	陶器	茶壺	外面: 焼けはじめ多 内面: 被熱で変色部分多	信楽	18C 後半	11.0	15.4	14-6	I-38
2	SX25 8層	陶器	茶壺	外面: 焼けはじめ多 内面: 被熱で変色部分多	信楽	18C 後半	13.2	15.7	14-7	I-39

第24図 SX25性格不明遺構 出土遺物(4)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX25 14層	磁器	碗	稲東文	肥前	18C	(9.9)	(4.0)	4.95	14-8	J-2
2	SX25	磁器	碗	焼継ぎ跡有り	瀬戸美濃	19C前~中頃	(11.2)	(4.6)	6.2	14-9	J-3
3	SX25 14層	磁器	碗	くらわんか 梅の染付	波佐見	18C	(10.65)	(4.18)	6.4	14-10	J-4
4	SX25	磁器	碗	二重網目文	波佐見	18C後~19C前	9.3	4.1	4.9	14-11	J-5
5	SX25 8層	磁器	碗	二重網目文	波佐見	18C後半	10.0	4.0	5.1	14-12	J-6
6	SX25 14層	磁器	碗	二重網目文 見込みに菊花	波佐見	18C	—	3.7	[4.05]	14-13	J-7
7	SX25 14層	磁器	皿	墨はじき(白・緑取り)	肥前	17C後~18C前	(13.0)	(7.7)	3.2	14-14	J-8
8	SX25 14層	磁器	皿	銘は適当 矢羽根文と見込みに菊蒔印	波佐見	18C	12.5	7.6	3.1	14-15	J-9
9	SX25	磁器	皿	環状松竹梅 体部は省略気味の微塵唐草	肥前	19C前半	—	5.7	[1.7]	14-16	J-10
10	SX25	磁器	皿	内面に蛇の目	波佐見	18C後~19C初	(12.8)	(6.2)	3.1	14-17	J-11
11	SX25 14層	磁器	皿	見込みに草文	波佐見	18C後半	(13.2)	(8.2)	3.5	14-18	J-12
12	SX25 14層	磁器	皿	草花文 口銘 墨はじき(白・緑取り)	肥前か?	18C前半	(13.5)	(7.8)	3.6	14-19	J-13
13	SX25 14層	磁器	小鉢?	草花文(芙蓉)	肥前	17C後半	(14.2)	(8.0)	4.25	14-20	J-14
14	SX25	磁器	碗	見込みに草文	肥前	18C後~19C初	8.5	3.3	5.1	14-21	J-15
15	SX25 14層	磁器	小杯	網目文	肥前	18C	(7.3)	3.2	5.4	14-22	J-16
16	SX25 14層	磁器	鉢	雪輪文+雨降り文 口銘 炭入りの角鉢	肥前	17C後~18C前	(8.6)	(4.0)	6.4	14-23	J-17

第25図 SX25性格不明遺構 出土遺物(5)

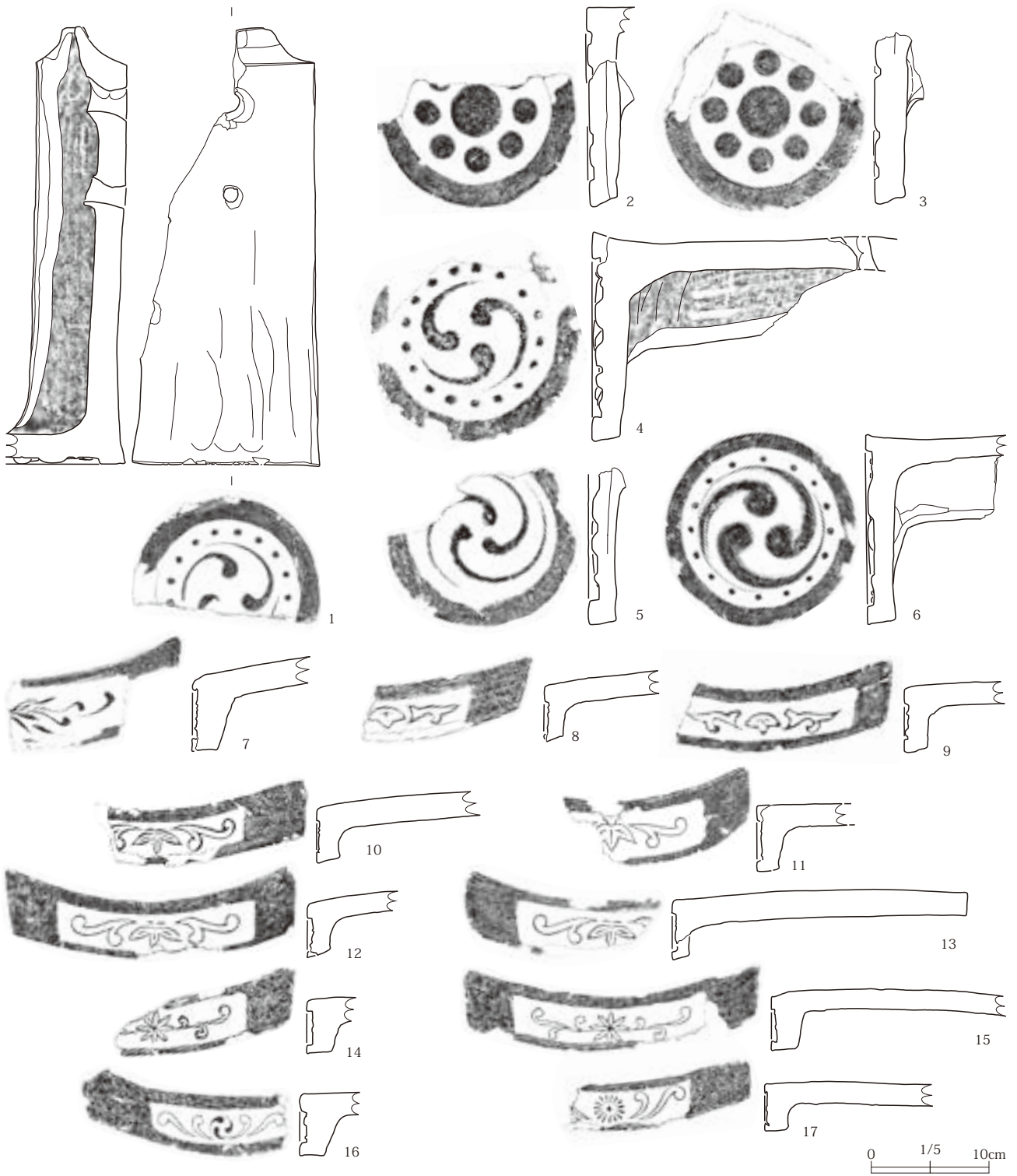


0 1/3 10cm

0 1/2 (146・332) 5cm

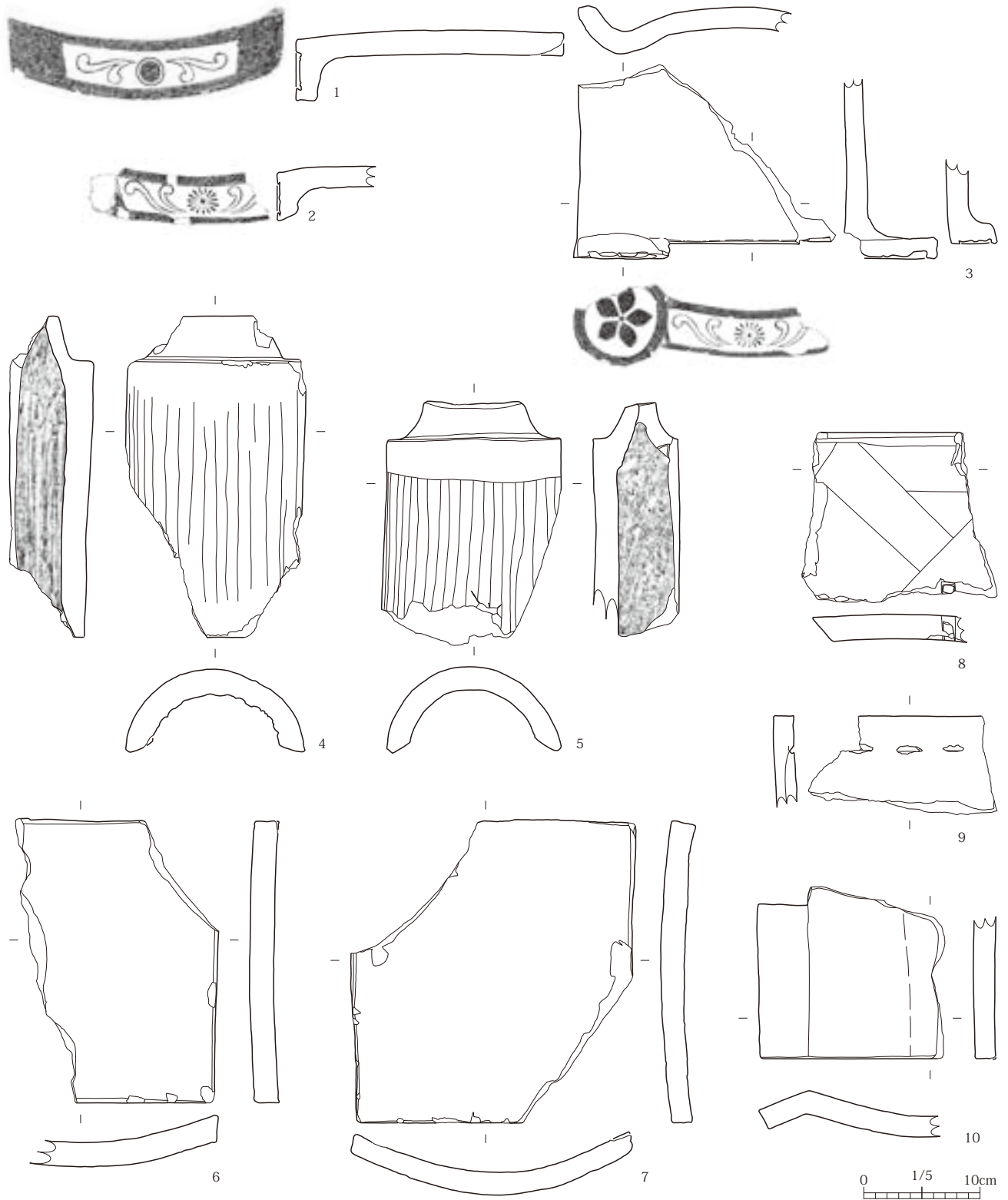
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX25 15層	磁器	皿	文は松竹梅? 見込みは手書き 大明手製	肥前	18C後半	(13.8)	8.2	(3.5)	14-24	J-18
2	SX25 8層	磁器	紅皿	型押し	肥前	18C	4.65	1.4	1.5	14-25	J-19
3	SX25 15層	磁器	紅皿	白磁 菊花型 内面型押し	不明	18C前半	(5.2)	2.9	1.5	14-26	J-20
4	SX25	磁器	瓶	青磁 仏花	波佐見	18C後~19C初	(8.3)	-	「13.9」	14-27	J-21
5	SX25 15層	磁器	香炉	青磁 高台に鉄紐有り	波佐見	17C後半	-	8.0	(11.0)	14-28	J-22
6	SX25 15層	瓦質	火鉢		江戸		-	(16.2)	「12.1」	14-29	T-1
7	SX25 15層	瓦質	鉢		在地	江戸	25.8	19.5	9.3	14-30	T-2
8	SX25 11層	土師質土器	焔炉		在地	江戸	(24.8)	(19.4)	「11.75」	14-31	Ca-3
9	SX25 8層	瓦質	焔炉?		在地	江戸	-	(22.2)	「9.5」	14-32	T-3
10	SX25 15層	土製品	土人形		在地	江戸	(長さ)「5.3」 (幅)「1.3」 (高さ)「4.2」			15-1	P-1
11	SX25 15層	土製品	土人形		在地	江戸	(長さ)「4.7」 (幅)「4.9」 (厚さ)3.3			15-2	P-2

第26図 SX25性格不明遺構 出土遺物(6)



No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)						重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.	
					長さ	玉縁長さ	瓦当径・幅	周縁幅	文様区径・幅	瓦当厚						瓦当高
1	SX25 8層	軒丸瓦	珠文三巴文 (左巻)		37.1	3.1	15.9	1.9	12.2	2.4	—	2,546.0	ナデ	コビキ痕、布目痕	22-1	F-1
2	SX25 14層	軒丸瓦	九曜文		—	—	「12.4」	2.1	「8.8」	2.35	—	536.0	ナデ	—	22-2	F-2
3	SX25 8層	軒丸瓦	九曜文		—	—	「16.7」	2.2	「12.4」	2.6	—	780.0	ナデ	—	22-3	F-3
4	SX25 14層	軒丸瓦	珠文三巴文 (右巻)		—	—	「17.6」	2.0	「13.6」	3.0	—	2,381.0	ナデ	コビキ痕、布目痕	22-4	F-4
5	SX25 14層	軒丸瓦	三巴文 (左巻)		—	—	「16.3」	2.1	12.3	2.4	—	556.0	ナデ	—	22-5	F-5
6	SX25 8層	軒丸瓦	珠文三巴文 (左巻)		—	—	16.1	1.5	13.4	2.4	—	1,238.0	ナデ	コビキ痕、布目痕	22-6	F-6
7	SX25 14層	軒平瓦	不明		—	—	「14.0」	1.0	「10.2」	2.2	「9.4」	792.0	ナデ	ナデ	22-7	G-1
8	SX25 8層	軒平瓦	笹文三枚笹		—	—	「14.5」	「1.4」	「9.2」	「1.4」	「7.3」	460.0	ナデ	ナデ	22-8	G-2
9	SX25 14層	軒平瓦	笹文三枚笹		—	—	「19.0」	1.0	「15.0」	1.9	5.2	575.0	ナデ	ナデ	22-9	G-3
10	SX25 14層	軒平瓦	笹文雪持ち		—	—	「16.8」	0.9	「11.5」	2.0	7.7	922.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	22-10	G-4
11	SX25 15層	軒平瓦	笹文雪持ち		—	—	「15.7」	0.6	「11.4」	(1.9)	「8.0」	546.0	ナデ	—	22-11	G-5
12	SX25 15層	軒平瓦	笹文雪持ち		—	—	23.4	0.7	15.5	(1.9)	7.3	757.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	22-12	G-6
13	SX25 8層	軒平瓦	笹文雪持ち		25.1	—	「16.8」	0.7	「11.8」	1.5	(6.8)	1,497.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	22-13	G-7
14	SX25 15層	軒平瓦	花文 (8本)		—	—	「16.1」	0.7	「12.3」	2.2	「7.0」	383.0	ナデ	—	22-14	G-8
15	SX25 8層	軒平瓦	花文 (8本)		「20.0」	—	「25.0」	0.8	16.3	2.3	7.6	1,445.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	22-15	G-9
16	SX25 8層	軒平瓦	三巴文 (左巻)		—	—	「17.0」	1.0	「11.7」	2.2	「8.3」	459.0	ナデ	—	22-16	G-10
17	SX25 8層	軒平瓦	花文 (15本)		14.3	—	「15.2」	0.6	「9.7」	2.0	5.5	750.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	23-1	G-11

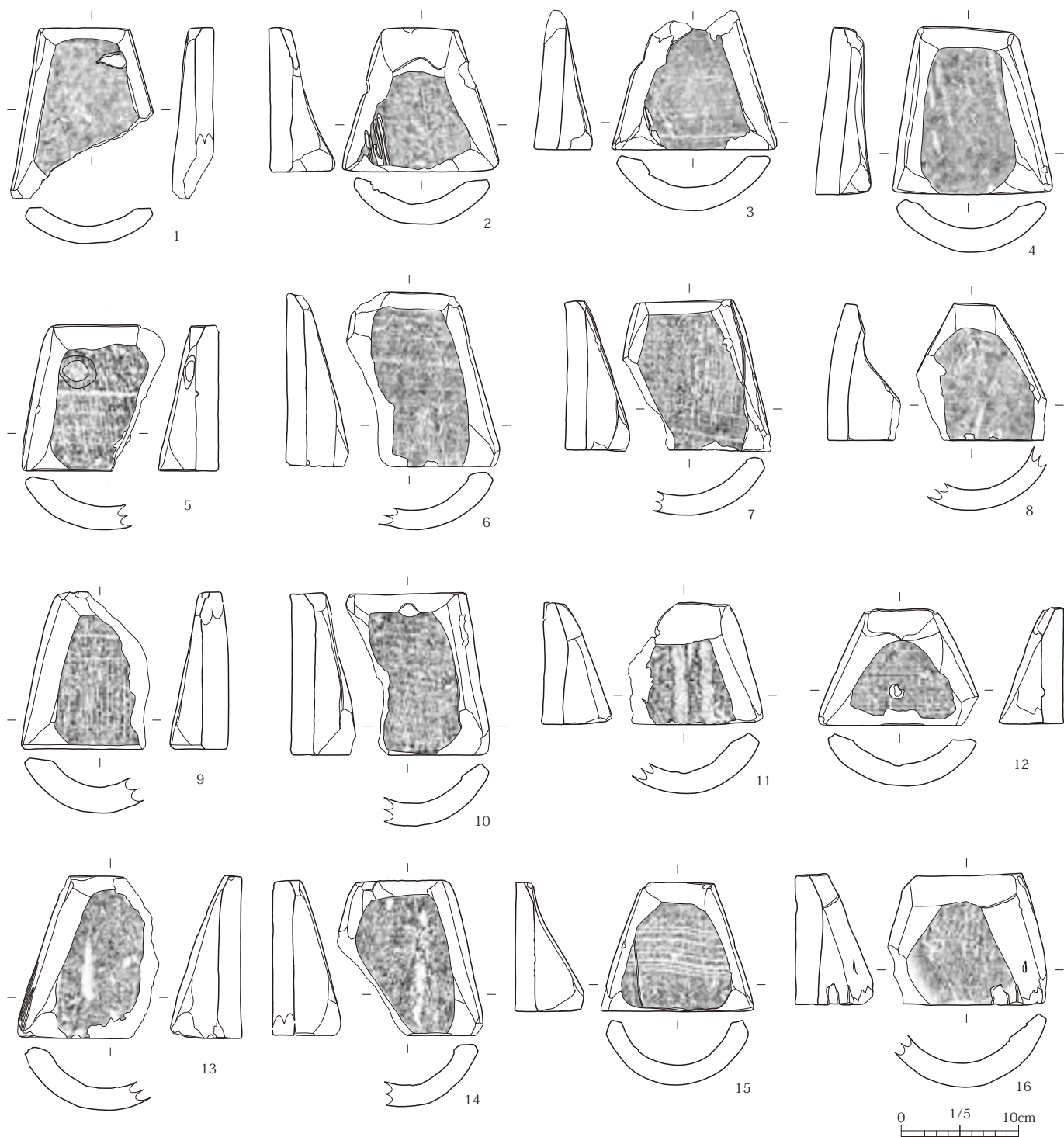
第27図 SX25性格不明遺構 出土遺物(7)



No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.	
					長さ	玉縁長さ	幅		高さ	厚さ	瓦当幅・径	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚						瓦当高
1	SX25 14層	軒平瓦	丸文		23.0	-	-	23.1	2.2	-	23.7	0.9	15.1	1.8	8.3	1,944.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	23-2	G-12
2	SX25 14層	軒棧瓦	不明+ 花文 (15本)		「8.5」	-	-	「8.5」	-	「14.5」	0.6	「13.0」	1.7	「4.0」	317.0	ナデ	-	23-3	Ha-1	
3	SX25 14層	軒棧瓦	桔梗文?+ 花文 (15本)		「16.7」	-	-	-	-	丸	「8.2」	1.1	「6.1」	1.9	-	912.0	ナデ	ナデ、ヘラナデ	23-4	Ha-2
										平	「14.3」	0.6	「13.7」	1.8						
4	SX25 14層	丸瓦	-		23.7	3.9	15.3	7.1	2.2	-	-	-	-	-	1,257.0	ナデ	コピキ痕	23-5	F-7	
5	SX25 14層	丸瓦	-	刻印有	「17.8」	2.9	15.0	7.4	2.0	-	-	-	-	-	1,083.0	ナデ	コピキ痕	23-6	F-8	
6	SX25 14層	平瓦	-	刻印有	24.3	-	広端「11.1」、狭端「10.8」	-	2.1	-	-	-	-	-	1,268.0	ナデ、ケズリ	ナデ	23-10	G-13	
7	SX25 14層	平瓦	-		26.0	-	広端「14.2」、狭端「13.5」	-	2.0	-	-	-	-	-	1,669.0	ナデ	ナデ	23-11	G-14	
8	SX25 14層	平瓦	-		「14.7」	-	「12.1」	-	2.2	-	-	-	-	-	660.0	ナデ	ナデ	23-12	G-15	
9	SX25 14層	平瓦	-		「8.5」	-	「10.5」	-	1.8	-	-	-	-	-	215.0	ナデ	ナデ	23-13	G-16	
10	SX25 14層	棧瓦	-		「14.8」	-	「15.6」	-	1.8	-	-	-	-	-	662.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ヘラナデ	24-4	Ha-3	

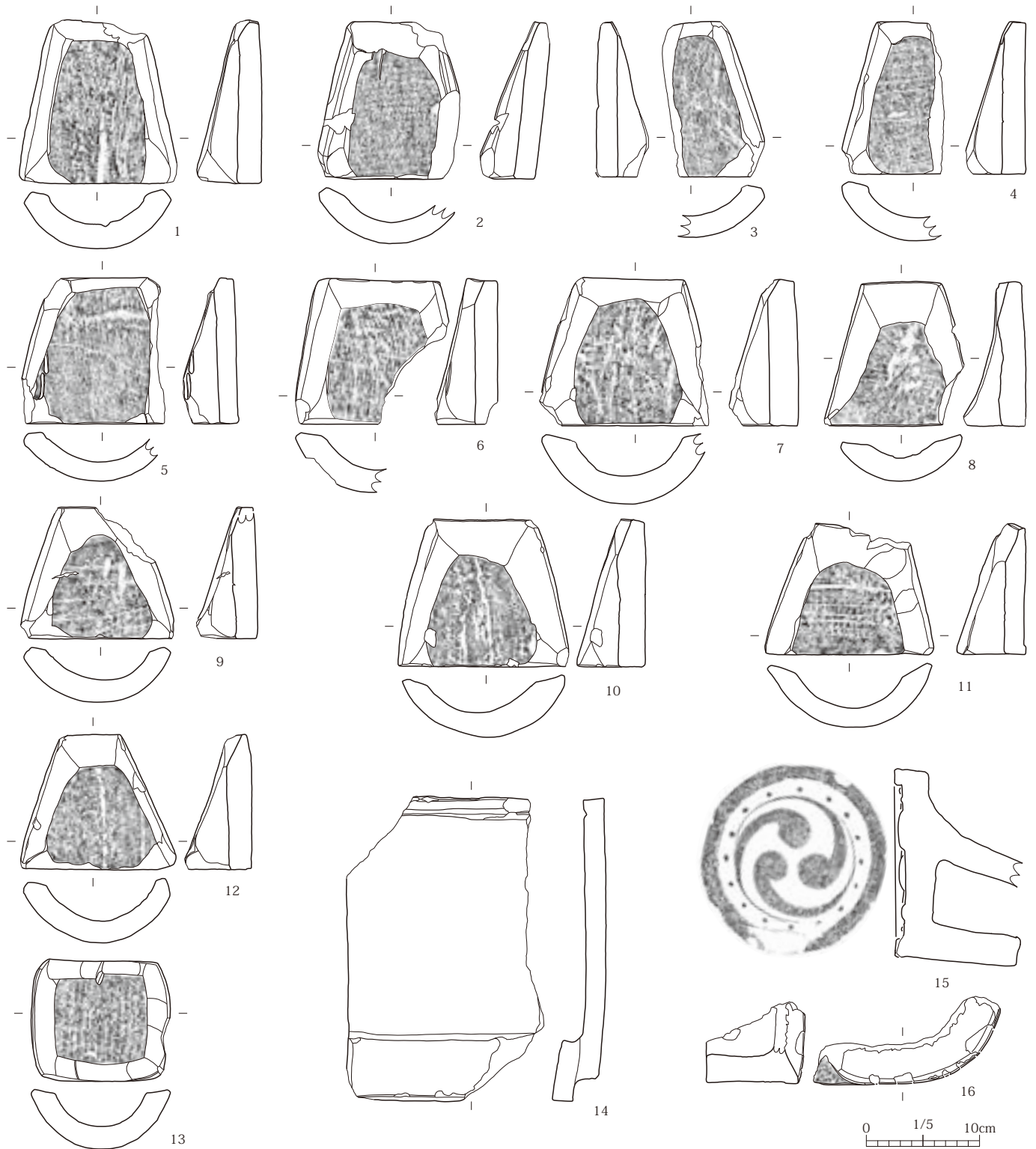
第28図 SX25性格不明遺構 出土遺物 (8)

第1節



No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				長さ	広端幅	狭端幅	厚さ					
1	SX25 14層	輪造い		14.6	「2.2」	7.7	1.6	285.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-5	Hc-1
2	SX25 14層	輪造い		12.3	13.3	6.3	1.8	382.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-6	Hc-2
3	SX25 14層	輪造い		「11.8」	「14.0」	—	2.0	371.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-7	Hc-3
4	SX25 8層	輪造い		14.3	13.6	「8.5」	2.0	525.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-8	Hc-4
5	SX25 14層	輪造い		12.4	「7.8」	「7.7」	2.1	368.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-9	Hc-5
6	SX25 14層	輪造い		「14.8」	「9.8」	「6.2」	1.65	395.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-10	Hc-6
7	SX25 14層	輪造い		12.8	「9.0」	8.4	1.7	375.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-11	Hc-7
8	SX25 14層	輪造い		11.7	「8.8」	3.5	1.8	311.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-12	Hc-8
9	SX25 14層	輪造い		13.4	「10.5」	「2.6」	2.2	378.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-13	Hc-9
10	SX25 14層	輪造い		13.7	「8.5」	10.3	2.0	425.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-14	Hc-10
11	SX25 14層	輪造い		10.35	「11.4」	「4.4」	1.3	305.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	24-15	Hc-11
12	SX25 14層	輪造い		9.9	「12.6」	「6.2」	1.65	329.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-1	Hc-12
13	SX25 14層	輪造い		13.9	「9.9」	「5.0」	1.8	409.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-2	Hc-13
14	SX25 14層	輪造い		13.2	「7.5」	7.7	1.8	377.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-3	Hc-14
15	SX25 14層	輪造い		11.0	「13.0」	「5.6」	1.7	340.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-4	Hc-15
16	SX25 14層	輪造い		11.2	「13.5」	「9.0」	2.0	481.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-5	Hc-16

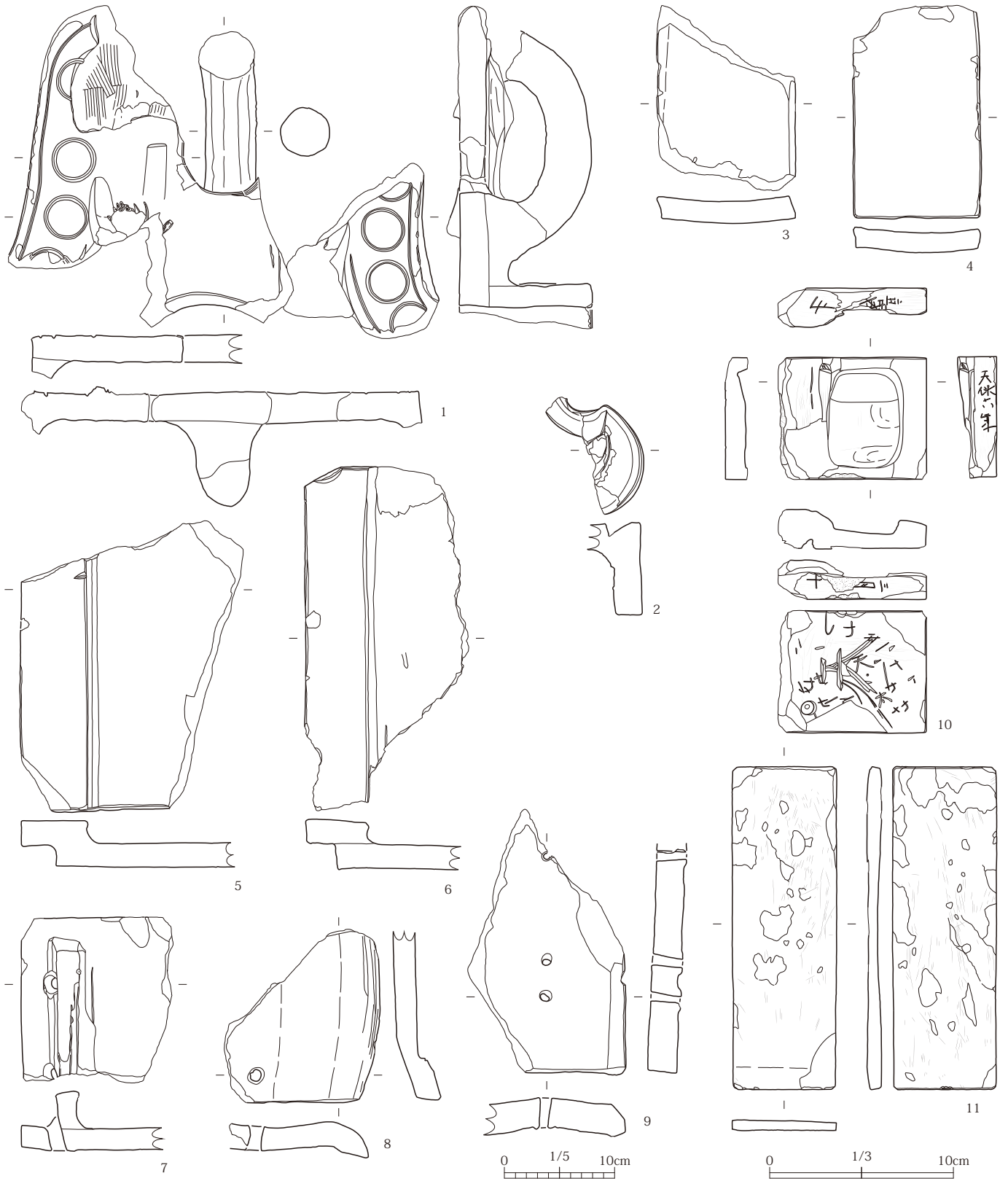
第29図 SX25性格不明遺構 出土遺物(9)



No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.	
				長さ	広端幅	狭端幅	厚さ						
1	SX25 14層	輪造い		14.45	「13.8」	「5.5」	2.15	557.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-6	He-17	
2	SX25 14層	輪造い		13.8	「10.3」	「6.0」	1.9	484.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-7	He-18	
3	SX25 14層	輪造い		13.7	「6.4」	「4.2」	1.9	279.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-8	He-19	
4	SX25 14層	輪造い		13.5	「8.0」	「4.5」	2.05	335.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-9	He-20	
5	SX25 14層	輪造い		12.9	「12.0」	「7.7」	1.7	434.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-10	He-21	
6	SX25 14層	輪造い		12.7	「7.2」	「10.7」	2.0	417.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-11	He-22	
7	SX25 14層	輪造い		13.1	「13.3」	「8.9」	2.5	670.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-12	He-23	
8	SX25 14層	輪造い		12.7	「10.5」	7.1	2.0	435.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-13	He-24	
9	SX25 14層	輪造い		11.7	「12.9」	「3.4」	2.0	412.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-14	He-25	
10	SX25 14層	輪造い		13.05	「15.0」	「8.5」	2.2	611.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-15	He-26	
11	SX25 14層	輪造い		11.6	14.8	「3.2」	1.7	434.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-16	He-27	
12	SX25 14層	輪造い		11.9	13.6	5.6	2.1	416.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-17	He-28	
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	幅	高さ	厚さ					
13	SX25 14層	前戸瓦			10.8	11.3	—	2.0	419.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	25-18	He-29
14	SX25 14層	伏間			26.9	「17.4」	4.2	3.8	1,372.0	ナデ、ケズリ	ナデ	26-1	He-30
15	SX25 14層	鳥倉	珠文三巴文(左巻き)	周縁幅 1.1cm	径 16.5		(奥行) 10.9	2.4	2,186.0	—	—	26-2	He-31
16	SX25 14層	鬼瓦			「7.8」	「16.5」	(奥行) 8.6	2.5	483.0	ケズリ	ナデ	26-3	Hb-1

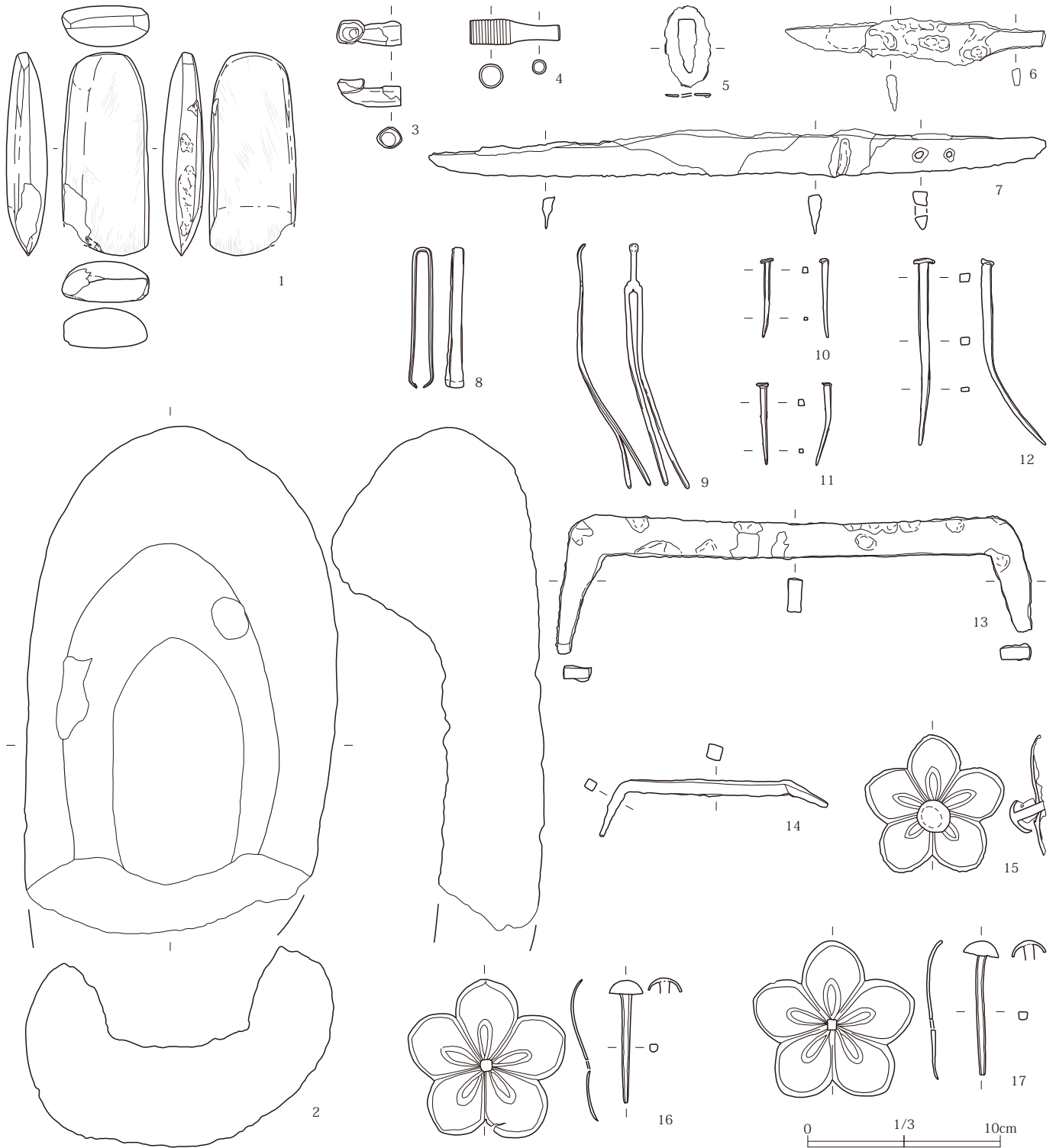
第30図 SX25性格不明遺構 出土遺物(10)

第1節



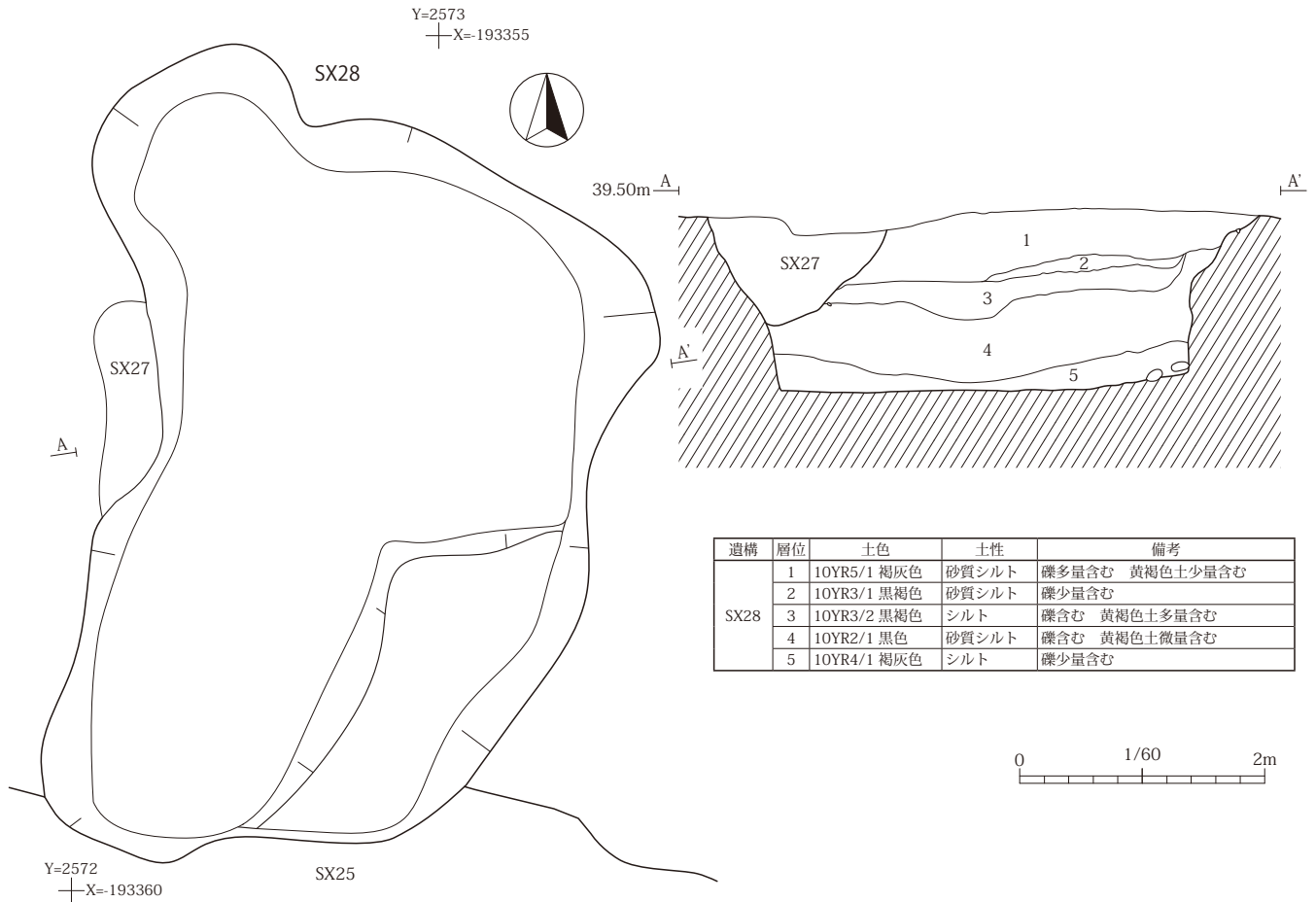
No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)					重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				長さ	幅	高さ	厚さ	奥行					
1	SX25 14層	鬼瓦		「29.2」	「39.1」	—	2.4	12.0	562.0	ナデ、ケズリ	ナデ	26-4	Hb-2
2	SX25 14層	鬼瓦		「10.6」	「8.9」	—	2.5	8.4	400.0	ケズリ	ナデ	26-5	Hb-3
3	SX25 14層	製斗瓦		「14.1」	12.5	—	2.0	—	482.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	26-6	Hc-32
4	SX25 14層	製斗瓦		(19.2)	11.5	—	1.8	—	687.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	26-7	Hc-33
5	SX25 14層	塀瓦		「26.5」	「19.4」	4.2	2.15	—	1,680.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	26-8	Hc-34
6	SX25 14層	塀瓦		「31.0」	「14.1」	4.6	2.1	—	1,343.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	26-9	Hc-35
7	SX25 14層	下駄紐製斗瓦		「15.0」	「13.6」	5.4	1.9	—	709.0	ケズリ	ナデ	26-10	Hc-36
8	SX25 14層	不明		「15.7」	「12.6」	—	2.0	—	526.0	ナデ、ケズリ	ナデ	26-11	Hc-37
9	SX25 14層	不明		「24.0」	「14.3」	—	2.75	—	929.0	ナデ、ケズリ	ナデ	26-12	Hc-38
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.	
							長さ	幅	厚み				
10	SX25 15層	石製品	硯	5面に線刻有り		近世	6.7	「8.1」	2.1	173.0	35-1	Kd-1	
11	SX25 15層	石製品	砥石	2面に使用痕有り		近世	17.55	5.65	0.8	143.0	35-2	Kd-2	

第31図 SX25性格不明遺構 出土遺物(11)

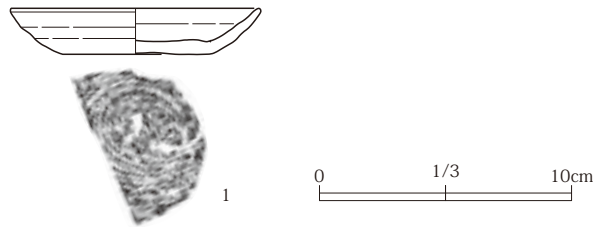


No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)				重量 (g)	写真図版	登録 No.	
							長さ	幅	厚さ	高さ				
1	SX25 15層	石製品	石斧			縄文時代	「10.6」	「4.5」	「2.15」	—	169.0	35-3	Kb-1	
2	SX25 19層	石製品	不明	花器?			「26.6」	「16.0」	5.2	10.4	2701.0	35-4	Kd-3	
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)				重量 (g)	写真図版	登録 No.	
							長さ	幅	厚み	奥行				
3	SX25 8層	金属製品	煙管	雁首		18世紀中頃	3.3	1.3	1.1	—	4.4	35-30	N-1	
4	SX25 8層	金属製品	煙管	吸い口		18世紀中頃	「4.65」	1.35	(高さ)1.25	—	7.0	35-31	N-2	
5	SX25 8層	金属製品	切羽			江戸	4.2	2.4	0.25	—	2.7	35-18	N-3	
6	SX25 8層	金属製品	小刀			江戸	(13.6)	(2.2)	(0.5)	—	37.9	35-17	N-4	
7	SX25 8層	金属製品	腰刀			江戸	「32.1」	2.4	0.75	—	141.6	35-16	N-5	
8	SX25 8層	金属製品	毛抜き			江戸	7.4	—	0.2	0.95	9.9	35-22	N-6	
9	SX25 8層	金属製品	簪			江戸	12.7	0.95	0.25	—	9.6	35-23	N-7	
10	SX25 8層	金属製品	釘			江戸	4.1	最大0.7、最小0.2	最大0.5、最小0.15	—	1.7	35-19	N-8	
11	SX25 8層	金属製品	釘			江戸	4.2	最大0.6、最小0.2	最大0.5、最小0.15	—	1.7	35-20	N-9	
12	SX25 8層	金属製品	釘			江戸	9.9	最大1.1、最小0.2	最大0.65、最小0.2	—	11.3	35-21	N-10	
13	SX25 8層	金属製品	鏡			江戸	24.7	2.2	0.85	—	231.4	35-27	N-11	
14	SX25 8層	金属製品	鏡			江戸	11.85	0.9	0.8	—	30.0	35-28	N-12	
15	SX25 8層	金属製品	飾り釘			江戸	7.2	7.2	0.2	—	38.3	35-24	N-13	
16	SX25 8層	金属製品	飾り釘			江戸	釘部、長さ6.4cm、厚み0.4cm	8.3	8.2	0.15	—	57.2	35-25	N-14
17	SX25 8層	金属製品	飾り釘			江戸	釘部、長さ7.0cm、厚み0.45×0.4cm	8.15	8.3	0.2	—	50.5	35-26	N-15

第32図 SX25性格不明遺構 出土遺物(12)



第33図 SX28性格不明遺構 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX28 3層	土師質土器	皿	ロクロ成形	在地	江戸	(10.95)	(6.4)	2.0	15-3	Da-8

第34図 SX28性格不明遺構 出土遺物

第2節 V層上面

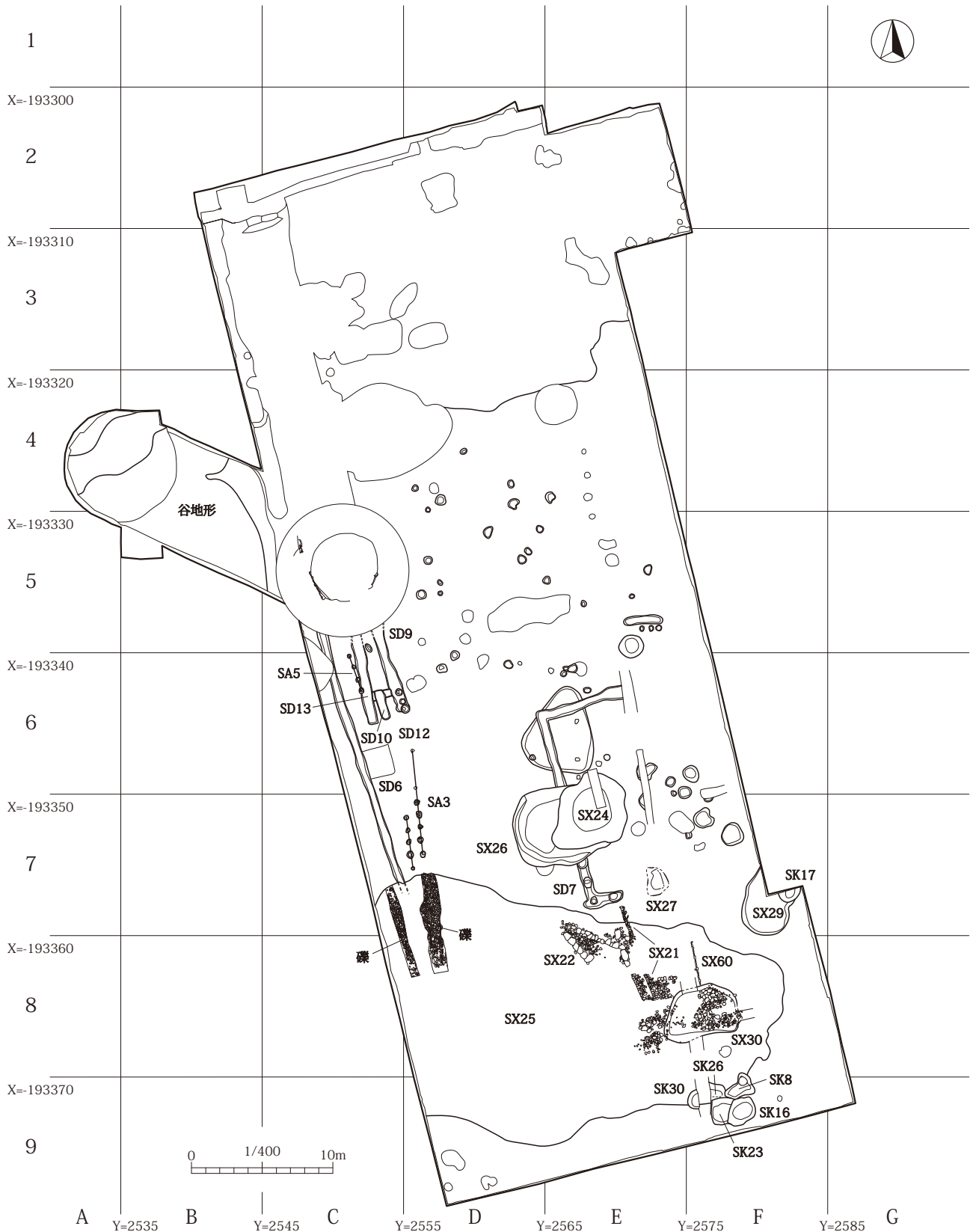
V層上面で検出した遺構は性格不明遺構9基、土坑6基、溝跡6条、ピット47基、柱列跡2列である。その内主要な性格不明遺構7基、土坑1基、溝跡6条、柱列跡2列を報告する。その他の遺構は一覧表に提示する。

柱列跡

SA3 柱列跡 (第35・37図 写真図版2)

D6・7グリッドに位置する。西側SA3Aが5基、東側SA3Bが7基の柱穴からなる2列の柱列跡である。両列とも方向はN-9°-Wを示す。規模は、SA3Aが総長361cm、柱間がP1-P2間97cm(3尺2寸)、P2-P3間96cm

(3尺1寸)、P3-P4間78cm(2尺5寸)、P4-P5間90cm(2尺9寸)で、SA3Bが総長730cm、柱間がP6-P7間93cm(3尺)、P7-P8間、P8-P9間90cm(2尺9寸)、P9-P10間93cm(3尺)、P10-P11間100cm(3尺3寸)、P11-P12間264cm(8尺7寸)である。断面形はP8がU字形、P12が逆台形、その他は浅い皿形である。いずれの柱穴においても、柱痕跡は確認されなかった。柱穴掘り方の規模は、径24～55cm、深さ6～16cmである。



第35図 V層上面遺構配置図

P1・4・5以外で根石と思われる礫が出土している。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。

各柱穴から遺物は出土していない。

SA5 柱列跡 (第 35・37 図)

C6 グリッドに位置する。4 基の柱穴からなる柱列跡である。SD13 と重複し、SA5 が新しい。規模は、総長 261cm で、柱間の寸法は P1-P2 間 90cm (2 尺 9 寸)、P2-P3 間 94cm (3 尺 1 寸)、P3-P4 間 77cm (2 尺 5 寸) である。方向は N-20° -W を示す。断面形は P2 が逆台形、その他は U 字形である。P4 のみ、根石と思われる礫が積み重ねられていた。いずれの柱穴においても、柱痕跡は確認されなかった。柱穴掘り方の規模は、径 29 ~ 42cm、深さ 11 ~ 25cm である。堆積土は P1 の 1 層が褐灰色シルト、2 層が黒褐色砂質シルト、P2 の 1 層が黒褐色シルト、2 層が黒褐色砂質シルトである。P3・4 は暗褐色砂質シルトの単層である。

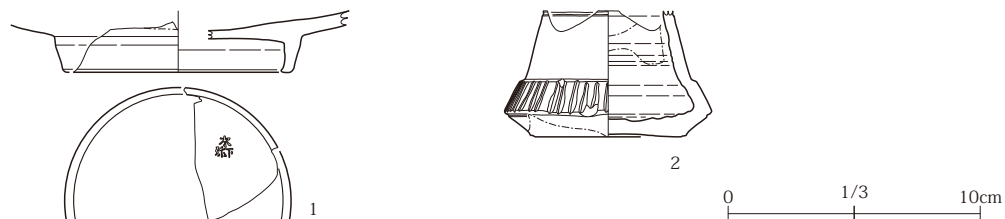
各柱穴から遺物は出土していない。

溝跡

SD6 溝跡 (第 35 ~ 37 図 写真図版 2)

C5 ~ 7 グリッドに位置する。北側はシダレザクラの下部に延びるが、その北側までは延びていない。北北西から南南東方向の溝跡である。規模は、長さ 1,851cm 以上、幅 73cm、深さ 37cm である。底面は平坦で、断面形は箱形である。堆積土は 2 層で、1 層はシルト、2 層は砂質シルトである。

遺物は、各層から陶器 13 点、磁器 10 点、土師質土器 6 点が出土している。その内、陶器 2 点を図示し、土師質土器 1 点を写真掲載した。



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SD6 1層	陶器	皿	高台内面に線刻有り	大塚相馬	19 世紀前半	—	(9.0)	「2.0」	15-4	1-40
2	SD6 1層	陶器	仏花器		不明	不明	—	5.8	「5.0」	15-5	1-41

第36図 SD6溝跡 出土遺物

SD7 溝跡 (第 35・37 図 写真図版 2)

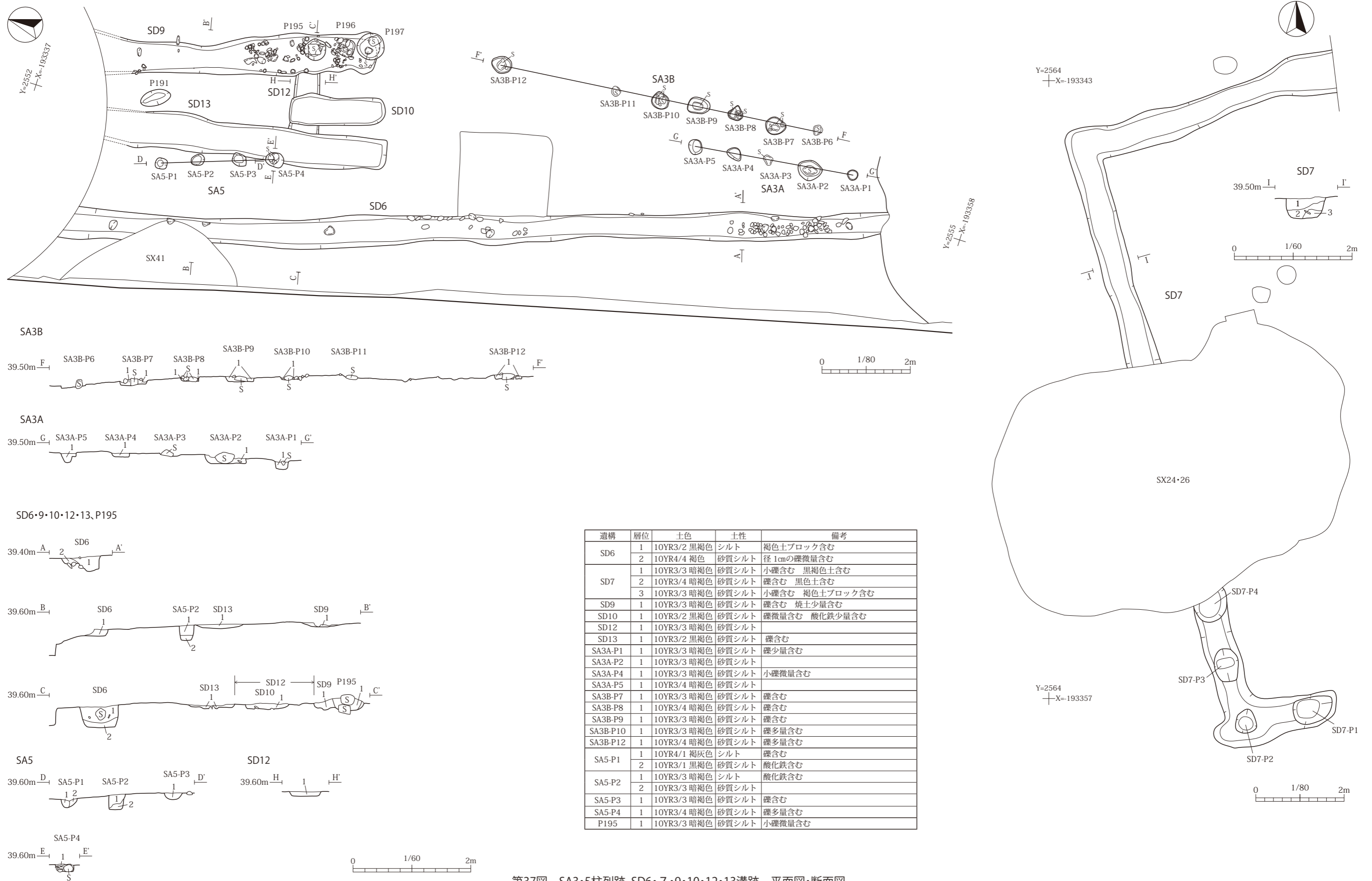
E6・7 グリッドに位置する。SX24・26 と重複し、SD7 が古い。北北西から南南東方向に向かって延び、E6・7 グリッドで北北東方向に屈曲する溝跡である。規模は、長さ 1,421cm、北北東へ屈曲する部分が北端で 602cm 以上、南端では 296cm で途切れている。幅 72cm、深さ 42cm で、底面は平坦である。断面形は U 字形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。溝跡の南部では底面に 4 基のピットを確認した。径 60 ~ 70cm、深さは 15cm で、断面形は皿形である。溝跡に付随する施設の可能性が考えられる。

遺物は出土していない。

SD9 溝跡 (第 35・37 図 写真図版 2)

C5・6 グリッドに位置する。P195 ~ 197、SD12 と重複し、P195 ~ 197 より古く、SD12 より新しい。北側はシダレザクラの下部に延びるが、その北側までは延びていない。北北西から南南東方向の溝跡である。規模は、長さ 624cm 以上、幅 96cm、深さ 13cm である。底面は起伏し、断面形は浅い皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



第37図 SA3・5柱列跡、SD6・7・9・10・12・13溝跡 平面図・断面図

SD10 溝跡 (第 35・37 図 写真図版 2)

C6 グリッドに位置する。SD12 と重複し、SD12 より新しい。北北西から南南東方向の溝跡である。規模は、長さ 217cm、幅 74cm、深さ 10cm である。底面はやや起伏し、断面形は浅い U 字形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。

SD12 溝跡 (第 35・37 図 写真図版 2)

C5・6 グリッドに位置する。SD9・10・13 と重複し、SD12 が最も古い。西南西から東北東方向の溝跡である。検出された規模は、長さ 135cm 以上、幅 68cm、深さ 10cm である。底面はやや起伏し、断面形は浅い U 字形である。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。

SD13 溝跡 (第 35・37 図 写真図版 2)

C5・6 グリッドに位置する。P187・190、SD12 と重複し、P187・190 より古く、SD12 より新しい。北側はシダレザクラの下部に延びているが、その北側までは延びていない。北北西から南南東方向の溝跡である。検出された規模は、長さ 640cm 以上、幅 86cm、深さ 5cm である。底面は起伏し、断面形は浅い皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

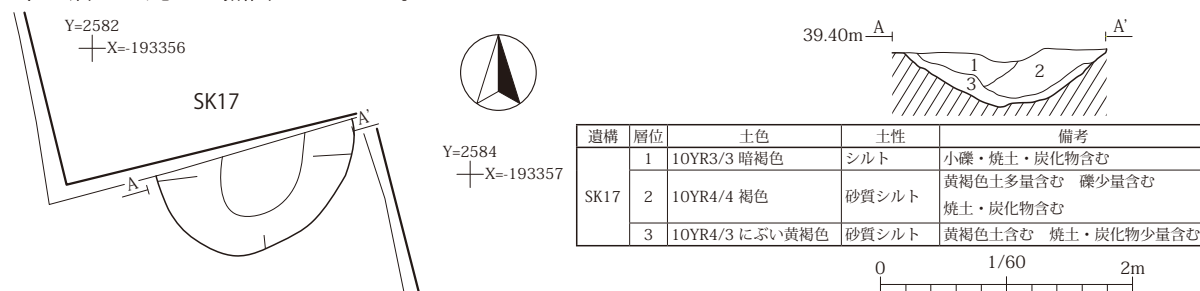
遺物は出土していない。

土坑

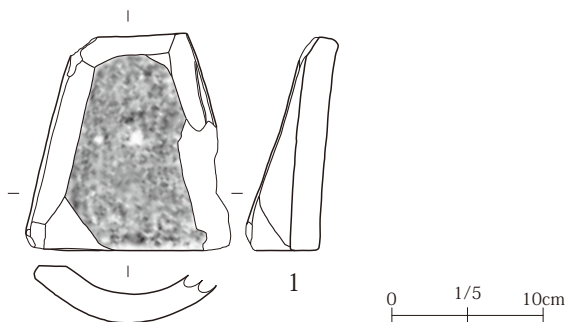
SK17 土坑 (第 38・39 図)

F7 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。SX29 と重複し、SK17 が新しい。検出された規模は、東西 155cm、南北 76cm、深さ 38cm である。平面形は円形で、断面形は浅い U 字形である。堆積土は 3 層で、1 層はシルト、2・3 層は砂質シルトである。

遺物は、2 層から瓦が 1 点出土している。



第38図 SK17土坑 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	特徴	輪造い				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				広端幅	狭端幅	長さ	厚さ					
1	SK17 2層	輪造い		「13.5」	「6.0」	14.4	2.0	483.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕	27-1	Hc-39

第39図 SK17土坑 出土遺物

性格不明遺構

SX21・22 性格不明遺構 (第40～44図 写真図版6・12)

E 7・8 グリッドに位置する。北東側に積まれた瓦、及び南東側に敷かれた瓦を合わせて SX21、西側に3列に並ぶ石列と北側に広がる礫群を合わせて SX22 とする。SX21 北側は、南北 243cm、東西 39cm、高さ 49cm の規模で軒丸瓦と平瓦・丸瓦が積まれている。軒丸瓦3点は、ほぼ等間隔に並べられているが、それ以外の平瓦と丸瓦が乱雑に積まれており積み方に規則性はない。瓦の隙間には焼土が混入している。SX21 南側の瓦は、南北 270cm、東西 150cm の範囲に、平瓦が北西から南東方向に規則性をもって敷かれている。但し西端部では径 10～20cm の礫を一行に敷き、その上に瓦を並べている。また、後述する SX22 の東部と同方向の N-18° -W と、それより約 30cm の隙間を挟んで東側に並べられている方向の N-27° -W と 2 方向確認できる。両方とも前節で報告した SX25 を埋める際の土止め、または整地範囲を決める際の目安に用いられた可能性が考えられる。SX21 南側の瓦・礫直上の整地層からは 18～19 世紀初頭と考えられる陶磁器や瓦塔の破片が出土している。

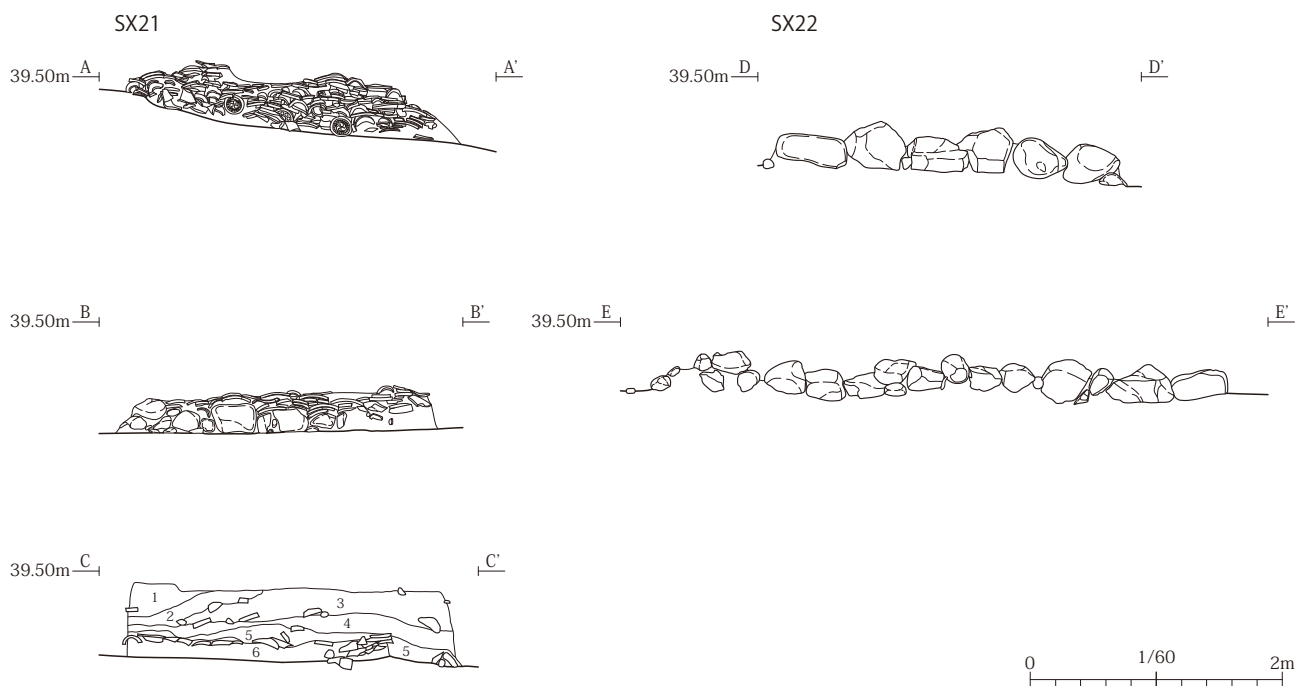
SX22 は、径 11～36cm の礫が並ぶ石列である。掘り方は無く、SX25 の落ち込み中の堆積土上面に据えられた状態で検出した。2列並ぶ石列の間に、小径の礫や平瓦が混入している。2列の方向は、北側が N-67° -W、南側は N-42° -W である。また、東側に同規模の石が N-18° -W 方向で並べられている。SX21 と同様の土止め、または目安に用いられた可能性が考えられる。また、SX21・22 で出土した瓦は、同様の胎土の瓦であり珠文三つ巴文や九曜文等、軒丸瓦の瓦当に共通性が見られることから同時期のものと考えられる。

遺物は、SX21 から陶器 82 点、磁器 78 点、土師質土器 20 点、瓦質土器 5 点、瓦 205 点、石製品 1 点、金属



第40図 SX21・22性格不明遺構 平面図

製品2点が出土している。その内、陶磁器3点、土師質土器1点、瓦質土器1点、瓦5点、土製品2点を図示し、金属製品1点を写真掲載した。SX22から陶器12点、磁器5点、土師質土器1点、瓦質土器2点、瓦414点が出土しており、その内、瓦12点を図示し、瓦1点を写真掲載した。



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SX21 を覆う土	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	小礫含む 焼土微量含む	SX21 を覆う土	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫含む 瓦含む 焼土含む
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	小礫含む 黒褐色土筋状に含む		5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫少量含む 瓦少量含む
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	礫多量含む 瓦多量含む 焼土少量含む		6	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	礫含む 瓦含む 焼土多量含む

第41図 SX21・22性格不明遺構 立面図・断面図

SX24 性格不明遺構 (第45・46図 写真図版7)

E6・7グリッドに位置する。SX26、SD7と重複し、SX24が最も新しい。規模は、長軸617cm、短軸493cm、深さ84cmである。平面形は不整形で、底面はやや起伏する。断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。堆積土は6層で、1層と4層はシルト、2・3・5・6層は砂質シルトである。5層は一部グライ化している。

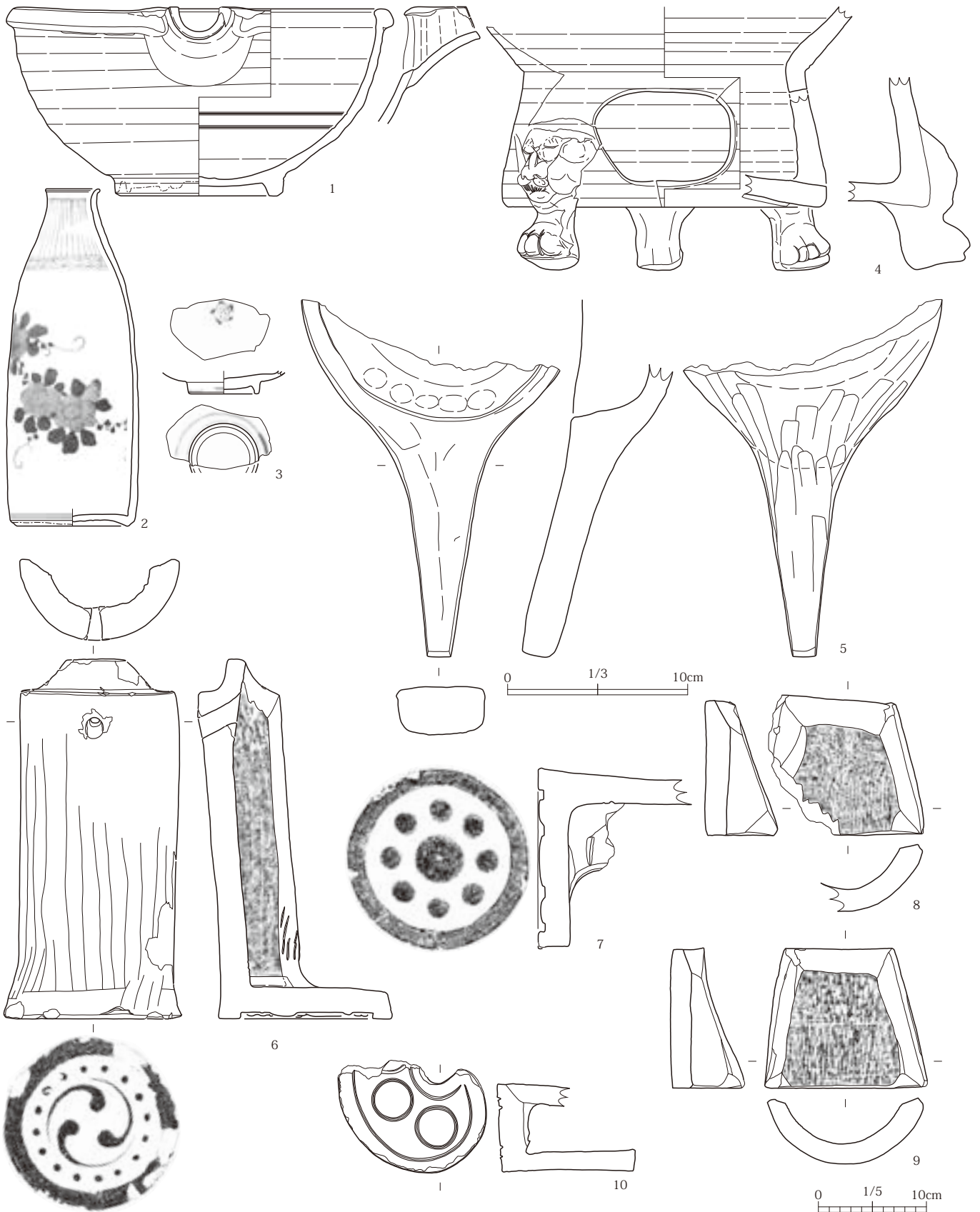
遺物は、2層と4層から陶器5点、磁器8点、土師質土器4点、瓦質土器1点、瓦3点、金属製品1点が出土している。その内、陶器1点を図示し、瓦と金属製品をそれぞれ1点写真掲載した。

SX26 性格不明遺構 (第47～50図 写真図版No.7)

D・E6・7グリッドに位置する。SX24、SD7と重複し、SX24より古くSD7より新しい。東側はSX24に削平されているが、検出された規模は、長軸688cm以上、短軸602cm、深さ196cmである。平面形は不整形で、底面は平坦である。断面形はU字形で、東壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は26層で、2・3層、12層、23・24層は粘土質シルト、1層、4～11層、13～22層、25・26層はシルトである。10・14・15・17・18層では、径5～30cm前後の自然礫が西側より大量に投棄された状態で検出された。

遺物は、各層から18世紀中頃～19世紀前半を中心とした陶器241点、磁器433点、土師質土器181点、瓦質土器3点、瓦21点、石製品4点、金属製品4点が出土している。その内、陶器8点、磁器10点、土師質土器1点、瓦1点、金属製品2点を図示し、陶器1点、磁器6点、土師質土器2点、金属製品1点を写真掲載した。

第2節



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX21 4層	陶器	片口鉢	見込みに目跡	大塚相馬?	18C末~19C初	20.2	8.7	10.5	15-6	I-42
2	SX21 4層	磁器	徳利	牡丹文	肥前	19C前半	3.0	6.2	「18.8」	15-8	J-23
3	SX21 4層	磁器	皿	見込みにコンニャク印判五弁花文	肥前	19C前半	—	(3.9)	「1.3」	15-7	J-24
4	SX21 4層	土師質土器	火鉢	獣足	在地	江戸	—	「17.3」	「14.4」	15-9	Ca-4
5	SX21 4層	瓦質	十能		在地	江戸	(長さ)「19.8」	(幅)「14.3」	(厚み)2.5	15-10	T-4

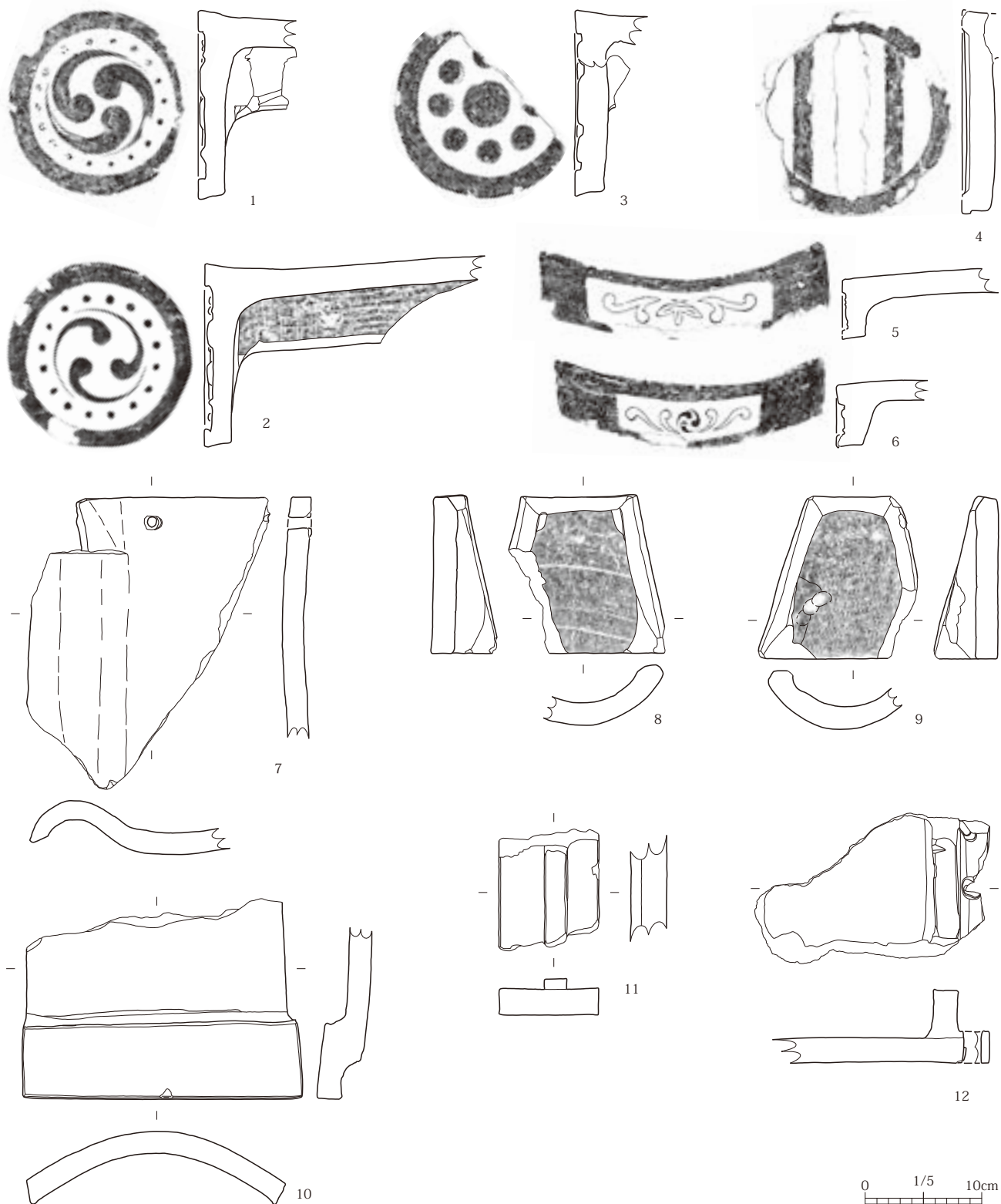
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	玉縁長さ	瓦当幅・幅	周縁幅	文様区幅	瓦当厚	瓦当高	厚さ							
6	SX21 5層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	30.2	3.0	16.0	1.9	12.2	2.6	16.0	—	3,100.0	ナデ	コビキ痕、布目痕	27-2	F-12		
7	SX21 5層	軒丸瓦	九曜文		—	—	「16.2」	2.0	13.0	3.0	16.8	—	1,748.0	ナデ	コビキ痕	27-3	F-13		
8	SX21 5層	輪造い	—		12.5	—	広端「11.0」、狭端「8.3」	—	—	—	—	2.0	512.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕	27-7	Hc-40		
9	SX21 5層	輪造い	—		12.8	—	広端 15.0、狭端 9.8	—	—	—	—	1.9	560.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕	27-8	Hc-41		
10	SX21 5層	鬼瓦	—	奥行 12.7cm	「10.4」	—	「13.6」	—	—	—	—	1.7	1,040.0	ケズリ	ナデ	27-9	Hb-4		

第42図 SX21性格不明遺構 出土遺物(1)



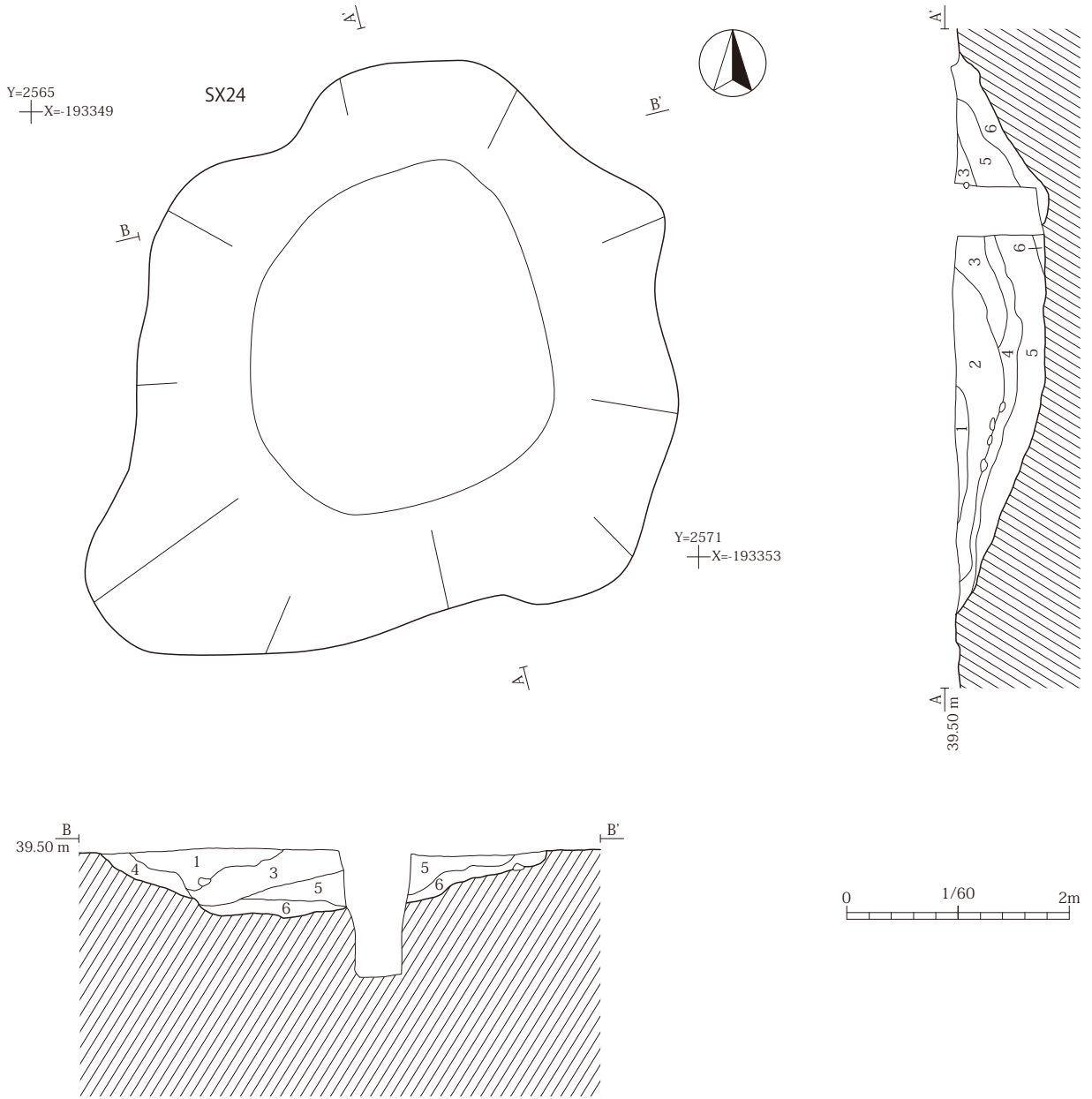
No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)			重量 (g)	上面調整他	下面調整他	写真図版	登録No.
				長さ	幅	高さ					
1	SX21 4層	瓦塔	三重か五重の塔? 殿上段部?	43.7	—	17.5	5,629.0	ナデ、ヘラナデ、ケズリ	ナデ	27-10	P-3
2	SX21 4層他	瓦塔	三重か五重の塔?	52.8	21.7	12.8	11,060.0	ナデ、ヘラナデ、ケズリ	ナデ	28-1	P-4

第43図 SX21性格不明遺構 出土遺物(2)



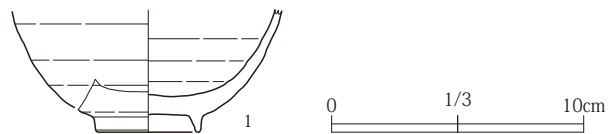
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)							重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.		
					長さ	瓦当幅・径、幅	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚	瓦当高	高さ						厚さ	
1	SX22 IV a 層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、右巻き	—	「14.68」	「0.92」	12.7	「2.18」	「0.92」	—	—	—	1,259.0	ナデ	ナデ	28-5	F-16
2	SX22 IV a 層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	「24.1」	15.7	1.5～1.8	12.3	2.4	—	—	—	1,908.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕、布目痕	28-2	F-17	
3	SX22 IV a 層	軒丸瓦	九曜文	—	—	16.0	2.0	12.1	2.5	—	—	—	631.0	—	—	28-3	F-18	
4	SX22 IV a 層	軒丸瓦	竪三引両文	—	—	「17.2」	1.6	14.0	2.5	—	—	—	706.0	—	—	28-4	F-19	
5	SX22 IV a 層	軒平瓦	世文雪持ち	—	—	25.0	(0.7)	16.2	2.0	7.9	—	—	1,182.0	ナデ	—	28-6	G-23	
6	SX22 IV a 層	軒平瓦	三巴文	巴、左巻き	—	23.1	1.1	12.3	2.1	8.2	—	—	853.0	ナデ	—	28-7	G-24	
7	SX22 IV a 層	椀瓦	—	—	「24.8」	「16.3」	—	—	—	—	1.85	1,088.0	ナデ、ケズリ	ナデ	28-11	Ha-4		
8	SX22 IV a 層	輪造い	—	—	13.6	広端「10.1」、狭端9.9	—	—	—	—	—	2.1	485.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕	28-12	Hc-42	
9	SX22 IV a 層	輪造い	—	—	14.0	広端「11.5」、狭端「7.2」	—	—	—	—	—	1.9	504.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕	29-1	Hc-43	
10	SX22 IV a 層	角椀伏間瓦	—	—	「17.2」	23.9	—	—	—	—	—	1.9	1,494.0	ナデ、ケズリ	ナデ	29-2	Hc-44	
11	SX22 IV a 層	T字瓦	—	—	「9.7」	8.5	—	—	—	—	—	3.1	286.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	29-3	Hc-45	
12	SX22 IV a 層	下駄組瓦	—	—	「12.5」	「17.0」	—	—	—	—	6.3	2.1	734.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	29-4	Hc-46	

第44図 SX22性格不明遺構 出土遺物



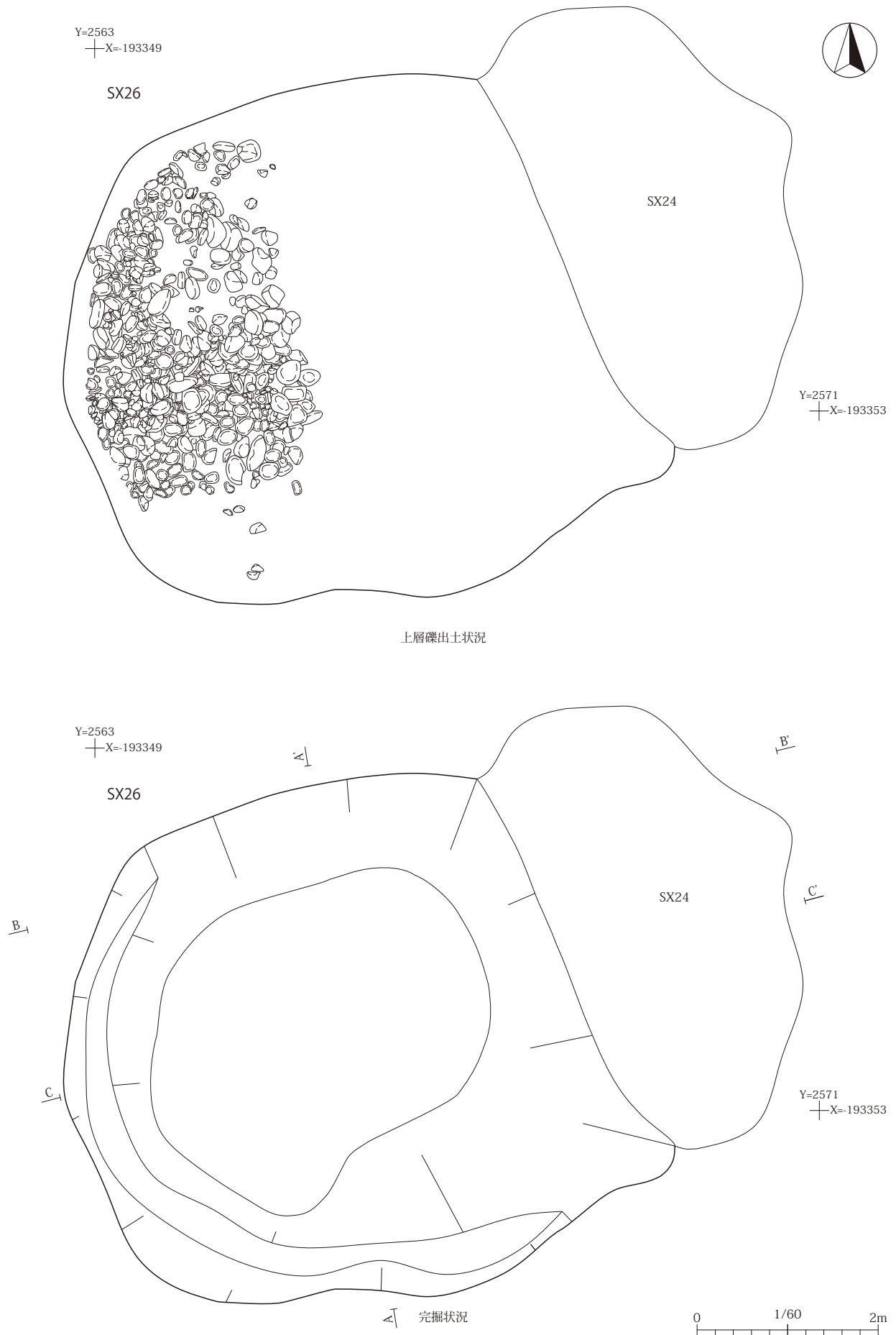
遺構	層位	土色	土性	備考
SX24	1	10YR4/4 褐色	シルト	径 10cm 以内の礫多量含む
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫多量含む
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫少量含む
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 10cm 以内の礫微量含む
	5	10YR7/1 灰白色	砂質シルト	一部グライ化
	6	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫少量含む 黒褐色土少量含む

第45図 SX24性格不明遺構 平面図・断面図

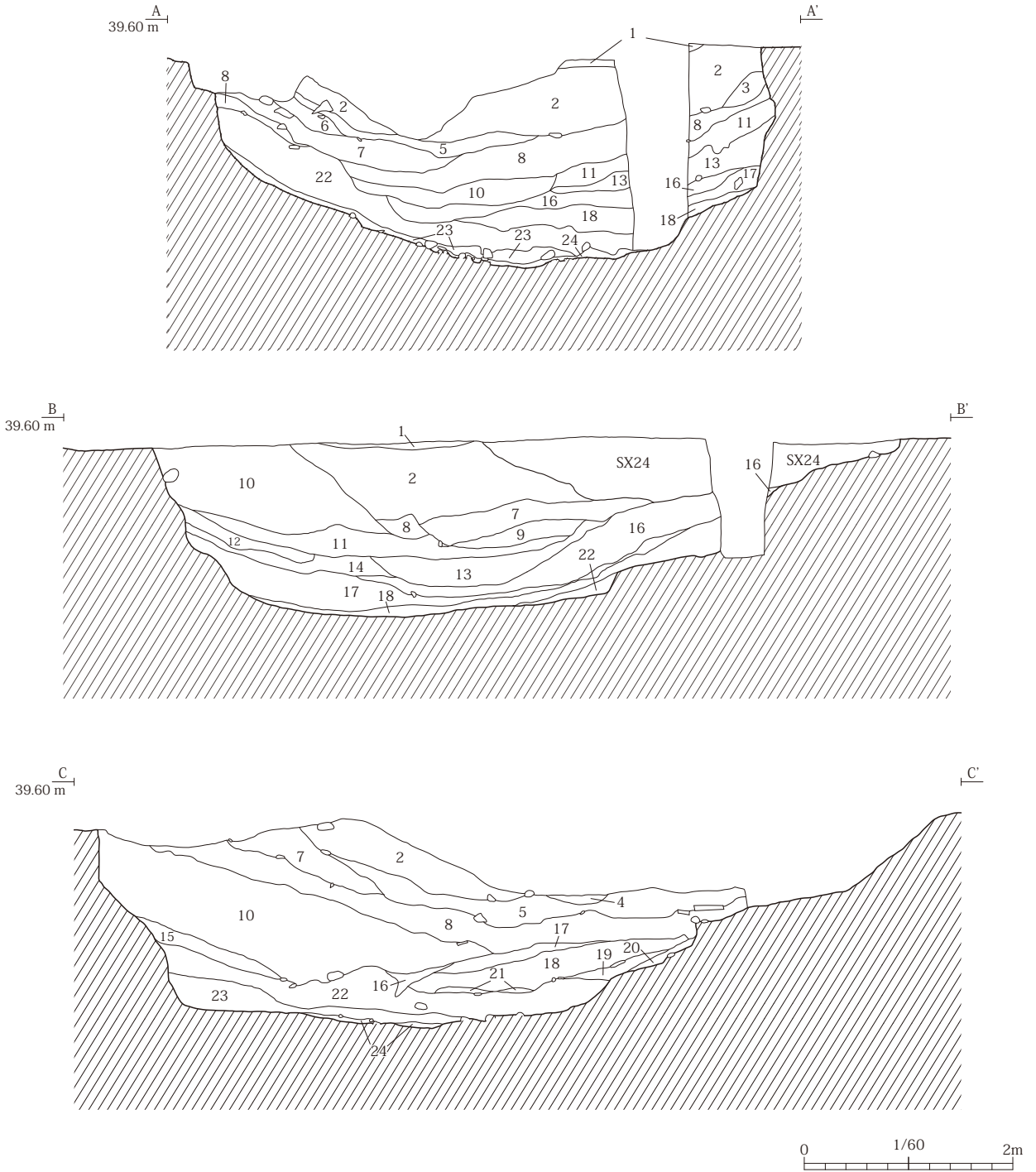


No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX24 2層	陶器	碗		大堀相馬	18世紀後半	—	4.0	「4.9」	15-11	I-43

第46図 SX24性格不明遺構 出土遺物



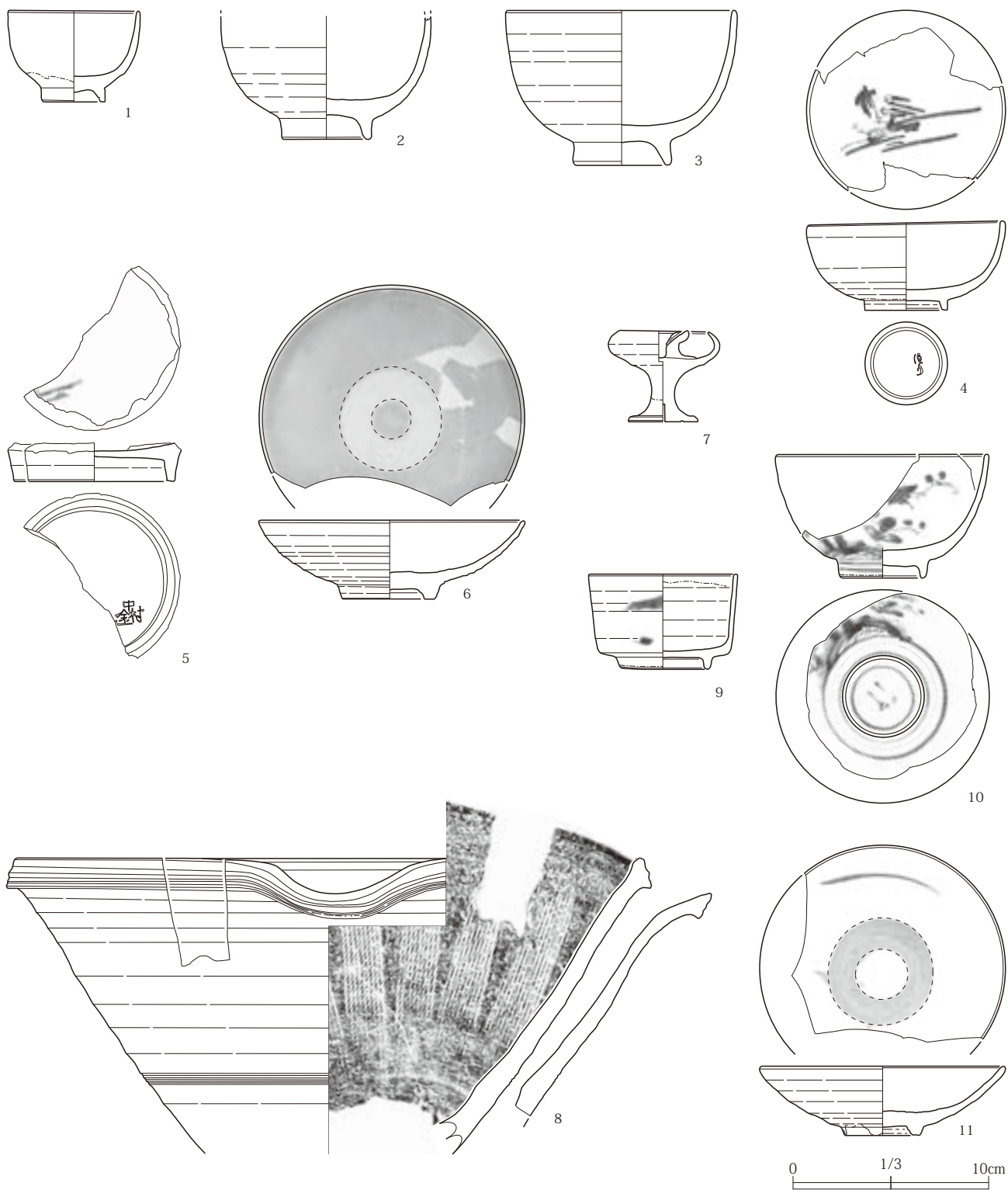
第47図 SX26性格不明遺構 出土状況図・平面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SX26	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	礫・酸化鉄含む
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫少量含む 焼土・炭化物少量含む
	3	10YR6/8 明黄褐色	砂質シルト	小礫多量含む 炭化物少量含む
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	礫少量含む 焼土・炭化物含む
	5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の礫少量含む 焼土・炭化物含む
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫含む 焼土・炭化物含む
	7	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫少量含む 炭化物微量含む
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫含む 地山含む
	9	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫含む 炭化物微量含む
	10	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	礫多量含む
	11	10YR2/1 黒色	砂質シルト	地山ブロック含む

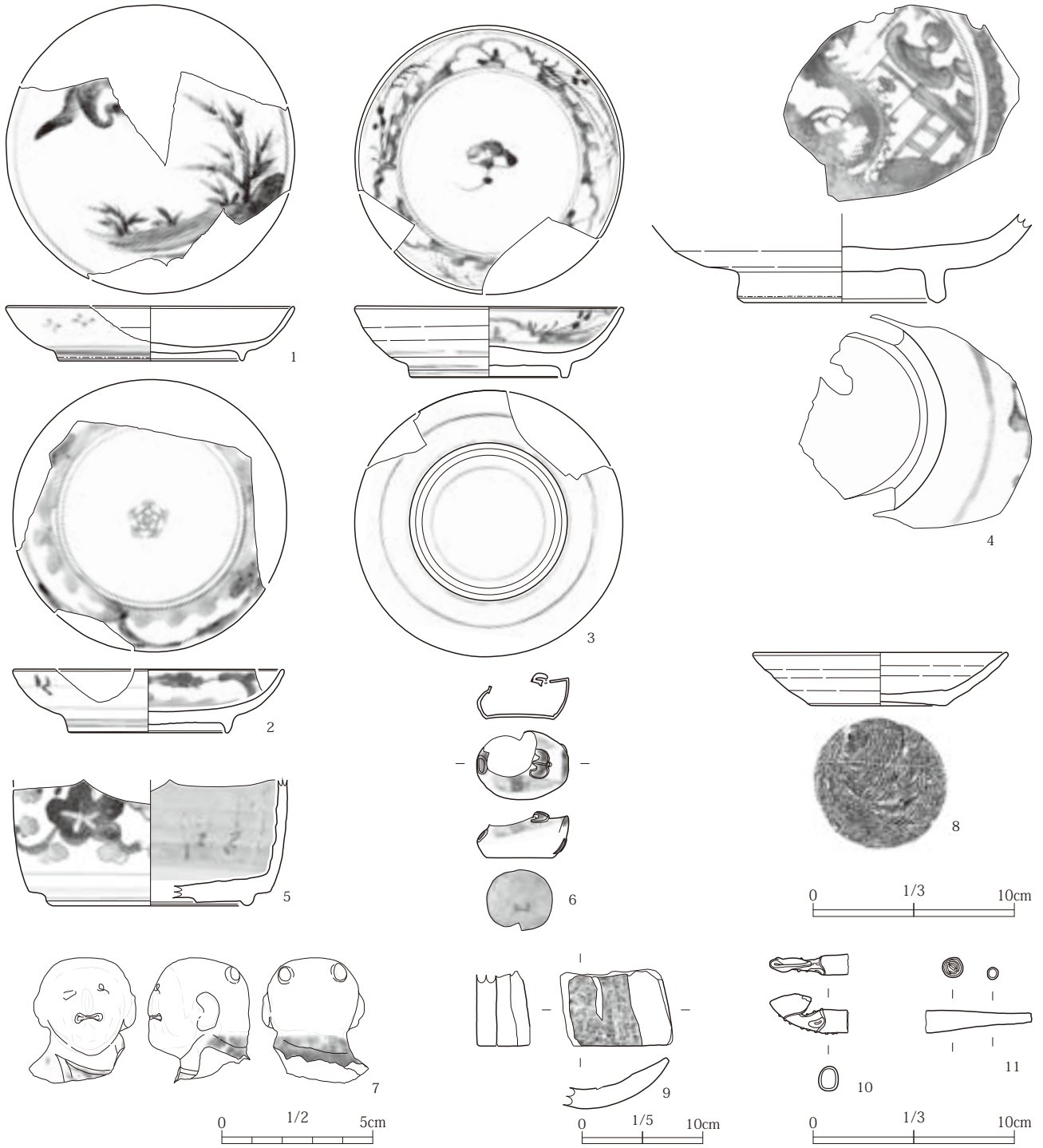
遺構	層位	土色	土性	備考
SX26	12	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	礫含む 黒色土含む
	13	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫含む
	14	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫含む 黄褐色土微量含む
	15	10YR2/1 黒色	砂質シルト	礫少量含む 褐色土多量含む
	16	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の礫少量含む 地山含む
	17	10YR2/1 黒色	砂質シルト	多量の礫・暗褐色土含む
	18	10YR5/8 黄褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の礫少量含む 黒褐色土微量含む
	19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色・黄褐色土少量含む
	20	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫含む 褐灰色土少量含む
	21	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色土含む
	22	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐色土との互層 黄褐色土少量含む
	23	10YR6/8 明黄褐色	砂質シルト	黒色土含む
24	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫多量含む	

第48図 SX26性格不明遺構 断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX26 8層	陶器	小杯	灰釉	地方窯	江戸	6.6	3.2	4.68	15-12	I-44
2	SX26 8層	陶器	碗		肥前	18C	—	4.4	「6.3」	15-13	I-45
3	SX26 8層	陶器	碗	灰釉	肥前	17C後半	11.2	4.8	7.9	15-14	I-46
4	SX26 8層	陶器	平碗	灰釉 山水文 高台に清水 中央に窪み	京焼風	18C	9.8	4.2	4.55	15-15	I-47
5	SX26 8層	陶器	皿	加工円盤 山水文 高台内「中村金」	肥前	18C	—	(8.2)	「1.95」	15-16	I-48
6	SX26 8層	陶器	皿	見込みに目跡	肥前	17C後半	13.6	4.7	4.0	15-19	I-49
7	SX26	陶器	乗櫓	黒釉	大堀相馬	19C前～中頃	(4.65)	3.6	4.6	15-17	I-50
8	SX26	陶器	摺鉢		小野相馬?	19C前半?	(31.8)	—	「15.0」	15-18	I-51
9	SX26 10層	磁器	猪口	蓋物の身 口に釉がかかっていない 山水文	肥前	18C後半以降	(7.65)	4.4	「4.85」	15-21	J-25
10	SX26 10層	磁器	碗	高台内に銘有り(不明)	肥前	17C後半	(10.8)	(4.2)	6.3	15-22	J-26
11	SX26 10層	磁器	皿	見込みに蛇の目	波佐見	17C後～18C前	(12.4)	3.9	「3.55」	15-20	J-27

第49図 SX26性格不明遺構 出土遺物(1)



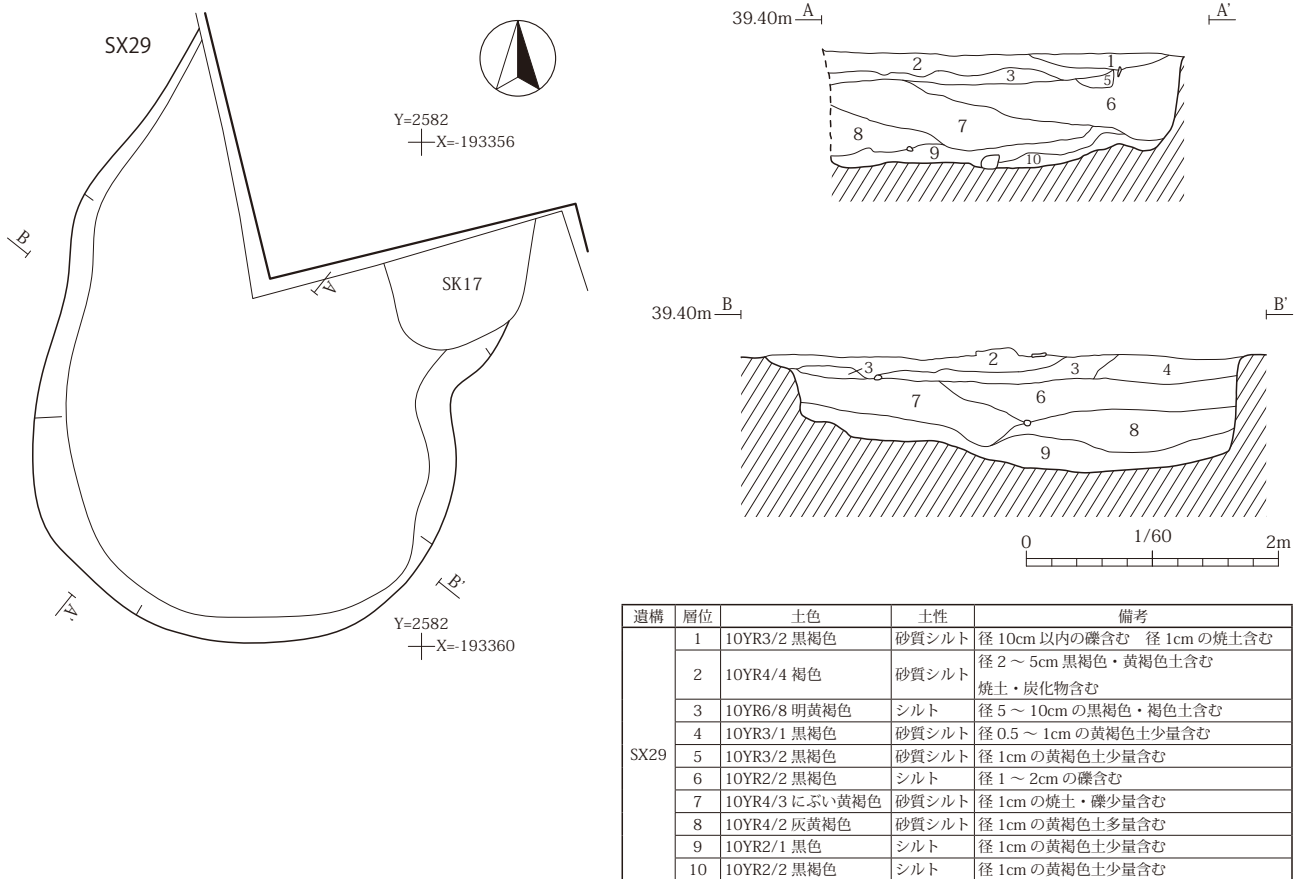
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.				
							口径	底径	器高						
1	SX26 10層	磁器	皿	笹に蔓文 高台内に梁支えの目跡	肥前	17C後半	14.2	9.1	2.7	15-23	J-28				
2	SX26 10層	磁器	皿	染付 外面に蔓草(一本線) 草花文 見込みに蒔草印(五弁花)	肥前	17C末~18C前	(13.4)	8.0	3.2	15-24	J-29				
3	SX26 10層	磁器	皿	草花文 焼成不良	波佐見	18C	13.1	7.9	3.6	16-1	J-30				
4	SX26 10層	磁器	鉢	楼閣山水門	肥前	17C?	-	(9.6)	「4.4」	16-2	J-31				
5	SX26 10層	磁器	鉢	外面に花と雲 蛇の目凹凸台 内部に墨書有り	肥前	18C後半以降	-	(9.7)	「6.3」	16-3	J-32				
6	SX26 10層	磁器	水滴	色絵 絵は鴨?	肥前?	18C	(長さ)「3.4」	(幅)「4.55」	(高さ)「2.1」	16-4	J-33				
7	SX26 10層	磁器	人形	唐子?	肥前	17C	(長さ)「4.1」	(幅)「3.4」	(厚さ)「3.4」	16-5	J-34				
8	SX26 10層	土師質土器	皿		江戸		(12.6)	6.7	2.65	16-6	Da-9				
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.	
							長さ	広端幅	狭端幅						厚さ
9	SX26 10層	輪造い					「6.3」	「7.8」	(6.3)	1.6	136.0	ナデ	ケズリ	29-5	Hc-47
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.			
							長さ	幅	厚さ						
10	SX26 10層	金属製品	煙管(雁首)			18C後半~19C前半	「3.9」	1.2	1.0	5.5	35-32	N-16			
11	SX26 10層	金属製品	煙管(吸い口)	内部に羅字が残っている		18C後半~19C前半	「5.35」	1.1	0.65~1.05	4.5	35-33	N-17			

第50図 SX26性格不明遺構 出土遺物(2)

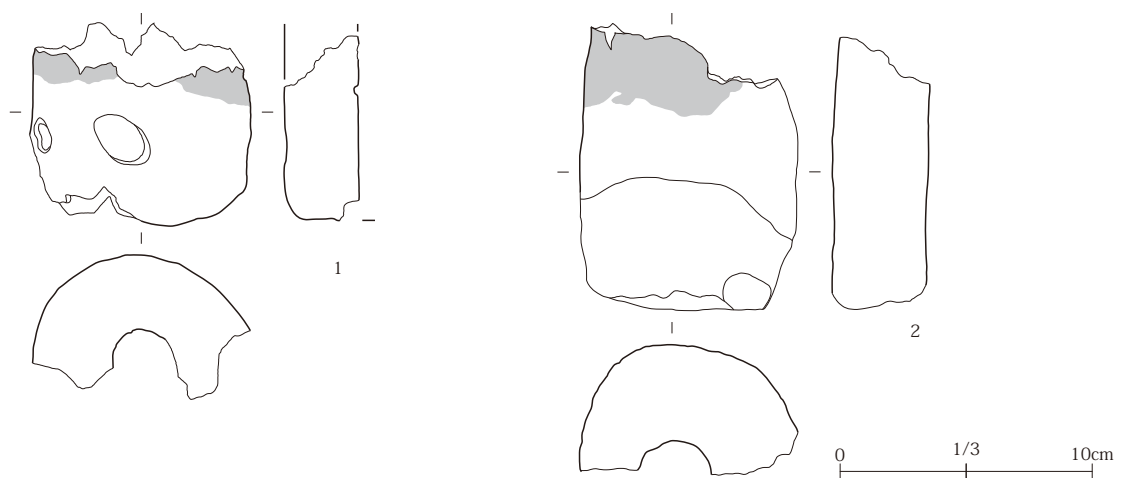
SX29 性格不明遺構 (第51・52図 写真図版3)

F7グリッドに位置する。SK17と重複し、SK17よりも古い。北側は調査区外へと延びる。規模は、長軸385cm以上、短軸345cm、深さ82cmである。平面形は不正楕円形であると考えられ、底面はやや起伏する。断面形は箱形で、底面は平坦で壁は垂直気味に立ち上がる。堆積土は10層で、黒褐色シルトを主体とする。

遺物は羽口が2点出土しており、図示した。



第51図 SX29性格不明遺構 平面図・断面図



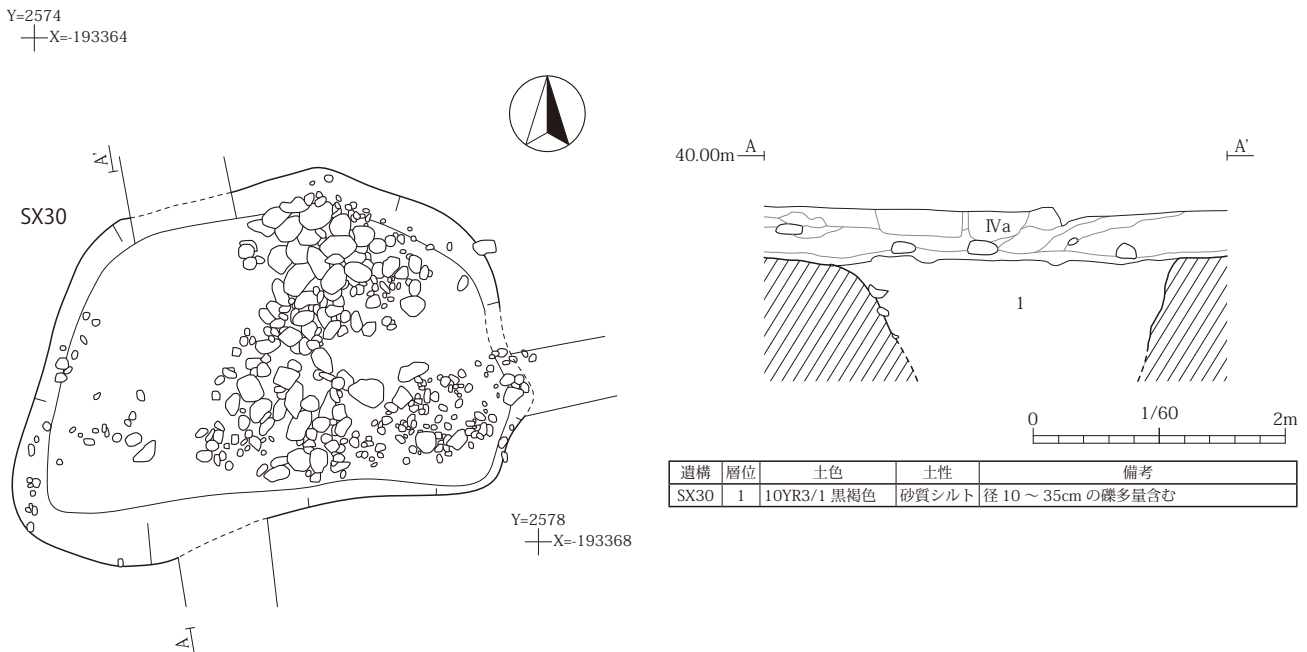
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							長さ	幅	厚み		
1	SX29 6層	土製品	羽口	外形「8.65」cm、内径2.9cm			「11.4」	—	3.85	16-7	P-5
2				外形「8.8」cm、内径「2.4」cm			「8.1」	—	3.1		

第52図 SX29性格不明遺構 出土遺物

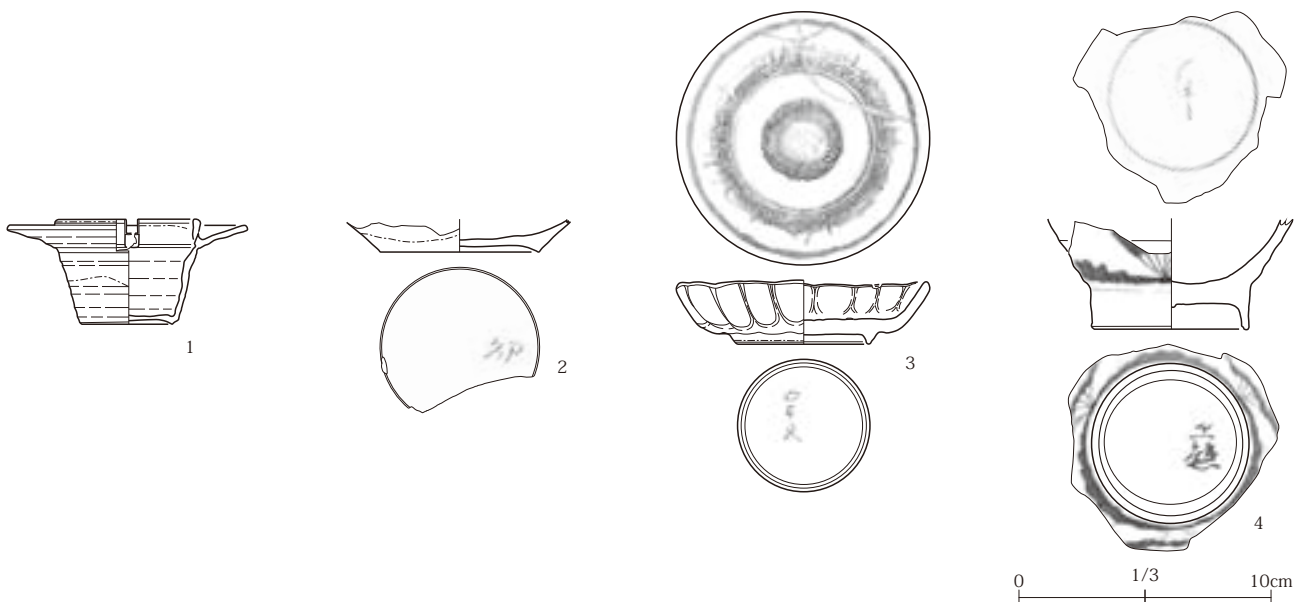
SX30 性格不明遺構 (第53～55図 写真図版3)

E・F8 グリッドに位置する。SX25 上面で検出されており、SX30 が新しい。規模は、長軸 421cm、短軸 289cm、安全管理上検出面より 105cm まで掘り下げをとどめたため、深さ及び底面の状況は不明である。平面形は不整な隅丸長方形である。壁は上端に向かって開く。確認された部分の堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で、上部には径 5～30cm 前後の自然礫がまとまって投棄されていた。

出土遺物は、陶器 152 点、磁器 119 点、土師質土器 13 点、瓦質土器 8 点、石製品 2 点、瓦 20 点である。その内、陶器 2 点、磁器 3 点、瓦質土器 1 点、石製品 1 点を図示した。

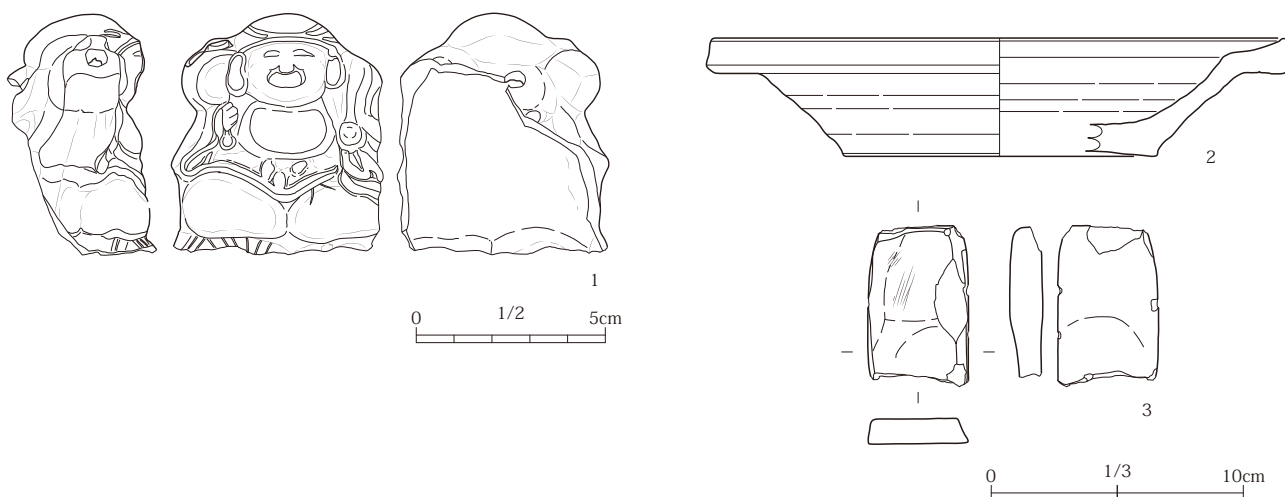


第53図 SX30性格不明遺構 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX30 1層	陶器	油受け		在地?	19C 前半	(5.6)	3.6	4.2	16-8	I-52
2	SX30 1層	陶器	土瓶	底部墨書有り	大塚相馬	19C 前半	—	6.3	「1.3」	16-9	I-53
3	SX30 1層	磁器	皿	染付 輪花皿 見込みに松竹梅 高台に銘 焼継ぎ跡有り	不明	19C 前半	9.8	5.2	2.5	16-10	J-35
4	SX30 1層	磁器	鉢	広東碗 外面に扇文+?	肥前	18C 後～19C 前	—	6.1	「4.4」	16-11	J-36

第54図 SX30性格不明遺構 出土遺物(1)



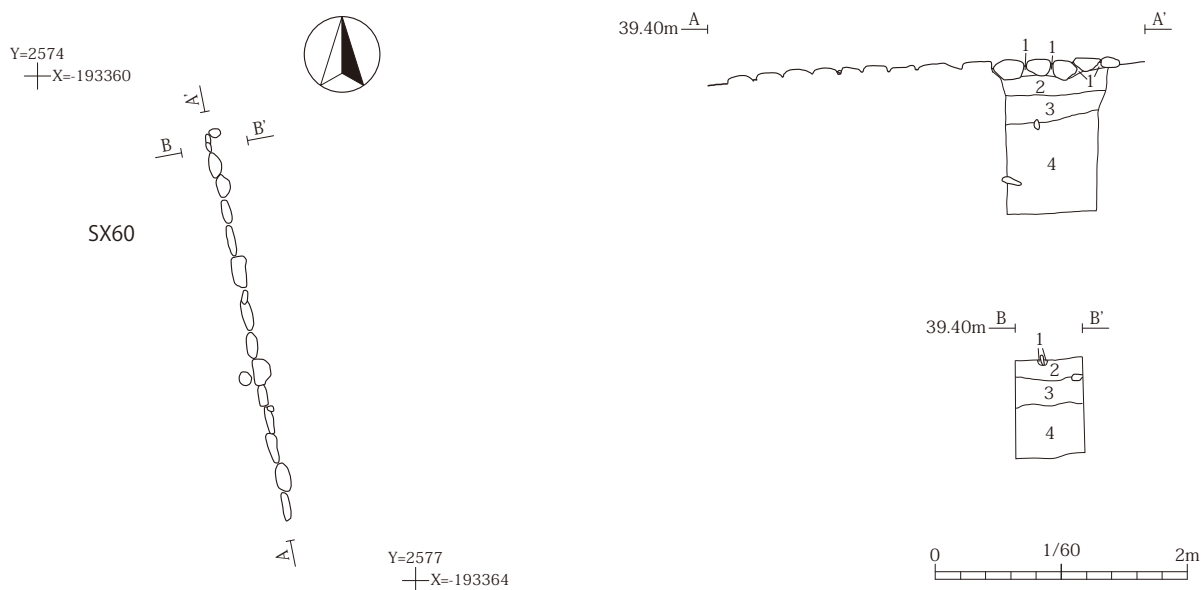
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							長さ	幅	厚さ		
1	SX30 1層	磁器	水滴	白磁の大黒天 穴が2つ	肥前	江戸	「6.4」	「5.6」	「3.65」	16-12	J-37
2	SX30 1層	瓦質	蓋	内面外面に炭化物付着 火消壺の蓋	在地	江戸	口径(22.8)	底径(12.5)	器高4.7	16-13	T-5
3	SX30 1層	石製品	砥石	重量 55.0g			「6.35」	4.0	1.35	35-5	Kd-4

第55図 SX30性格不明遺構 出土遺物(2)

SX60 性格不明遺構 (第56図 写真図版3)

F8 グリッドに位置する。円礫が一行に並べられた石列跡である。検出された規模は、総長314cmである。柱穴等の施設は確認されなかった。方向はN-11°-Wである。石列掘り方の規模は、幅8cm、深さ14cm、並べられていた玉石は15～27cm×6～13cmの円礫が13個、径10cm×4cmの円礫が1個、径6cmの小礫が4個、径10cmの礫が1個である。埋土は暗褐色砂質シルトの単層である。石には柱を乗せた痕跡が無く、建物の基礎ではない。前述したSX21・22と同様に土止めの際の目安として機能していた可能性が考えられる。

遺物は出土していない。

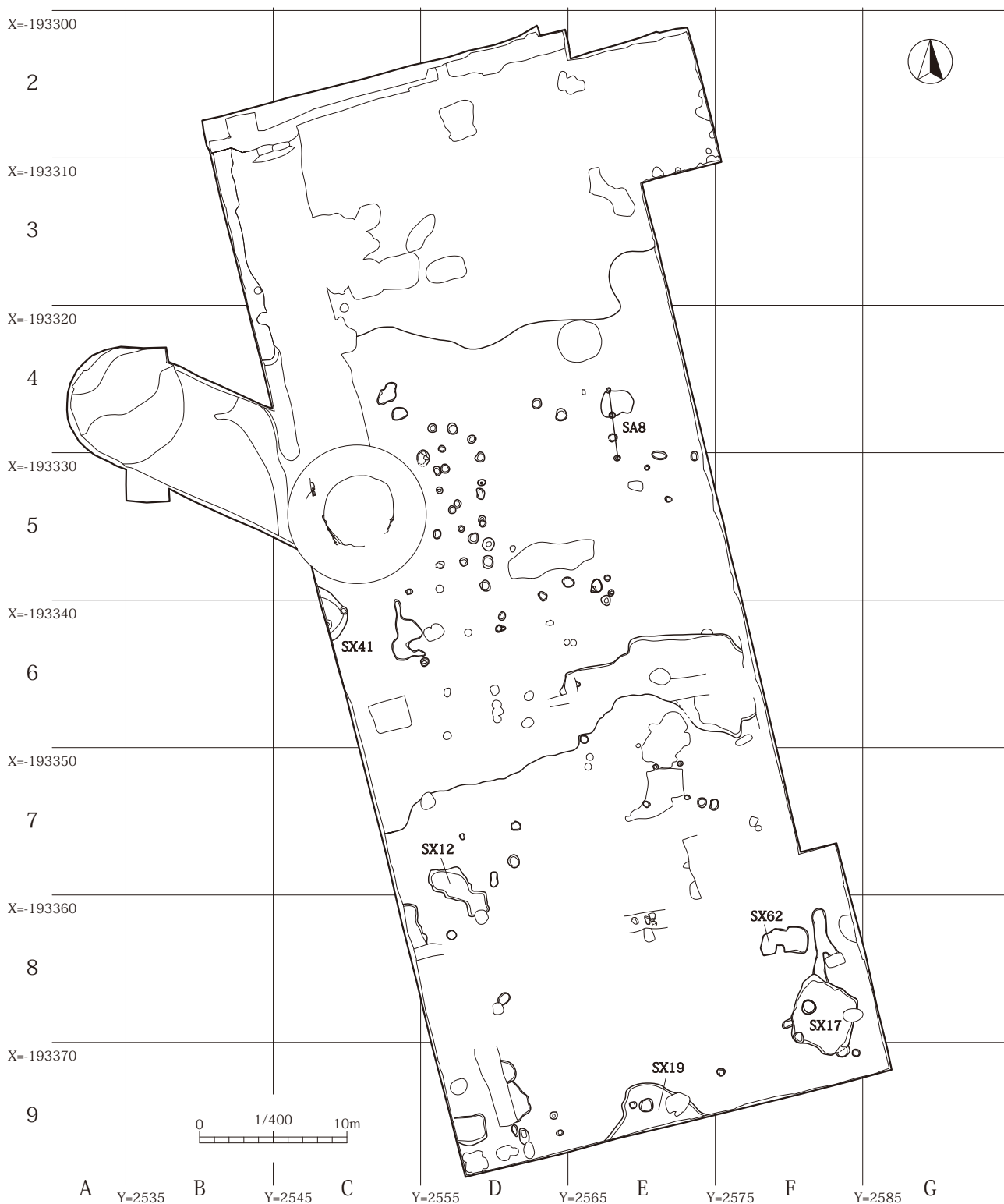


遺構	層位	土色	土性	備考
SX60	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	石列の掘り方、小礫微量含む
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	SX25 14層 礫含む 炭化物ブロック少量含む
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	SX25 17層 礫含む 炭化物ブロック少量含む
	4	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	SX25 20層 細砂含む

第56図 SX60性格不明遺構 平面図・断面図

第3節 IV層上面

IV層上面で検出した遺構は性格不明遺構5基、柱列跡1列、ピット66基である。IV層を構成する整地層中には、D8・9、E8・9グリッド付近に径30～50cmの大型の礫が大量に含まれていた。II・III層とは様相が異なり、整地が行われた時期に差があると考えられる。



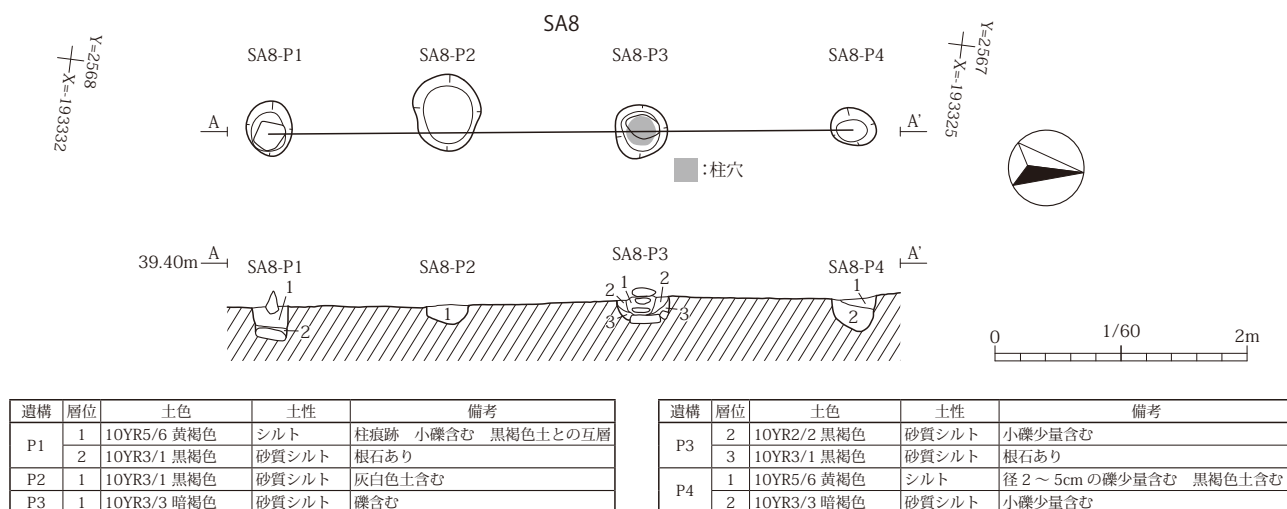
第57図 IV層上面遺構配置図

柱列跡

SA8 柱列跡 (第 58 図)

E4・5 グリッドに位置する。4 基の柱穴からなる柱列跡である。検出された規模は、総長 458cm で、柱間の寸法は P1-P2 間 141cm (4 尺 6 寸)、P2-P3 間 152cm (5 尺)、P3-P4 間 165cm (5 尺 4 寸) である。方向は N-9°-W である。断面形は P1 が逆台形、その他は U 字形である。P1・3 で根石と思われる礫が出土している。P3 では直径 24cm の柱痕が確認された。柱穴掘り方の規模は、径 38～61cm、深さ 15～26cm である。堆積土は、P1・4 は 2 層で、1 層がシルト、2 層が砂質シルトである。P3 は 3 層からなり全て砂質シルトであり、1 層が柱痕跡である。P2 は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



第58図 SA8柱列跡 平面図・断面図

性格不明遺構

SX12 性格不明遺構 (第 59・60 図)

D7・8 グリッドに位置する。検出された規模は、長軸 475cm、短軸 183cm、深さは 13cm である。平面形は不整形で、底面は平坦である。断面形は皿形である。堆積土は 2 層で、砂質シルトである。

出土遺物は、磁器 2 点である。その内、1 点を図示した。

SX17 性格不明遺構 (第 61～63 図 写真図版 No.3)

F8・9 グリッドに位置する。規模は長軸・短軸とも 428cm で、深さは 17cm である。平面形は不整な方形で、底面はやや起伏し南西隅が落ち込んでいる。断面形は皿形である。堆積土は 2 層で黒褐色シルト (10YR3/2) が主体であり、1 層には径 3～5cm の明赤褐色シルトブロックと瓦が多量に混入していた。瓦は全て破片であり乱雑に投棄されていることから廃棄場と考えられる。また、底面でピットを 1 基確認した。規模は 96cm × 90cm の不整な円形で深さ 15cm である。堆積土は赤色シルト (10R5/8) で、被熱による硬化した面を確認した。周辺にはそれを囲むように径 10～15cm の礫が置かれていた。炉のような施設の可能性がある。

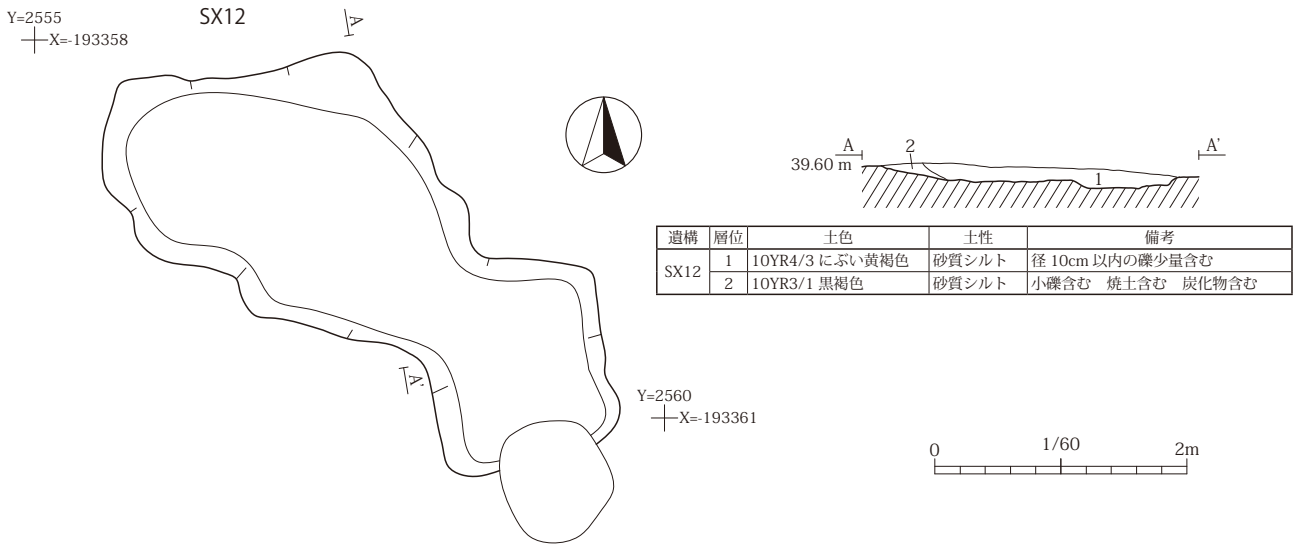
出土遺物は、1 層から陶器 25 点、磁器 13 点、土師質土器 1 点、瓦質土器 2 点、土製品 1 点、瓦 98 点である。その内、陶器の皿と片口鉢を各 1 点、瓦を 9 点図示した。

SX19 性格不明遺構 (第 57 図)

E9 グリッドに位置する。調査区外南側へ延びる。規模は、長軸 704 以上 cm、短軸 302cm 以上、深さは 32cm である。平面形は不整形で、底面は平坦である。断面形は皿形である。堆積土は、黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は瓦が多く出土したが細片のため図示したものはない。遺構図は全体図のみの掲載とした。

第3節

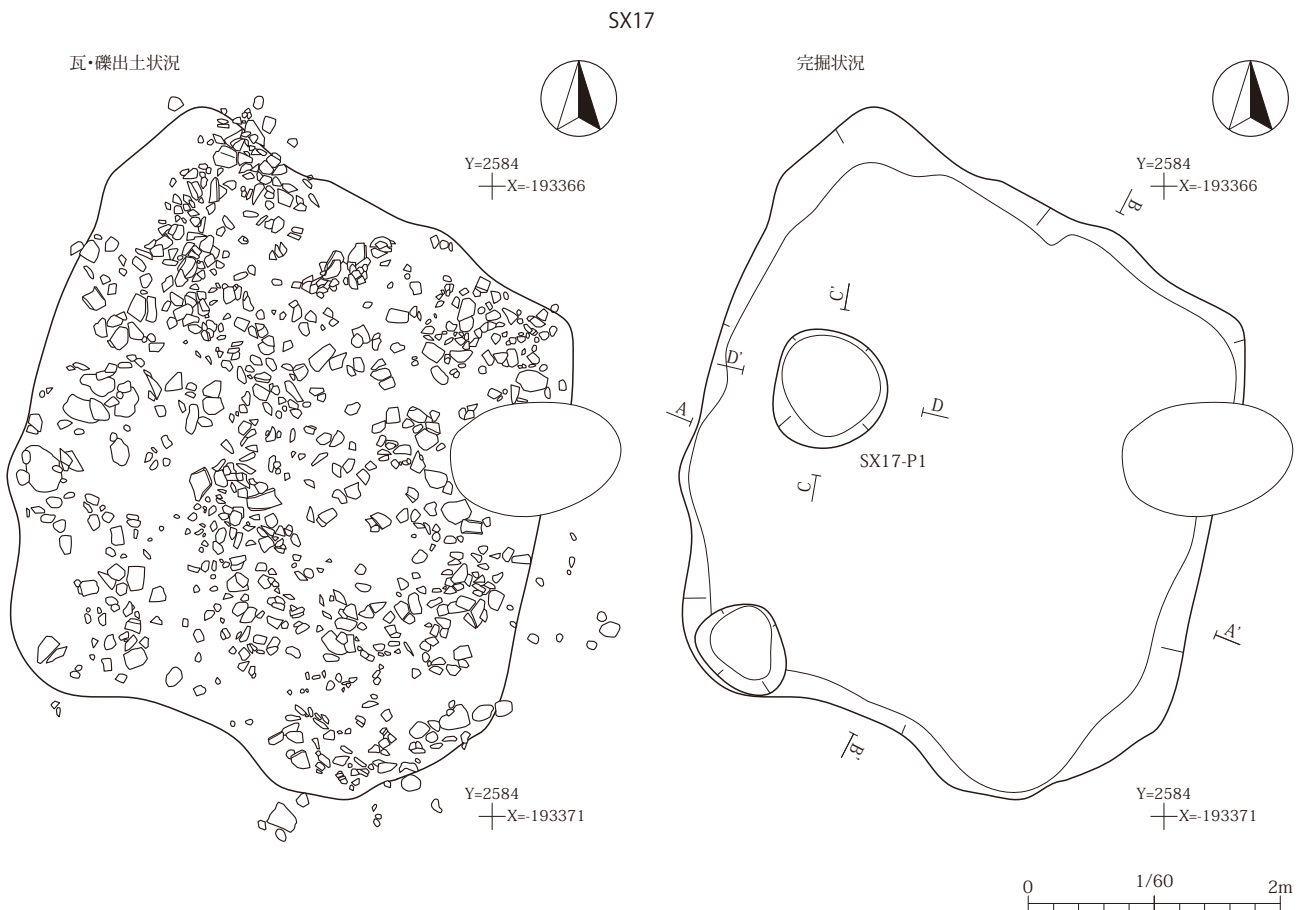


第59図 SX12性格不明遺構 平面図・断面図

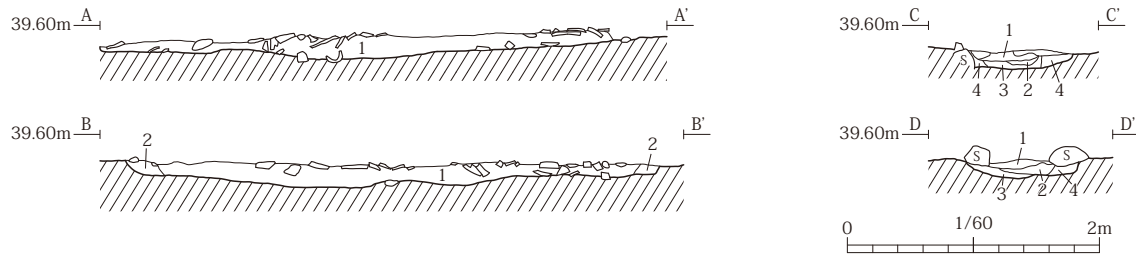


No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX12 1層	磁器	小杯		肥前?	19C ?	(6.8)	-	「4.3」	16-14	J-38

第60図 SX12性格不明遺構 出土遺物



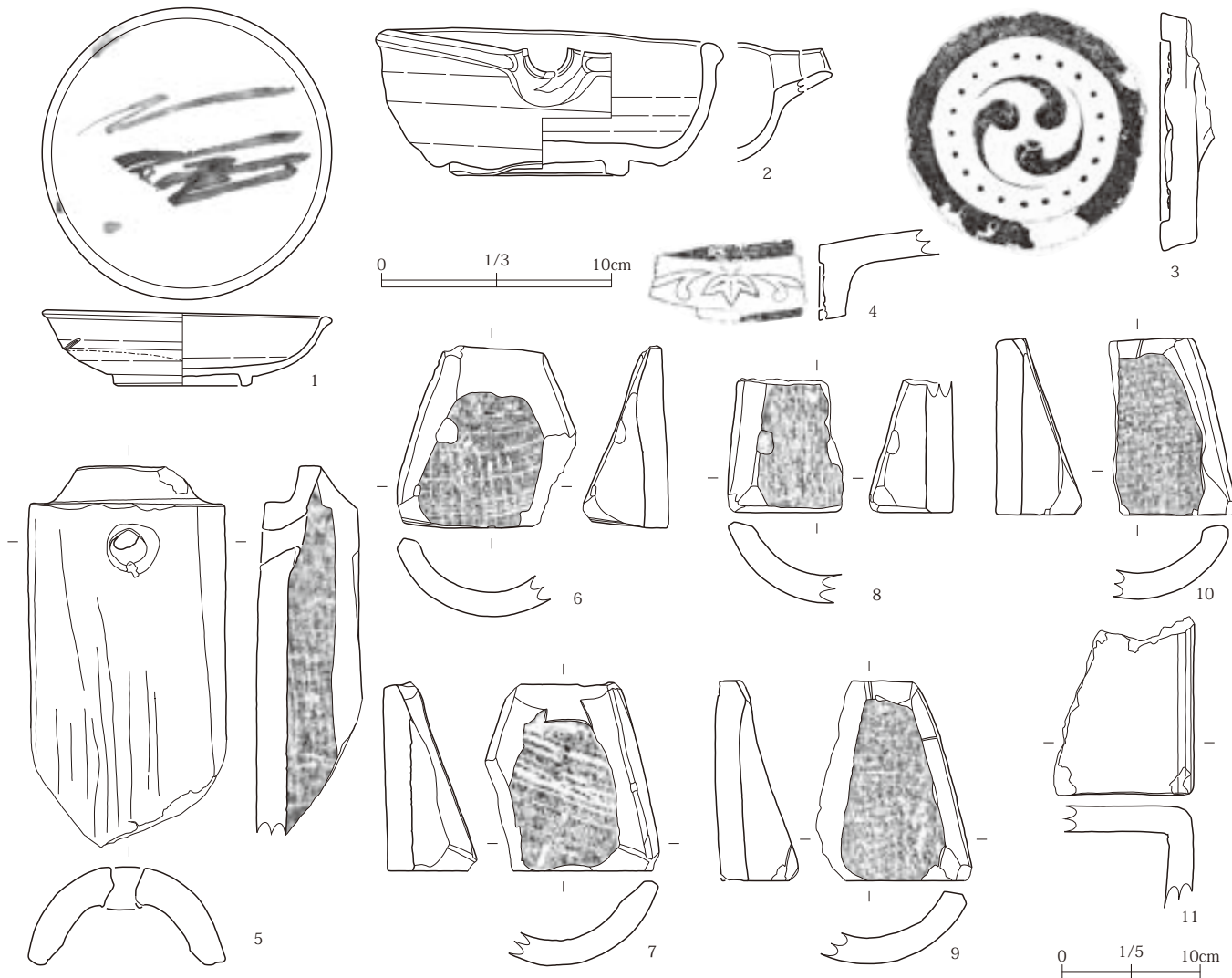
第61図 SX17性格不明遺構 出土状況図・平面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SX17	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	瓦多量・径5mmの焼土含む
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	瓦含む、径0.5~1cmの礫・焼土含む
SX17-P1	1	10YR8/1 灰白色	シルト	径5mmの焼土少量含む

遺構	層位	土色	土性	備考
SX17-P1	2	10R5/8 赤色	シルト	径5mmの礫含む
	3	10YR2/1 黒色	砂質シルト	径5mmの礫少量含む
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径5mmの焼土少量含む

第62図 SX17性格不明遺構 断面図



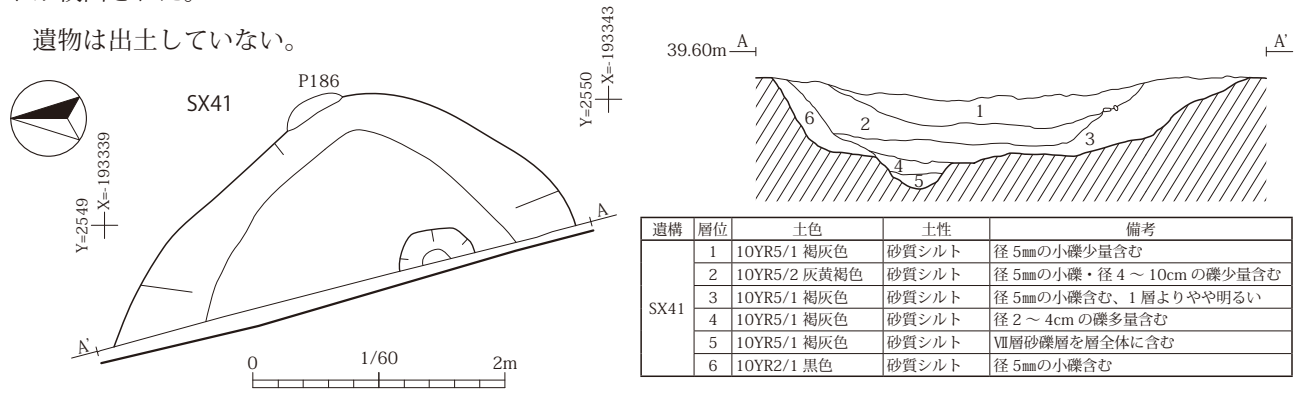
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.				
							口径	底径	器高	瓦当高									
1	SX17 1層	陶器	皿		肥前?	18C 後半?	12.6	5.8	3.3				16-15	I-54					
2	SX17 1層	陶器	片口	黒軸	大船相馬?	19C 前~中葉?	13.8	7.3	6.4				16-16	I-55					
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (g)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	玉縁長さ	幅	高さ	厚さ	瓦当径・幅	周縁幅	文様区径・幅	瓦当厚	瓦当高					
3	SX17 1層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	-	-	-	-	-	「17.0」	「1.9」	13.0	2.6	0.65	793.0	ナデ	-	29-6	F-20
4	SX17 1層	軒平瓦	笹文雪持ち		-	-	-	-	-	「11.5」	0.7	「11.4」	「1.9」	5.75	408.0	ナデ	-	29-7	G-28
5	SX17 1層	丸瓦	-		「24.9」	2.7	14.3	7.1	2.5	-	-	-	-	-	1,710.0	ナデ	コビキ痕、布目痕	29-8	F-21
6	SX17 1層	輪違い	-		13.2	-	広端「10.0」、狭端「6.3」	-	1.8	-	-	-	-	-	421.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	29-10	Hc-48
7	SX17 1層	輪違い	-		13.7	-	広端「10.4」、狭端「8.1」	-	1.8	-	-	-	-	-	472.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	29-11	Hc-49
8	SX17 1層	輪違い	-		「9.7」	-	「8.2」	-	2.0	-	-	-	-	-	242.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	29-12	Hc-50
9	SX17 1層	輪違い	-		14.5	-	広端「9.6」、狭端「5.1」	-	1.9	-	-	-	-	-	346.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	29-13	Hc-51
10	SX17 1層	輪違い	-		12.8	-	広端「8.3」、狭端「6.3」	-	1.9	-	-	-	-	-	309.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	29-14	Hc-52
11	SX17 1層	袖瓦	-		「12.9」	-	「10.1」	「7.9」	1.9	-	-	-	-	-	491.0	ケズリ	ナデ	29-15	Hc-53

第63図 SX17性格不明遺構 出土遺物

SX41 性格不明遺構 (第64図)

C5・6グリッドに位置する。西側の調査区外へ延びる。規模は、南北378cm以上、東西151cm以上、深さは最も深いところで70cmである。平面形は不整楕円形と推定され、底面は僅かに起伏する。断面形は皿形である。堆積土は砂質シルト層で、1～6層がレンズ状に堆積する。底面南側で、径66cmと推定される深さ22cmのピットが検出された。

遺物は出土していない。

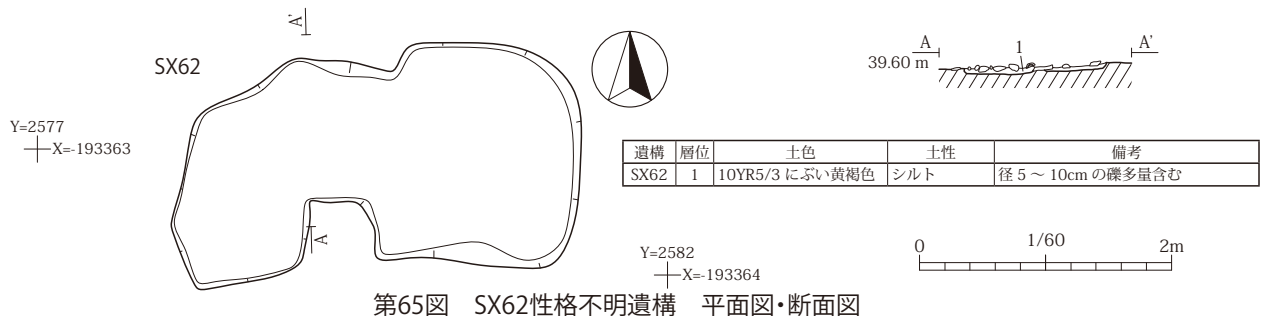


第64図 SX41性格不明遺構 平面図・断面図

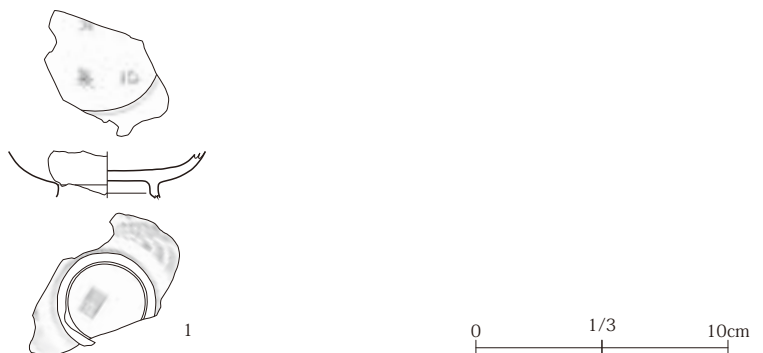
SX62 性格不明遺構 (第65・66図)

F8グリッドに位置する。規模は、長軸326cm、短軸176cm、深いところで2cmである。平面形は不整形で底面は平坦である。断面形は不整形で堆積土はシルト層の単層である。

出土遺物は、陶器10点、磁器4点、瓦質土器1点、瓦2点である。その内、磁器1点を図示した。



第65図 SX62性格不明遺構 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.
							口径	底径	器高		
1	SX62 1層	磁器	碗	文は素描き 見込みに「文化年製」? 高台に銘	瀬戸美濃	19C	—	—	「1.9」	16-17	J-39

第66図 SX62性格不明遺構 出土遺物

ピット

ピットを66基確認した。堆積土は、オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト、黒褐色砂質シルト(10YR3/1、2/2)で粘性は無く、しまりは強い。D4・5グリッドに集中している。建物の組み合わせ及び配列等を検討したがSA8柱列跡以外に確認されなかったため全体図のみに掲載した。

第4節 III層上面

III層上面で検出した遺構は通路跡、谷地形、性格不明遺構 14 基、柱列跡 1 列、土坑 7 基、ピット 23 基である。II区、グリッド4ラインより北側は岩盤上面が検出面である。III層を構成する整地層は、北から南と東から西に向かって斜行堆積しており、2方向からの整地が成されたものと考えられる。なお、谷地形は各面の整地変遷を追う上で重要と考えられるため遺構として報告する。



第67図 III層上面遺構配置図

通路跡

通路跡 (第 68・70・71 図 写真図版 8)

B・C2～5 グリッドに位置する。北側は調査区外へと延び、南側はシダレザクラの下部に延びているが、その南側では検出されなかった。谷地形と重複しており、谷地形より新しい。検出規模は、長さ 22.2m、幅 4.3～4.9m である。Ⅲ層及び岩盤を掘り込んで構築されており、壁面は深いところで検出面から 1.7m である。方向は N-0° で、路面は南から北へ向かって緩やかに傾斜している。路面はシルト層で構成され、48～51 層の 4 層に分けられる。48 層はにぶい黄橙色シルト (10YR6/3) で、粘性は無く、しまりが非常につよい。49 層は黒褐色シルト (10YR3/1) で、粘性は無く、しまりがつよい。径 5～10cm の礫を少量含む。50 層は褐灰色シルト (10YR4/1) で、粘性は無く、しまりが非常につよい。小礫を含み、灰黄褐色シルトが帯状に混入する。51 層は灰白色シルト (10YR8/2) で、粘性は無く、しまりがつよい。細砂及び径 3～5cm の礫を多量に含む。48 層上面が路面となる。通路西側に、幅 19～50cm、深さ 17cm の石組の溝が検出された。溝の内側には径 15～20cm の礫が配置され、外側は岩盤を壁としている。礫は溝の内側に平坦な面が向けられているものの、簡易的な造りである。48～51 層からの遺物出土が無いので詳細な構築された時期は不明であるが、石組の溝から 19 世紀前半の瀬戸美濃の徳利が出土しており、それ以前に構築されたものと考えられる。通路跡の堆積土は、シルト層と礫層が斜行して堆積しており、東西から埋められた状況を示している。遺物は、各層から 19 世紀代と考えられる、肥前・相馬系の陶磁器類が出土している。また、C5 グリッドでシダレザクラ移植のための根回し作業を行った際に石列を確認し (第 68 図)、この石列が通路跡の溝に伴う可能性が考えられる。また、C4 グリッドの通路跡東壁の上端で SX59 を検出した。径 20～60cm の大礫と、径 5～10cm の礫が設置された遺構である。小径の礫を裏込めとした石積み通路東壁際に積まれていた可能性も考えられるが、礫が乱雑な状態であり、詳細は明らかにできなかった。17 世紀後半と考えられる肥前の碗が出土している。

出土遺物は、陶器 235 点、磁器 273 点、土師質土器 16 点、瓦質土器 8 点、瓦 58 点、石製品 4 点、縄文土器 1 点である。その内、陶器 6 点、磁器 5 点、土師質土器 1 点、瓦 8 点、石製品 1 点を図示した。

通路跡内-SK1 (第 68・69 図 写真図版 No.8)

C4 グリッドに位置する。南側はシダレザクラの下部に延びる。検出規模は、南北 142cm、東西 139cm、深さ 70cm である。平面形は不整楕円形で、底面は起伏しながら緩やかに南側に傾斜する。断面形は U 字形である。堆積土は 7 層で、1・2 層はシルト、3～7 層は砂質シルトである。なお、シダレザクラの移植作業の工程の関係で、土層観察にとどめ完掘までは行えなかった。

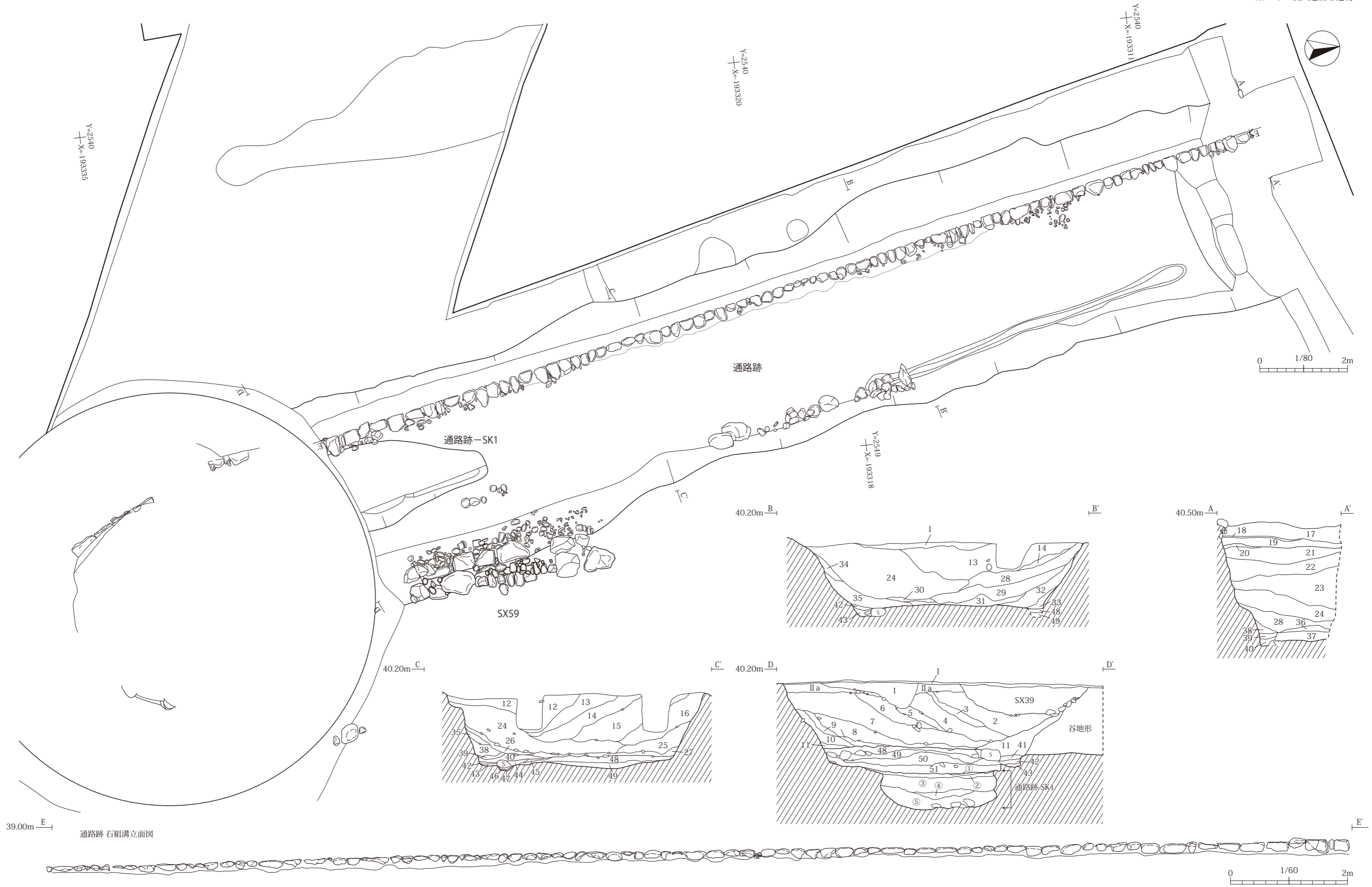
遺物は出土していない。

谷地形

谷地形 (第 72～75 図 写真図版 9)

シダレザクラの移植先として調査を行った拡張部で谷地形が検出された。A4・5、B4・5、C4・5 グリッドに位置する。南西側の調査区外へと延びる。検出された規模は、東西 14.8m、南北 7.6m 以上、深さは 2.6m 以上である。北側壁面は岩盤で、ほぼ垂直に立ち上がる。A・B4 グリッド境に傾斜方向の変わり目があり南東及び西の 2 方向に傾斜する。堆積土は 30 層まで確認した。下層は斜面に沿って 2 方向に斜行堆積している。また、谷地形の壁面には SX25 同様、径 10～20cm の礫が投棄されていた。上層は比較的レベルに堆積しており、半埋没状態であった谷地形を埋めて整地を行った可能性が考えられる。遺物は主に 16 層から 18 世紀後半～19 世紀前半と考えられる陶磁器類が出土している。通路跡構築より古い時期に埋没したのと考えられる。

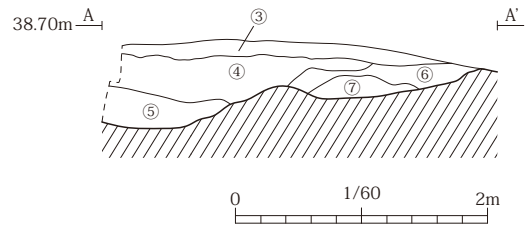
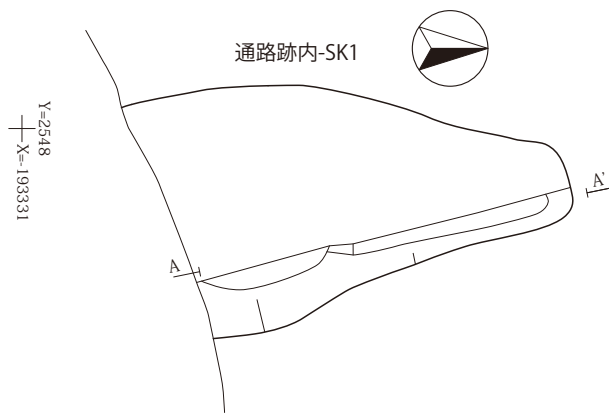
出土遺物は、陶器 321 点、磁器 396 点、土師質土器 406 点、瓦質土器 41 点、土製品 1 点、瓦 47 点、石製品 10 点、



第68図 通路跡 平面図・断面図・立面図

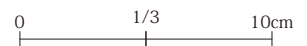
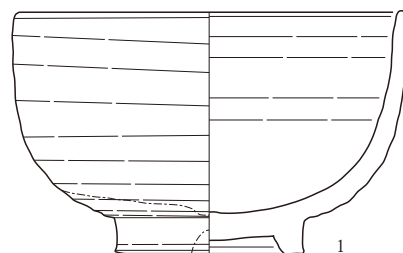
遺構	層位	土色	土性	備考
通路跡	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	小礫多量含む
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	径5cmの明黄褐色シルト多量含む
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	小礫少量含む
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径5cmの明黄褐色シルト多量含む
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	径5～10cm明黄褐色シルト少量含む 小礫少量含む
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫少量含む
	7	10YR5/1 褐灰色	シルト	径5cmの礫少量含む
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	小礫多量含む
	9	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	小礫少量含む
	10	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	小礫少量含む
	11	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	小礫少量含む
	12	10YR5/1 褐灰色	シルト	径5cmの礫多量含む
	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	径5～20cmの礫多量含む 径5～10cmの明黄褐色シルト少量含む
	14	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	径5～10cmの礫含む 径5～10cmの明黄褐色シルト多量含む
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	径5～10cmの礫含む にぶい黄褐色シルト層が帯状に混入する
	16	10YR5/1 褐灰色	シルト	径2cmの礫少量含む
	17	10YR4/1 褐灰色	シルト	径5～20cmの礫が層全体に混入する
	18	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	硬くしまる
	19	10YR4/1 褐灰色	シルト	径2～5cmの礫含む
	20	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	硬くしまる
	21	10YR5/1 褐灰色	シルト	礫含む
	22	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック多量含む 径2～5cmの礫含む
	23	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック多量含む 径2～5cmの礫含む
	24	10YR2/1 黒色	シルト	径5～15cmの礫多量含む
	25	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	小礫少量含む
	26	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	径2～5cmの褐灰色シルト少量含む
	27	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	小礫少量含む

遺構	層位	土色	土性	備考	
通路跡	28	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫含む	
	29	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	小礫多量含む	
	30	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	小礫少量含む	
	31	10YR5/1 褐灰色	シルト	小礫少量含む 瓦碎片少量含む	
	32	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫少量含む	
	33	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫多量含む	
	34	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	小礫多量含む	
	35	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	小礫多量含む 径2～5cmの褐灰色シルト含む	
	36	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫多量含む 径2～5cmのにぶい黄褐色シルト含む	
	37	10YR3/2 黒黄褐色	シルト	径5cmの礫と小礫多量含む	
	38	10YR8/1 灰白色	シルト	岩盤崩落土	
	39	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂含む	
	40	10YR2/1 黒色	シルト	径5cmの灰白色シルト少量含む	
	41	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	小礫と細砂含む	
	42	10YR3/1 黒褐色	シルト	径2～5cmの礫少量含む	
	43	10YR2/1 黒色	シルト	径2～5cmの礫少量含む	
	44	10YR8/2 灰白色	シルト	にぶい黄褐色シルト層が帯状に混入する	
	45	10YR8/2 灰白色	シルト	にぶい黄褐色シルト層が帯状に混入する 径2～5cmの黒褐色シルト少量含む	
	46	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径2cmの礫少量含む	
	47	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径2cmの礫少量含む	
	48	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	層上面が通路機能面 細砂多量含む	
	49	10YR3/1 黒褐色シルト	シルト	径5～10cmの礫少量含む	
	50	10YR4/1 褐灰色シルト	シルト	小礫含む 灰黄褐色シルトが層全体に帯状に混入する	
	51	10YR8/2 灰白色	シルト	硬くしまる層 細砂、径3～5cmの礫多量含む	
	通路跡内-SK1	①	10YR4/1 褐灰色シルト	シルト	小礫多量含む
		②	10YR3/1 黒褐色	シルト	小礫含む
		③	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	硬くしまる 小礫含む
④		10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	径2～5cmの明黄褐色シルト少量含む 小礫含む	
⑤		10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	径2～5cmの礫含む	



遺構	層位	土色	土性	備考
通路跡内-SK1	③	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	
	④	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	
	⑤	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	⑥	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径2cmの礫含む
	⑦	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径2～5cmの礫含む

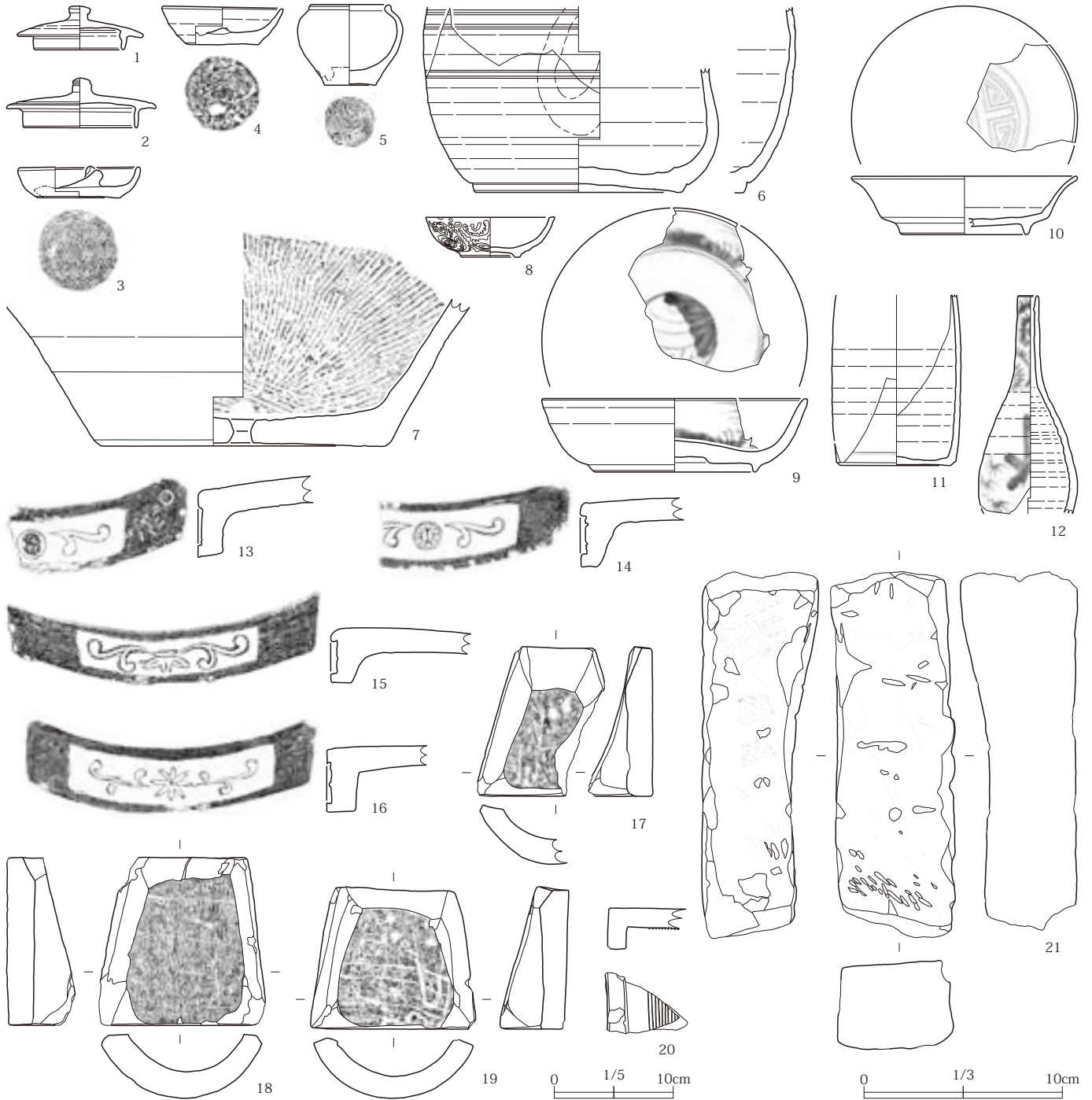
第69図 通路跡内-SK1 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX59	陶器	碗		肥前	17C 後半	11.5	5.5	7.3	16-18	I-56

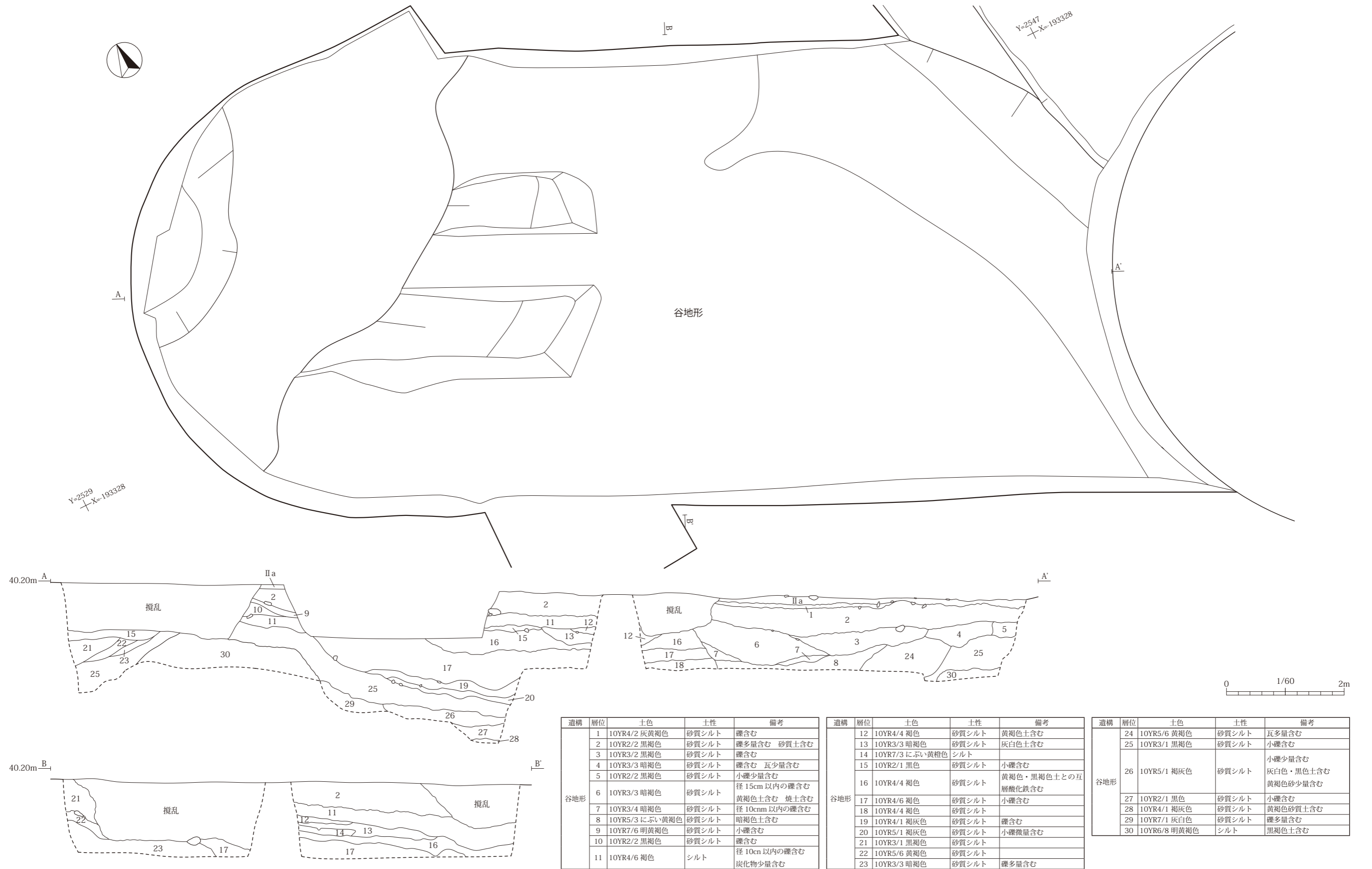
第70図 SX59性格不明遺構 出土遺物

第4節



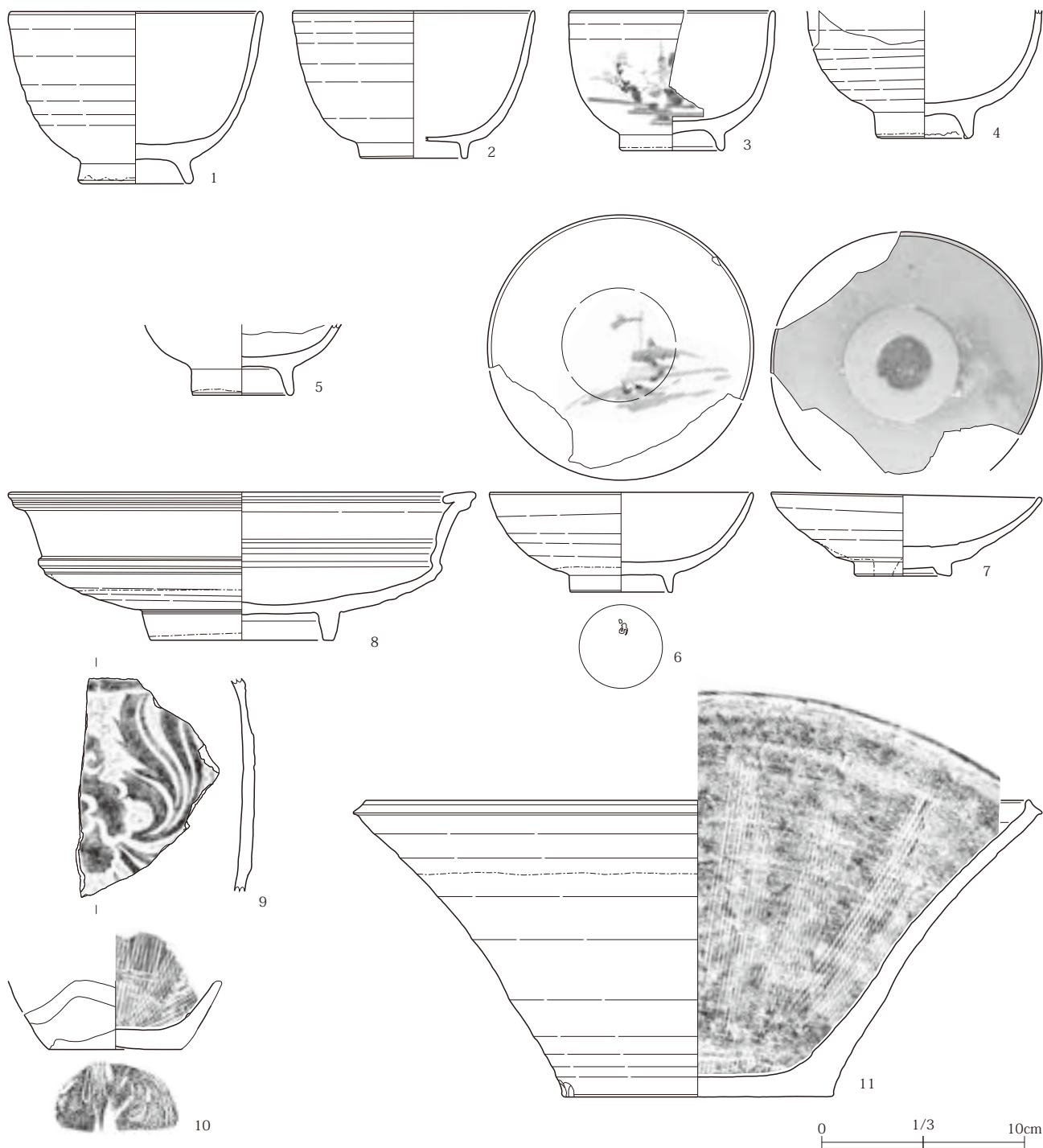
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.			
							口径	底径	器高	口径								
1	通路跡 24層	陶器	蓋	筋軸流し つまみ径 1.1cm	大塚相馬	19C	蓋径 6.4、口径 4.6	—	2.2	16-19	I-57							
2	通路跡 24層	陶器	蓋	灰釉 つまみ径 1.0cm	大塚相馬	18C 後~19C	蓋径 7.5、口径 5.7	—	2.5	16-20	I-58							
3	通路跡 24層	陶器	灯明皿	鉄軸	大塚相馬?	19C	5.9	4.2	1.55	16-21	I-59							
4	通路跡 24層	土師質土器	灯明皿		在地	江戸	6.1	3.6	1.95	16-22	Da-10							
5	通路跡 24層	陶器	豆甃	白濁釉 鉄軸が多い	大塚相馬	19C	(2.9)	2.55	4.0	16-23	I-60							
6	通路跡 24層	陶器	徳利	鉄軸	大塚相馬	18C ~ 19C	—	10.4	「9.35」	16-24	I-61							
7	通路跡 24層	陶器	摺鉢	植木鉢に転用	堤焼	19C	—	14.3	7.4	16-25	I-62							
8	通路跡 24層	磁器	紅皿	白磁 型押し 蛸唐草	不明	19C 中頃	(7.5)	(3.0)	2.0	17-1	J-40							
9	通路跡 24層	磁器	皿	蛇の目凹凸台	肥前	19C 前半	(13.3)	(8.0)	3.7	17-2	J-41							
10	通路跡 24層	磁器	皿	樹文	瀬戸美濃	江戸末期	(11.4)	(6.4)	2.95	17-3	J-42							
11	通路跡 46層	磁器	徳利	欄徳利	瀬戸美濃	19C 前~中頃	—	5.6	「8.6」	17-4	J-43							
12	通路跡 46層	磁器	一輪挿し	つる首瓶 口縁は蛸唐草 体部は松竹梅	肥前	19C 前半	(1.0)	—	(10.0)	17-5	J-44							
No	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.					
					長さ	幅	高さ	厚さ						互当幅	周縁幅	文様区幅・径	互当厚	互当高
13	通路跡 24層	軒平瓦	丸文	刻印有り	—	—	—	—	「14.6」	0.95	「9.3」	2.1	7.5	659.0	ナデ	ナデ	29-16	C-29
14	通路跡 24層	軒平瓦	不明	—	—	—	—	—	「16.0」	1.0	「11.3」	1.6	7.0	486.0	ナデ	ナデ	29-17	G-30
15	通路跡 24層	軒平瓦	笹文雪持ち	—	—	—	—	—	26.1	0.7	14.9	1.7	4.3	965.0	ナデ	ナデ	30-1	G-31
16	通路跡 24層	軒平瓦	花文 (8本)	—	—	—	—	—	24.1	0.7	16.9	2.4	(5.1)	828.0	ナデ	ナデ	30-2	G-32
17	通路跡 24層	輪違い	—	—	12.6	広端「7.3」、狭端「6.1」	「5.4」	2.3	—	—	—	—	—	293.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	30-4	Hc-54
18	通路跡 24層	輪違い	—	—	14.1	広端「13.3」、狭端「8.9」	(5.8)	2.3	—	—	—	—	—	652.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	30-5	Hc-55
19	通路跡 24層	輪違い	—	—	12.0	広端「13.5」、狭端 10.0	(5.8)	1.8	—	—	—	—	—	503.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	30-6	Hc-56
20	通路跡 24層	不明	—	—	6.7	「4.9」	3.4	1.6	—	—	—	—	—	64.0	ナデ	ケズリ	30-7	Hc-57
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)				重量 (g)	写真図版	登録 No.					
							長さ	幅	厚さ									
21	通路跡 24層	石製品	砥石	—	—	—	「18.3」	5.9	4.3 ~ 5.8	—	958.0	35-6	Kd-5					

第71図 通路跡 出土遺物



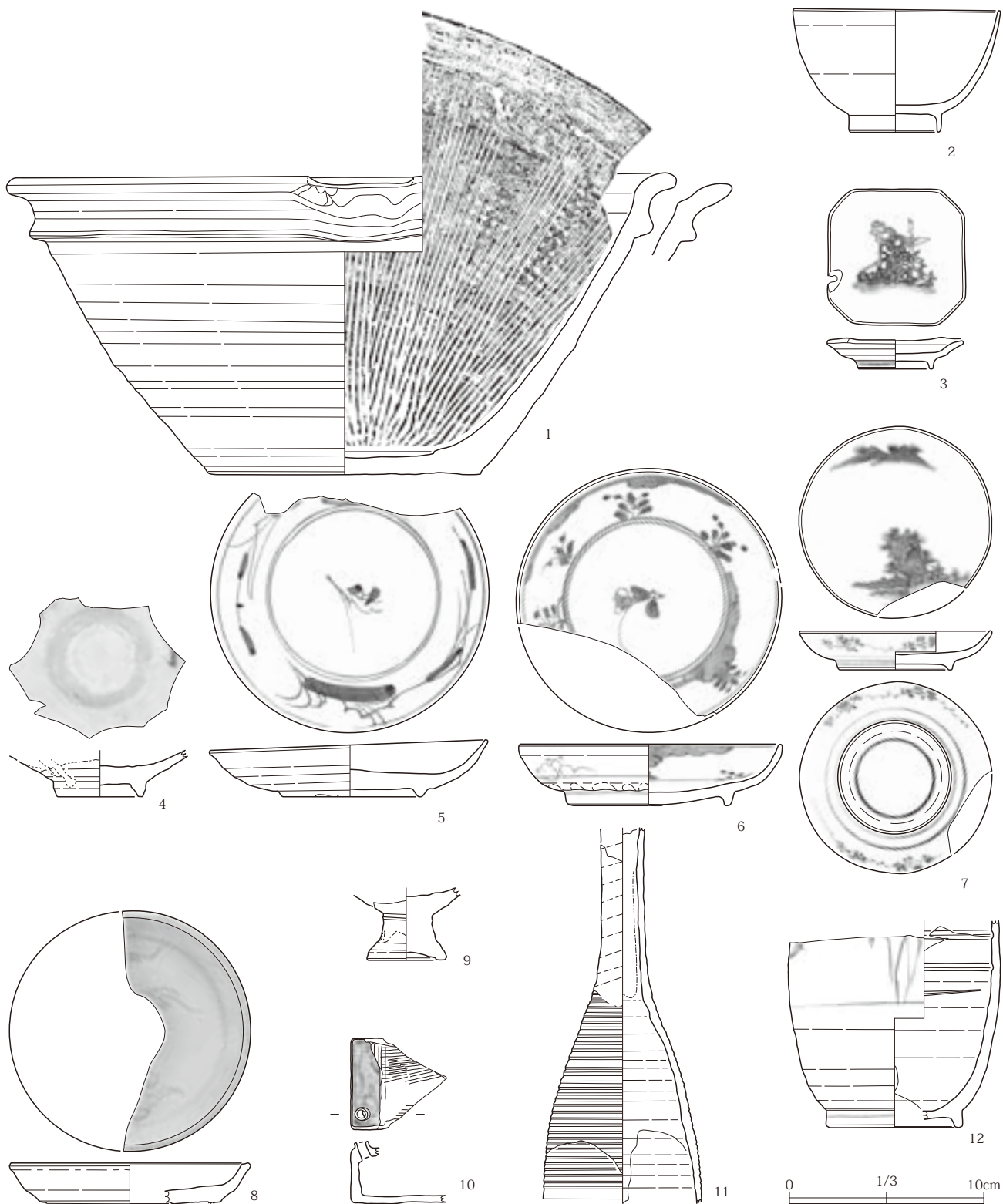
第72図 谷地形 平面図・断面図

金属製品 12 点である。その内、陶器 11 点、磁器 12 点、土師質土器 7 点、瓦質土器 1 点、瓦 3 点、石製品 1 点を図示し、陶器 5 点、磁器 9 点、土師質土器 4 点を写真掲載した。



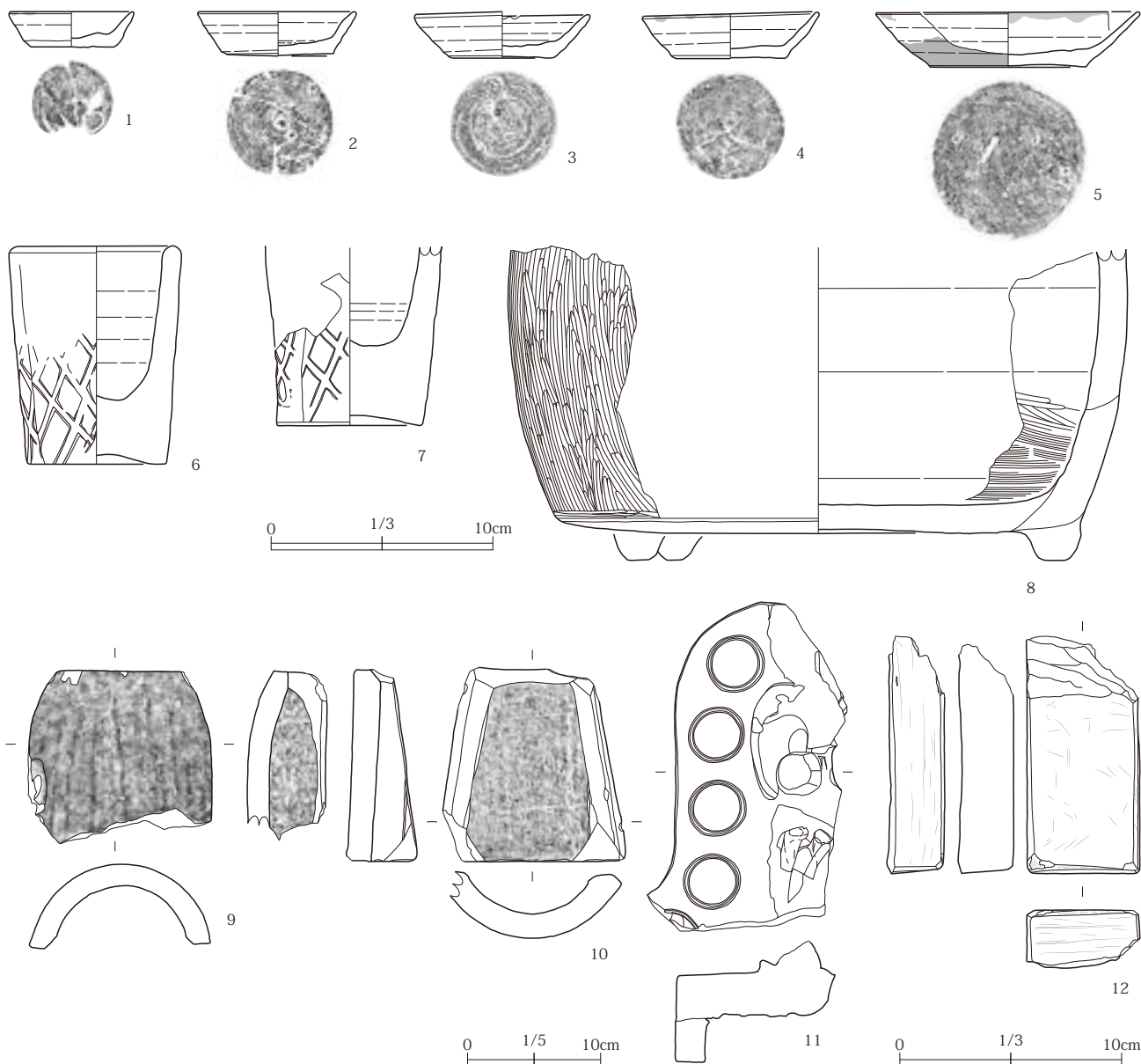
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	谷地形 16 層	陶器	碗		肥前	18C	(12.2)	(5.4)	8.5	17-6	I63
2	谷地形 16 層	陶器	碗	灰釉	肥前	18C	(11.9)	(5.2)	7.3	17-7	I64
3	谷地形 16 層	陶器	碗	山水文 組物? (3~5点セット)	京焼風	17C後半	10.0	5.0	6.9	17-8	I65
4	谷地形 16 層	陶器	碗		肥前	18C	—	(4.2)	「6.3」	17-9	I66
5	谷地形 16 層	陶器	碗		肥前	18C	—	4.9	「3.5」	17-10	I67
6	谷地形 16 層	陶器	平碗	高台内面に判子 見込みに山水文	肥前	18C前半	13.0	5.0	4.95	17-11	I68
7	谷地形 16 層	陶器	皿		肥前	18C	13.3	4.6	4.1	17-12	I69
8	谷地形 16 層	陶器	鉢	刷毛目文 鉄と緑釉の掛け分け 花器? 一部に漆付着?	肥前	18C	(23.1)	9.0	7.3	17-13	I70
9	谷地形 16 層	陶器	鉢類		不明	不明	(長さ)「9.8」	(幅)「7.1」	(厚さ)0.35~0.7	17-14	I71
10	谷地形 16 層	陶器	摺鉢	鉄釉 磁石に転用している可能性有り	岸窯	17C前葉~中葉	—	6.6	「3.2」	17-15	I72
11	谷地形 16 層	陶器	摺鉢		岸窯	17C中頃	(32.8)	13.2	14.65	17-16	I73

第73図 谷地形 出土遺物(1)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	谷地形 16層	陶器	摺鉢		福島産?	幕末?	33.3	14.1	15.6	17-17	J-74
2	谷地形 16層	磁器	碗	白磁碗 高台が細く高い	肥前	18C	10.6	4.5	6.3	17-18	J-45
3	谷地形 16層	磁器	小皿	隅切り角小皿 菊花文 判子(手書きではない)	肥前	17C末~18C前	6.95	3.8	1.6	17-19	J-46
4	谷地形 16層	陶器	皿	見込みに蛇の目	肥前	17C後半	-	4.5	「2.4」	17-20	J-47
5	谷地形 16層	磁器	皿	絵は草? 上薬にムラ有り 畳砂付着	波佐見	17C?	14.2	7.1	2.95	17-21	J-48
6	谷地形 16層	磁器	皿		肥前?	17C後半?	13.4	8.4	3.2	17-22	J-49
7	谷地形 16層	磁器	皿	小型 楼閣山水文 外面に草花文	肥前	17C後半	9.7	5.8	2.0	17-23	J-50
8	谷地形 16層	磁器	皿	青磁 高台欠いた後に砥石で仕上げている	波佐見	17C	(12.2)	-	「2.1」	17-24	J-51
9	谷地形 16層	磁器	仏飯具	染付	肥前	17C~18C	-	3.95	「3.75」	17-25	J-52
10	谷地形 16層	磁器	水滴	染付	肥前	17C~18C	(長さ)「4.7」	(幅)「4.9」	(高さ)「3.2」	17-26	J-53
11	谷地形 16層	磁器	一輪挿し	鉄軸+口縁に白濁釉	波佐見	18C後半以降	(頸部径)2.25	-	「19.25」	17-28	J-54
12	谷地形 16層	磁器	瓶?		波佐見	17C後半	-	6.6	10.7	17-27	J-55

第74図 谷地形 出土遺物(2)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.	
							口径	底径	器高			
1	谷地形 16層	土師質土器	灯明皿		在地	江戸	5.6	3.8	1.6	18-1	Da-12	
2	谷地形 16層	土師質土器	皿		在地	江戸	7.1	4.8	2.0	18-2	Da-13	
3	谷地形 16層	土師質土器	皿		在地	江戸	7.8	4.6	2.1	18-3	Da-14	
4	谷地形 16層	土師質土器	皿		在地	江戸	7.9	5.0	2.1	18-4	Da-15	
5	谷地形 16層	土師質土器	皿	煤付着有り	在地	江戸	11.8	7.0	2.5	18-5	Da-16	
6	谷地形 16層	土師質土器	焼塩壺	格子状の叩き目	在地	江戸	(7.0)	6.2	「9.8」	18-6	Ca-5	
7	谷地形 16層	土師質土器	焼塩壺	格子状の叩き目	在地	江戸	—	6.5	8.1	18-7	Ca-6	
8	谷地形 16層	瓦質	火鉢		在地	江戸	—	(23.1)	「14.1」	18-8	T-7	
No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.	
				長さ	幅	厚さ						
9	谷地形 16層	行基礎		「11.75」	13.5	1.7	508.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕、ケズリ	30-8	F-24	
10	谷地形 16層	輪造い		14.4	広端「12.5」、狭端「9.0」	1.8	550.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	30-9	Hc-58	
11	谷地形 16層	鬼瓦		「24.7」	「12.8」	(2.3)	1,685.0	ナデ、ケズリ	ナデ	30-10	Hb-5	
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.
							長さ	幅	厚さ			
12	谷地形 16層	石製品	砥石				「10.7」	5.1	2.6	224.0	35-7	Kd-6

第75図 谷地形 出土遺物(3)

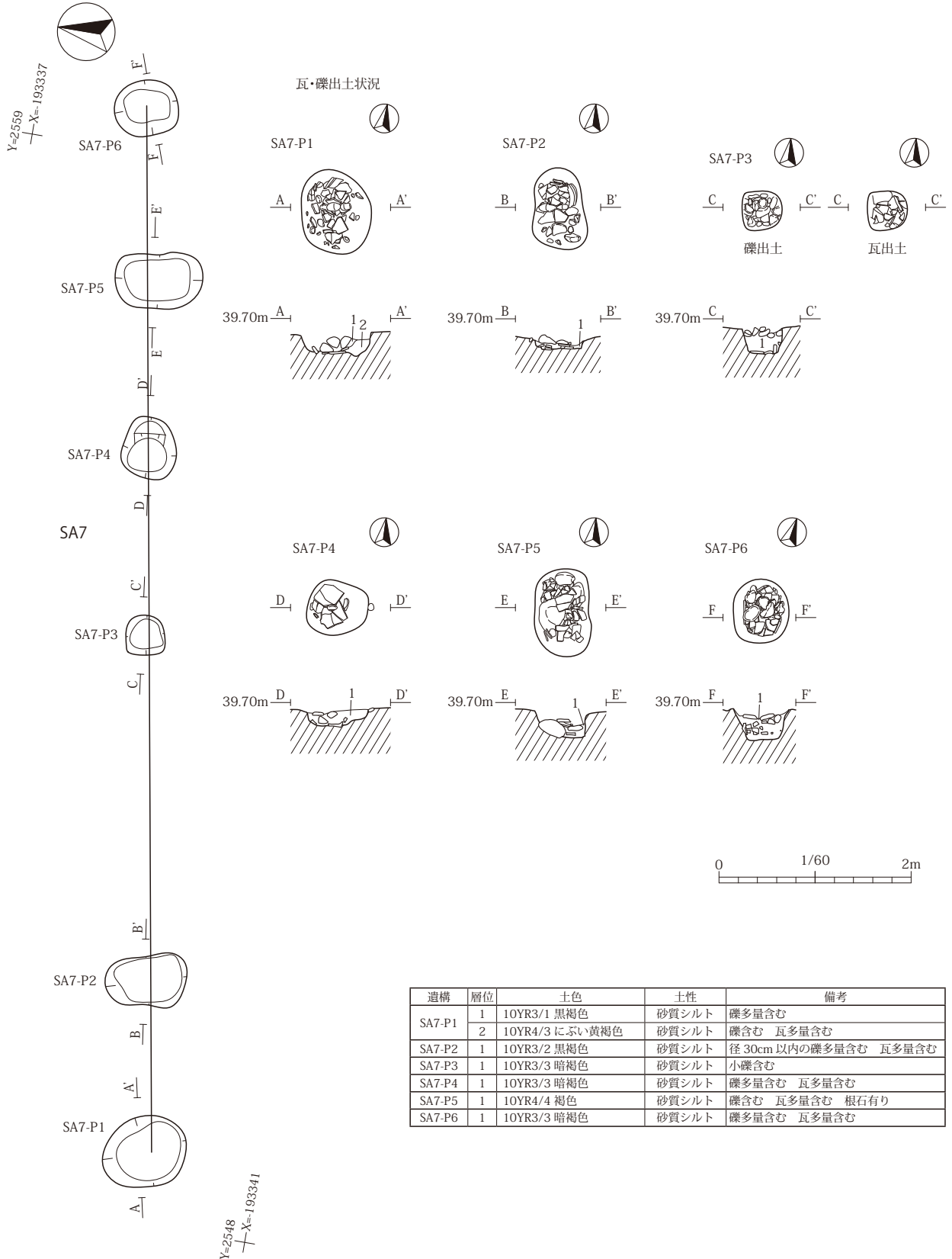
柱列跡

SA7 柱列跡 (第76図 写真図版2)

C・D5・6グリッドに位置する。6基の柱穴からなる柱列跡である。検出された規模は、総長1,098cmで、柱間の寸法はP1-P2間180cm(5尺9寸)、P2-P3間360cm(11尺8寸)、P3-P4間189cm(6尺2寸)、P4-P5間186cm(6尺1寸)、P5-P6間183cm(6尺)である。方向はN-80°-Eである。断面形はP3・7が逆台形、その

他は浅い皿形である。全ての柱穴に共通して、根固めのために礫を底面に敷いた上に、瓦を不規則に積み重ねている。いずれの柱穴においても、柱痕跡は確認されなかった。柱穴掘り方の規模は、径 47～90cm、深さ 13～28cm である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は陶磁器、瓦が出土しているが、細片のため図化はしなかった。



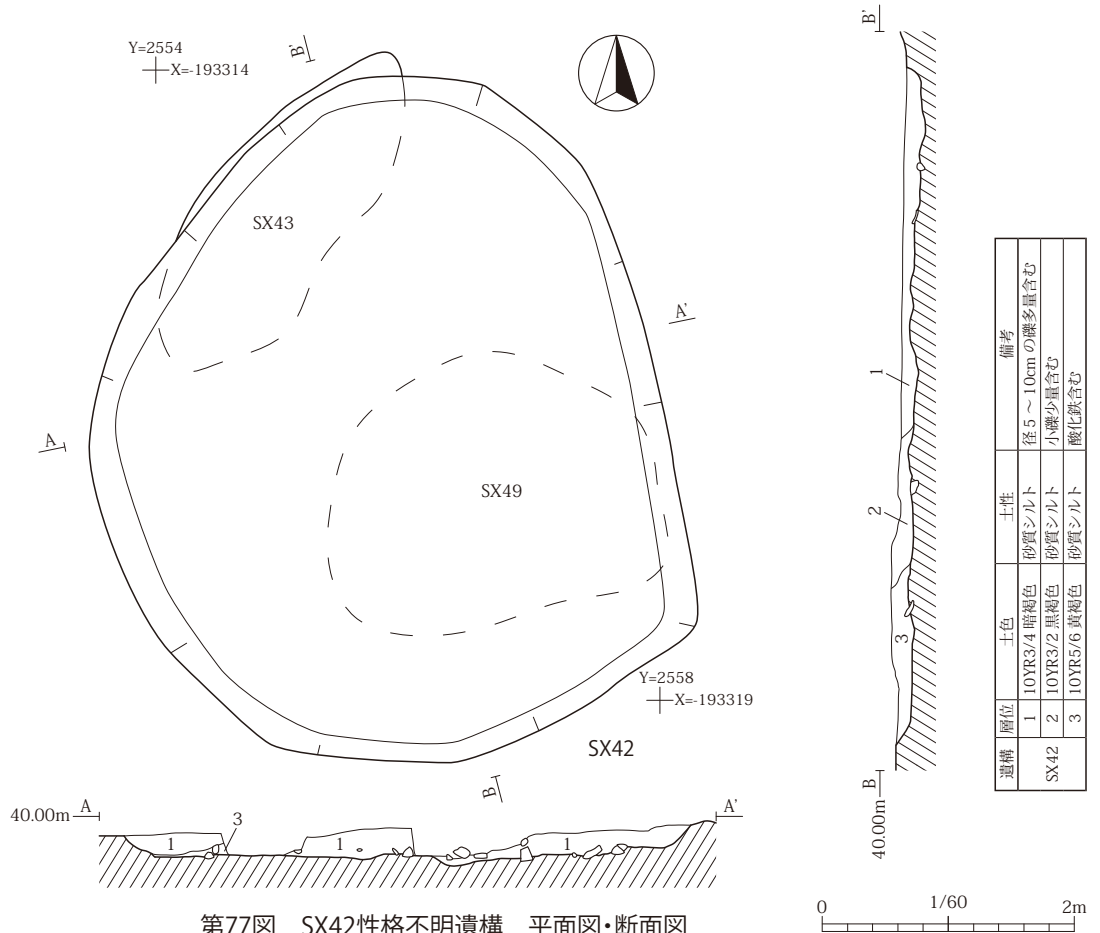
第76図 SA7柱列跡 平面図・断面図

性格不明遺構

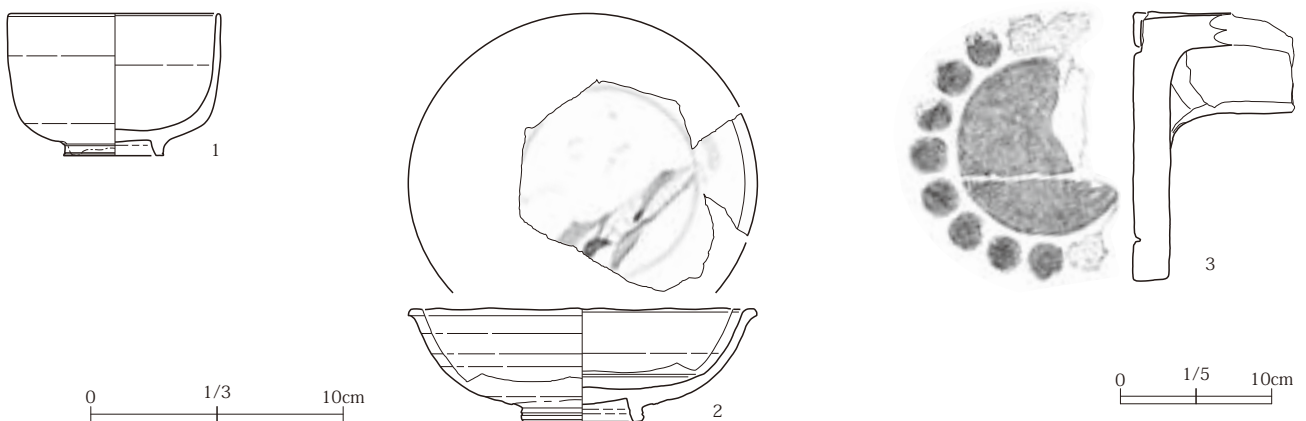
SX42 性格不明遺構 (第77・78図 写真図版3)

C・D3グリッドに位置する。SX43・48・49と重複し、SX42が最も新しい。規模は、長軸542cm、短軸462cm、深さ35cmである。平面形は不整形で、底面はやや起伏する。断面形は浅い皿形である。堆積土は3層で、いずれの層も砂質シルトである。

遺物は、1層から陶磁器6点、瓦1点が出土している。その内、陶器2点、瓦1点を図示した。



第77図 SX42性格不明遺構 平面図・断面図



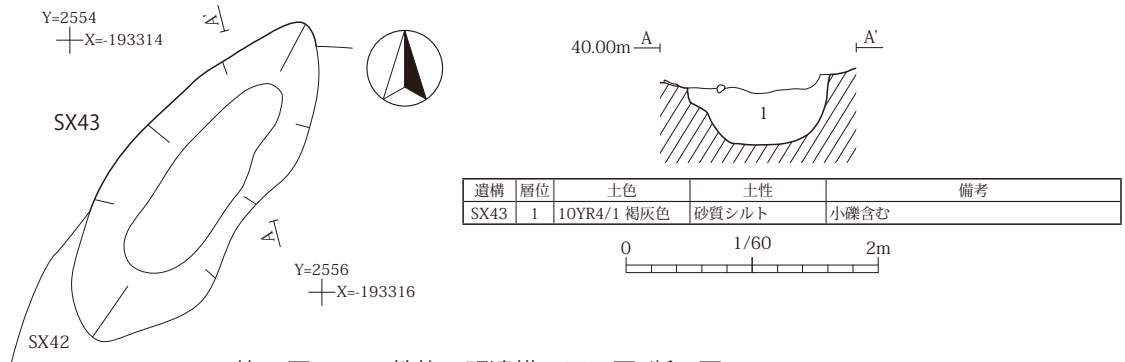
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.			
							口径	底径	器高					
1	SX42 1層	陶器	小杯?		肥前?	不明	8.3	3.95	5.65	18-9	I-75			
2	SX42 1層	陶器	皿	鉄絵の皿 見込みに目跡3箇所 高台内面尖っている 高台先、砥石で砥いでいる	肥前	不明	(13.6)	4.7	「4.45」	18-10	I-76			
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	瓦当部法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.	
					瓦当径	周縁幅	文様区径	瓦当厚						周縁高
3	SX42 1層	軒丸瓦	不明		「18.0」	2.6	12.0	2.45	0.5	864.0	ナデ	ケズリ	30-11	F-25

第78図 SX42性格不明遺構 出土遺物

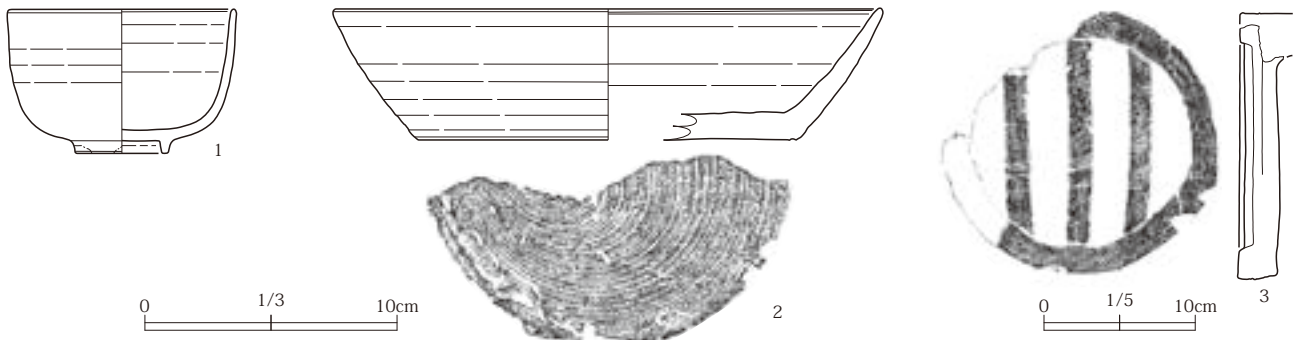
SX43 性格不明遺構 (第79・80図 写真図版3)

C・D3 グリッドに位置する。SX42と重複し、SX42よりも古い。規模は、長軸297cm、短軸113cm、深さ45cmである。平面形は不整楕円形である。底面はやや起伏する。断面形はU字形である。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層である。

遺物は、陶磁器、土師質土器、瓦等が出土している。その内、陶器1点、土師質土器1点、瓦1点を図示した。



第79図 SX43性格不明遺構 平面図・断面図



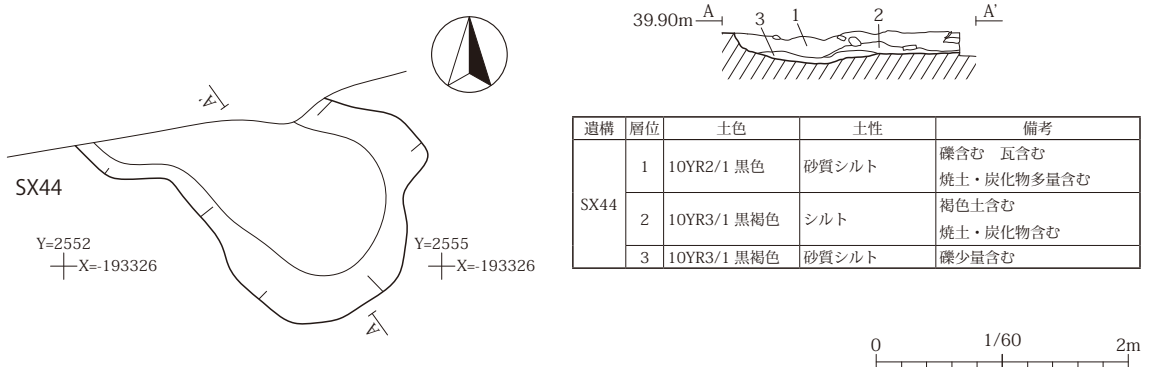
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.			
							口径	底径	器高					
1	SX43 1層	陶器	小杯	白濁釉に刷軸流し	大塚相馬	19C 前	(8.9)	3.6	4.7	18-11	I-77			
2	SX43 1層	土師質土器	大皿		在地	江戸	(20.6)	(15.0)	5.2	18-12	Da-11			
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)					重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.
					瓦当径	周縁幅	文様区径	瓦当厚	周縁高					
3	SX43 1層	軒丸瓦	壱三引文		17.2	1.8	13.6	2.6	0.3	638.0	-	-	30-12	F-26

第80図 SX43性格不明遺構 出土遺物

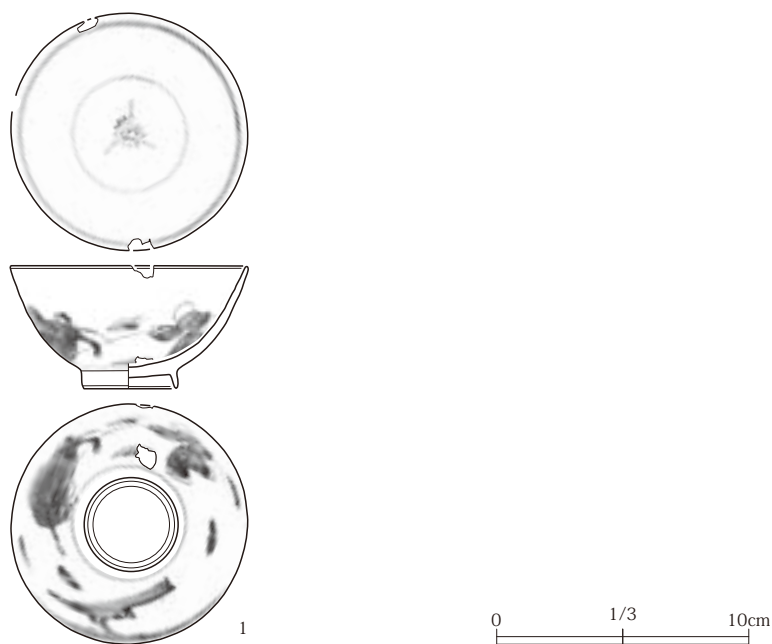
SX44 性格不明遺構 (第81・82図)

C4 グリッドに位置する。北側の一部は攪乱により失われている。規模は、長軸181cm以上、短軸170cm、深さ20cmである。平面形は不整形で、底面はやや起伏する。断面形は皿形である。堆積土は黒褐色基調の3層で、1・3層が砂質シルト層、2層がシルト層である。

遺物は、磁器が1点出土している。



第81図 SX44性格不明遺構 平面図・断面図



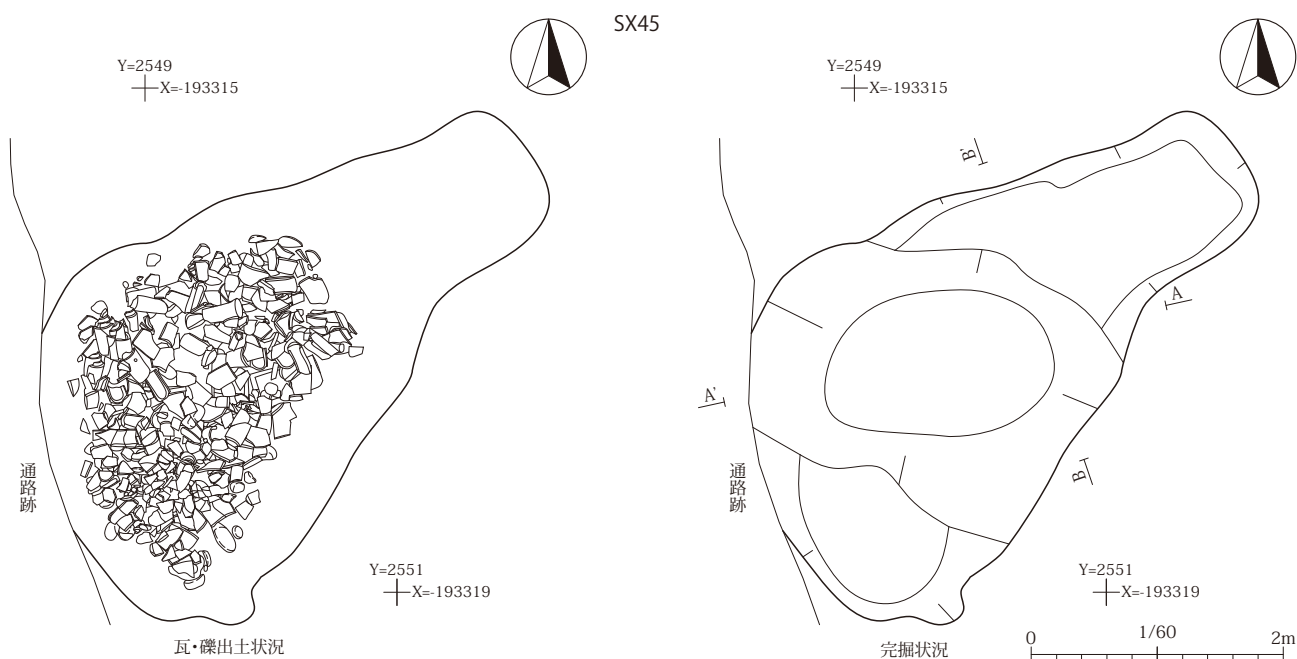
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.
							口径	底径	器高		
1	SX44 2層	磁器	碗	外面に牛と唐子 見込みに草花	肥前	19C 初頭～前葉	9.35	3.68	4.85	18-13	J-56

第82図 SX44性格不明遺構 出土遺物

SX45 性格不明遺構 (第 83 ~ 87 図 写真図版 3)

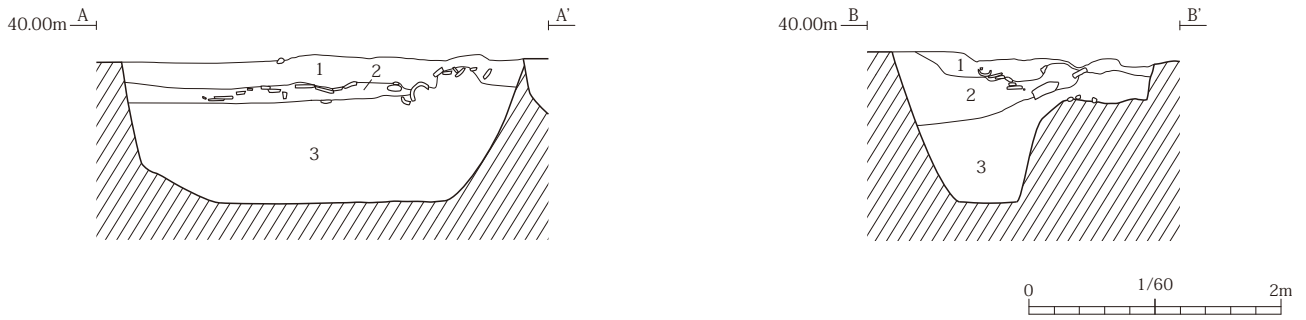
C3 グリッドに位置する。通路跡、SX51・52 と重複し、通路跡よりも古く、SX51・52 より新しい。規模は、長軸 471cm、短軸 272cm、深さ 118cm である。平面形は不整形で、底面は中央部が深く落ち込んでおり、東側、南側は浅く深さは 25cm となっている。断面形は中央部で逆台形である。堆積土は 3 層で、全て砂質シルトである。

遺物は、各層から陶磁器 7 点、土師質土器 1 点、土製品 2 点、瓦 140 点が出土している。瓦の約 6 割を丸瓦が占め、遺構内全体に広がっていた。出土遺物の内、陶器 3 点、磁器 1 点、土人形 1 点、瓦 24 点を図示し、瓦 4 点を写真掲載した。



第83図 SX45性格不明遺構 出土状況図・平面図

第4節



遺構	層位	土色	土性	備考
SX45	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	小礫少量含む 瓦多量含む
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色土含む 瓦多量含む
	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	瓦多量含む

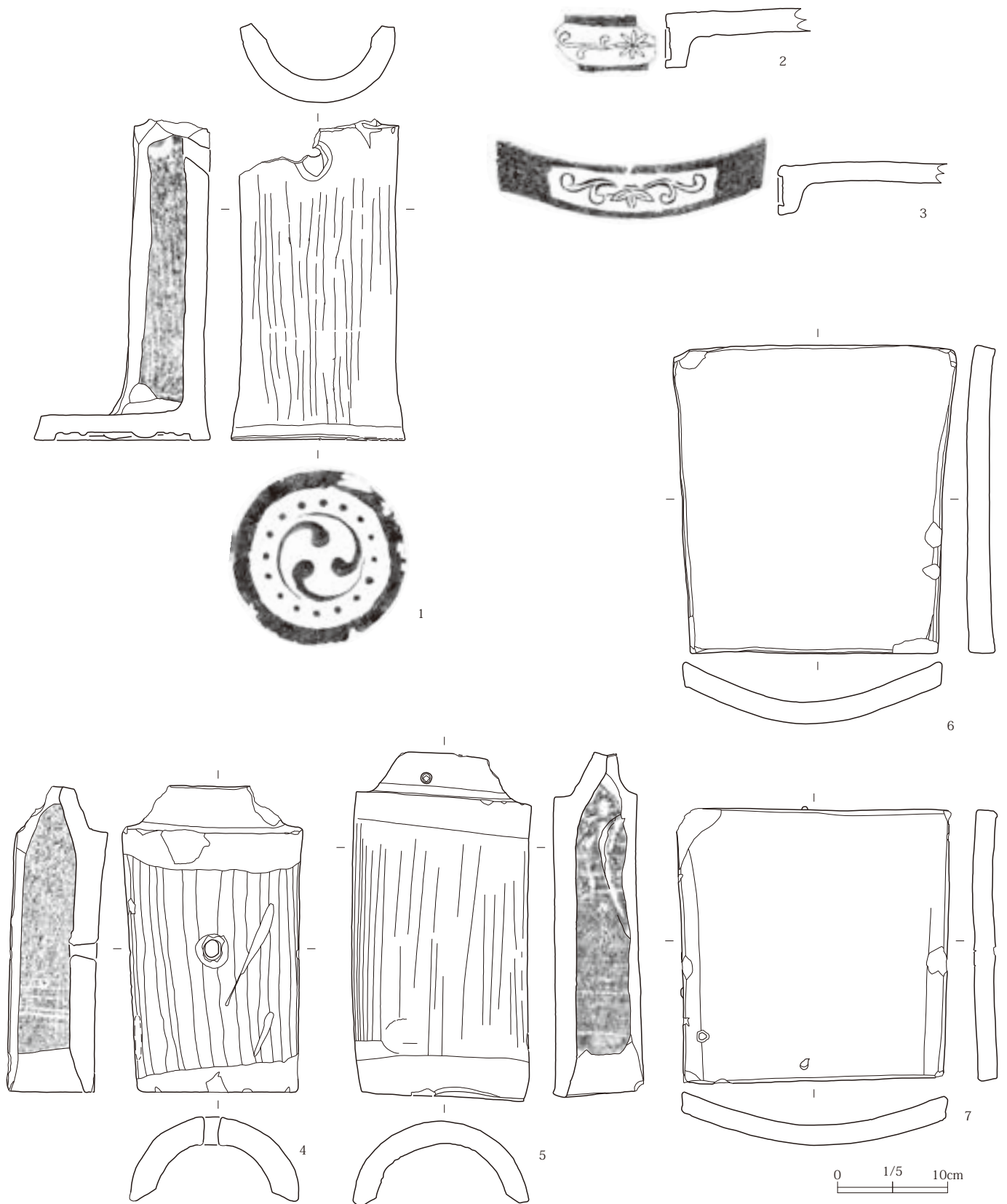
第84図 SX45性格不明遺構 断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.
							口径	底径	器高		
1	SX45 3層	陶器	皿	染付	不明	不明	(13.8)	(7.4)	3.5	18-14	I-78
2	SX45 3層	陶器	焙烙		堤	19C前半	12.8	11.2	3.5	18-15	I-79
3	SX45 3層	陶器	焙烙		堤	19C前半	(12.9)	(10.6)	2.8	18-16	I-80
4	SX45 3層	磁器	小杯	白磁 外面に梅花文	瀬戸美濃	19C中頃	(9.5)	(3.7)	5.35	18-17	J-57
5	SX45 3層	土製品	土人形		在地	江戸	(長さ)6.4	(幅)3.8	(厚さ)3.3	18-18	P-6

No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)						重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.	
					長さ	玉縁長さ	瓦当幅・径	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚						周縁高
6	SX45 2層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、右巻き	—	—	「12.0」	「2.1」	「9.9」	2.38	0.58	552.0	—	—	30-13	F-27
7	SX45 2層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	28.8	3.5	(16.2)	1.6	12.8	「2.6」	0.6	1,315.0	ナデ、ケズリ	コビキ痕、ケズリ	30-14	F-28

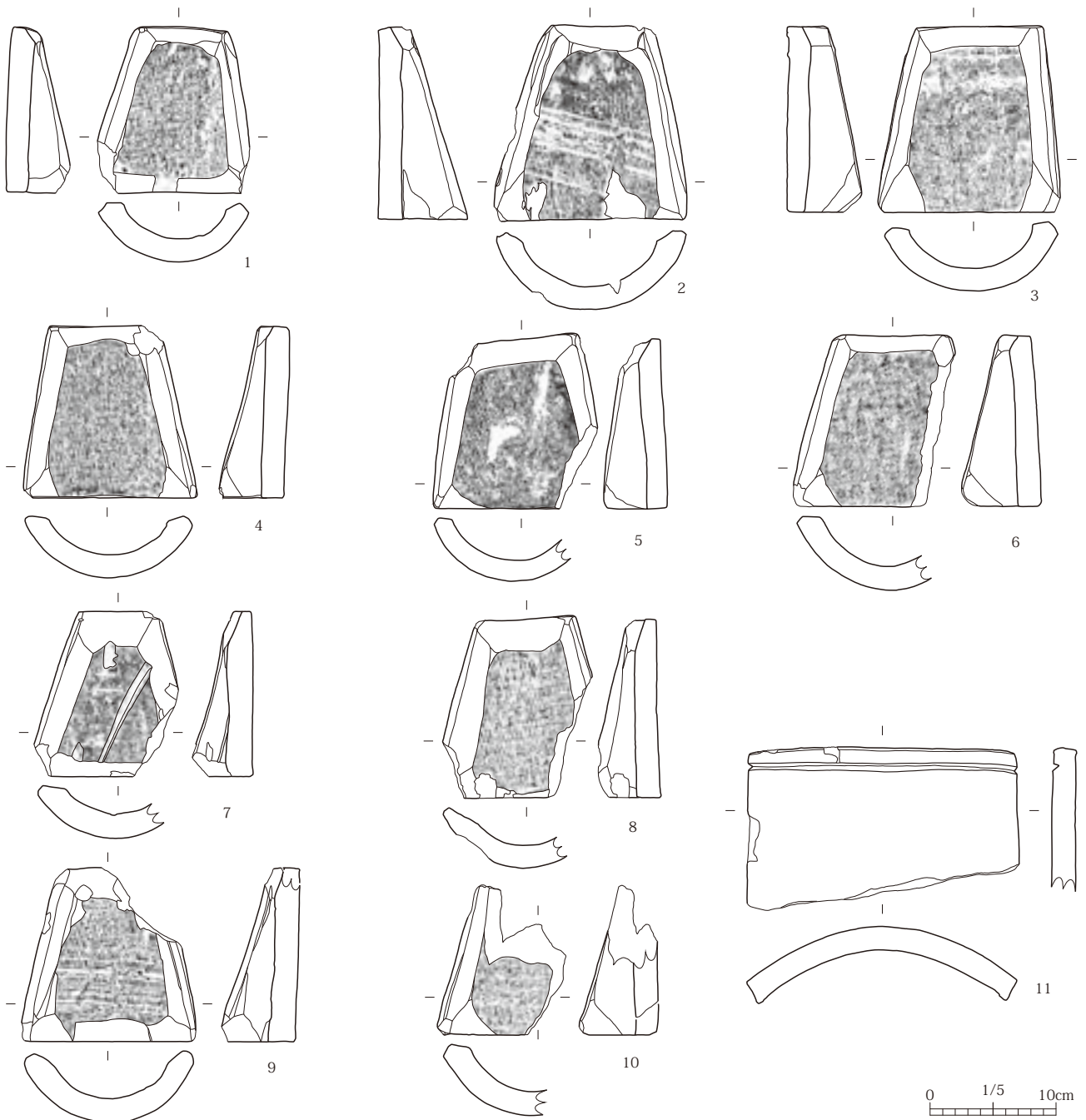
第85図 SX45性格不明遺構 出土遺物(1)



No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	玉縁長さ	幅	厚さ	瓦当幅・径	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚	周縁高	瓦当高					
1	SX45 2層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	「29.3」	—	—	—	15.8	1.7	12.4	2.1	0.5	—	2,332.0	ナデ、ケズリ	コピキ痕、ケズリ	30-15	F-29
2	SX45 2層	軒平瓦	花文 (8本)	—	「13.2」	—	—	—	—	0.6	「8.9」	1.9	—	4.85	496.0	ナデ	ナデ	31-1	G-33
3	SX45 2層	軒平瓦	笹文雪持ち	—	15.4	—	—	—	24.6	0.8	15.0	1.75	—	「4.2」	1,191.0	ナデ	ナデ	31-2	G-34
4	SX45 2層	丸瓦	—	—	長さ 23.5	4.3	15.3	—	—	—	—	2.5	—	7.7	1,967.0	ナデ、ケズリ	コピキ痕、ケズリ	31-3	F-31
5	SX45 2層	丸瓦	—	刻印有り	31.7	—	15.8	—	3.5	—	—	2.1	—	7.7	2,099.0	ナデ、ケズリ	コピキ痕、ケズリ	31-4	F-32
6	SX45 2層	平瓦	—	—	28.0	—	広端 25.65、狭端 22.4	2.0	—	—	—	—	—	—	2,356.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	31-6	G-35
7	SX45 2層	平瓦	—	—	24.9	—	広端「24.0」、狭端「23.6」	1.9	—	—	—	—	—	—	1,844.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	31-7	G-36

第86図 SX45性格不明遺構 出土遺物(2)

第4節



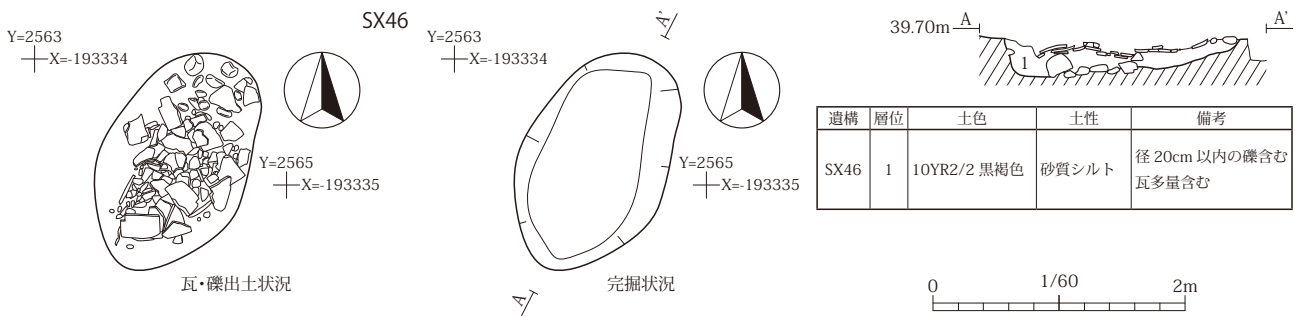
No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				長さ	幅	厚さ					
1	SX45 2層	輪造い		13.3	広端「9.7」、狭端 7.4	1.9	439.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-10	Hc-59
2	SX45 2層	輪造い		15.3	広端「15.0」、狭端「8.1」	1.8	635.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-11	Hc-60
3	SX45 2層	輪造い		14.7	広端「14.4」、狭端 10.1	1.8	638.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-12	Hc-61
4	SX45 2層	輪造い		13.7	広端「12.9」、狭端「7.3」	1.9	497.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-13	Hc-62
5	SX45 2層	輪造い		14.0	広端「9.9」、狭端「7.9」	1.7	436.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-14	Hc-63
6	SX45 2層	輪造い		15.5	広端「10.7」、狭端 9.6	1.9	440.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-15	Hc-64
7	SX45 2層	輪造い		13.1	広端「7.2」、狭端「5.7」	1.9	340.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	31-16	Hc-65
8	SX45 2層	輪造い		14.2	広端「7.5」、狭端「8.0」	1.8	387.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-1	Hc-66
9	SX45 2層	輪造い		13.8	広端「13.7」、狭端「4.9」	1.9	503.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-2	Hc-67
10	SX45 2層	輪造い		「11.8」	「7.6」	1.9	233.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-3	Hc-68
11	SX45 2層	角棧伏間瓦		「11.4」	21.0	1.9	851.0	ナデ、ケズリ	ナデ	32-4	Hc-69

第87図 SX45性格不明遺構 出土遺物(3)

SX46 性格不明遺構 (第88・89図)

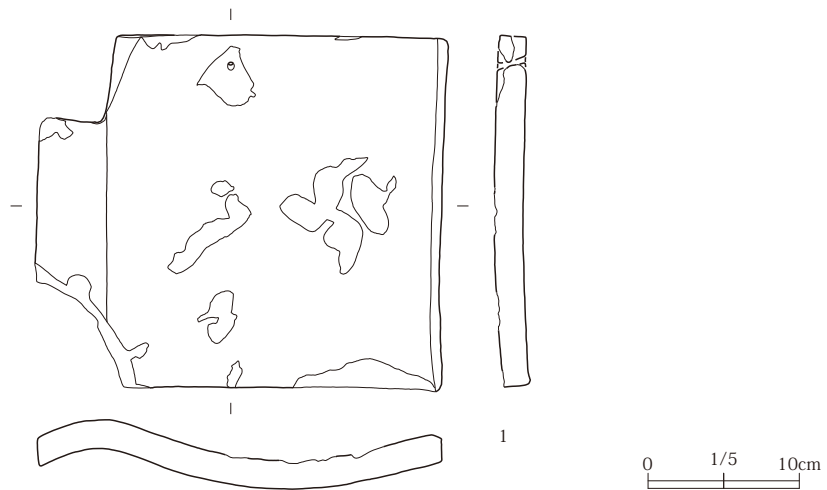
D5 グリッドに位置する。規模は、長軸 186cm、短軸 117cm、深さ 23cm である。平面形は楕円形で、底面はやや起伏する。断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で礫、瓦を多量に含んでいる。

遺物は瓦が多量に出土している。その内棧瓦 1 点を図示し、無文の軒棧瓦 1 点を写真掲載した。



遺構	層位	土色	土性	備考
SX46	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径20cm以内の礫含む 瓦多量含む

第88図 SX46性格不明遺構 出土状況図・平面図・断面図

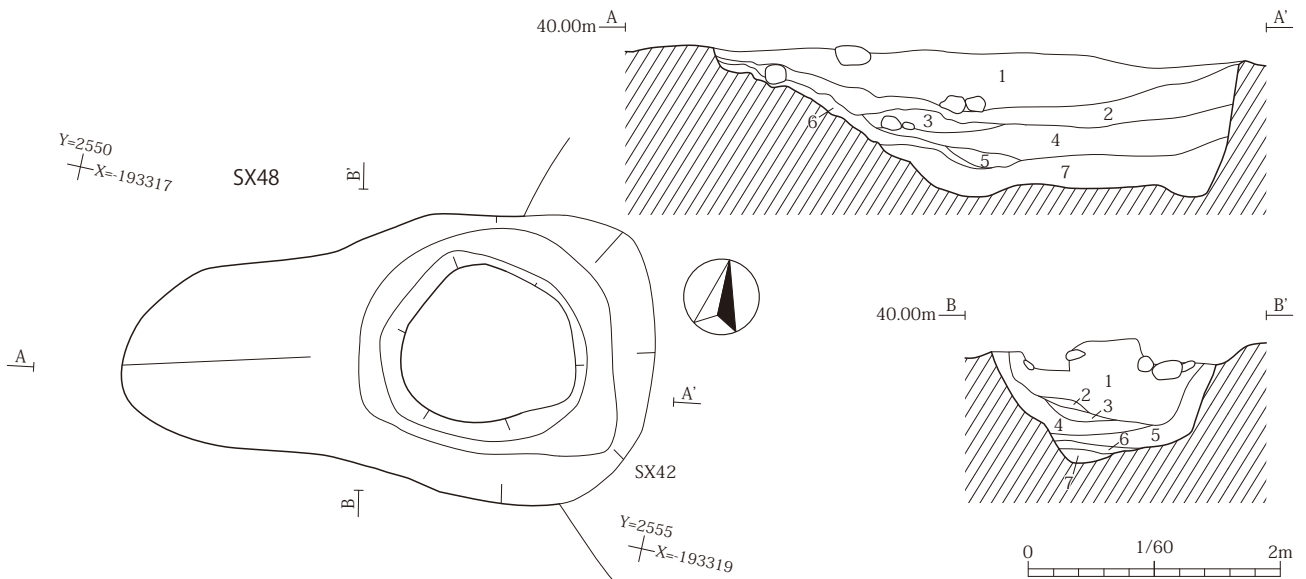


No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				長さ	幅	厚さ					
1	SX46 1層	棧瓦		23.3	26.9	1.9	1,526.0	ナデ、ケズリ	ナデ	32.5	Ha-5

第89図 SX46性格不明遺構 出土遺物

SX48 性格不明遺構 (第90・91図 写真図版3)

C3 グリッドに位置する。SX42・51 と重複し、SX42 よりも古く SX51 よりも新しい。規模は、長軸 277cm、短軸 230cm、深さ 103cm である。平面形は不整楕円形である。底面は、長軸 200cm、短軸 180cm の不整円形で



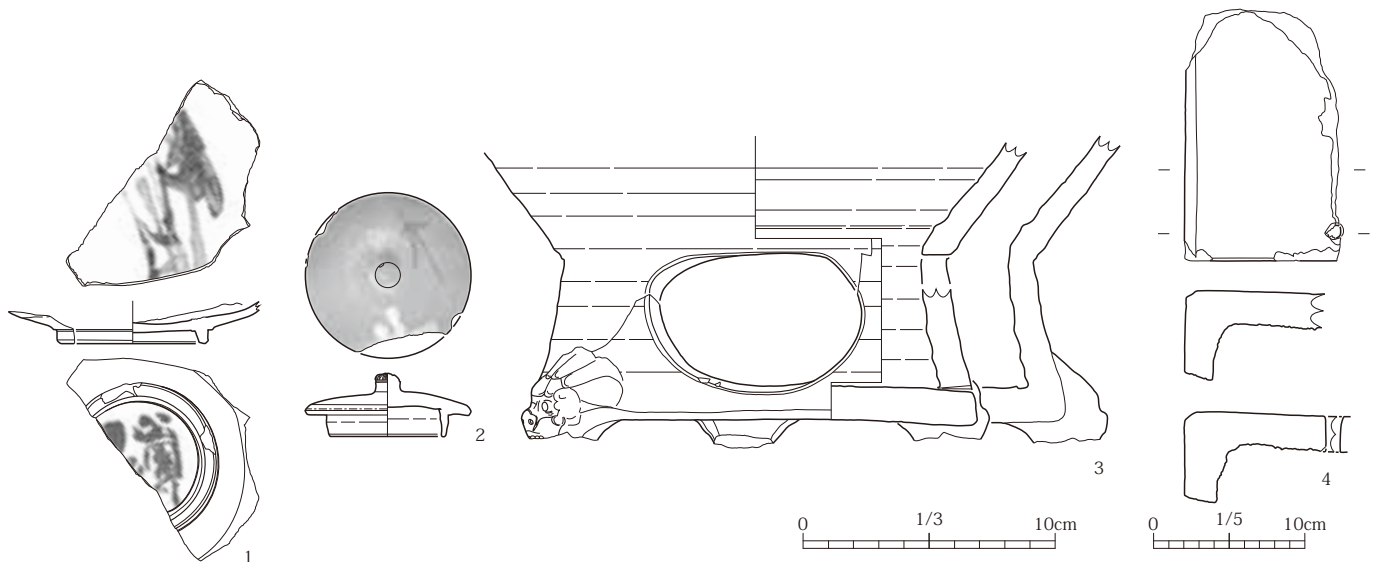
遺構	層位	土色	土性	備考
SX48	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径10~15cmの礫を層全体に含む
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	小礫含む
	3	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	小礫含む
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	小礫含む

遺構	層位	土色	土性	備考
SX48	5	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	径2~4cmの礫多量含む
	6	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルト層が帯状に混入する
	7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	砂層が帯状に混入する 小礫少量含む

第90図 SX48性格不明遺構 平面図・断面図

ある。底面中央に径約 130～140cm、高さ 10cm の盛り上がりが見られる。断面形は逆台形で、西壁面は緩やかに立ち上がり、東壁面はやや垂直気味に立ち上がる。堆積土は 7 層で、1・2 層はシルト、3～7 層は砂質シルトである。樹木の抜根の痕跡と考えられる。

遺物は、2～4 層から陶器 3 点、瓦質土器 1 点、瓦 1 点、金属製品 1 点が出土している。その内、4 層出土の陶器 2 点、瓦質土器 1 点、瓦 1 点を図示し、金属製品 1 点を写真掲載した。



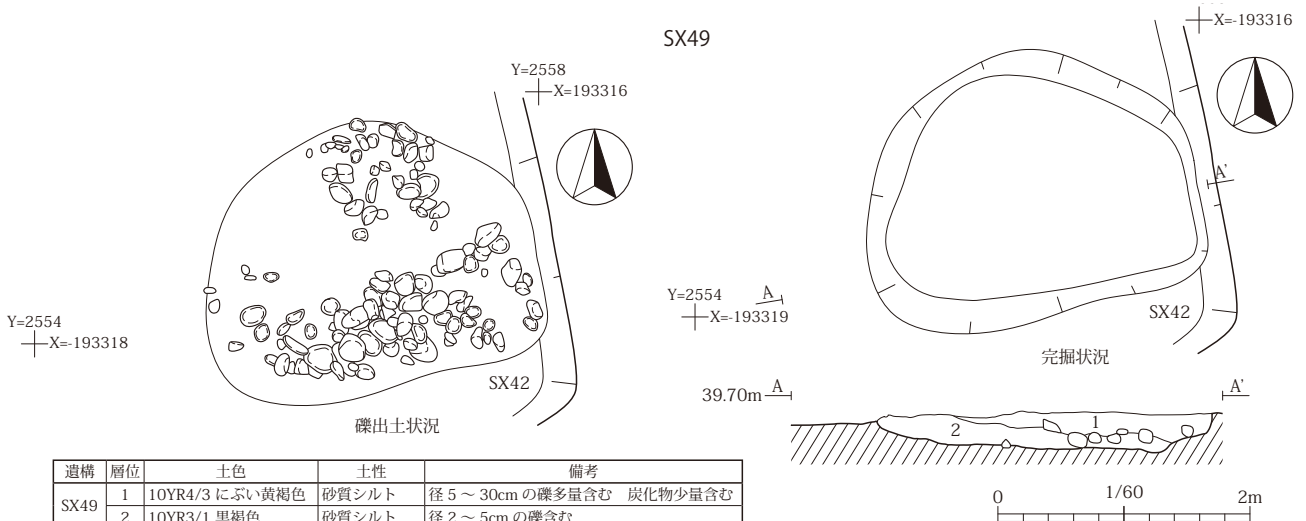
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.	
							口径	底径	器高			
1	SX48 1層	陶器	皿	高台内面に墨書	大塚相馬?	19C 前半?	—	(5.7)	「1.7」	18-19	I-81	
2	SX48 1層	陶器	蓋	つまみ径 1.0cm	相馬系	19C	4.55	6.5	2.5	18-20	I-82	
3	SX48 1層	瓦質	火鉢	臍足	在地	江戸	—	17.6	「12.2」	18-21	T-6	
No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				長さ	幅	高さ	厚さ					
4	SX48 1層	崩瓦		「16.5」	「10.2」	6.0	2.2	1,680.0	ナデ、ケズリ	ナデ	32-6	Hc-70

第91図 SX48性格不明遺構 出土遺物

SX49 性格不明遺構 (第 92 図)

C・D3 グリッドに位置する。SX42 と重複し、SX42 の底面で確認されたことにより、SX42 よりも古い。規模は、長軸 274cm、短軸 213cm、残存の深さは 20cm である。平面形は不整円形である。底面はやや起伏する。断面形は皿形である。堆積土は 2 層で、1 層はにぶい黄褐色土で、2 層は黒褐色砂質シルトである。1 層は、径 5～30cm の自然礫を多量に含む。

遺物は層全体から陶磁器、瓦等の細片が出土している。



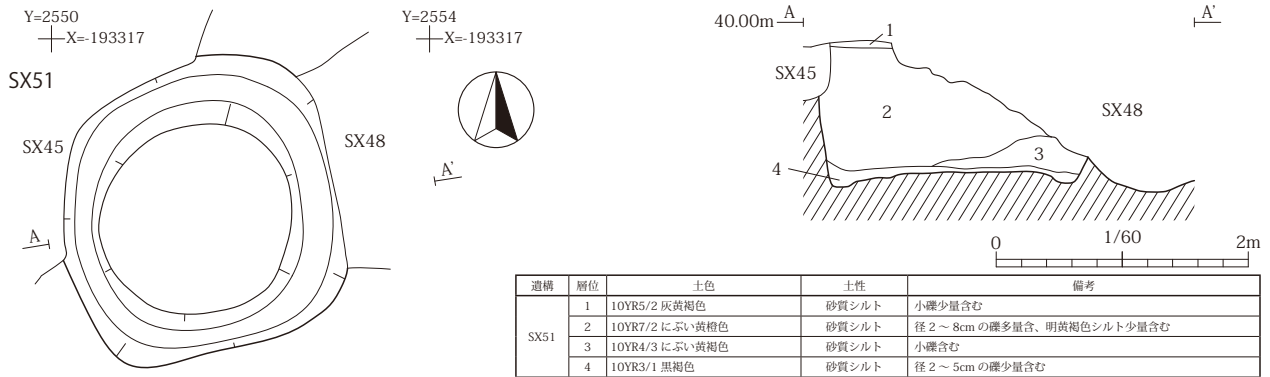
遺構	層位	土色	土性	備考
SX49	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	径 5～30cm の礫多量含む 炭化物少量含む
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径 2～5cm の礫含む

第92図 SX49性格不明遺構 出土状況図・平面図・断面図

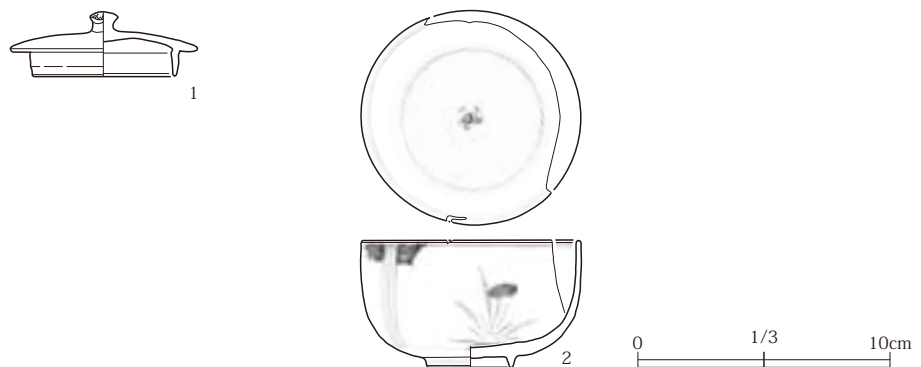
SX51 性格不明遺構 (第93・94図 写真図版3)

C3 グリッドに位置する。SX45・48 と重複し、SX51 が最も古い。規模は、長軸 255cm、短軸 249cm、深さ 113cm である。平面形は隅丸方形で、底面中央には径約 150cm、高さ 5～8cm の盛り上がりが見られる。断面形は逆台形である。堆積土は 4 層で、全て砂質シルトである。SX48 同様に樹木の抜根の痕跡と考えられる。

遺物は、2 層から陶磁器 3 点が出土している。その内、陶器磁器各 1 点を図示した。



第93図 SX51性格不明遺構 平面図・断面図

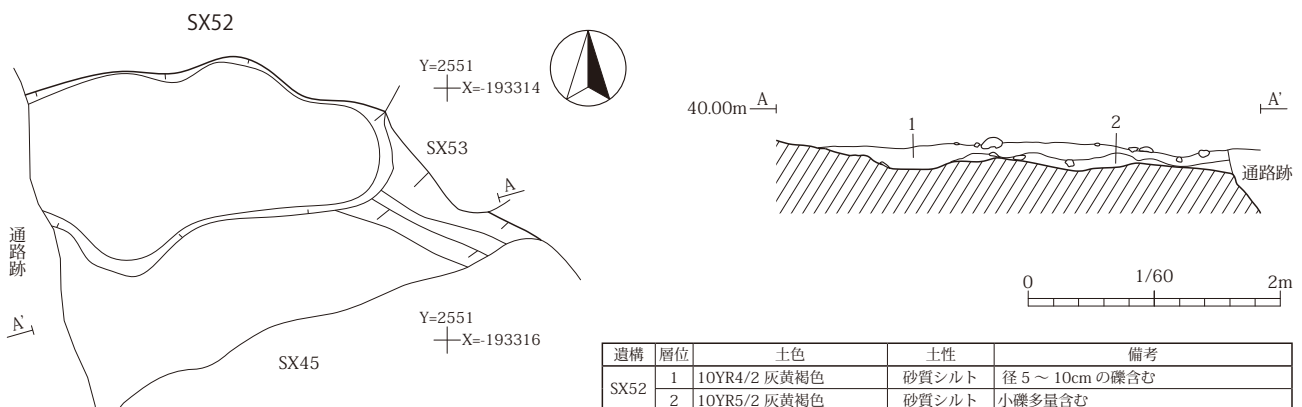


No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SX51 2層	陶器	蓋	つまみ径 1.1cm	相馬系	19C	蓋径 7.45、口径 5.6	5.6	2.56	18-22	I-83
2	SX51 2層	磁器	碗		肥前?	19C 前半?	8.6	3.4	5.05	18-23	J-58

第94図 SX51性格不明遺構 出土遺物

SX52 性格不明遺構 (第95・96図)

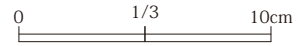
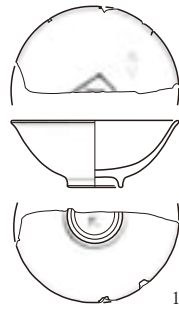
C3 グリッドに位置する。通路跡、SX45・53 と重複し、SX52 が最も古い。規模は、長軸 297cm 以上、短軸 165cm 以上である。深さは 22cm 前後であるが、北側の土坑状に落ち込む範囲は 30cm である。平面形は不整形で、



第95図 SX52性格不明遺構 平面図・断面図

底面は起伏する。断面形は浅い皿形である。堆積土は2層で、砂質シルトである。

遺物は、2層から磁器2点が出土している。その内、猪口1点を図示した。



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.
							口径	底径	器高		
1	SX52 1層	磁器	猪口	口鉤	山形 or 福島産?	明治?	(6.6)	2.0	2.7	18-24	J-59

第96図 SX52性格不明遺構 出土遺物

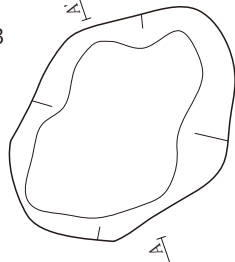
SX53 性格不明遺構 (第 97・98 図)

C3 グリッドに位置する。SX52 と重複し、SX52 より新しい。規模は、長軸 214cm、短軸 159cm、深さ 18cm である。平面形は不整楕円形で、底面は起伏する。断面形は浅い皿形である。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層で、径 5 ~ 30cm の自然礫、瓦を多量に含む。

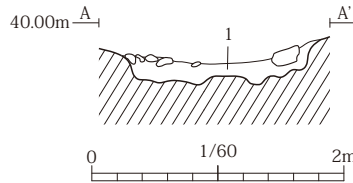
遺物は、陶器、瓦等が出土している。その内、軒丸瓦 1 点を図示した。

Y=2550
+X=193313

SX53

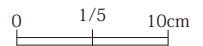
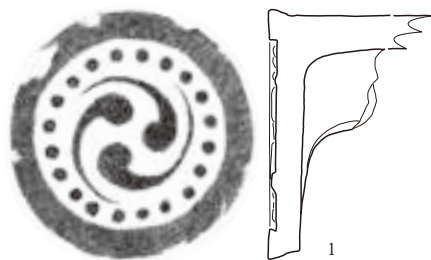


Y=2552
+X=193316



遺構	層位	土色	土性	備考
SX53	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 2 ~ 8cm の礫多量含む

第97図 SX53性格不明遺構 平面図・断面図



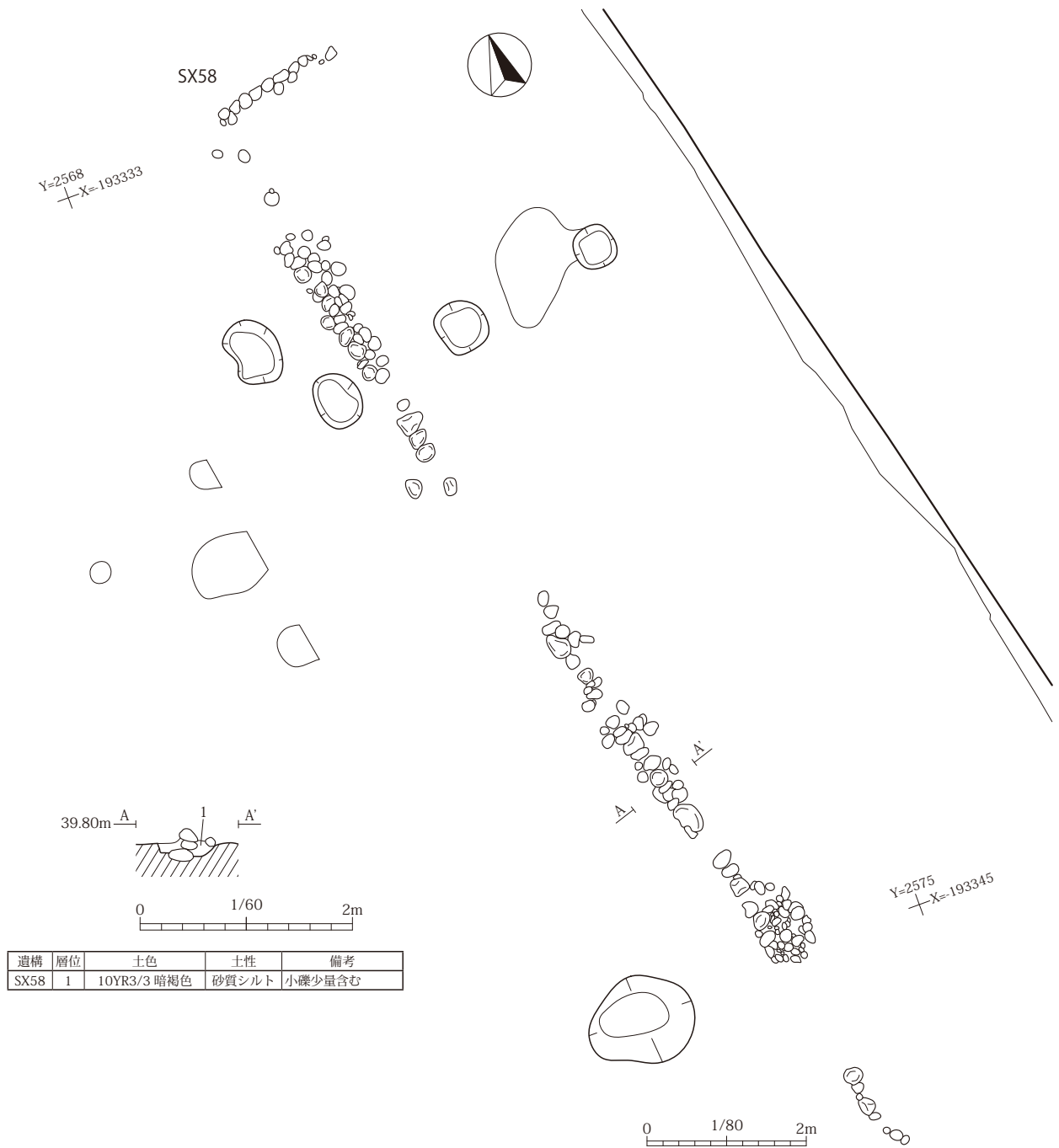
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)					重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.
					瓦当径	周縁幅	文様区径	瓦当厚	周縁高					
1	SX53 1層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	16.4	2.0	12.5	2.1	0.4	1,129.0	ナデ	-	32-7	F-34

第98図 SX53性格不明遺構 出土遺物

SX58 性格不明遺構 (第 99 図 写真図版 3)

E5・6 グリッドに位置する。円礫を並べた石列跡である。規模は、長軸 1542cm で北端部は東方向に屈曲して 168cm 延びる。方向は N-15° -W で、北端部は N-75° -E を示す。掘り方の規模は、幅 47 ~ 90cm、深さ 13 ~ 28cm である。堆積土は褐色砂質シルトの単層である。建物の基礎または雨落ち溝跡の可能性が考えられるが、円礫に柱を据えた痕跡が無く、付随する施設が確認されなかったことから性格は不明である。

遺物は出土していない。



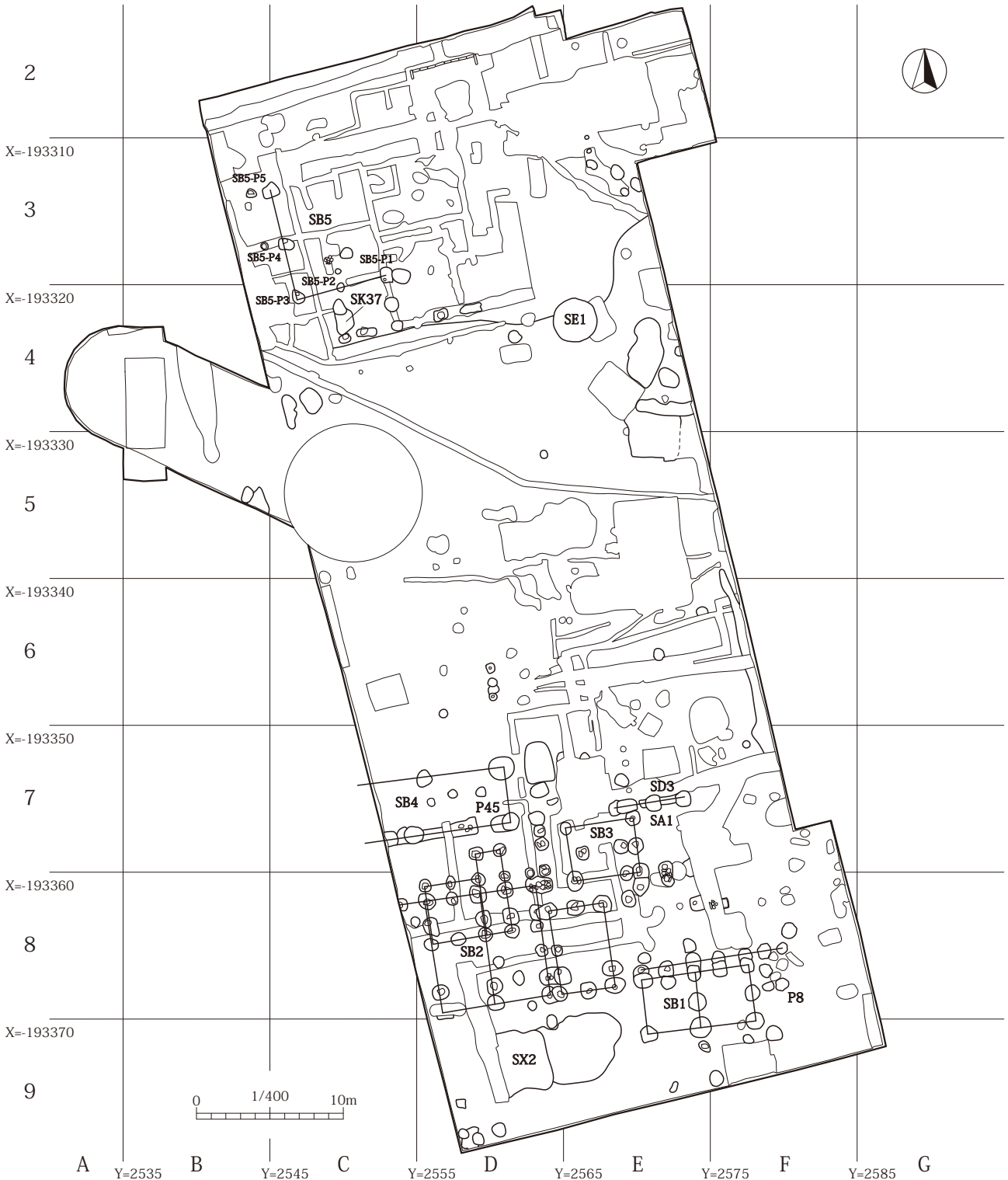
第99図 SX58性格不明遺構 平面図・断面図

ピット

ピットは24基確認された。全て単層であり、柱痕跡は確認できなかった。堆積土は、オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルトで粘性は無く、しまりは強い。建物の組み合わせ及び配列等を検討したが、SA7柱列跡以外に建物跡が確認されなかったため、ピットは全体図のみに掲載した。

第5節 II層上面

表土直下の、II層上面で検出した遺構は建物跡5棟、柱列跡1列、溝跡1条、井戸跡1基、性格不明遺構1基、土坑1基、ピット82基、土塁1基である。その内主要な建物跡5棟、柱列跡1列、溝跡1条、井戸跡1基、土坑1基、性格不明遺構1基、土塁1基について報告する。II区、4グリッドより北側では一部岩盤が露出する。II層を構成する堆積土は下位III層同様、北から南・東から西に向かって斜行堆積しており、それぞれの方向から整地されたものと考えられる。



第100図 II層上面遺構配置図

建物跡

SB1～4 建物跡 (第100・102図 写真図版10)

グリッド7より南側、C～E7、D・E8、E9に位置する。柱穴の規模・間隔を基にSB1～4の建物を認定した。ただし、4棟の方向は概ねN-7°-Wと共通していることから、一棟の間取りごとをそれぞれ棟として捉えている可能性もある。SB1・4のみ桁行き方向が明確に東西を示しており、SB2・3とは異なる機能を有した施設とも考えられる。

SB1の柱穴は径1～1.4m、検出面からの深さは60～80cm、柱間の寸法は3.5mである。SB2の柱穴は径0.76～1.4m、検出面からの深さは26～50cm、柱間の寸法は1.8～3.3mである。柱穴は調査区外の西側へと続く。SB2は南北を桁行方向とする建物2棟とも捉えられるが、D8グリッドに柱穴が揃っていることを踏まえ1棟として認定した。SB3の柱穴は径0.72～1.1m、検出面からの深さは20～40cm、柱間の寸法は3.7mである。SB4の柱穴は径1.0～1.7m、検出面からの深さは40～60cm、柱間隔は5.6～6.6mである。柱穴は調査区外の西側へと続く。SB4-P2と重複し、それより古い。P45からは19世紀代と考えられる陶器が出土している。

検出した柱穴のほとんどは底面に径40～50cmの礫が根石として設置され、その上部に径15～20cmの礫が大量に詰められていた。重量物に耐えうる工法であり、確認した建物跡は養蚕試験場(第4図⑤)の建物跡、もしくはその一部である可能性が考えられる。

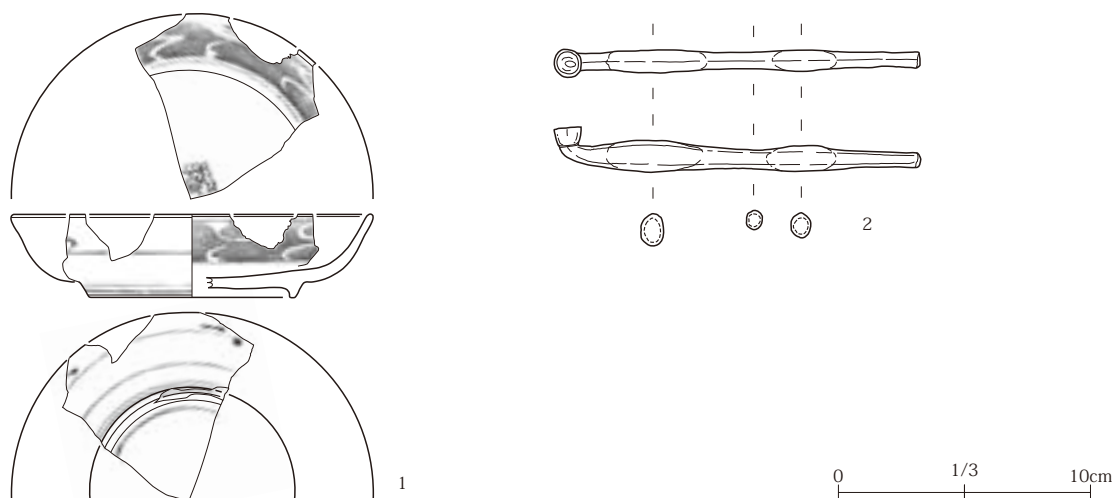
SB5 建物跡 (第100図 写真図版10)

B・C3グリッドに位置する。建物の方向はN-13°-Wで、前述したSB1～4に比べ僅かに西側へふれる。また、柱穴の堆積土中にはSB1～4の柱穴内に見られた礫の混入が無い。調査前まで利用されていた控訴院官舎との平面図と比較すると官舎建物の位置に近く、近代以降の建物の柱穴である可能性が考えられる。

柱列跡

SA1 柱列跡・SD3 溝跡 (第102図)

E7グリッドに位置する。柱穴は径0.97～1m、検出面からの深さは40～50cmである。方向はN-82°-Eで、前述した建物跡SB4南側の桁行方向と同一である。建物跡の柱穴はSA1より南側に集中して確認されたことから、SA1柱列跡は塀または入口のような施設であった可能性が考えられる。また、各柱穴間は溝状に掘り込まれており、これをSD3とした。SD3の規模は303cm、幅54cm、深さ32cmで、底面は平坦である。断面形は箱形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	重量(g)	法量(cm)			写真図版	登録No.
								口径	底径	器高		
1	SD3 1層	磁器	皿		肥前?	19C前半?	—	(14.2)	(8.2)	3.3	18-25	J-60
2	SD3 1層	金属製品	延べ煙管	雁首・吸い口が一体型の煙管	不明	19C後半?	28.3	(長さ)14.5	(幅)0.9	(高さ)1.3	35-35	N-18

第101図 SD3溝跡 出土遺物



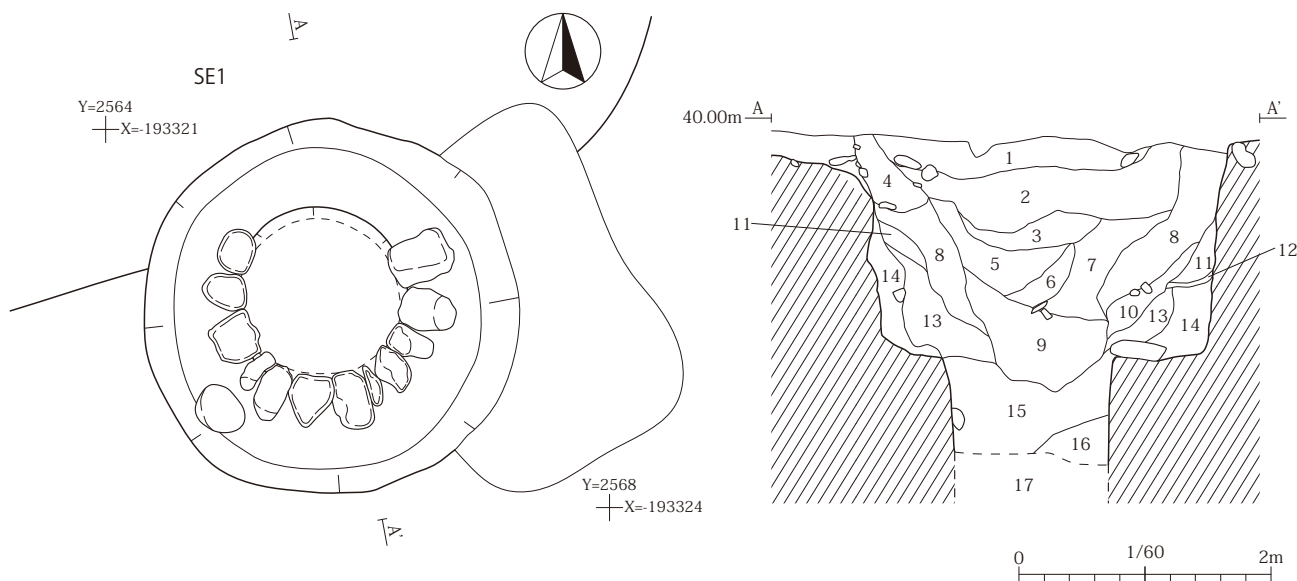
第102図 SB1~4建物跡、SA1柱列跡、SD3溝跡 平面図・断面図・エレベーション図

井戸跡

SE1 井戸跡 (第 100・103・104 図 写真図版 10)

E4 グリッドに位置する素掘りの井戸跡である。検出面から 252cm まで掘り下げたが、安全管理上それ以下の掘削は行わなかったため、底面は確認していない。規模は、径約 3 m で、平面形は円形である。検出面から 170cm 下に幅 50～60cm の段があり、径 30～40cm 程度の礫が縁に沿って並べられていた。段の下部は長軸 137cm、短軸 123cm の円形に掘り下げられている。確認した堆積土は 17 層で、上位 1～3 層には径 5～10cm の礫が混入していた。

遺物は、2～7 層から陶磁器、土師質土器、瓦等が出土している。その内、土師質土器灯明皿 1 点を図示した。



遺構	層位	土色	土性	特徴
SE1	1	10YR6/1 褐灰色	シルト	径 5～10cm の礫少量、明黄褐色シルト少量含む
	2	10YR6/1 褐灰色	シルト	径 5～10cm の礫多量含む
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	径 5～10cm の礫多量含む
	4	10YR5/1 褐灰色	シルト	径 2～5cm の礫多量含む 礫主体の層
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	径 2cm の礫少量含む
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	小礫含む
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 2cm の礫少量、明黄褐色シルト微量含む
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	7 層より礫多く含む 瓦碎片少量含む

遺構	層位	土色	土性	特徴
SE1	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂少量含む
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	8 層より礫多く含む
	11	10YR7/2 にぶい黄褐色	シルト	岩盤削平の際の混ざり込み
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	小礫含む
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 5cm の礫多量含む
	14	10YR7/2 にぶい黄褐色	シルト	明褐色シルトが帯状に混入する
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	径 2～8cm の礫多量に含む
	16	10YR3/1 黒褐色	シルト	径 2～5cm の礫多量に含む
	17	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	礫少量含む

第103図 SE1井戸跡 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SE1 5層	土師質土器	灯明皿		在地	江戸	(6.2)	3.8	2.1	18-26	Da-17

第104図 SE1井戸跡 出土遺物

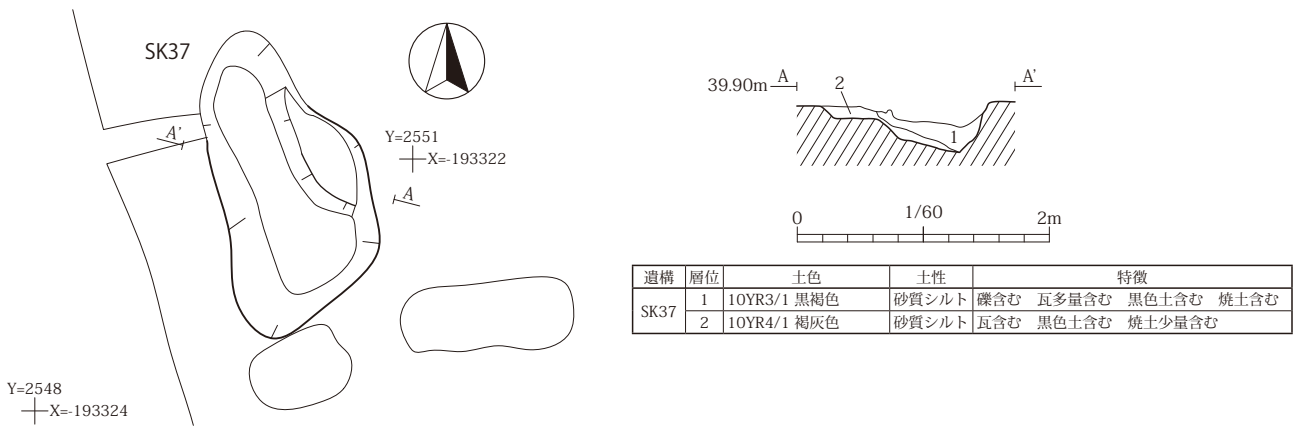
土坑

SK37 土坑 (第 105・106 図)

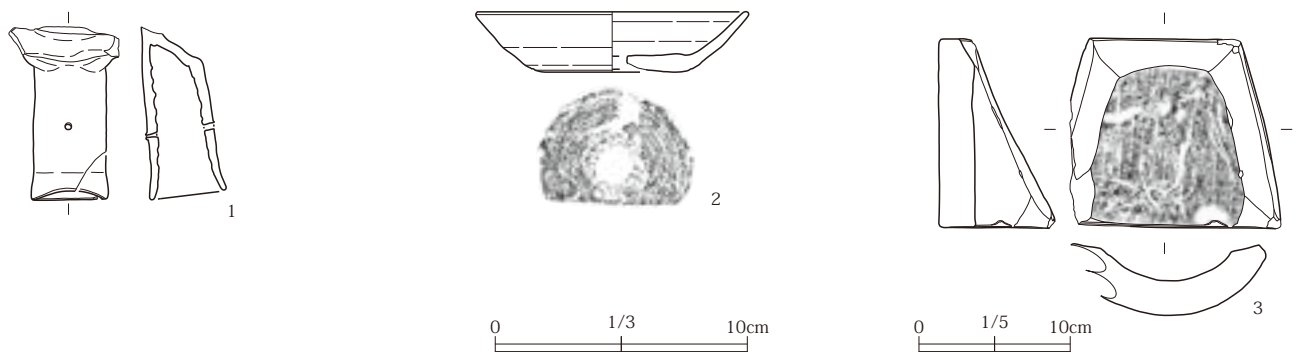
C4 グリッドに位置する。規模は、長軸 136cm、短軸 117cm、深さ 34cm である。平面形は不整形で、底面は平坦である。断面形は皿形で東側に段を有する。堆積土は 2 層で、1 層が黒褐色砂質シルト、2 層が褐灰色シルト

である。

遺物は陶器・磁器・土師質土器・石製品・瓦が各1点出土している。その内、陶器・土師質土器・瓦を図示した。



第105図 SK37土坑 平面図・断面図



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	SK37 1層	陶器	焙烙		堤焼	19C前半	(長さ)「6.9」	(幅)「4.4」	—	18-27	184
2	SK37 1層	土師質土器	皿	穿孔有り	在地	江戸	(10.6)	(5.6)	2.4	18-28	Da-18
No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (g)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
				長さ	幅	厚さ					
3	SK37 1層	輪造い		12.5	広端「13.4」、狭端 9.7	2.3	566.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-8	He-71

第106図 SK37土坑 出土遺物

性格不明遺構

SX2 性格不明遺構 (第108図)

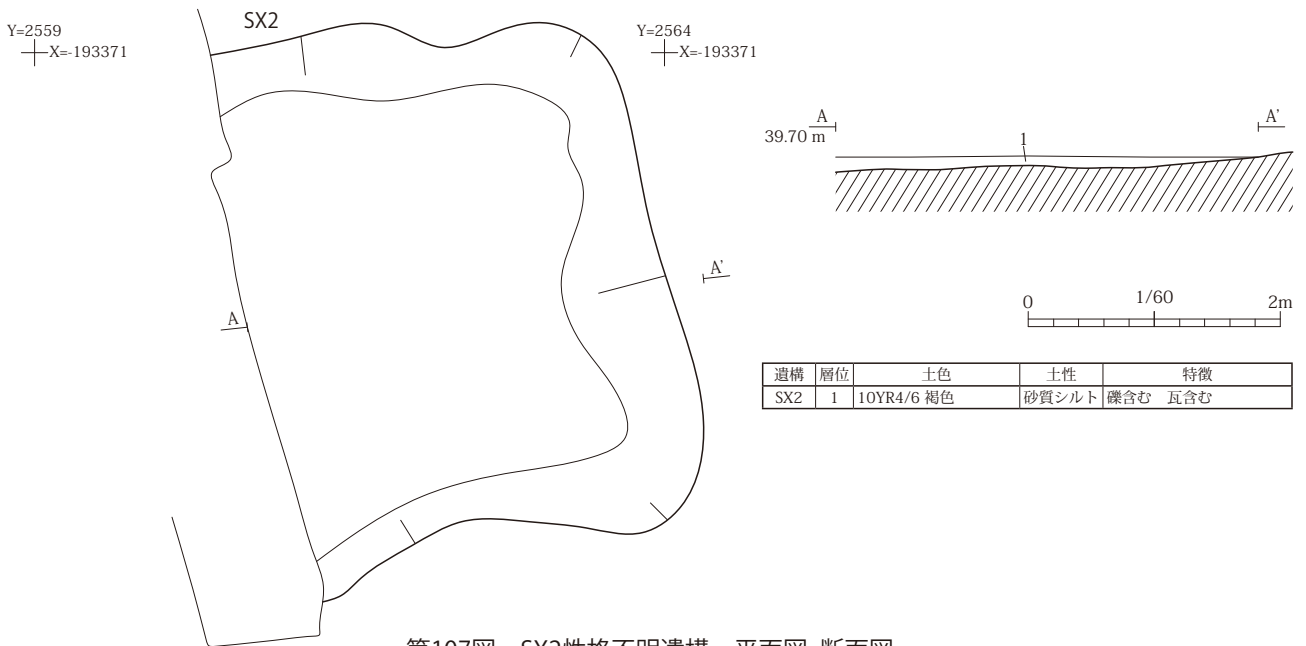
D9 グリッドに位置する。遺構北側の一部は、第二次世界大戦以降に堆積したと考えられる焼土層 (攪乱) に切られている。規模は、南北 411cm、東西 336cm 以上、深さ 12cm である。平面形は不整形で、底面は起伏する。断面形は皿形である。堆積土は褐色基調の砂質土単層でしまりが無く、他のⅡ層上面検出遺構の堆積土とは土質が異なる。堆積土中には径 2 ~ 10cm の礫が多く混入する。

遺物は瓦質土器 2 点、石製品 1 点、瓦が 22 点出土している。その内、瓦 5 点を図示した。

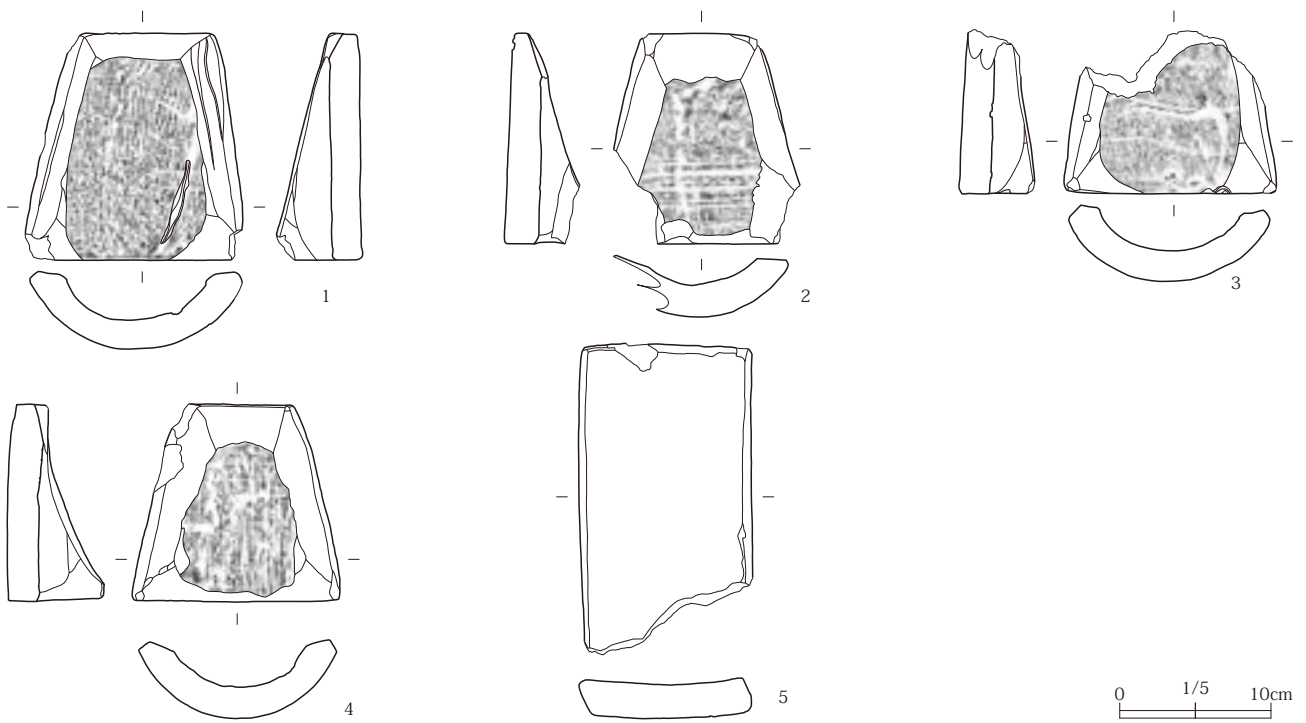
ピット出土遺物 (第109・110図、写真図版 18)

建物跡に属さないピットは遺構一覧表のみの掲載としたが、ここでは P8・45 から出土した磁器 1 点、陶器 1 点について記述する。

P8 の堆積土は、暗褐色砂質シルトの単層である。根石は認められなかった。出土した遺物は、肥前産の磁器中



第107図 SX2性格不明遺構 平面図・断面図

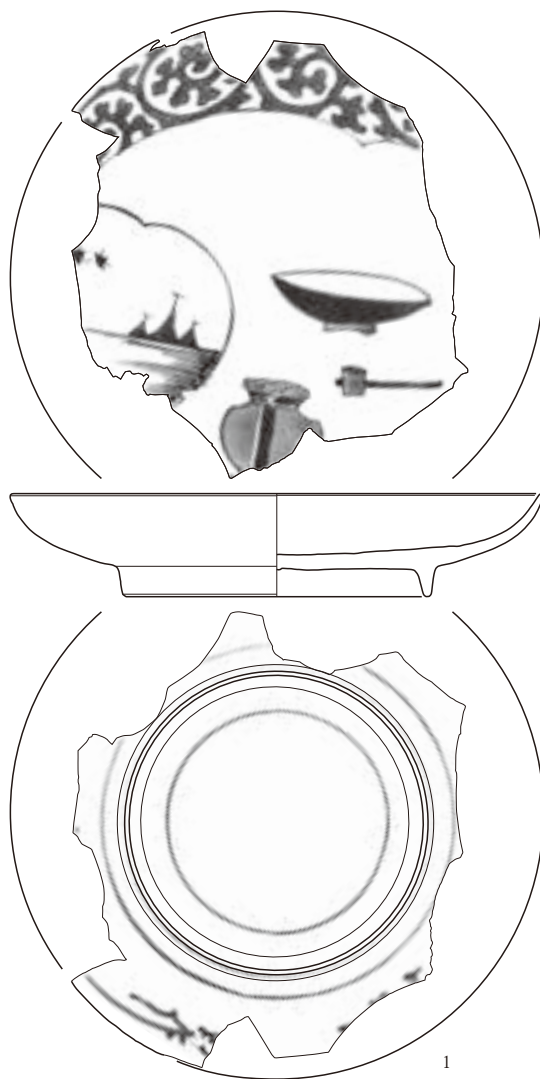


No.	遺構・層位	種類	特徴	法量 (g)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録No.
				幅	厚さ	長さ					
1	SX2 1層	輪違い		広端「13.8」、狭端8.8	1.9	15.0	669.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-9	He-72
2	SX2 1層	輪違い		広端「8.2」、狭端「7.7」	2.2	13.9	428.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-10	He-73
3	SX2 1層	輪違い		広端14.0、狭端-	2.0	「10.8」	386.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-11	He-74
4	SX2 1層	輪違い		広端13.7、狭端「7.3」	2.1	13.0	506.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	32-12	He-75
5	SX2 1層	覆斗瓦		「11.4」	2.3	「20.5」	638.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	32-13	He-76

第108図 SX2性格不明遺構 出土遺物

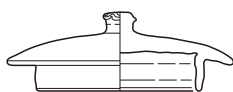
皿である。外面に蛸唐草文が、見込みには舟と網干文が描かれている。18世紀前半の生産と考えられる。

P45の堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。根石は認められなかった。出土した遺物は、大堀相馬産の陶器蓋である。土瓶の蓋で、外面には緑釉の後に灰釉が施され、内面は無釉である。19世紀前半の生産と考えられる。



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	P8 1層	磁器	中皿	高台内に梁支えの目跡 蛸唐草文 舟+網干文	肥前	18C 前半	(21.0)	12.0	4.1	18-29	J-61

第109図 P8 出土遺物



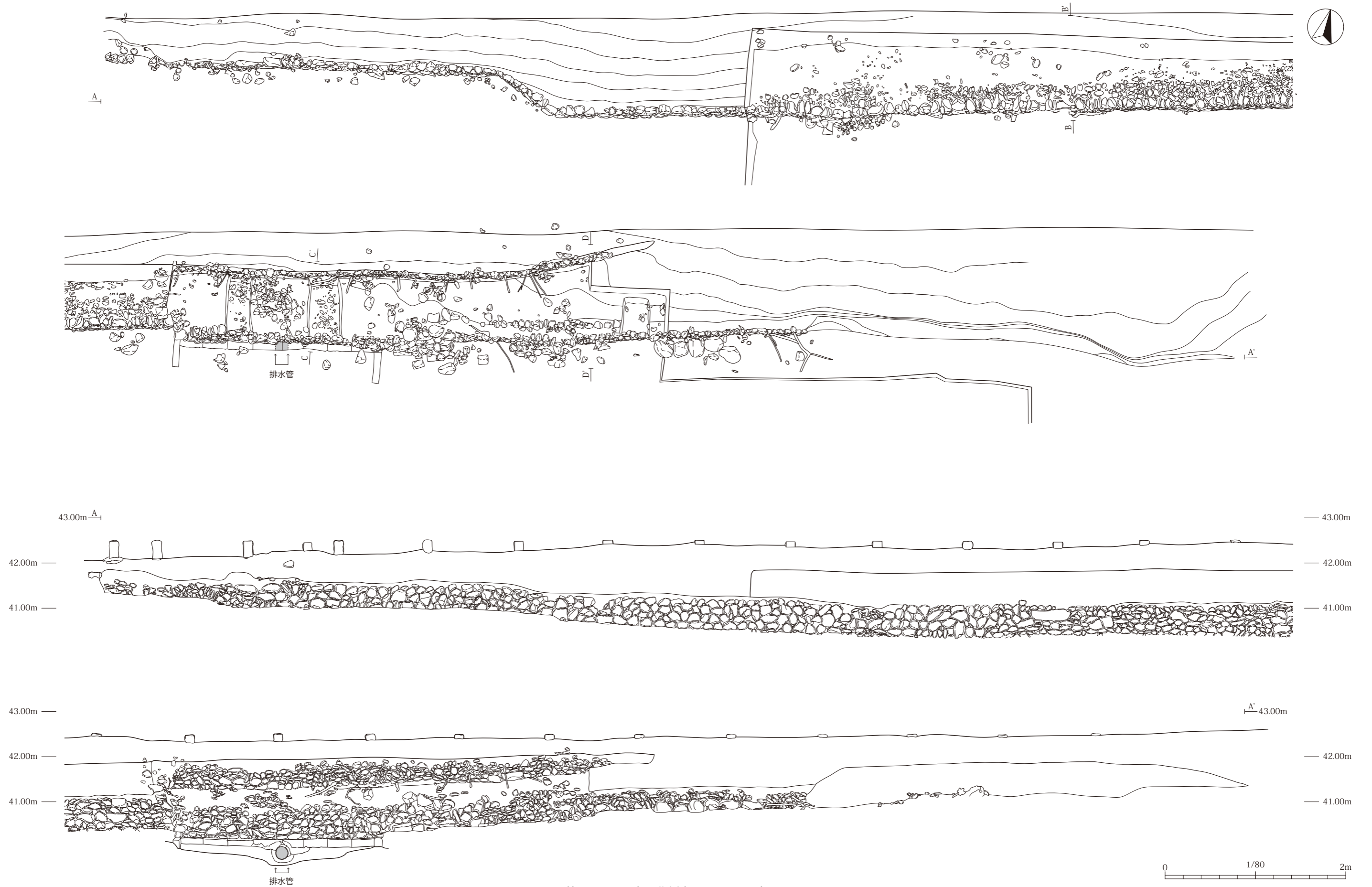
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	P45 1層	陶器	蓋	つまみ径 1.3cm	相馬系	19C	蓋径 9.0、口径 6.5	-	3.1	18-30	I-85

第110図 P45 出土遺物

土塁

土塁 (第 111・112 図 写真図版 11)

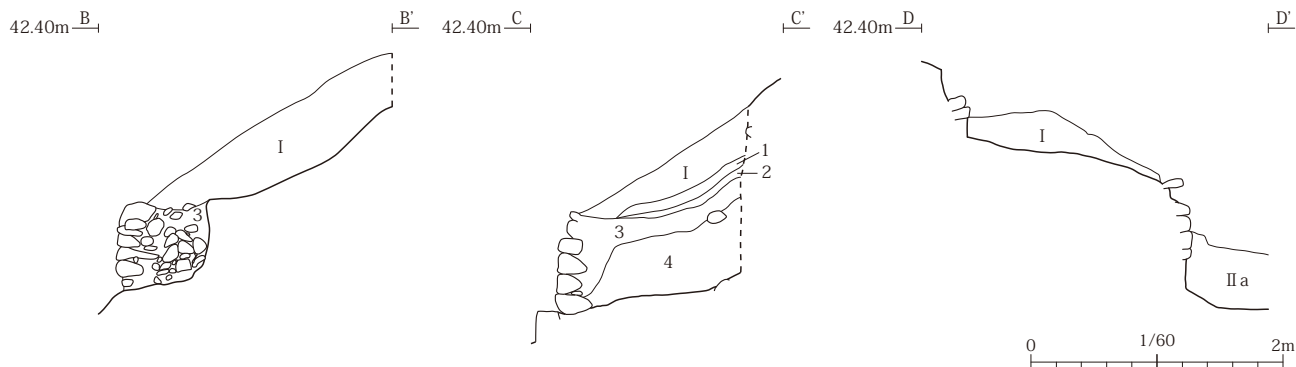
B～D2 グリッドに位置する。調査区北側に構築された土塁で、規模は長さ 52m、高さは西側で 0.8～2.1m、東側で 2.2～3.2m である。土塁南面の下半部で高さ 31～74cm の石積みを確認された。裏込めは一部に認められるのみで、石の積み方が乱雑で簡素であること、また東側から 18m 付近では陶器製の排水管を覆って積まれていたことから近代以降の石積みと考えられる。また、西端から 21m までの範囲では、径 20～40cm の比較的大型の礫が積まれているのに対し、それより東側は径 15～25cm の小ぶりの礫が積み、東端から 4～14m の範



第111図 調査区北側土塁 平面図・立面図

圃では上下2段に積まれている。土塁の整備等で部分的に積み替えを行った可能性が考えられるが、今回の調査では明らかにできなかった。また、土塁内から出土した遺物が無いため、構築された時期は不明である。土塁の積土は、にぶい黄褐色・褐灰色基調のシルト層である。土塁法面、表土下の堆積土1層から、近・現代に生産されたと考えられるガラス製品が出土している。また、同じく堆積土1層からSX21南側の瓦の上位に堆積していた整地土から出土した瓦塔と接合する破片が出土した。このことから、土塁はこの屋敷地を近代になって、削平を伴う整地作業を行った際に積んだものである可能性が考えられる。

遺物は堆積土1層から骨1点、金属製品4点が出土している。その内、金属製品2点を写真掲載した。



遺構	層位	土色	土性	特徴
土塁	I	基本層序共通		
	II	基本層序共通		
	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	径5～10cmの礫多量含む やや硬くしまる
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	径5～10cmの礫多量含む やや硬くしまる
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	径5～10cmの礫含む
4	10YR8/1 灰白色	シルト	径5～10cmの礫少量含む	

第112図 調査区北側土塁 断面図

第6節 遺構外出土遺物

表土掘削時、及び整地層掘削時に遺構外から多数の遺物が出土している。ここでは、各層ごとに出土遺物の種類や出土傾向について報告する。尚、攪乱出土遺物はI層（表土）出土遺物と一括して掲載する。

各層出土遺物

V層（第113図 写真図版19・35）

V層からは、陶器16点、磁器11点、土師質土器4点、石製品4点、骨角器1点、金属製品2点が出土している。瓦・瓦質土器・土製品の出土は無い。陶器・磁器とも、皿・碗の出土が多く、概ね年代は18世紀代である。また、V層からのみ骨角器が出土した。この内、陶器3点、磁器1点、土師質土器1点、石製品1点、金属製品1点、骨角器1点を図示し、陶器1点、磁器5点、金属製品3点を写真掲載した。

IV層（第114～118図 写真図版19・20・32・33・35）

IV層からは、陶器116点、磁器92点、土師質土器24点、土製品3点、瓦質土器17点、石器・石製品13点、金属製品14点、瓦48点が出土している。各種別とも、他の層と比較してIV層からの出土が最も多い。この内、陶器18点、磁器14点、土師質土器4点、瓦質土器1点、土製品3点、瓦塔1点、瓦22点、石器・石製品4点、金属製品1点を図示し、陶器1点、磁器10点、土師質土器2点、土製品1点、瓦12点、金属製品12点を写真掲載した。

III層（第119・120図 写真図版20・21・34・35）

III層からは、陶器20点、磁器35点、土師質土器2点、土製品2点、瓦質土器5点、瓦4点、石製品1点が出

土している。磁器では、17世紀後半～18世紀前半の生産と考えられる肥前産の碗が確認できた。この内、陶器7点、磁器11点、瓦質土器1点、瓦6点、石製品1点を図示し、陶器1点、瓦1点、金属製品1点を写真掲載した。

II層 (第121・122図 写真図版21・34・35)

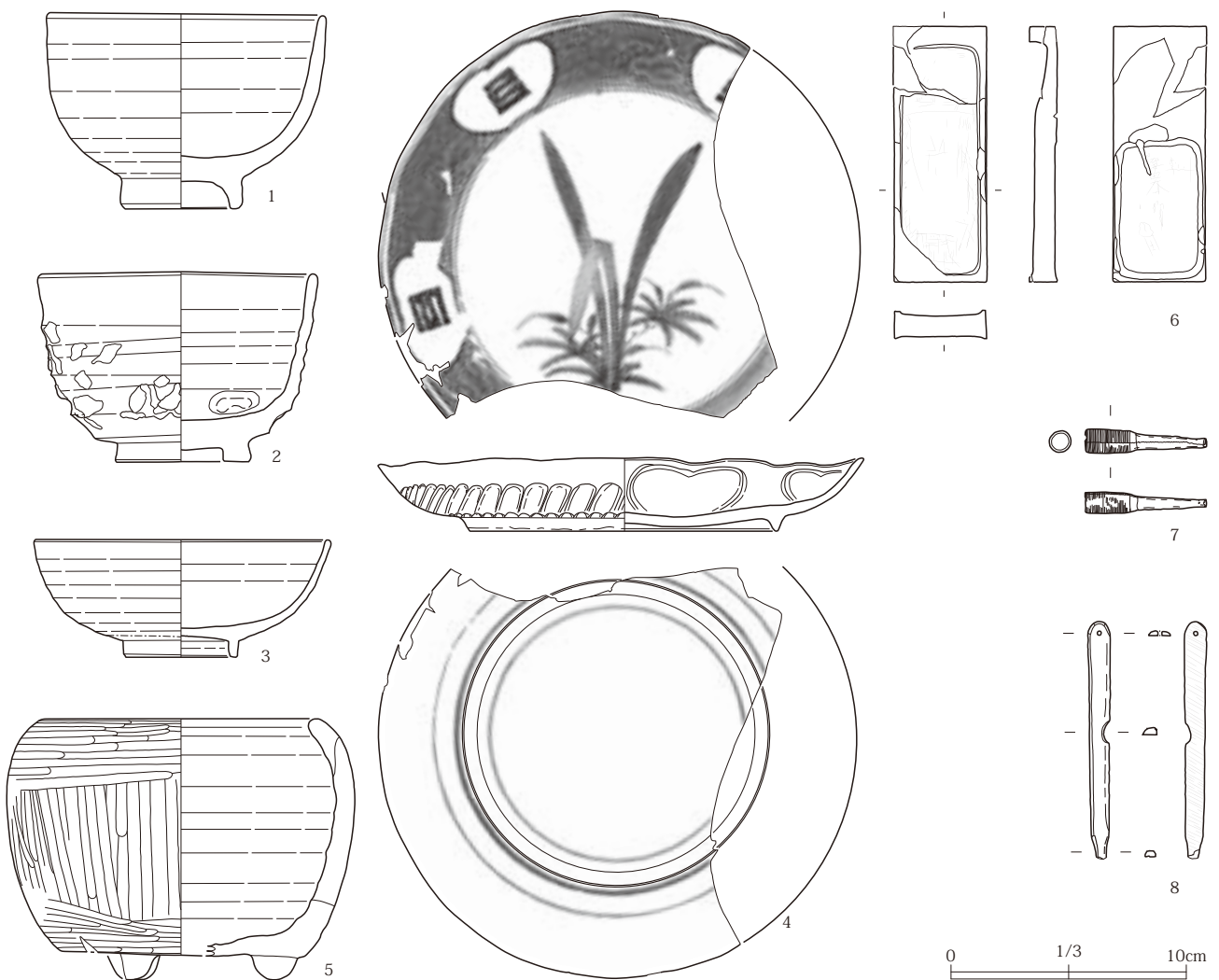
II層からは、陶器13点、磁器26点、土師質土器3点、土製品3点、瓦12点、石製品7点が出土している。その内、陶器8点、磁器4点、土師質土器1点、土製品2点、瓦6点を図示し、瓦3点、金属製品1点を写真掲載した。

I層 (第122・123図 写真図版21・34・35)

I層からは、陶器10点、磁器14点、土師質土器3点、瓦質土器1点、瓦24点、石製品3点、金属製品5点が出土している。他に、近・現代のガラス製品が多く出土した。その内、陶器2点、磁器2点、瓦質土器1点、瓦6点、石製品1点を図示し、陶器1点、瓦9点、金属製品3点を写真掲載した。

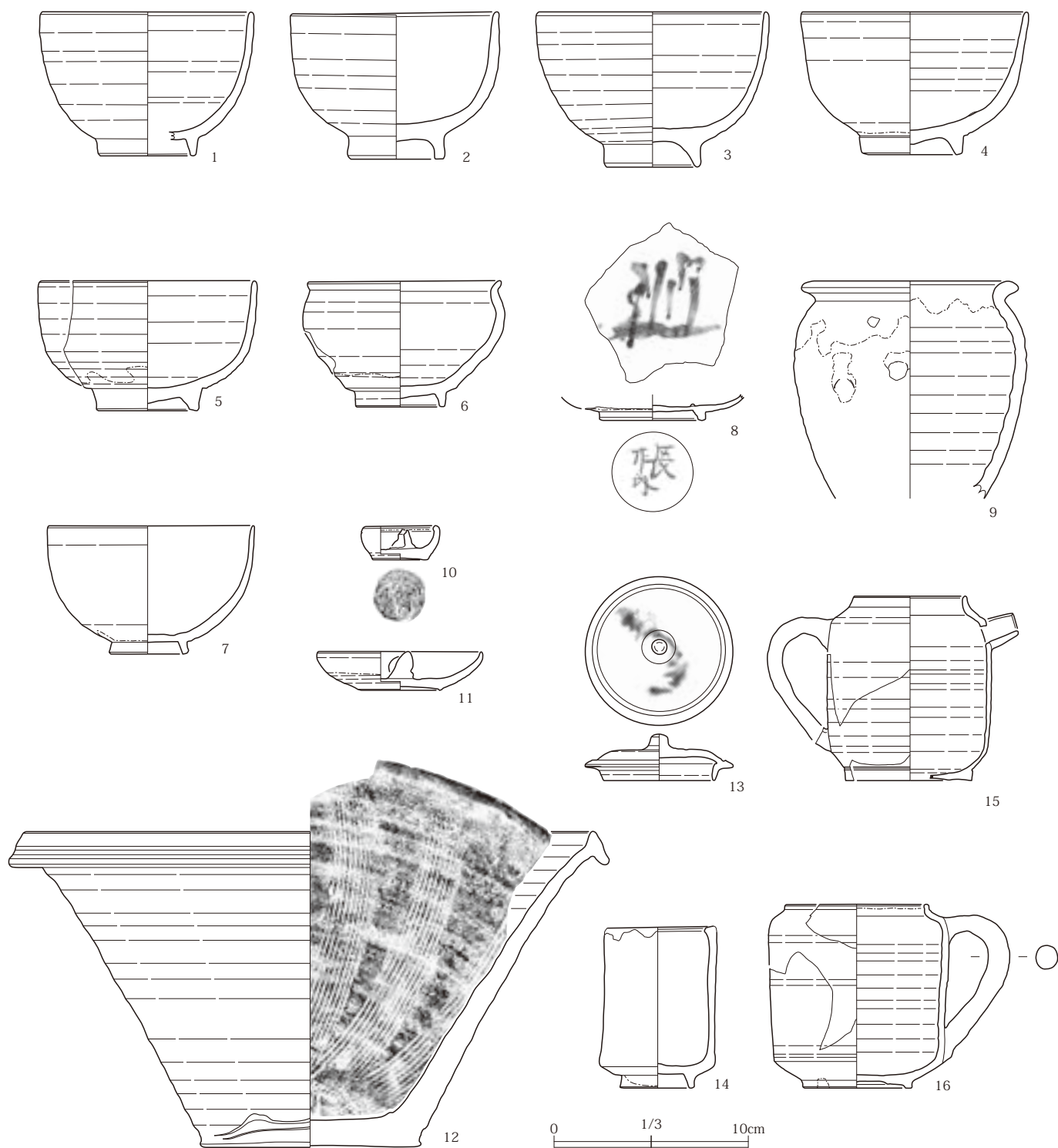
排土 (写真図版36・39)

I区IV層掘削中の排土中に確認した中から、土師質土器1点、金属製品1点を写真掲載した。



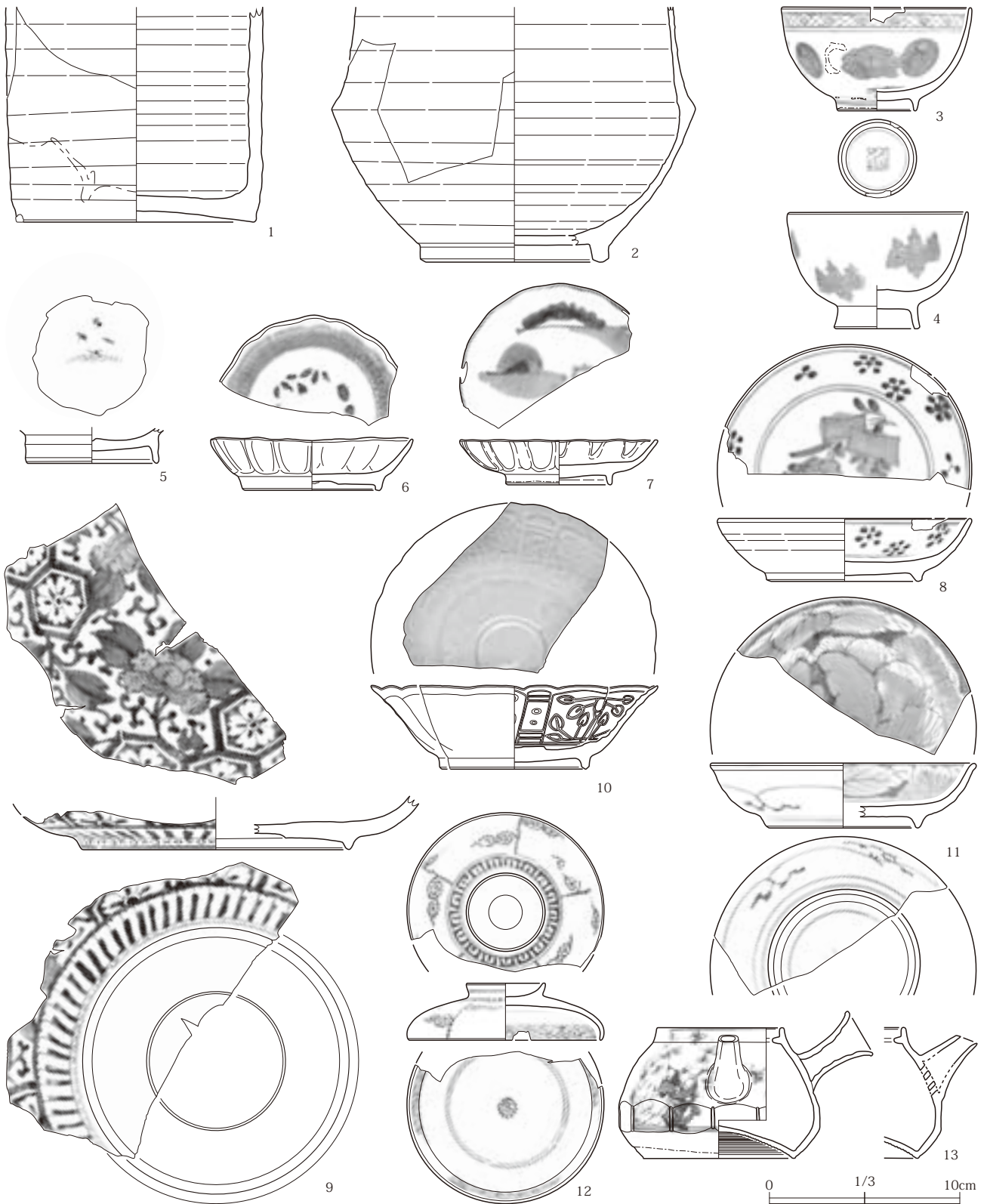
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録No.	
							口径	底径	器高			
1	C4 V層	陶器	碗	底面中央摩耗して輪葉	肥前	17C後半	11.6	4.8	8.4	19-1	I-86	
2	C4 V層	陶器	碗	掛け分けではない、軸の段階3つ	不明	18C	11.4	5.6	8.1	19-2	I-87	
3	C・D4 V層	陶器	皿	見込みに山水文	肥前	18C前半	12.4	4.7	5.0	19-3	I-88	
4	C4 V層	磁器	中皿	輪花皿 草文 口鏤 雲・波の染付 高台に梁支えの目跡3箇所	肥前	17C後半	(20.6)	13.0	3.1	19-4	J-62	
5	C4 V層	土師質土器	鉢		在地	江戸	(11.8)	10.3	11.1	19-5	Ca-7	
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)				写真図版	登録No.
							長さ	幅	厚さ	重量 (g)		
6	D6 V層	石製品	礎	裏面に線刻有り		江戸	18.1	6.6	2.0	410.0	35-8	Kd-7
7	F9 V層	金属製品	煙管			18C前半	「5.2」	1.0	(高さ)0.95	3.0	35-34	N-19
8	E4 V層	符角器	不明	上段に穿孔 裏面平坦 右側縁取り有り		江戸	「10.1」	0.95～0.45	-	3.0	19-6	O-1

第113図 V層 出土遺物



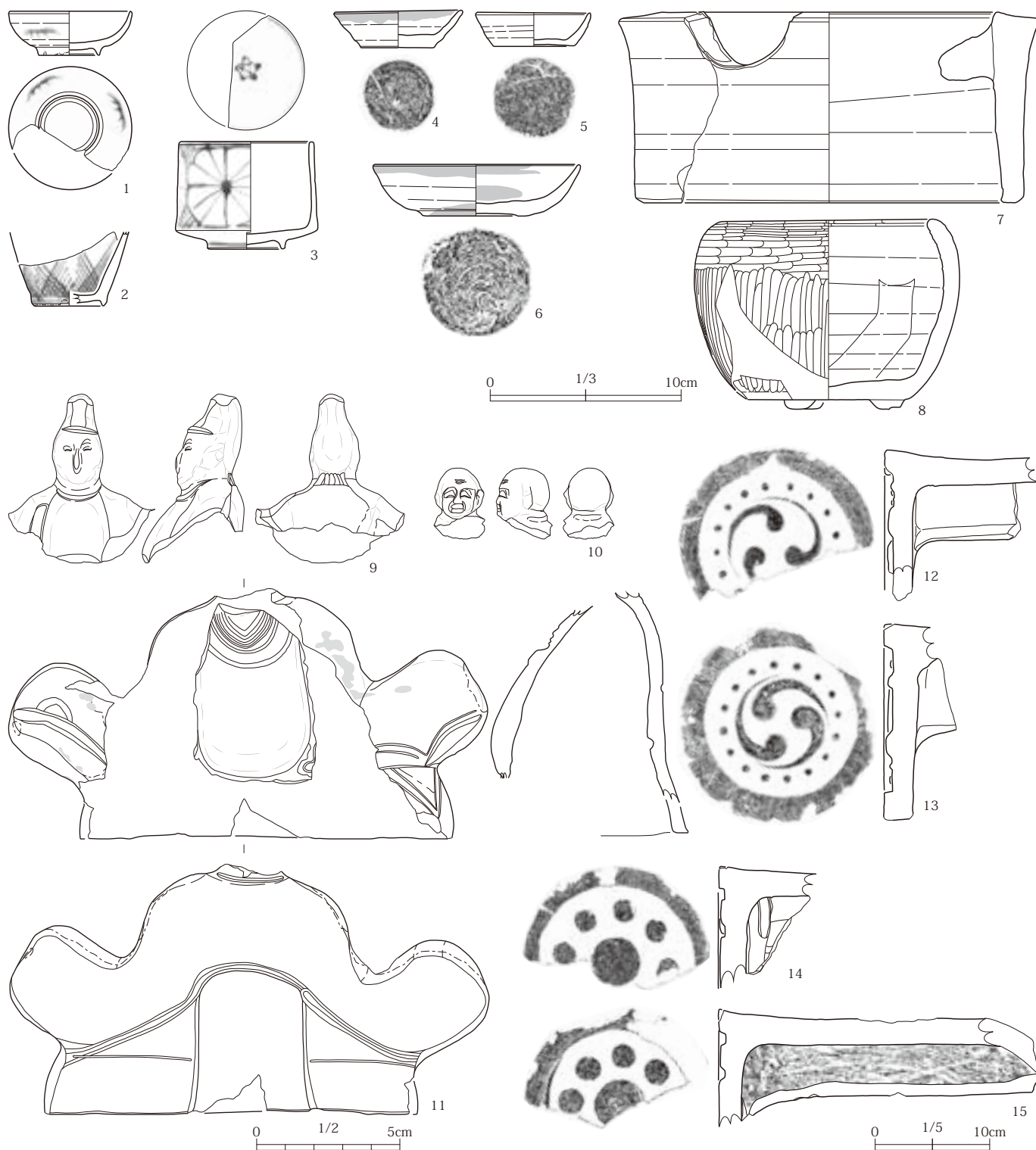
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	D7 IV a 層	陶器	碗		肥前	17C 後半	10.8	(4.8)	7.0	19-7	I-89
2	D7 IV a 層	陶器	碗		肥前	17C 後半	10.55	4.75	7.6	19-8	I-90
3	C・D4 IV a 層	陶器	碗		肥前	17C 後半	(11.8)	4.6	8.0	19-9	I-91
4	E8 IV a 層	陶器	碗	淡青釉に鉄釉流し 見込みに目跡が3箇所 厚く胎土は砂っぽい	小野相馬	18C	(11.6)	5.15	7.55	19-10	I-92
5	C8 IV a 層	陶器	碗		相馬系?	18C?	(10.9)	5.3	6.7	19-11	I-93
6	D8 IV a 層	陶器	碗		瀬戸美濃	17C?	(9.8)	4.5	「6.5」	19-12	I-94
7	F7 IV b 層	陶器	碗		肥前?	18C?	(10.5)	3.9	6.6	19-13	I-95
8	D8 IV a 層	陶器	皿	灰釉+鉄釉 見込みに3箇所目跡 高台内面に墨書有り	大塚相馬	19C 前半	-	5.1	「0.95」	19-17	I-96
9	D7 IV a 層	陶器	小型甕	ナマコ釉 内外面被熱で焼けはじけ	不明	19C	(10.6)	-	「11.2」	19-21	I-97
10	E8 IV a 層	陶器	灯明皿	全面施釉 鉛釉 透明釉	地元産?	19C	3.1	2.8	1.75	19-18	I-98
11	E8 IV a 層	陶器	灯明皿	元々は黒色系の釉 (鉄釉?)	大塚相馬	18C ~ 19C	(8.4)	4.0	2.0	19-19	I-99
12	C4 IV a 層	陶器	摺鉢	鉄釉 底面外側摩滅著しい	岸竈	17C 末 ~ 18C 前	(29.2)	(11.3)	16.3	19-22	I-100
13	E8 IV a 層	陶器	蓋	灰釉に鉛釉流し 土瓶の蓋 つまみ径 1.1cm	不明	18C 末 ~ 19C 前	蓋径 7.6、口径 5.7	-	2.4	19-16	I-101
14	E7・8 IV a 層	陶器	灰吹	白濁釉に青釉流し 口縁部はキセルで叩いている	大塚相馬	19C 前 ~ 中頃	5.6	3.5	8.3	19-20	I-102
15	D8 IV a 層	陶器	水注	灰釉に鉛釉流し	大塚相馬	18C 後 ~ 19C 前	(5.6)	(6.5)	9.5	19-14	I-103
16	E7・8 IV a 層	陶器	水注	白濁釉に鉛釉流し	大塚相馬	19C 前半	(7.2)	5.6	9.45	19-15	I-104

第114図 IV層 出土遺物(1)



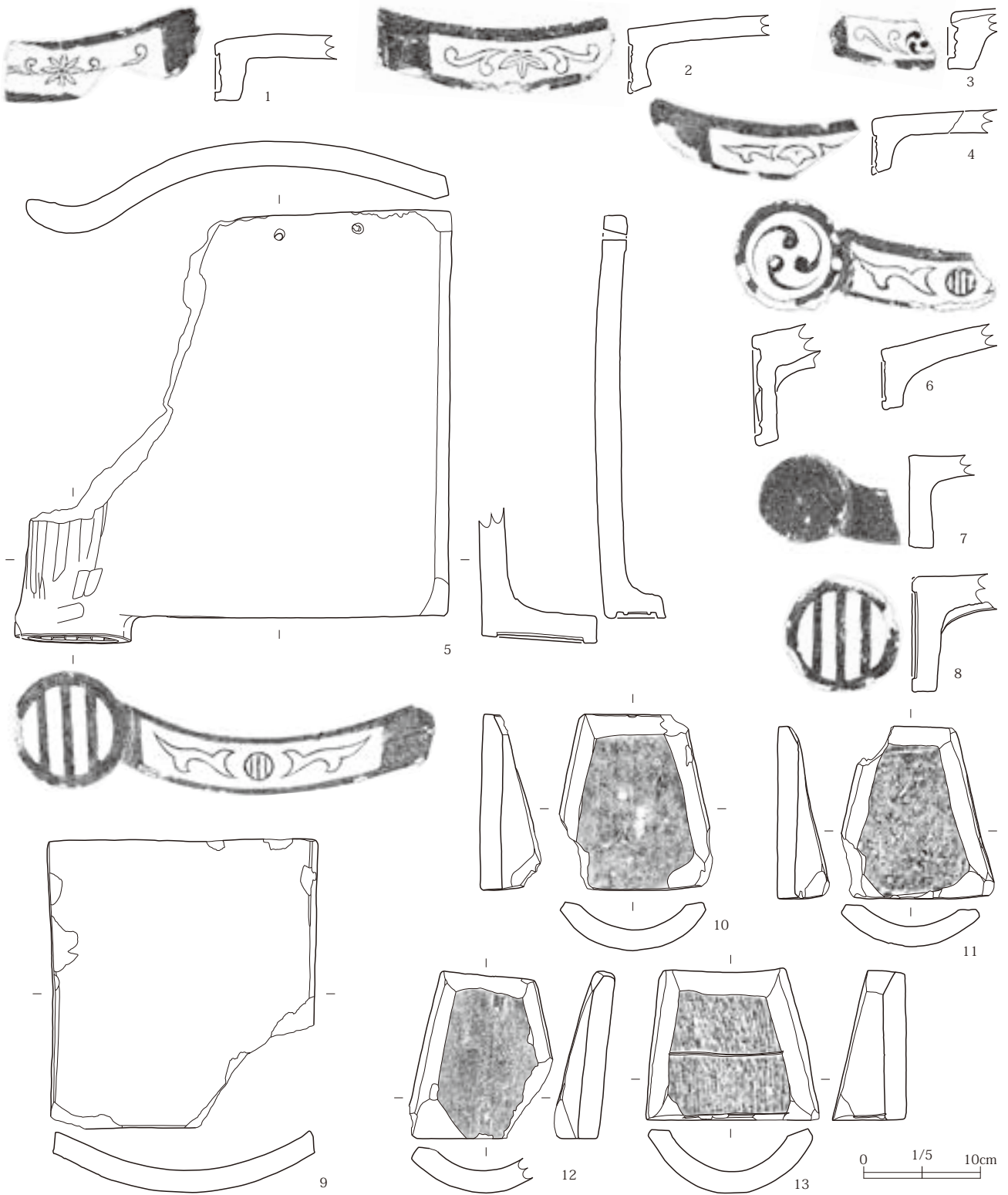
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	D8・9 IV a 層	陶器	花器	鉄軸 黒ずんだ軸	不明	江戸	—	12.5	「11.3」	19-23	I-105
2	F8 IV b 層	陶器	花瓶?		不明	江戸	—	9.9	「13.4」	19-24	I-106
3	F8 IV a 層	磁器	碗	染付碗 草花文(芙蓉?) ヨモダスギ(少し崩れ気味) 高台内に二重棒の福	肥前	18C後半	9.9	4.1	5.45	19-25	J-63
4	C・D4 IV a 層	磁器	碗	桐紋(蒔荷印)	肥前	18C前半	9.4	4.3	6.1	19-26	J-64
5	D8 IV a 層	磁器	碗	広東碗? 文は不明	肥前	18C末~19C前	—	6.8	「1.7」	19-27	J-65
6	D8 IV a 層	磁器	皿	微塵唐草の略文? 蛇の目凹凸台 見込みに目跡 輪花皿	肥前	19C	(10.6)	(7.1)	2.8	19-28	J-66
7	E4 IV a 層	磁器	皿	山水文 口縁 輪花皿	肥前	19C前半	(10.2)	5.4	2.4	19-29	J-67
8	C4 IV a 層	磁器	皿	草花文	肥前	17C中頃	(13.2)	(8.2)	3.3	19-30	J-68
9	E9 IV a 層	磁器	中皿	亀中文+花(芙蓉) 草花文 蛇の目凹凸台 高台脇に○×文+連弁	肥前	18C中~半	—	(14.1)	「2.8」	19-31	J-69
10	D8 IV a 層	磁器	皿	青磁 見込みは敬えて軸刺ぎしていない 内型押し 草文 輪花皿	国産	17C後半	(15.0)	(7.6)	4.4	20-1	J-70
11	E9 IV a 層	磁器	皿	草花文 高台内に銘(不明) 外面に蔓草文	肥前	17C後半	(13.8)	(7.8)	3.4	20-2	J-71
12	E7・8 IV a 層	磁器	蓋	口にヨモダスギ 外面に満文 見込みに文(不明) 焼継ぎ跡有り つまみ径4.0cm	肥前	18C後半	10.0	—	3.0	20-3	J-72
13	E7・8 IV a 層	磁器	急須	幕末?	瀬戸美濃	19C	6.5	8.0	7.7	20-4	J-73

第115図 IV層 出土遺物(2)



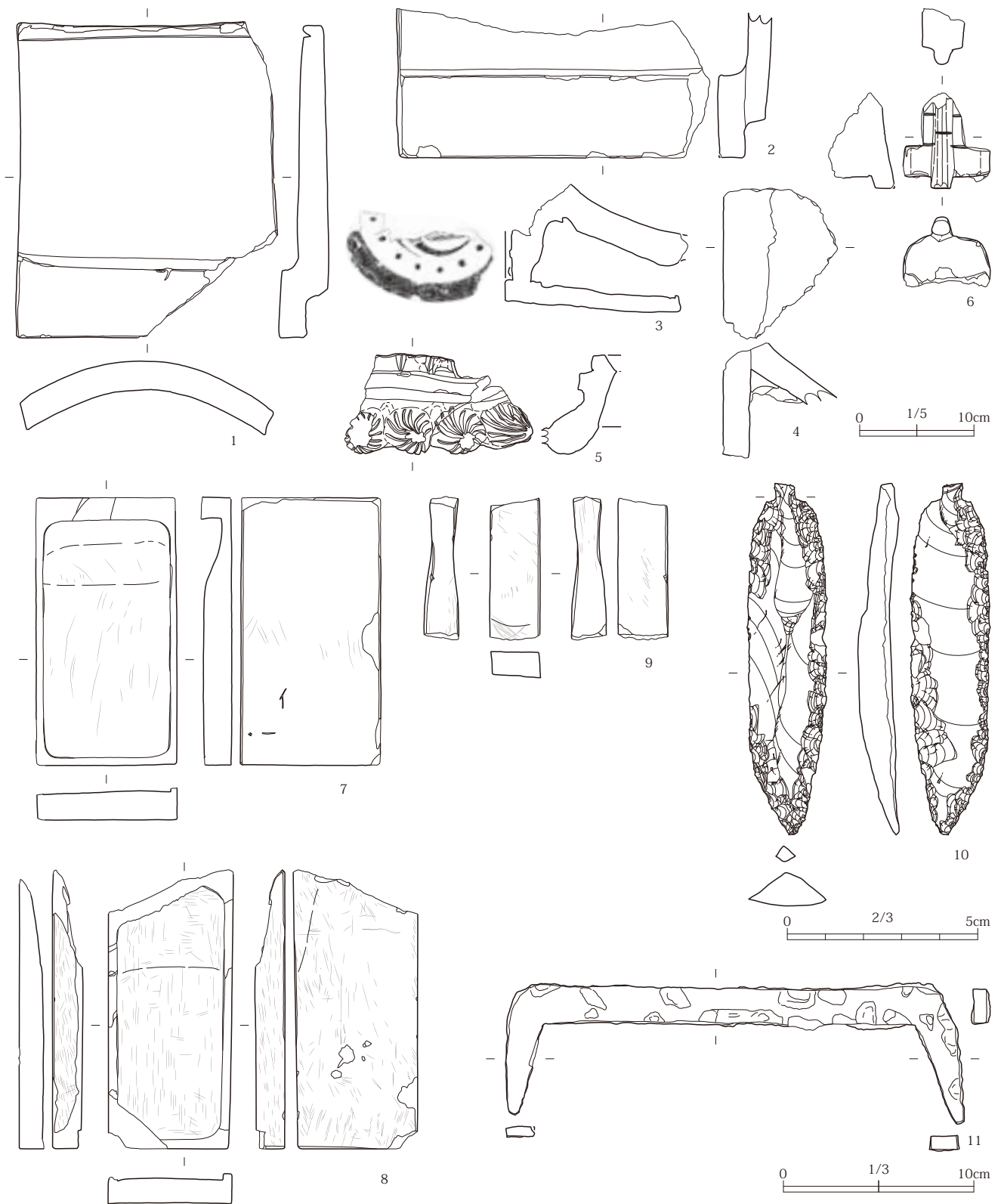
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.			
							口径	底径	器高					
1	F7 IV b 層	磁器	楕口		肥前?	19C?	5.8	3.2	2.3	20-5	J-74			
2	F8 IV b 層	磁器	ぐい呑み		肥前?	19C?	—	(3.6)	「3.9」	20-6	J-75			
3	E7・8 IV a 層	磁器	楕口		肥前?	19C?	(6.8)	3.8	5.62	20-7	J-76			
4	E7 IV a 層	土師質土器	皿		在地	江戸	6.6	3.8	1.9	20-8	Da-19			
5	E9 IV a 層	土師質土器	皿		在地	江戸	5.9	4.3	1.8	20-9	Da-20			
6	F7 IV b 層	土師質土器	皿		在地	江戸	10.7	5.6	2.7	20-10	Da-21			
7	E4・5 IV c 層	瓦質	不明		在地	江戸	(21.8)	(19.4)	10.0	20-11	T-8			
8	D7 IV a 層	土師質土器	鉢		在地	江戸	(10.8)	(4.5)	9.9	20-12	Ca-8			
9	E8 IV a 層	土製品	土人形		在地	江戸	(長さ)「5.9」	(幅)「5.1」	(厚さ)2.3	20-13	P-7			
10	F8 IV a 層	土製品	土人形		在地	江戸	(長さ)「2.5」	(幅)「1.8」	(厚さ)1.35	20-14	P-8			
11	E7・8 IV a 層	土製品	土人形		在地	江戸	(高さ)「8.75」	(幅)16.7	(厚さ)0.9	20-15	P-9			
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)					重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚	周縁高					
12	E7・8 IV a 層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	「13.5」	1.8	12.8	—	0.7	1,106.0	ナデ	ケズリ	32-14	F-35
13	E7・8 IV a 層	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	—	2.4	12.4	2.5	0.8	1,113.0	ナデ	—	32-17	F-36
14	E8 IV a 層	軒丸瓦	九曜文		—	1.8	「9.8」	—	0.5	889.0	ナデ	—	32-15	F-37
15	E7・8 IV a 層	軒丸瓦	九曜文		「28.0」	2.1	「8.1」	—	0.5	1,700.0	ナデ、ケズリ	コビキ散、ケズリ	32-16	F-38

第116図 IV層 出土遺物(3)



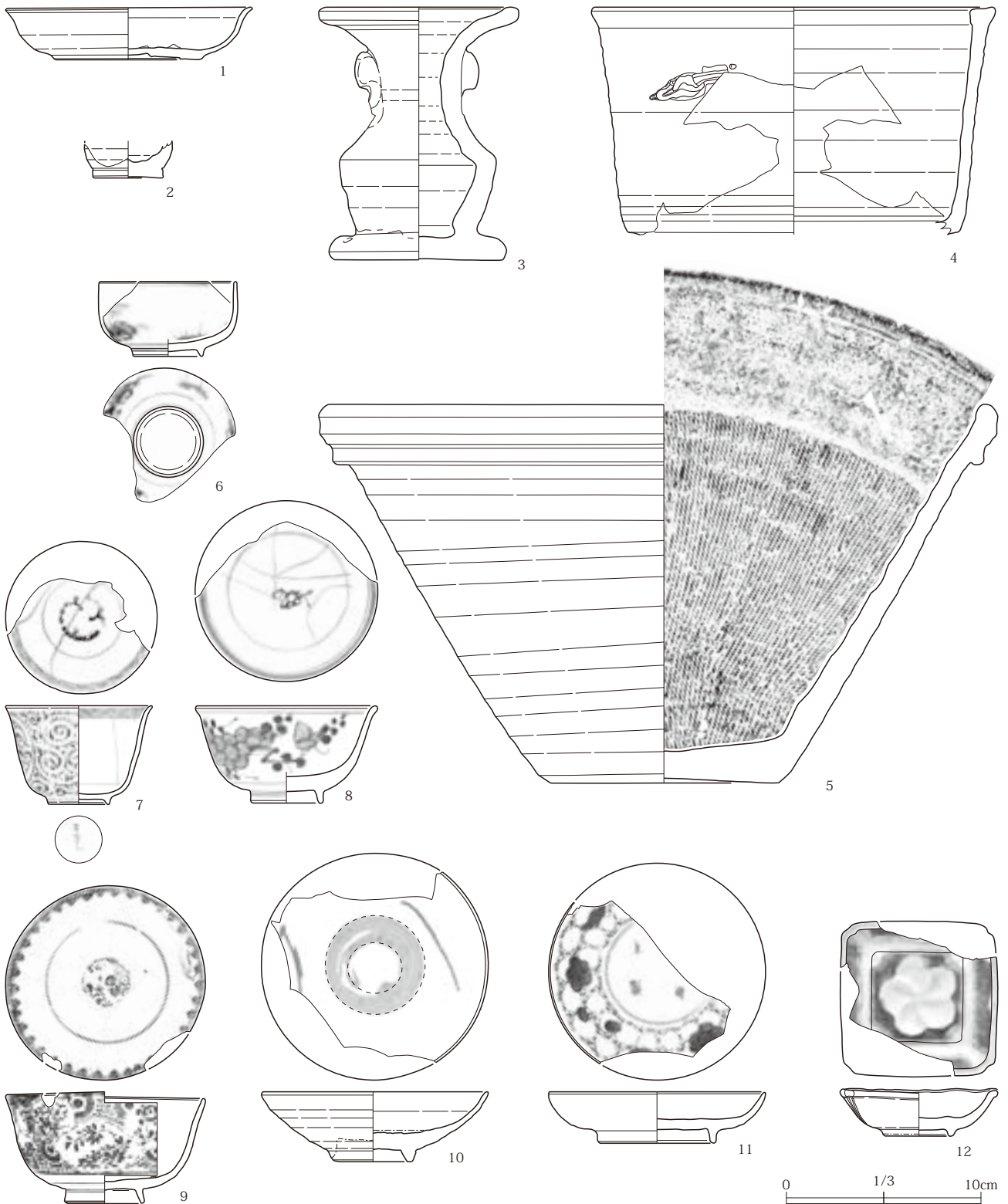
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	幅	厚さ	瓦当幅・径	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚	周縁高	瓦当高						
1	E8 IV a 層	軒平瓦	花文 (8 本)		—	—	—	「17.0」	0.7	「13.6」	2.0	—	8.0	617.0	ナデ	ナデ	32-18	G-39	
2	E8 IV a 層	軒平瓦	笹文雪持ち		—	—	—	「20.0」	0.9	「15.5」	(2.0)	—	「5.6」	672.0	ナデ	ナデ	32-19	G-40	
3	D9 IV a 層	軒平瓦	三巴文	巴、左巻き	—	—	—	「9.3」	1.0	「8.2」	2.2	—	—	154.0	—	—	33-1	G-41	
4	E8 IV a 層	軒平瓦	笹文三枚笹		—	—	—	「17.5」	0.6	「12.8」	1.6	—	7.0	589.0	ナデ	ナデ	33-2	G-42	
5	E9 IV a 層	軒棧瓦	縦三引両文 + 縦三引両文		「11.6」	最大幅 36.9	—	丸 「9.4」 平 26.2	1.1 0.7	7.8 20.6	2.3 1.9	0.2 —	— 4.9	4,060.0	ナデ、ケズリ	ナデ	33-3	Ha-6	
6	D8 IV a 層	軒棧瓦	三巴文 + 縦三引両文	巴、左巻き	「5.9」	最大幅 「22.5」	—	丸 「9.3」 平 「12.4」	0.8 0.6	7.2 「12.4」	1.9 1.8	0.5 —	— —	807.0	ナデ	ナデ	33-4	Ha-7	
7	E6 IV a 層	軒棧瓦	無文		5.6	最大幅 「12.0」	—	7.7	—	—	2.1	—	—	367.0	—	—	33-5	Ha-8	
8	E9 IV a 層	軒棧瓦	縦三引両文 + 不明		「6.5」	最大幅 「13.4」	—	(9.85)	1.1	7.5	2.0	0.2	—	559.0	—	—	33-6	Ha-9	
9	D8 IV a 層	平瓦	—		24.6	広端 「23.1」、狭端 「13.4」	1.9	—	—	—	—	—	—	1,950.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	33-7	G-43	
10	E7・8 IV a 層	輪造い	—		「15.1」	広端 「10.7」、狭端 「8.6」	「5.3」	—	—	—	—	—	—	522.0	ナデ	コビキ痕、ケズリ	33-8	Hc-77	
11	E7・8 IV a 層	輪造い	—		「14.7」	広端 「12.4」、狭端 「5.3」	1.7	—	—	—	—	—	—	426.0	ナデ	—	33-9	Hc-78	
12	F8 IV a 層	輪造い	—		14.35	広端 (8.2)、狭端 8.3	1.9	—	—	—	—	—	—	423.0	ナデ	—	33-10	Hc-79	
13	E7・8 IV a 層	輪造い	—		12.8	広端 14.8、狭端 10.4	1.85	—	—	—	—	—	—	562.0	ナデ	—	33-11	Hc-80	

第117図 IV層 出土遺物 (4)



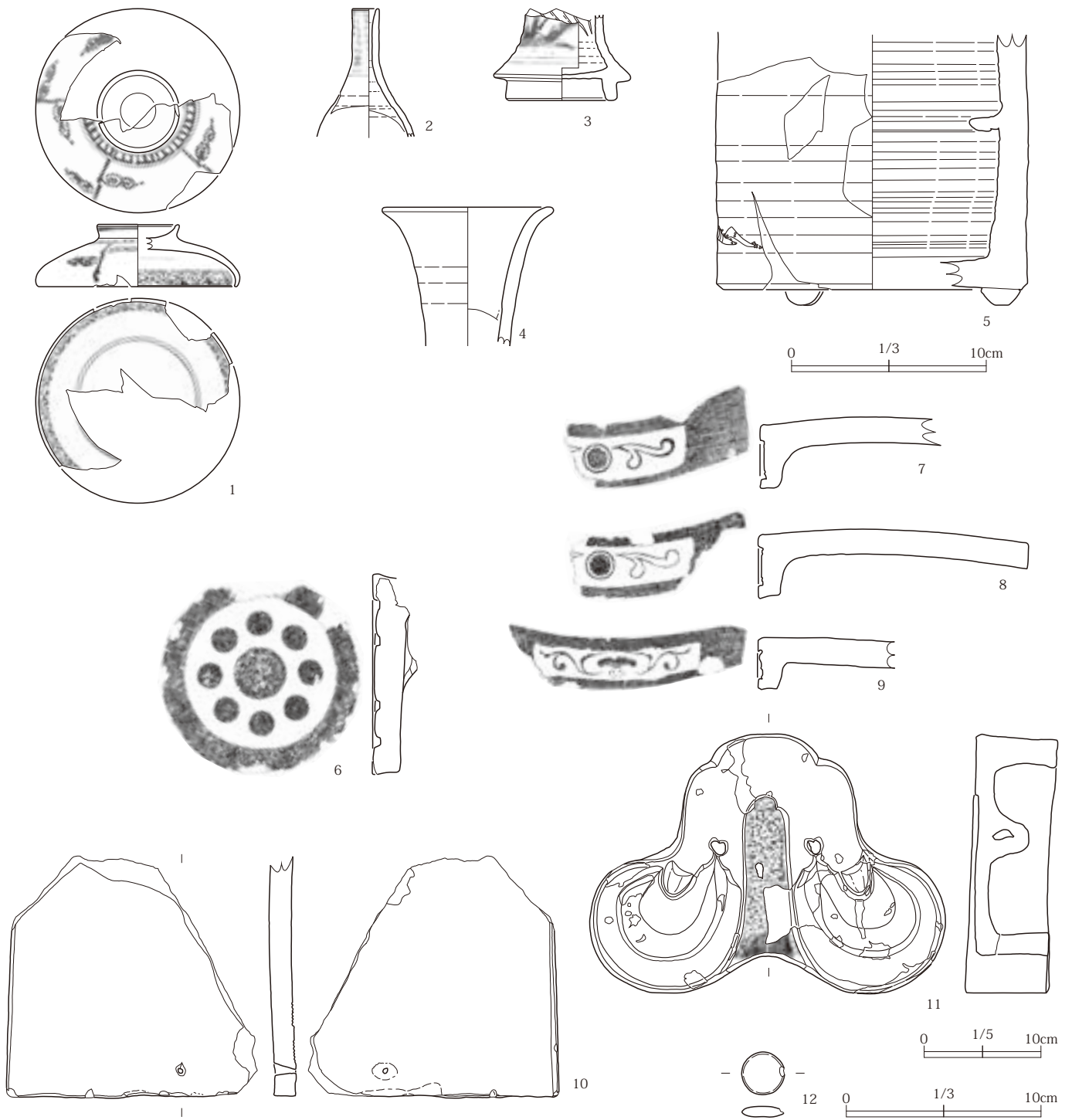
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	幅	高さ	厚さ	奥行	奥行き	瓦当径	周縁幅	文様区径	周縁高					
1	E7・8 IV a 層	角椀伏間瓦	不明		27.2	広端「18.9」、狭端「11.1」	—	2.6	—	—	—	—	—	—	2,382.0	ナデ、ケズリ	ナデ	33-12	Hc-81
2	F9 IV a 層	角椀伏間瓦	—		「13.1」	「27.4」	4.3	2.0	—	—	—	—	—	1,519.0	ナデ、ケズリ	ナデ	33-13	Hc-82	
3	E7・8 IV a 層	鳥衾	珠文三巴文	巴、左巻き	「15.4」	—	—	—	—	(16.0)	1.8	「11.4」	0.6	1,653.0	ナデ	ナデ	33-14	Hc-83	
4	E8 IV a 層	鳥衾	—		「10.0」	「13.2」	「10.0」	—	—	「7.3」	—	—	—	617.0	ナデ	ナデ	33-15	Hc-84	
5	E8 IV a 層	鬼瓦	—		—	「16.4」	「8.6」	—	「6.7」	—	—	—	—	450.0	ケズリ	ナデ	33-16	Hb-6	
6	E8 IV a 層	瓦塔	—		「8.4」	「7.6」	—	「5.2」	—	—	—	—	—	185.0	ケズリ	ナデ	33-17	P-12	
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.							
							長さ	幅	厚さ										
7	C4 IV a 層	石製品	硯			江戸	14.1	7.4	1.5	334.0	35-9	Kd-8							
8	C4 IV a 層	石製品	硯			江戸	「14.65」	6.55	1.6	227.0	35-10	Kd-9							
9	E9 IV a 層	石製品	砥石			江戸	「7.5」	2.6	1.8	62.0	35-11	Kd-10							
10	E4 IV c 層	石器	石匙	石材：珪質頁岩		縄文	9.25	2.05	0.2~0.8	16.0	35-12	Ka-1							
11	D8 IV a 層	金属製品	鏝			江戸	24.1	2.4	0.55~0.95	251.4	35-29	N-20							

第118図 IV層 出土遺物(5)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	C5・6 III a 層	陶器	皿		肥前?	18C?	12.5	7.4	2.7	20-16	I-107
2	E9 III b 層	陶器	豆鉢	軟質青釉 鉛釉	地元産?	不明	—	3.6	「1.9」	20-17	I-108
3	D9 III b 層	陶器	仏花瓶	鉄釉 赤い胎土	岸窯	17C後半	9.6	8.7	13.0	20-18	I-109
4	E8 III b 層	陶器	鉢	刷毛目文の鉢	不明	18C以降	(20.4)	—	「11.7」	20-19	I-110
5	E5 III b 層	陶器	摺鉢		岸窯?	18C前半?	(33.8)	11.7	19.5	20-20	I-111
6	D4 III b 層	磁器	小鉢	外面に松竹梅	肥前	18C	(7.1)	3.6	3.85	20-21	J-77
7	D8 III b 層	磁器	小杯?	焼継ぎ跡有り 高台内の路2~3文字(朱書き) ヨモダスギ 見込みに環状の松竹梅	肥前	18C後~19C初	(7.5)	3.1	5.1	20-22	J-78
8	E8 III b 層	磁器	碗	草花文 焼継ぎ跡有り	肥前	18C末~19C前	9.3	3.6	5.0	20-23	J-79
9	E5 III b 層	磁器	碗	染付 型胎摺り シジミ唐草文+菊花文 松竹梅 見込みに目跡	会津 or 山形	19C後半	10.8	(3.75)	5.75	20-24	J-80
10	C4 III b 層	磁器	皿	染付 蛇の目輪割ぎ 渦巻き状の部分有り	波佐見	17C後~18C前	(11.5)	4.1	「3.6」	20-25	J-81
11	E8 III b 層	磁器	蓋	見込みに「大明年型」 チョウレツの梅花文	肥前	17C~18C初	(11.0)	(5.9)	2.65	20-26	J-82
12	D8 III b 層	磁器	皿	染付 梅花文	不明	19C前葉~中葉	(8.0)	3.5	2.5	20-27	J-83

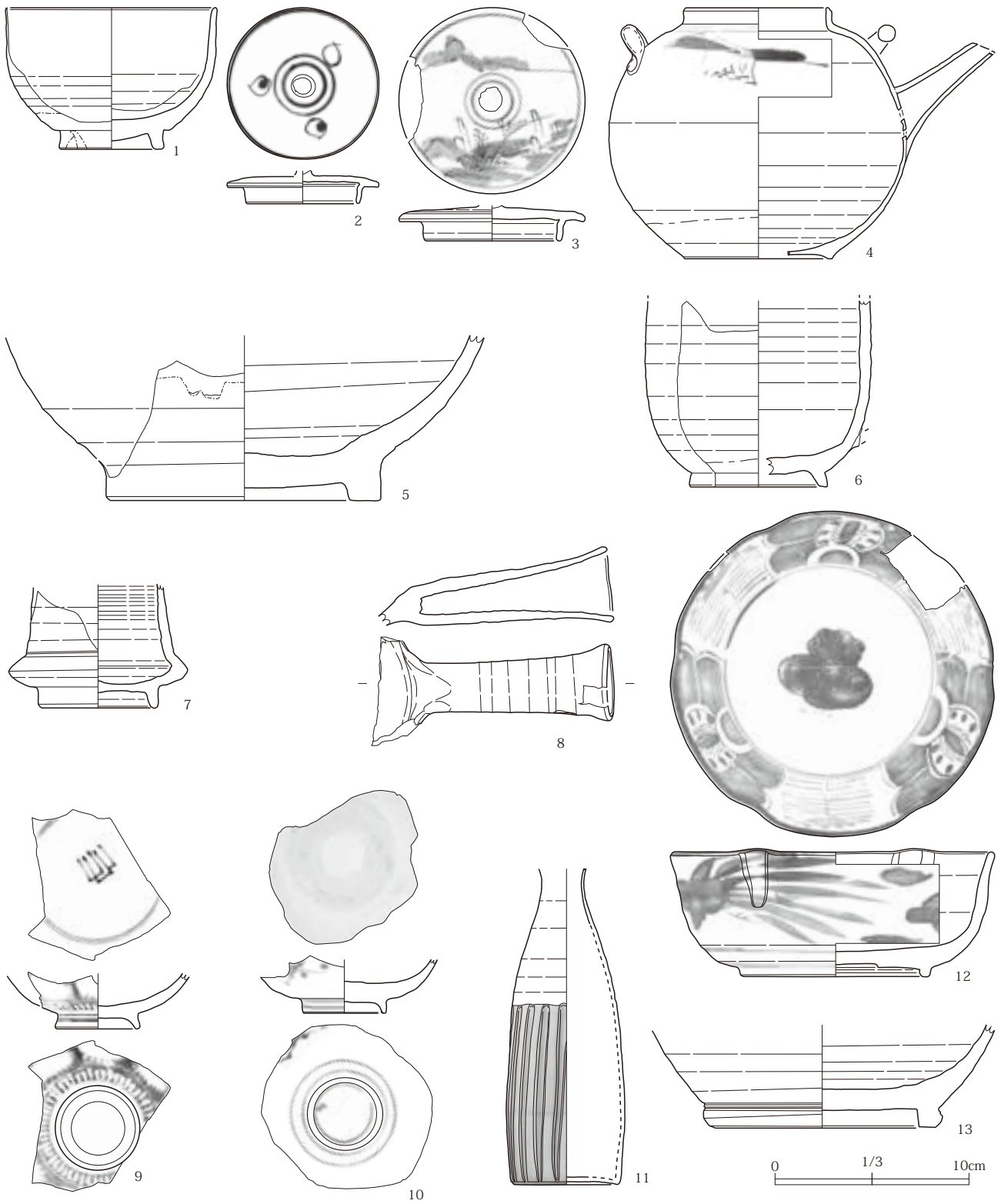
第119図 III層 出土遺物(1)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.							
							口径	底径	器高										
1	D8・9 Ⅲ b 層	磁器	皿				10.2	(4.2)	3.2	21-1	J-84								
2	F9 Ⅲ b 層	磁器	一輪押し	染付 綾れ首瓶	肥前	19C	1.3	—	(6.65)	21-2	J-85								
3	E7 Ⅲ b 層	磁器	仏花器	草文	肥前	18C 末～19C 前	—	5.4	「2.1」	21-3	J-86								
4	F7 Ⅲ b 層	磁器	瓶	青磁	波佐見	18C 後～19C 前	8.6	—	「7.2」	21-4	J-87								
5	D7 Ⅲ b 層	瓦質	涼炉				—	(16.0)	「13.9」	21-5	T-9								
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	幅	高さ	厚さ	瓦当幅・径	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚	周縁高	瓦当高					
6	E7 Ⅲ b 層	軒丸瓦	丸文		—	—	—	—	(17.3)	2.0	12.6	2.3	0.6	—	858.0	—	—	34-1	F-39
7	E8 Ⅲ b 層	軒平瓦	丸文		「15.5」	—	—	—	「15.5」	0.7	「10.0」	1.8	—	5.4	863.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-2	G-44
8	E8 Ⅲ b 層	軒平瓦	丸文		23.0	—	—	—	「14.7」	1.0	「10.1」	1.9	—	5.4	1,375.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-3	G-45
9	Ⅲ b 層	軒棧瓦	不明		11.8	14.0	4.5	1.8	「20.4」	0.8	14.0	1.8	—	5.8	659.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-4	Ha-10
10	Ⅲ b 層	平瓦	—		「20.7」	「20.0」	—	1.85	—	—	—	—	—	—	1,045.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-5	G-46
11	Ⅲ b 層	鬼瓦	—		—	30.4	22.15	—	—	—	—	—	—	—	2,313.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-6	Hb-7
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)		重量 (g)	写真図版	登録 No.								
							体部径	厚さ											
12	E7 Ⅲ b 層	石製品	碇石				2.2	0.5	3.0	35-13	Kd-11								

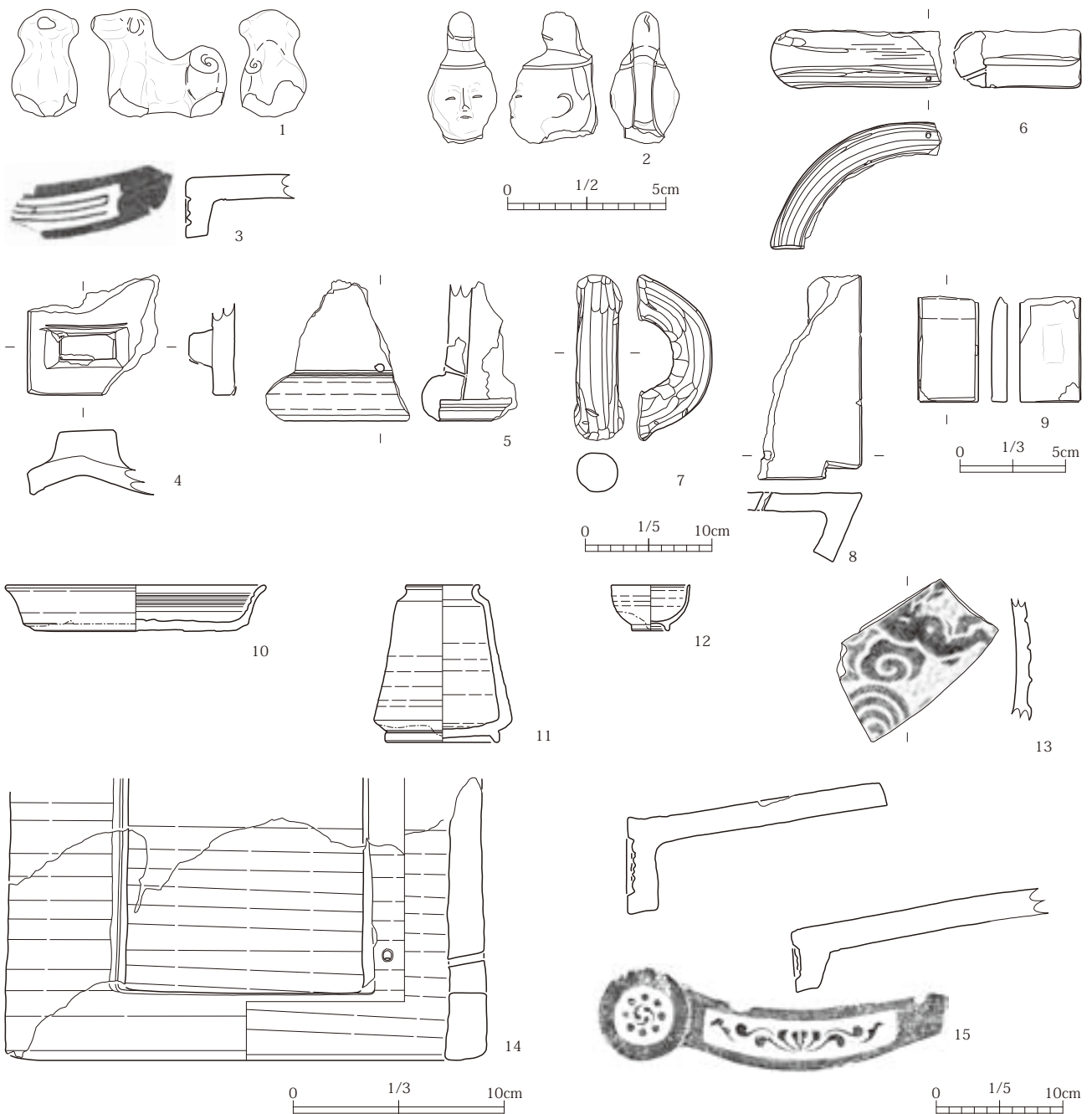
第120図 Ⅲ層 出土遺物(2)

第6節



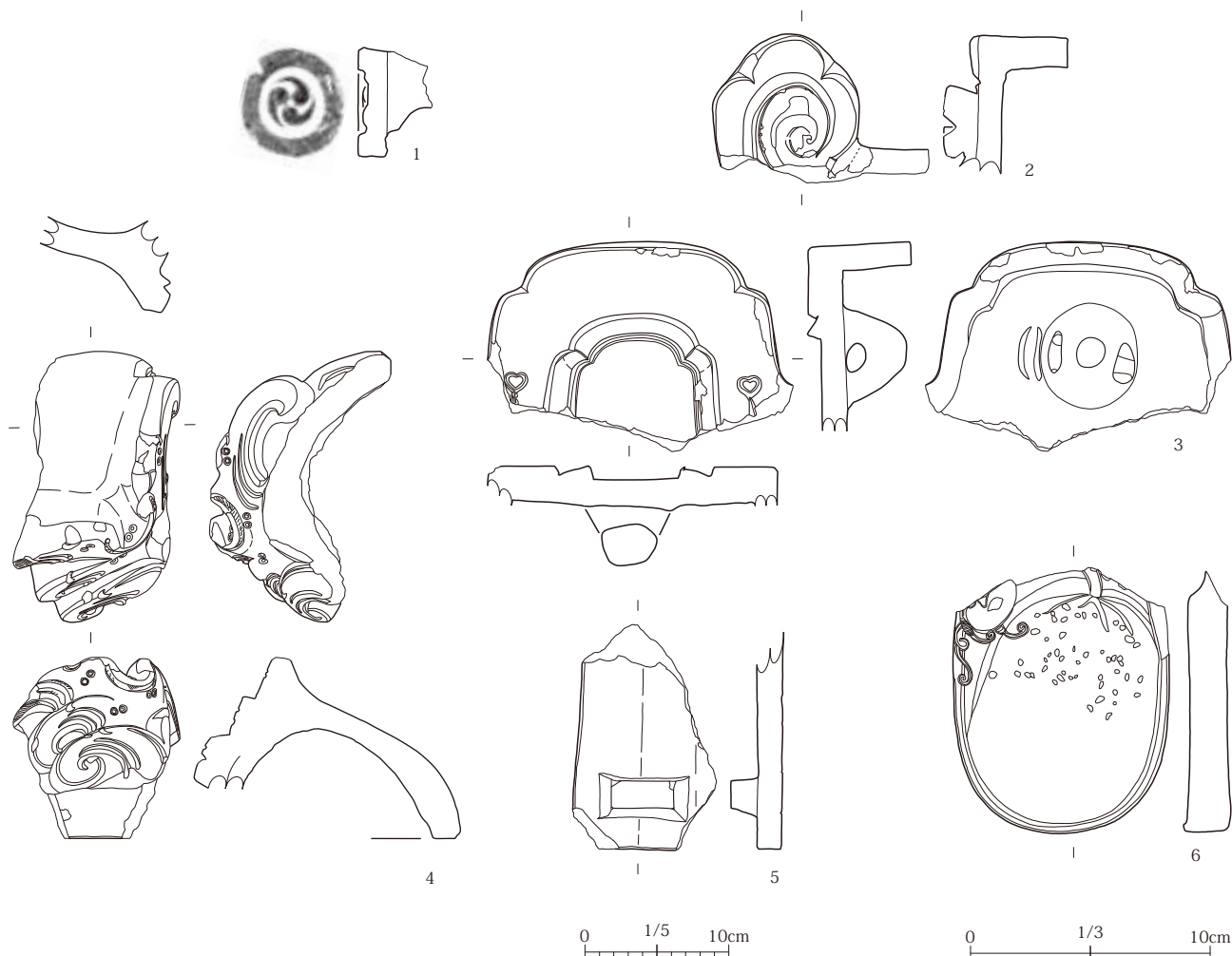
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.
							口径	底径	器高		
1	E6 II b 層	陶器	碗	尾白茶碗 褐色の釉 卵の斑軸 油筋跡	美濃	18C	(10.75)	5.2	7.3	21-6	I-112
2	D5 II a 層	陶器	蓋		相馬系	18C 後半?	蓋径 7.8、口径 5.8	—	「1.7」	21-7	I-113
3	E8 II a 層	陶器	蓋		相馬系	18C 後半?	蓋径 (9.6)、口径 7.0	—	「1.8」	21-8	I-114
4	E8 II a 層	陶器	土瓶		大塚相馬	19C 前半	(7.4)	(7.6)	13.0	21-9	I-115
5	F8 II b 層	陶器	裏	焼成不良	不明	江戸	—	13.9	「8.5」	21-10	I-116
6	F8 II a 層	陶器	水注?	黒釉	福島産?	19C	—	(7.05)	「9.6」	21-11	I-117
7	C4 II b 層	陶器	仏花器	外面にゴス絵	瀬戸	18C	—	5.8	「5.9」	21-12	I-118
8	D7 II a 層	陶器	焙烙		堤	19C 前半	(長さ)12.5	(高さ)3.9	(厚さ)0.6	21-13	I-119
9	E8 II a 層	磁器	碗	雪輪文 染付 下は連弁 (崩れている) 見込み源氏香文 焼継ぎ跡有り	肥前	19C 前	—	4.2	「2.85」	21-14	J-88
10	E8・9 II a 層	磁器	皿	染付 見込みに蛇の目	肥前	17C 後～18C 前	—	4.2	「2.8」	21-15	J-89
11	E4 II b 層	磁器	徳利	銘文 (青磁釉+透明釉)	瀬戸美濃?	19C 後半	— 5.4 「6.3」	—	—	21-17	J-90
12	E8 II a 層	磁器	鉢	外面に雲+鳳凰 内面に草花文	地方窯	19C-20C	— 16.4	9.5	6.6	21-16	J-91
13	E8 II a 層	土師質土器	大皿		在地	江戸	— 11.4 「5.3」	—	—	21-18	Ca-9

第121図 II層 出土遺物(1)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			写真図版	登録 No.							
							長さ	幅	厚さ									
1	C6 II a 層	土製品	土人形				4.3	2.1	3.4	21-19	P-10							
2	C8 II a 層	土製品	土人形	首から頭部にかけて 2.4cm の孔が認められる 棒の痕跡?			「4.2」	2.15	2.75	21-20	P-11							
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)						重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.			
長さ	幅	厚さ	高さ	奥行き	周縁幅	文様区幅	瓦当厚	瓦当高	瓦当幅									
3	D9 II a 層	軒平瓦	巴文		—	—	—	—	0.9	「8.5」	1.65	5.5	「13.2」	334.0	ナデ	—	34-7	G-47
4	F8 II a 層	駒形雪止棧瓦	—		「9.5」	「10.45」	「3.65」	「5.25」	—	—	—	—	—	258.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-9	Ha-12
5	D・E7 II a 層	伏間瓦	—		「11.1」	「10.6」	1.6	—	—	—	—	—	—	237.0	ケズリ	—	34-10	Hc-85
6	E2 II a 層	伏間瓦	—		「4.7」	「13.5」	—	10.0	—	—	—	—	—	223.0	ケズリ	ケズリ	34-11	Hc-86
7	E7 II a 層	鬼瓦	—		「13.1」	3.2	—	—	「6.0」	—	—	—	—	189.2	ケズリ	ケズリ	34-12	Hb-8
8	C7 II a 層	不明	—		「16.0」	「7.8」	1.4	5.4	—	—	—	—	—	410.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-13	Hc-87
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.						
長さ	幅	厚さ																
9	E4 II b 層	石製品	碗				「5.0」	2.9	0.75	24.0	35-14	Kd-12						
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.				
口径	底径	器高																
10	D2 I 層	陶器	皿	長石軸・銅緑軸 高台へラ削り	織部?	17C 前半?	(12.4)	(9.6)	「2.2」	21-21	I-120							
11	C・D5 I 層	陶器	仏花器	淡青色軸 扇付き小壺	小野相馬	18C	(3.35)	5.4	7.45	21-22	I-121							
12	E2 I 層	磁器	ままごと道具				(3.6)	(1.7)	「2.2」	21-23	J-92							
13	E2 I 層	陶器	不明				(長さ)「5.8」	—	(厚さ)「0.9」	21-24	I-122							
14	D2 I 層	瓦質	七輪				—	22.8	「13.5」	21-25	T-10							
No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)						重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.			
長さ	瓦当幅・径	周縁幅	文様区幅・径	瓦当厚	周縁高													
15	D2 I 層	軒棧瓦	珠文三巴文 江戸式	巴、右巻き	丸	20.5	7.6	1.5	4.5	2.4	0.5	2,047.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-14	Ha-13		
					平	「20.3」	20.6	1.1	15.0	2.4	—							

第122図 II層 出土遺物(2)、I層 出土遺物(1)



No.	遺構・層位	種類	瓦当文様	特徴	法量 (cm)										重量 (g)	凸面調整他	凹面調整他	写真図版	登録 No.
					長さ	幅	高さ	厚さ	奥行き	瓦当径	周縁幅	文様区径	瓦当厚	周縁高					
1	D8 1層	隅瓦	三巴文	巴、左巻き	—	—	—	—	—	7.5	1.4	4.5	1.9	0.5	182.0	—	—	34-15	Hc-88
2	D8 1層	鬼瓦	—	—	—	「10.4」	「15.1」	4.2、2.1	8.6	—	—	—	—	—	643.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-16	Hb-9
3	E6 1層	鬼瓦	—	—	—	「20.2」	「14.5」	2.8	—	—	—	—	—	1,238.0	ナデ、ケズリ	ナデ	34-17	Hb-10	
4	E6 1層	鯉瓦	—	—	18.8	「9.4」	「12.6」	—	—	—	—	—	—	921.0	ケズリ	ナデ	34-18	Hc-89	
5	E6 1層	雪止瓦	—	—	15.5	「9.9」	—	1.8~3.5	—	—	—	—	—	371.0	ケズリ	ナデ	34-19	Ha-14	
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	写真図版	登録 No.							
							長さ	幅	厚さ										
6	E7 1層	石製品	硯	—	—	19C代	「10.1」	9.05	1.55~2.0	336.0	35-15	Kd-13							

第123図 I層 出土遺物(2)

第4表 遺構観察表 建物跡

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	平面形	断面形	重複関係	備考
SB1-P1	II a	I	E9	1.03	0.91	0.63	不整形	-	-	
SB1-P2	II a	I	E9	1.00	0.99	0.13	不整形	-	-	
SB1-P3	II a	I	F8・9	1.26	1.14	0.65	円形	-	-	
SB1-P4	II a	I	F8	1.08	0.85	0.64	不整形	-	-	
SB1-P5	II a	I	F8	1.23	1.16	0.47	円形	-	P9-SB1-P5	
SB1-P6	II a	I	F8	1.47	1.40	0.67	円形	-	P10-SB1-P6	
SB1-P7	II a	I	E8	1.30	1.02	0.74	楕円形	-	P11-SB1-P7	
SB1-P8	II a	I	E8	1.20	1.06	0.63	不整形	-	P13-SB1-P8	
SB2-P1	II a	I	D8・9	1.39	1.06	0.54	楕円形	-	-	
SB2-P2	II a	I	D8	1.12	1.05	0.51	不整形	-	-	
SB2-P3	II a	I	D8	1.10	0.92	0.34	楕円形	-	SB2-P3-SB2-P4	
SB2-P4	II a	I	D8	1.39	1.03	0.45	楕円形	-	SB2-P3-SB2-P4	
SB2-P5	II a	I	E8	1.18	1.11	0.54	円形	-	-	
SB2-P6	II a	I	E8	1.18	1.09	0.34	不整形	-	-	
SB2-P7	II a	I	E8	1.13	0.98	0.33	円形	-	-	
SB2-P8	II a	I	E8	1.13	(0.21)	0.47	不整形	-	-	
SB2-P9	II a	I	E8	1.17	1.01	0.45	円形	-	-	
SB2-P10	II a	I	D8	0.95	0.89	0.28	円形	-	SB2-P15-SB2-P10	
SB2-P11	II a	I	D8	0.95	0.91	0.14	円形	-	-	
SB2-P12	II a	I	D8	1.02	0.86	0.41	円形	-	-	
SB2-P13	II a	I	D8	0.99	0.78	0.29	円形	-	-	
SB2-P14	II a	I	D8	(1.01)	1.16	0.39	不整形	-	-	
SB2-P15	II a	I	D8	1.14	1.03	0.36	不整形	-	SB2-P15-SB2-P10	
SB2-P16	II a	I	D8	1.18	1.00	0.43	不整形	-	-	
SB2-P17	II a	I	D8	1.42	0.94	0.38	不整形	-	-	
SB2-P18	II a	I	D8	1.23	1.07	0.39	楕円形	-	-	
SB2-P19	II a	I	D8	0.93	0.75	0.31	楕円形	-	-	
SB2-P20	II a	I	D7・8	1.12	1.08	0.30	不整形	-	-	
SB2-P21	II a	I	D7	1.03	1.01	0.41	円形	-	-	
SB2-P22	II a	I	D7	0.84	0.81	0.18	円形	-	-	
SB2-P23	II a	I	D8	0.91	0.62	0.32	楕円形	-	-	
SB2-P24	II a	I	D8	0.93	0.80	0.23	不整形	-	-	
SB2-P25	II a	I	D8	0.73	0.64	0.17	円形	-	-	
SB2-P26	II a	I	D8	0.93	0.85	0.15	不整形	-	-	
SB2-P27	II a	I	D8	0.86	0.85	0.20	円形	-	-	
SB2-P28	II a	I	D8	1.26	1.15	0.41	不整形	-	-	
SB2-P29	II a	I	D8	1.13	1.03	0.49	不整形	-	-	
SB2-P30	II a	I	D8	1.39	1.01	0.61	不整形	-	-	
SB2-P31	II a	I	D8	(0.85)	0.99	0.33	楕円形	-	-	
SB2-P32	II a	I	D8	(0.81)	0.93	0.45	不整形	-	-	
SB2-P33	II a	I	D8	0.83	0.74	0.45	円形	-	-	
SB2-P34	II a	I	C8	(0.43)	1.02	0.68	不整形	-	-	
SB3-P1	II a	I	E8	0.86	0.72	0.20	円形	-	-	
SB3-P2	II a	I	E7・8	1.35	1.11	0.46	楕円形	-	-	
SB3-P3	II a	I	E7	(0.97)	1.07	0.60	楕円形	-	-	
SB3-P4	II a	I	E7	1.00	0.91	0.28	不整形	-	-	
SB3-P5	II a	I	D・E7	0.87	0.74	0.32	不整形	-	-	
SB4-P1	II a	I	C・D7	1.33	1.09	0.71	円形	-	P32-SB4-P1	
SB4-P2	II a	I	C・D7	1.16	1.12	0.67	円形	-	P45-SB4-P2	
SB4-P3	II a	I	C・D7	1.75	1.56	0.06	円形	-	-	
SB4-P4	II a	I	C・D7	1.19	1.04	0.16	不整形	-	-	
SB5-P1	II a	II	C3・4	1.13	0.83	0.09	不整形	-	-	
SB5-P2	II a	II	C4	1.06	0.76	0.19	楕円形	-	-	
SB5-P3	II a	II	C4	0.99	0.81	0.11	不整形	不整形	-	
SB5-P4	II a	II	B3	0.60	0.50	0.28	楕円形	V字形	-	
SB5-P5	II a	II	B・C3	1.03	0.76	0.08	不整形	U字形	-	
SB6-P1	VI	II	D5・6	0.60	0.49	0.18	円形	皿形	-	
SB6-P2	VI	II	D5・6	1.36	0.97	0.34	円形	皿形	-	
SB6-P3	VI	II	E5	0.78	0.76	0.17	円形	皿形	-	
SB6-P4	VI	II	E5	0.51	0.48	0.16	円形	逆台形	-	
SB6-P5	VI	II	D6	0.62	(0.44)	0.25	円形	逆台形	SB6-P5-P289	
SB6-P7	VI	II	E6	0.58	0.44	0.09	円形	皿形	-	
SB6-P8	VI	II	E6	0.87	0.59	0.30	円形	逆台形	-	

第5表 遺構観察表 柱列跡 (1)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	軸方向	断面形	重複関係	備考
SA1-P1	II b	I	E7	1.07	0.97	0.45	N-8°-E	U字形	SD3-SA1-P1	
SA1-P2	II b	I	E7	1.09	1.01	0.79	N-8°-E	U字形	SD3-SA1-P2	
SA1-P3	II b	I	E7	1.34	0.83	0.56	N-8°-E	U字形	SA1-P4-SA1-P3	
SA1-P4	II b	I	E7	(0.58)	0.97	0.68	N-8°-E	U字形	SA1-P4-SA1-P3	
SA3-P1	V	I	D6	0.23	0.23	13.2	N-9°-W	皿形	-	
SA3-P2	V	I	D6	0.55	0.45	11.4	N-9°-W	皿形	-	
SA3-P3	V	I	D7	-	-	-	N-9°-W	皿形	-	石のみ
SA3-P4	V	I	D7	0.35	0.24	0.05	N-9°-W	皿形	-	
SA3-P5	V	I	D7	0.34	0.32	0.13	N-9°-W	皿形	-	
SA3-P6	V	I	D7	-	-	-	N-9°-W	皿形	-	石のみ
SA3-P7	V	I	D7	0.47	0.39	0.11	N-9°-W	皿形	-	
SA3-P8	V	I	D7	0.34	0.31	0.08	N-9°-W	U字形	-	
SA3-P9	V	I	D6・7	0.48	0.34	0.09	N-9°-W	皿形	-	

第6表 遺構観察表 柱列跡(2)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	軸方向	断面形	重複関係	備考
SA3-P10	V	I	D6・7	0.37	0.35	0.04	N-9°-W	皿形	-	
SA3-P11	V	I	D6・7	-	-	-	N-9°-W	皿形	-	石のみ
SA3-P12	V	I	D6・7	0.46	0.36	0.07	N-9°-W	逆台形	-	
SA5-P1	V	II	C6	0.26	0.24	0.11	N-20°-W	U字形	-	
SA5-P2	V	II	C6	0.27	0.23	0.24	N-20°-W	逆台形	-	
SA5-P3	V	II	C6	0.31	0.27	0.10	N-20°-W	U字形	SD13<SA5-P3	
SA5-P4	V	II	C6	0.41	0.32	0.11	N-20°-W	U字形	SD13<SA5-P4	
SA7-P1	III a	II	C5・6	0.90	0.70	0.22	N-80°-E	皿形	-	
SA7-P2	III a	II	C5	0.85	0.57	0.07	N-80°-E	皿形	-	
SA7-P3	III a	II	C5	0.41	0.40	0.25	N-80°-E	逆台形	-	
SA7-P4	III a	II	D5	0.66	0.57	0.17	N-80°-E	皿形	-	
SA7-P5	III a	II	D5	0.91	0.55	0.24	N-80°-E	皿形	-	
SA7-P6	III a	II	D5	0.68	0.58	0.31	N-80°-E	逆台形	-	
SA8-P1	IV c	II	E5	0.44	0.36	0.26	N-9°-W	逆台形	-	
SA8-P2	IV c	II	E4	0.61	0.53	0.13	N-9°-W	U字形	-	
SA8-P3	IV c	II	E4	0.40	0.40	0.23	N-9°-W	U字形	-	
SA8-P4	IV c	II	E4	0.37	0.28	0.25	N-9°-W	U字形	-	
SA9-P1	VI	I	E6	0.48	0.39	0.17	N-3°-E	皿形	-	
SA9-P2	VI	I	E6	0.43	0.36	0.18	N-3°-E	U字形	-	
SA9-P3	VI	I	E6	0.54	0.52	0.36	N-3°-E	逆台形	-	
SA9-P4	VI	I	E6	0.41	0.39	0.24	N-3°-E	逆台形	-	
SA9-P5	VI	I	E6	0.55	0.42	0.58	N-3°-E	U字形	-	

第7表 遺構観察表 通路跡

遺構名	層位	調査区	グリッド	長さ(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形	断面形	重複関係	備考
通路跡	III	II	B・C2～5	(22.2)	4.3～4.9	(1.70)	方形	逆台形	谷地形<通路跡	
通路跡-SK1	岩盤	II	C4	1.42	1.39	0.70	不整楕円形	U字形	-	

第8表 遺構観察表 谷地形

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形	断面形	重複関係	備考
谷地形	III	II	A～C4・5	14.80	(7.60)	(2.60)	不整形	不整形	谷地形<通路跡	北側の谷地形

第9表 遺構観察表 溝跡

遺構名	層位	調査区	グリッド	長さ(m)	幅(m)	深度(m)	軸方向	断面形	重複関係	備考
SD1	II b	I	F5～7	(12.90)	(1.04)	0.19	N-10°-W	不整形	-	
SD3	II a	I	E7	(2.50)	0.51	0.23	N-81°-E	箱形	SD3<SA1-P1・2	
SD6	V	I・II	C5～7	(18.51)	0.73	0.37	N-17°-W	箱形	SD6<SX25	
SD7	V	I	E6・7	(14.21)	(0.72)	0.42	N-13°-W	U字形	SD7<SD7-P1、SD7<SD7-P2 SD7<SD7-P3、SD7<SD7-P4	
-P1	V	I	E7	0.93	0.57	0.13	N-13°-W	逆台形	SD7<SD7-P1	
-P2	V	I	E7	0.50	0.48	0.22	N-13°-W	皿形	SD7<SD7-P2	
-P3	V	I	E7	0.75	0.52	0.12	N-13°-W	不整形	SD7<SD7-P3	
-P4	V	I	E7	(0.53)	0.74	0.35	N-13°-W	不整形	SD7<SD7-P4	
SD8	VII	I	F・G9	(6.83)	(0.44)	0.13	N-87°-W	皿形	SK9<SD8、SK29<SD8 SD8<P123、SD8<SK28	
SD9	V	II	C5・6	(6.24)	0.96	0.13	N-17°-W	皿形	SD12<SD9	
SD10	V	II	C6	2.16	0.65	0.10	N-17°-W	U字形	SD12<SD10	
SD12	V	II	C5・6	(1.35)	0.59	0.10	N-10°-E	U字形	SD12<SD9、SD12<SD10 SD12<SD13	
SD13	V	II	C5・6	(6.35)	0.81	0.05	N-12°-W	皿形	SD12<SD13	

第10表 遺構観察表 井戸跡

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形	断面形	重複関係	備考
SE1	II b	II	E4	2.97	2.97	(2.52)	円形	漏斗形	-	

第11表 遺構観察表 土坑(1)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形	断面形	重複関係	備考
SK1	III b	I	E8	1.50	0.77	0.05	楕円形	皿形	-	
SK2	III b	I	D9	1.45	1.25	0.39	不整形	皿形	-	
SK6	VII	I	F8	2.60	1.18	0.30	不整形	不整形	-	
SK7	VII	I	F7	1.67	1.32	0.44	楕円形	不整形	-	
SK8	V	I	F8・9	2.00	0.95	0.44	不整形	碗形	SK26<SK23<SK8	
SK9	VII	I	F8・9、G8・9	2.24	(1.40)	0.15	不整形	U字形	SK9<SD8	
SK10	VII	I	F8	1.21	0.76	0.28	不整形	皿形	SK11<SK10	
SK11	VII	I	F8	(1.05)	1.03	0.42	不整形	不整形	SK11<SK10	
SK12	VII	I	F7	(0.90)	1.38	0.32	不整円形	皿形	-	
SK13	VII	I	D9	1.19	0.56	0.25	不整楕円形	段形	-	
SK14	VII	I	D9	1.58	1.13	0.29	不整楕円形	不整形	-	
SK15	VII	I	E9	1.13	(0.59)	0.17	円形	不整形	-	
SK16	V	I	F9	2.31	1.59	0.54	不整形	逆台形	-	
SK17	V	I	F7	1.55	(0.76)	0.38	円形	U字形	SX29<SK17	
SK18	VII	I	E6	(2.49)	1.17	0.20	不整形	皿形	SK18<SK19、P146	
SK19	VII	I	E6	(0.74)	(0.54)	0.29	楕円形	碗形	SK18<SK19	
SK20	VII	I	E6	1.00	(0.44)	0.23	楕円形	皿形	-	
SK21	VII	I	D6	(0.71)	(0.48)	0.12	楕円形	皿形	SK21<P135<P134	
SK22	VII	I	D9	0.98	0.73	0.18	不整楕円形	逆台形	-	
SK23	V	I	F9	1.92	(1.27)	0.49	不整形	皿形	SK26<SK23<SK8	
SK24	VII	I	F9	(1.31)	(1.00)	0.23	不整形	不整形	-	

第12表 遺構観察表 土坑(2)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	平面形	断面形	重複関係	備考
SK26	V	I	F9	(1.01)	(1.00)	0.42	楕円形	皿形	SK26-SK23-SK8	
SK27	V	I	E7	(1.96)	(1.42)	0.58	不整形	碗形	-	
SK28	VII	I	F9	1.66	(0.94)	0.44	不整形	不整形	SD8-SK28	
SK29	VII	I	F・G9	(3.52)	(0.80)	0.13	不整形	不整形	SK29-SD8	
SK30	V	I	F9	(0.84)	1.34	0.36	楕円形	碗形	-	
SK31	VII	I	F9	(1.43)	1.39	0.49	不整形	段形	-	
SK32	VII	I	F7	(1.69)	(0.70)	0.41	不整形	逆台形	-	
SK33	VII	I	E・F6	1.13	0.90	0.21	不整形	皿形	-	
SK34	VII	I	E6	(2.57)	0.51	0.23	不整形	不整形	-	
SK35	VII	I	F6	(1.82)	1.11	0.57	不整形	皿形	P159-SK35	
SK36	VII	I	F6	(1.32)	(1.03)	0.27	不整形	不整形	P158-SK36	
SK37	II a	II	C4	(1.36)	1.17	0.34	不整形	皿形	-	
SK38	II b	II	E3	(0.76)	0.75	0.08	不整形楕円形	不整形	-	
SK39	IV a	II	D5	0.88	0.84	0.30	円形	段形	-	
SK40	IV a	II	D5	0.87	0.68	0.25	楕円形	碗形	-	
SK41	IV a	II	C4	1.73	1.07	0.08	不整形	皿形	-	
SK42	V	II	D5	0.68	0.63	0.42	円形	碗形	-	
SK43	V	II	D6	0.72	0.57	0.24	不整形	不整形	-	
SK44	V	II	D4	0.76	0.74	0.12	不整形	皿形	-	
SK46	III b	II	E4	0.89	0.61	0.22	不整形	不整形	-	
SK48	V	II	E5・6	1.76	1.60	0.48	円形	逆台形	-	
SK49	VII	II	E5	1.54	1.53	0.28	円形	皿形	SX50-SK49	
SK50	II a	II	D4	1.45	0.63	0.15	不整形	皿形	-	
SK51	VII	II	D4	1.57	(1.33)	0.14	不整形楕円形	皿形	-	

第13表 遺構観察表 性格不明遺構(1)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	平面形	断面形	重複関係	備考
SX1	II a	I	D8・9、E8・9	(5.29)	4.69	0.23	不整形	皿形	SX1-SX2	
SX2	II a	I	D9	4.11	3.36	0.12	不整形	皿形	SX1-SX2	
SX3	II a	I	D7	2.71	1.91	0.22	不整形	段形	-	
SX4	II a	I	D9	1.62	1.19	0.12	不整形楕円形	不整形	SX4-P55・57	
SX5	III b	I	D9	(1.53)	0.67	0.15	不整形	不整形	-	
SX6	III b	I	F9	(1.24)	1.43	0.13	楕円形	不整形	-	
SX7	III b	I	D8・9	1.58	0.64	0.18	不整形楕円形	不整形	-	
SX8	III b	I	E6・7	1.73	0.63	0.12	不整形	不整形	-	
SX9	III b	I	D9	1.23	0.71	0.07	不整形	不整形	-	
SX12	IV a	I	D7・8	4.75	1.83	0.13	不整形	皿形	-	
SX13	IV a	I	C・D8	(3.13)	(0.98)	0.12	不整形	逆台形	-	
SX14	IV a	I	D9	2.58	1.14	0.15	不整形	不整形	SX20-SX14	
SX15	IV a	I	D9	(2.07)	2.00	0.13	不整形	皿形	-	
SX16	IV b	I	F8	(4.77)	0.87	0.06	不整形	皿形	-	
SX17	IV b	I	F8・9	4.28	4.28	0.17	不整形	皿形	P101・104-SX17	
-P1	IV b	I	F8	0.96	0.90	0.13	円形	逆台形	SX17-SX17-P1	
SX18	IV a	I	D・E6	(12.64)	6.65	0.06	不整形	不整形	-	
SX19	IV a	I	E9	(7.04)	(3.02)	0.32	不整形	皿形	SX19-SX19-P1、SX19-SK1	
-P1	IV a	I	E9	0.51	0.48	0.07	円形	碗形	SX19-SX19-P1	
-SK1	IV a	I	E9	0.98	0.93	0.12	円形	碗形	SX19-SX19-SK1	
SX20	IV a	I	D9	(1.51)	(0.85)	0.16	不整形楕円形	皿形	SX20-SX14	
SX21	V	I	E7・8	-	-	-	-	-	-	
SX22	V	I	E7・8	-	-	-	-	-	-	
SX23	VII	I	E・F9	6.23	(2.05)	0.78	不整形	皿形	-	
SX24	V	I	E6・7	6.17	4.93	0.84	不整形	皿形	SX26-SX24	
SX25	VI・VII	I	D7～9・F8	(26.80)	19.60	(3.1)	不整形	不整形	SX25-SX28	
SX26	V	I	D6・7、E6・7	(6.88)	(6.02)	1.96	不整形	U字形	SD7-SX26-SX24	
SX27	V	I	E・F7	6.36	4.79	1.48	不整形楕円形	不整形	SX28-SX27	
SX28	VII	I	E・F7	(5.91)	4.80	1.45	不整形楕円形	箱形	SX25-SX28-SX27	
SX29	V	I	F7	(3.85)	3.45	0.82	不整形楕円形	箱形	SX29-SK17	
SX30	V	I	E・F8	4.21	2.89	(1.05)	隅丸長方形	-	-	
SX31	VII	I	E・F6	(3.89)	(2.69)	0.10	不整形	不整形	SX31-P160	
SX32	II a	II	B5	(1.41)	(1.32)	0.06	不整形	皿形	SX32-P167	
SX33	II a	II	C4	2.35	0.95	0.17	不整形	V字形	-	
SX34	II a	II	C4	1.79	1.31	0.15	不整形	皿形	-	
SX35	II b	II	E4	4.77	2.29	0.17	不整形	不整形	-	
SX37	II b	II	E4・5	(3.52)	(2.92)	0.29	不整形	不整形	SX37-SX38	
SX38	II b	II	E4	(3.82)	0.90	0.30	不整形	不整形	SX37-SX38	
SX39	III b	II	C4・5	(2.97)	(2.62)	0.39	不整形	不整形	-	
SX40	IV a	II	C5・6、D5・6	4.10	1.13	0.12	不整形	皿形	-	
SX41	IV a	II	C5・6	(3.78)	(1.51)	(0.70)	不整形楕円形	皿形	SX41-P186	
SX42	III b	II	C・D3	5.42	4.62	0.35	不整形	皿形	SX43・48・49-SX42	
SX43	III b	II	C・D3	2.97	1.13	0.45	不整形楕円形	U字形	SX43-SX42	
SX44	III b	II	C4	(1.81)	1.70	0.20	不整形	皿形	-	
SX45	III b	II	C3	4.71	3.85	1.18	不整形	逆台形	SX51・52-SX45<通路跡	
SX46	III b	II	D5	1.86	2.72	0.23	楕円形	皿形	-	
SX47	III b	II	D・E6	4.66	(0.90)	0.14	不整形	不整形	-	
SX48	III b	II	C3	2.77	2.30	1.03	不整形楕円形	逆台形	SX51-SX48-SX42	
SX49	III b	II	C・D3	2.74	2.13	(0.20)	不整形	皿形	SX49-SX42	
SX50	VII	II	E4、D・E5	(15.81)	5.48	0.11	不整形	不整形	SX50-SK49	
SX51	III b	II	C3	2.55	2.49	1.13	隅丸長方形	逆台形	SX51-SX45・48	
SX52	III b	II	C3	(2.97)	(1.65)	0.22	不整形	皿形	SX52-SX45・53、通路跡	

第14表 遺構観察表 性格不明遺構(2)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形	断面形	重複関係	備考
SX53	Ⅲ b	Ⅱ	C3	2.14	1.59	0.18	不整楕円形	皿形	SX52<SX53	
SX54	V	Ⅱ	C4・5	2.75	0.58	0.12	楕円形	不整形	-	
SX58	Ⅲ b	Ⅱ	E5・6	-	-	-	-	-	-	
SX59	Ⅲ b	Ⅱ	C4	-	-	-	-	逆台形	-	
SX60	V	Ⅰ	F8	-	-	-	-	-	-	
SX62	Ⅳ b	Ⅰ	F8	3.26	1.76	0.02	不整形	不整形	-	

第15表 遺構観察表 土塁

遺構名	層位	調査区	グリッド	長さ(m)	高さ	平面形	断面形	重複関係	備考
土塁	-	Ⅱ	B～D2	52.0	西側：0.8～2.1、東側2.2～3.2	-	-	-	土塁南面の下半部に高さ31～74cmの石積みを確認

第16表 遺構観察表 ピット(1)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	平面形	断面形	重複関係	備考
P1	Ⅱ a	Ⅰ	F8	1.07	1.05	0.16	円形	-	-	
P2	Ⅱ a	Ⅰ	F8	0.79	0.68	0.30	円形	-	-	
P3	Ⅱ a	Ⅰ	F8	1.11	0.86	0.24	不整楕円形	-	-	
P4	Ⅱ a	Ⅰ	F8	1.00	0.75	0.14	不整楕円形	-	-	
P5	Ⅱ a	Ⅰ	F8	1.05	0.93	0.48	隅丸方形	-	-	
P6	Ⅱ a	Ⅰ	D8・9	0.89	0.67	0.37	楕円形	-	-	
P7	Ⅱ a	Ⅰ	E8	1.01	1.00	0.45	不整円形	-	P12<P7	
P8	Ⅱ a	Ⅰ	F8	0.95	0.78	0.12	不整円形	-	-	
P9	Ⅱ a	Ⅰ	F8	(0.71)	0.92	0.64	楕円形	-	P9<SB1-P5	
P10	Ⅱ a	Ⅰ	F8	(0.72)	0.92	0.43	不整楕円形	-	P10<SB1-P6	
P11	Ⅱ a	Ⅰ	E8	(0.90)	0.99	0.58	楕円形	-	P11<SB1-P7	
P12	Ⅱ a	Ⅰ	E8	(1.08)	1.01	0.63	楕円形	-	P12<P7	
P13	Ⅱ a	Ⅰ	E8	(0.58)	1.07	0.73	楕円形	-	P13<SB1-P8	
P14	Ⅱ a	Ⅰ	E8	0.96	0.77	0.24	隅丸方形	-	-	
P15	Ⅱ a	Ⅰ	E8	0.86	0.75	0.07	円形	-	-	
P16	Ⅱ a	Ⅰ	F8	0.77	0.59	0.09	楕円形	-	-	
P17	Ⅱ a	Ⅰ	E9	0.90	0.61	0.09	楕円形	-	-	
P18	Ⅱ b	Ⅰ	E6	0.82	0.74	0.25	不整楕円形	-	-	
P21	Ⅱ a	Ⅰ	D8	0.74	0.72	0.14	円形	-	-	
P22	Ⅱ a	Ⅰ	E7	0.98	0.94	0.32	不整円形	-	-	
P23	Ⅱ a	Ⅰ	D7・8	0.85	0.84	0.23	隅丸方形	-	-	
P24	Ⅱ a	Ⅰ	D7・8	0.66	0.59	0.23	円形	-	-	
P25	Ⅱ a	Ⅰ	D7	0.92	0.91	0.29	不整円形	-	-	
P26	Ⅱ a	Ⅰ	D7	0.78	0.75	0.26	隅丸方形	-	-	
P27	Ⅱ a	Ⅰ	C・D8	0.73	0.60	0.07	不整円形	-	-	
P28	Ⅱ a	Ⅰ	E7	1.15	1.03	0.72	不整円形	-	-	
P29	Ⅱ a	Ⅰ	E8	1.36	1.05	0.43	不整楕円形	-	-	
P30	Ⅱ a	Ⅰ	E8	0.88	0.69	0.42	楕円形	-	P46<P30	
P31	Ⅱ a	Ⅰ	C7	(0.84)	0.98	0.20	円形	-	P32<P31	
P32	Ⅱ a	Ⅰ	C7	(1.15)	(0.52)	0.64	不整楕円形	-	P32<SB4-P1、P31	
P33	Ⅱ a	Ⅰ	D8	0.65	0.59	0.15	円形	-	-	
P34	Ⅱ a	Ⅰ	F9	1.14	1.07	0.12	楕円形	-	-	
P35	Ⅱ a	Ⅰ	F9	0.47	0.42	0.28	円形	-	-	
P36	Ⅱ a	Ⅰ	D8	0.99	0.77	0.34	楕円形	-	-	
P37	Ⅱ a	Ⅰ	E7	(0.43)	(0.66)	0.24	楕円形	-	-	
P38	Ⅱ a	Ⅰ	D7	(0.47)	(0.44)	0.20	円形	-	-	
P39	Ⅱ b	Ⅰ	E7	0.97	0.76	0.16	楕円形	-	-	
P40	Ⅱ a	Ⅰ	D7	1.23	0.94	0.30	楕円形	-	-	
P41	Ⅱ a	Ⅰ	E9	0.77	0.37	0.07	楕円形	-	-	
P42	Ⅱ a	Ⅰ	D7	0.65	0.59	0.12	円形	-	-	
P43	Ⅱ a	Ⅰ	D7	0.67	0.62	0.10	円形	-	-	
P44	Ⅱ a	Ⅰ	D7	1.16	1.01	0.53	不整円形	-	-	
P45	Ⅱ a	Ⅰ	D7	(0.80)	1.07	0.52	楕円形	-	P45<SB4-P2	
P46	Ⅱ a	Ⅰ	E7・8	(0.95)	0.95	0.60	楕円形	-	P46<P30	
P47	Ⅱ a	Ⅰ	E7・8	1.01	0.82	0.49	楕円形	-	-	
P48	Ⅱ b	Ⅰ	F7	0.50	0.49	0.10	円形	-	-	
P49	Ⅱ a	Ⅰ	E・F9	1.07	0.93	0.47	楕円形	-	-	
P50	Ⅱ a	Ⅰ	E8	1.11	0.93	0.45	楕円形	-	-	
P51	Ⅱ a	Ⅰ	E7	1.07	0.99	0.51	不整円形	-	-	
P52	Ⅱ a	Ⅰ	D6	0.59	0.56	0.07	円形	-	-	
P53	Ⅱ a	Ⅰ	E6	(0.52)	0.76	0.10	楕円形	-	-	
P54	Ⅱ a	Ⅰ	E8	0.43	0.40	0.08	円形	-	-	
P55	Ⅱ a	Ⅰ	D9	0.73	0.63	0.16	円形	-	SX4<P55	
P56	Ⅱ a	Ⅰ	D9	0.96	0.93	0.12	不整円形	-	-	
P57	Ⅱ a	Ⅰ	D9	0.91	0.77	0.08	不整円形	-	SX4<P57	
P58	Ⅱ a	Ⅰ	D6	0.71	0.64	0.09	不整円形	-	-	
P59	Ⅱ a	Ⅰ	D9	0.83	0.71	0.09	不整円形	-	-	
P60	Ⅱ a	Ⅰ	D6	0.55	0.49	0.12	円形	-	P62<P60	
P61	Ⅱ a	Ⅰ	D6	0.63	0.60	0.09	円形	-	P62<P61	
P62	Ⅱ a	Ⅰ	D6	0.74	(0.45)	0.08	不整円形	-	P62<P60、P62<P61	
P63	Ⅱ a	Ⅰ	E7・8	1.14	(0.40)	0.65	不整円形	逆台形	-	
P64	Ⅲ b	Ⅰ	E7	0.28	0.25	0.06	円形	皿形	-	
P65	Ⅲ b	Ⅰ	E・F6	0.53	0.50	0.09	円形	皿形	-	
P66	Ⅲ b	Ⅰ	E7	0.67	0.46	0.16	楕円形	浅箱形	-	
P67	Ⅲ b	Ⅰ	D8	0.73	0.48	0.18	楕円形	逆台形	-	
P68	Ⅲ b	Ⅰ	D8	0.40	0.29	0.21	楕円形	皿形	-	

第17表 遺構観察表 ピット(2)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	平面形	断面形	重複関係	備考
P69	Ⅲ b	I	E8	0.57	0.44	0.09	楕円形	段形	-	
P70	Ⅲ b	I	D8	0.48	0.35	0.26	不整楕円形	V字形	-	
P71	Ⅲ b	I	E8	0.99	0.85	0.05	不整楕円形	皿形	-	
P72	Ⅲ b	I	E8	0.54	0.44	0.13	円形	不整形	-	
P75	Ⅲ b	I	F7	0.70	0.55	0.17	楕円形	不整形	-	
P76	Ⅲ b	I	E6	1.35	1.15	0.46	不整形	不整形	-	
P77	Ⅲ b	I	F8	0.82	0.58	0.21	楕円形	不整形	-	
P78	Ⅲ b	I	E7	(0.51)	0.62	0.33	楕円形	浅箱形	-	
P79	Ⅲ b	I	E9	0.36	0.30	0.07	円形	皿形	-	
P80	Ⅳ a	I	E6	(0.24)	0.36	0.24	不整楕円形	逆台形	-	
P81	Ⅳ d	I	F9	0.51	0.45	0.17	円形	皿形	-	
P82	Ⅳ a	I	D8	0.66	0.59	0.08	円形	皿形	-	
P83	Ⅳ a	I	D7	0.88	0.78	0.19	円形	皿形	-	
P84	Ⅳ a	I	D7	1.03	0.51	0.08	楕円形	皿形	-	
P85	Ⅳ a	I	D8	(0.80)	0.65	0.06	楕円形	皿形	-	
P86	Ⅳ a	I	D9	0.53	0.50	0.13	円形	皿形	-	
P87	Ⅳ a	I	D9	0.47	0.38	0.13	楕円形	皿形	-	
P88	Ⅳ a	I	D9	0.80	0.38	0.05	楕円形	皿形	-	
P90	Ⅳ a	I	D9	(1.02)	0.68	0.07	楕円形	皿形	-	
P91	Ⅳ a	I	E6	0.58	0.54	0.08	円形	不整形	-	
P92	Ⅳ a	I	E・F7	0.76	0.55	0.11	楕円形	不整形	-	
P93	Ⅳ a	I	E7	0.66	0.60	0.10	円形	皿形	-	
P94	Ⅳ a	I	E7	0.39	0.29	0.06	楕円形	皿形	-	
P95	Ⅳ a	I	D7	0.41	0.35	0.08	不整形	箱形	-	
P96	Ⅳ a	I	E7	0.46	0.38	0.10	隅丸方形	不整形	-	
P97	Ⅳ a	I	E7	(0.32)	0.33	0.09	不整楕円形	皿形	-	
P98	Ⅳ a	I	E7	0.35	0.30	0.14	円形	碗形	-	
P99	Ⅳ a	I	D7	0.64	0.60	0.07	不整形	皿形	-	
P100	Ⅳ a	I	E7	(0.42)	0.41	0.25	楕円形	V字形	-	
P101	Ⅳ d	I	F9	0.96	(0.44)	0.08	不整楕円形	皿形	P101<SX17	
P103	Ⅳ d	I	F9	0.57	0.53	0.14	円形	箱形	-	
P104	Ⅳ b	I	F8	(0.73)	0.49	0.17	楕円形	U字形	P104<SX17	
P105	V	I	E6・7	(0.35)	1.12	0.23	不整楕円形	皿形	-	
P106	V	I	E6	1.52	1.14	0.22	不整形	不整形	-	
P107	V	I	F7	(0.22)	0.60	-	楕円形	碗形	-	
P108	V	I	F7	1.45	1.42	-	不整形	皿形	-	
P109	V	I	E6	0.73	0.72	0.16	円形	皿形	-	
P110	V	I	E・F7	(0.41)	0.42	0.13	不整楕円形	不整形	-	
P111	V	I	E・F6	1.23	1.05	0.25	楕円形	不整形	-	
P112	V	I	E6・7	0.39	0.35	0.04	楕円形	皿形	-	
P113	V	I	E6・7、F6・7	0.93	0.90	0.15	円形	不整形	-	
P114	V	I	D6	0.44	0.37	0.17	楕円形	V字形	-	
P115	V	I	E6	0.53	0.42	0.12	楕円形	皿形	-	
P116	V	I	F7	1.66	1.47	0.23	円形	皿形	-	
P117	V	I	E6	0.44	0.40	0.10	円形	-	-	
P118	V	I	E6	-	-	-	-	-	-	根石?
P119	V	I	E6	-	-	-	-	-	-	根石?
P120	V	I	E6	-	-	-	-	-	-	根石?
P121	Ⅶ	I	F8	1.04	0.92	0.18	不整形	段形	-	
P122	Ⅶ	I	F7	0.65	0.63	0.12	円形	皿形	-	
P123	Ⅶ	I	F9	1.11	1.03	0.28	円形	段形	SD8<P123	
P124	Ⅶ	I	E7	1.02	0.83	0.27	楕円形	碗形	-	
P125	Ⅶ	I	F7	0.47	0.33	0.05	楕円形	逆台形	-	
P126	Ⅶ	I	F8	0.33	0.30	0.04	円形	碗形	-	
P127	Ⅶ	I	F8	0.36	0.33	0.07	不整形	U字形	-	
P128	Ⅶ	I	F8	0.29	0.26	0.06	不整形	V字形	-	
P129	Ⅶ	I	F8	0.37	0.33	0.24	不整形	箱形	-	
P130	Ⅶ	I	F7	(0.61)	0.52	0.30	楕円形	碗形	-	
P134	Ⅶ	I	E6	0.61	0.43	0.20	不整楕円形	皿形	SK21<P135<P134	
P135	Ⅶ	I	E6	(0.24)	0.49	0.21	楕円形	碗形	SK21<P135<P134	
P137	Ⅶ	I	E6	(0.17)	0.35	0.27	楕円形	U字形	P138<P137	
P138	Ⅶ	I	D6	(0.28)	0.52	0.40	円形	U字形	P138<P137	
P139	Ⅶ	I	D6	0.52	0.45	0.14	円形	皿形	P140<P139	
P140	Ⅶ	I	D6	(0.69)	0.55	0.23	楕円形	皿形	P140<P139	
P141	Ⅶ	I	E6	0.41	0.35	0.22	円形	碗形	-	
P143	Ⅶ	I	E6	0.42	0.42	0.30	円形	逆台形	-	
P146	Ⅶ	I	E6	0.33	0.32	0.20	円形	V字形	SK18<P146	
P147	Ⅶ	I	D6	0.46	0.37	0.13	楕円形	皿形	-	
P148	Ⅶ	I	E7	0.38	0.35	0.12	円形	逆台形	-	
P149	Ⅶ	I	D6	(0.32)	0.46	0.12	楕円形	U字形	-	
P150	Ⅶ	I	C・D6	(0.62)	1.38	0.15	楕円形	碗形	-	
P151	Ⅶ	I	E6	(0.23)	0.29	0.41	楕円形	U字形	-	
P152	Ⅶ	I	F6	0.44	0.35	0.12	楕円形	皿形	-	
P153	Ⅶ	I	E・F6	0.48	0.48	0.14	円形	皿形	-	
P154	Ⅶ	I	E・F6	0.56	0.41	0.15	楕円形	皿形	P156<P154	
P155	Ⅶ	I	E6	0.57	0.40	0.17	楕円形	不整形	-	
P156	Ⅶ	I	E・F6	0.64	(0.25)	0.05	不整楕円形	不整形	P156<P154	
P157	Ⅶ	I	F6	0.74	0.67	0.24	円形	不整形	-	
P158	Ⅶ	I	F6	(0.84)	(0.41)	0.15	楕円形	皿形	P158<SK36	

第18表 遺構観察表 ピット (3)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	平面形	断面形	重複関係	備考
P159	VII	I	F6	(0.78)	(0.85)	0.21	楕円形	不整形	P159<SK35・36	
P160	VII	I	E6	0.84	0.69	0.20	不整形	皿形	SX31<P160	
P161	VII	I	E・F6	0.77	0.55	0.23	楕円形	不整形	-	
P162	VII	I	F6	0.51	0.46	0.26	円形	碗形	-	
P163	II b	II	E4	1.57	1.18	0.21	不整形楕円形	不整形	-	
P166	II b	II	E4	(0.35)	0.66	0.07	円形	不整形	-	
P167	II a	II	B5	1.08	0.69	0.10	楕円形	不整形	SX32<P167	
P168	II a	II	C4	1.09	0.78	0.43	不整形楕円形	不整形	-	
P169	II b	II	D4	0.91	0.86	0.29	不整形	不整形	-	
P170	II b	II	D5	0.56	0.48	0.10	円形	段形	-	
P171	II a	II	E2・3	0.27	0.25	0.18	円形	漏斗形	-	
P172	III a	II	D5	0.52	0.50	0.20	円形	不整形	-	
P173	III b	II	D6	0.94	0.70	0.19	楕円形	不整形	P174<P173	
P174	III b	II	D6	(0.56)	0.98	0.10	円形	不整形	P174<P173	
P175	II b	II	E3	0.33	0.27	0.40	円形	漏斗形	-	
P176	II b	II	E3	0.82	0.59	0.47	不整形楕円形	U字形	-	
P177	II b	II	E3	1.07	0.80	0.27	楕円形	碗形	-	
P178	II b	II	E3	0.58	0.50	0.30	円形	碗形	-	
P179	III b	II	E5	0.42	0.41	0.34	円形	U字形	-	
P180	II a	II	C4	0.78	0.52	0.10	楕円形	-	-	
P181	II a	II	C4	1.40	0.52	0.09	不整形楕円形	-	-	
P182	IV a	II	D6	0.58	0.55	0.10	円形	-	-	
P184	IV a	II	C5	0.42	0.34	0.15	不整形	碗形	-	
P186	IV a	II	C6	0.54	0.45	0.19	円形	碗形	SX41<P186	
P191	V	II	C5	0.63	0.35	0.15	楕円形	皿形	-	
P193	II a	II	C3	0.87	0.78	0.22	不整形	不整形	-	
P195	V	II	C6	0.49	0.45	0.14	不整形	碗形	-	
P196	V	II	C・D6	0.41	0.40	0.14	不整形	逆台形	-	
P197	V	II	C・D6	0.62	0.60	0.12	円形	皿形	-	
P199	III b	II	D6	0.49	0.49	0.07	円形	皿形	-	
P202	II a	II	C3	0.39	0.36	0.09	円形	箱形	-	
P205	II a	II	D4	0.97	0.68	0.10	不整形	-	-	
P206	II a	II	B3	0.56	0.49	0.28	円形	-	-	
P208	II a	II	B3	0.65	0.61	0.22	不整形	-	-	
P210	II a	II	C4	0.73	0.68	0.07	円形	不整形	-	
P211	II a	II	C4	0.98	0.93	0.08	円形	不整形	-	
P212	III b	II	C5	-	-	-	-	-	-	根石?
P213	IV a	II	D4	0.76	0.70	0.25	円形	逆台形	-	
P214	IV a	II	D4	0.48	0.44	0.10	円形	皿形	-	
P215	IV a	II	D4・5	0.66	0.63	0.12	不整形	皿形	-	
P216	IV a	II	C4	1.05	0.86	0.11	楕円形	皿形	-	
P217	IV a	II	D5	0.61	0.58	0.16	円形	不整形	-	
P218	IV a	II	D5	0.62	0.35	0.22	楕円形	不整形	-	
P219	IV a	II	D5	0.49	0.42	0.13	円形	碗形	-	
P220	IV a	II	D5	0.50	0.41	0.30	円形	漏斗形	-	
P221	IV a	II	D5	0.75	0.45	0.18	不整形	箱形	-	
P222	IV a	II	D5	0.60	0.47	0.06	不整形楕円形	皿形	-	
P223	IV a	II	D5	0.52	0.49	0.12	円形	碗形	-	
P224	IV a	II	D5	(0.30)	0.47	0.11	円形	不整形	P224<P225	
P225	IV a	II	D5	0.46	0.42	0.13	不整形	皿形	P224<P225	
P226	IV a	II	D5	0.43	0.41	0.09	円形	皿形	-	
P227	IV a	II	D5	0.59	0.48	0.13	楕円形	皿形	-	
P228	IV a	II	D5	0.77	0.68	0.16	不整形	皿形	-	
P229	IV a	II	D4	0.61	0.60	0.15	円形	碗形	-	
P230	IV a	II	C4・5、D4・5	(1.10)	0.89	0.16	楕円形	-	-	
P231	IV a	II	D5	(0.62)	0.47	0.11	楕円形	皿形	-	
P232	IV a	II	D5	0.57	0.52	0.17	円形	不整形	-	
P233	IV a	II	D5	0.77	0.62	0.21	不整形楕円形	碗形	-	
P234	IV a	II	D6	0.56	0.45	0.14	楕円形	皿形	-	
P235	IV a	II	D6	0.50	0.40	0.14	円形	碗形	P236<P235	
P236	IV a	II	D6	(0.27)	0.28	0.12	楕円形	皿形	P236<P235	
P237	IV a	II	D4	0.58	0.54	0.19	円形	碗形	-	
P239	V	II	D4	0.48	0.46	0.05	不整形	皿形	-	
P240	V	II	D4・5	0.37	0.31	0.05	不整形	-	-	
P241	V	II	D5	0.61	0.55	0.24	円形	逆台形	-	
P242	III b	II	E5	0.52	0.52	0.11	円形	不整形	-	
P243	III b	II	E5	0.70	0.68	0.14	円形	箱形	-	
P244	V	II	D5	0.42	0.30	0.09	楕円形	皿形	-	
P245	V	II	D5	0.33	0.31	0.05	円形	皿形	-	
P246	V	II	D5・6	0.70	0.60	0.17	不整形	碗形	-	
P247	III b	II	E5	0.70	0.57	0.19	楕円形	箱形	-	
P248	III b	II	E5	0.87	0.66	0.06	不整形楕円形	皿形	-	
P249	IV a	II	D5	-	-	-	-	-	-	根石?
P250	IV a	II	D4	0.72	0.58	0.09	楕円形	皿形	-	
P251	IV a	II	D4	0.80	0.68	0.13	不整形楕円形	不整形	-	
P252	IV a	II	E5	0.93	0.81	0.08	不整形楕円形	皿形	-	
P253	IV a	II	E5	0.42	0.41	0.11	円形	不整形	-	
P254	IV a	II	E5	0.44	0.38	0.12	円形	V字形	-	
P255	IV a	II	E5・6	0.66	0.62	0.19	不整形	V字形	-	

第19表 遺構観察表 ピット(4)

遺構名	層位	調査区	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	平面形	断面形	重複関係	備考
P256	IV a	II	D6	-	-	-	-	-	-	根石?
P257	IV a	II	D・E5	0.79	0.63	0.06	楕円形	皿形	-	
P258	IV a	II	D5・6	0.61	0.49	0.20	楕円形	皿形	-	
P259	IV b	II	E4	-	-	-	-	-	-	根石?
P260	V	II	D4	0.56	0.43	0.05	楕円形	不整形	-	
P261	V	II	D5	0.56	0.41	0.08	楕円形	逆台形	-	
P262	V	II	D5	0.53	0.48	0.06	円形	碗形	-	
P263	V	II	D6	-	-	-	-	-	-	根石?
P264	V	II	D6	0.65	0.51	0.14	円形	皿形	-	
P265	V	II	D5	0.66	0.56	0.08	円形	皿形	-	
P266	V	II	E6	0.64	0.55	0.15	不整形	皿形	P267<P266	
P267	V	II	E6	0.36	0.32	0.12	不整楕円形	-	P267<P266	
P268	V	II	D4	0.82	0.55	0.13	不整楕円形	皿形	-	
P269	V	II	E4	0.79	0.72	0.11	不整楕円形	不整形	-	
P270	V	II	E6	-	-	-	-	-	-	根石?
P271	V	II	D・E5	0.56	0.51	0.14	不整円形	碗形	-	
P272	V	II	D5	0.85	0.58	0.05	不整楕円形	-	-	
P273	V	II	E5	0.45	0.39	0.08	円形	碗形	-	
P274	V	II	E5	0.50	0.36	0.08	円形	逆台形	-	
P275	V	II	E6	0.46	0.43	0.10	円形	不整形	-	
P277	VII	II	E5	0.68	0.61	0.07	不整円形	碗形	-	
P279	VII	II	D5	0.56	0.49	0.24	不整円形	皿形	-	
P283	VII	II	E6	0.60	0.47	0.06	不整形	不整形	-	
P288	VII	II	D6	0.65	0.61	0.06	不整円形	不整形	-	
P289	VII	II	D6	-	0.44	0.12	円形	箱形	SB6-P5<P289	
P290	IV c	II	E5	0.47	0.35	0.11	不整楕円形	碗形	-	
P291	IV c	II	E5	0.35	0.30	0.12	円形	碗形	-	
P292	IV c	II	E4・5	1.03	0.55	0.10	楕円形	不整形	-	
P293	IV c	II	E4・5	0.62	0.48	0.16	楕円形	皿形	-	
P294	V	II	E5	0.38	0.29	0.07	円形	皿形	-	
P295	V	II	E5	0.41	0.31	0.08	円形	皿形	-	
P296	V	II	E5	0.41	0.40	0.06	円形	皿形	-	
P297	V	II	E5	0.38	0.31	0.14	円形	碗形	-	
P298	V	II	E5	0.74	0.53	0.11	楕円形	皿形	-	
P299	VII	II	E3	0.68	0.31	0.14	楕円形	皿形	-	
P300	VII	II	E4	0.42	0.42	0.08	円形	皿形	-	
P301	VII	II	E4	0.39	0.36	0.07	円形	筒形	-	
P302	VII	II	E4	0.47	0.42	0.16	円形	逆台形	-	
P303	VII	II	E4	0.49	0.41	0.22	不整楕円形	逆台形	-	
P304	VII	II	E4	0.44	0.41	0.12	円形	逆台形	-	
P305	VII	II	E4	0.41	0.38	0.07	円形	碗形	-	
P306	VII	II	E4	0.45	(0.29)	0.36	円形	逆台形	P306<P310	
P307	VII	II	E4	(0.47)	0.35	0.08	楕円形	不整形	-	
P308	VII	II	E4	0.58	0.49	0.15	不整円形	碗形	-	
P309	VII	II	E5	0.76	0.51	0.09	隅丸方形	皿形	-	
P310	VII	II	E4	0.39	0.33	0.12	円形	逆台形	P306<P310	
P315	VII	II	E5	0.40	(0.38)	0.08	円形	碗形	-	
P316	II a	II	C3	-	-	-	-	-	-	根石?

第6章 出土遺物と検出遺構の検討

第1節 出土遺物

今回の調査では、4面の整地層が確認されたが、整地の際の削平により屋敷内の建物跡については具体的な様相は明らかではない。また、調査区内に広範囲にくぼむ大型の落ち込みが確認された。この落ち込みの成因は明らかではないが、堆積土には、火災によると考えられる大量の焼土や炭化物を含む層とともに、被熱した痕跡が観察される多量の遺物が出土している。これらのことから、この場所は調査区周辺で地震や火災等の災害により発生した瓦礫等の搬入場所として利用されていた可能性がある。以上のことから、今回の調査による出土遺物は、調査区外の他の場所から持ち込まれたものが相当量に上ると考えられる。なお、膨大な出土量の瓦については、調査中に確認作業を行い、選択的な取り上げにとどめたため、本稿では遺物の種別・器種・種類等の詳細及び集計値に関しては、本書に図化及び写真によって掲載した遺物を対象として報告する。

1. 陶器

出土した陶器は5,275点である。その内152点を掲載した。産地は小野相馬・大堀相馬・堤・唐津・信楽・織部等である。掲載した器種は27種で、碗は大堀相馬・唐津の出土量が多く、それらの年代は17世紀後半～18世紀中頃のものと考えられる。出土量が最も多い遺構はSX25である。大型の落ち込みを埋め立てる際に大量廃棄されたものと考えられる。SX25に次いで、Ⅱ区の北西で検出した谷地形からの出土量が多い。SX25と器種・産地等が共通している。SX25からは、碗・皿等一般的な生活用品以外に仏具の出土が目立つ。他にはSX25の焼土層から信楽焼の茶壺が出土した。また、播鉢の出土量も顕著であり、体部から口縁部にかけて内湾するものと直線的に伸びるものの2タイプがある。口縁部は共にやや厚みのある玉縁状である。整地層からは碗・皿はSX25上位を覆うⅣ層からの出土量が目立っているが、年代は18世紀中頃～後半が主体と考えられる相馬・唐津のものが多い。Ⅲ層から上位層からの出土遺物の年代は19世紀前半頃が主体である。Ⅲ層とⅣ層を境に整地時期に違いがあると考えられる。また、相馬の碗・皿の高台内面には墨書が確認できるものがあるが判読不明である。

2. 磁器

出土した磁器は5,258点である。その内137点を掲載した。産地は肥前が最も多く、他に波佐見・瀬戸美濃・青磁・白磁がある。掲載した器種は19種で、肥前の碗・皿が全体の30%を占める。前述の陶器と同様にSX25からの出土量が最も多い。碗の高台内面には墨書が確認できるものがあるが判読不明である。他に徳利や猪口等の酒器や湯呑・急須・茶器等の生活用品の出土が目立っている。肥前の徳利はSX21と通路跡から出土しており、ともに遺物の年代は19世紀前半頃と考えられる。首が太く肩部が張るタイプである。また、少数であるが仏花器や仏飯具等の仏具が出土している。

3. 土師質土器

出土した土師質土器は1,416点である。その内42点を掲載した。器種は皿が最も多く全体の70%である。SX25と谷地形からの出土量が最も多い。他にSX26、Ⅳ層の整地層からも出土している。全てロクロ成形で、径6cm前後で器高が1.8cm前後のもの、径10～12cmで器高が1.8cm前後のもの、径20cm前後で器高が3cm前後のもの3種類がある。外形は底部境のくびれが強いものと体部中央部が大きくくびれるものがあり、体部から口縁端部にかけて直線的に伸びるものとやや屈曲し垂直気味に立ち上がるものがある。また、底部に穿孔があ

るものと底部と体部側面に穿孔があるものの2形態がある。第22表 土師質土器 遺構、層別掲載資料一覧表
年代は全て近世後半と考えられる。

焼塩壺は谷地形からの出土が多く、深さ5cm前後のもの
と8cm前後のもの2種類がみられる。外面には全て格子
タタキが施され、仙台城跡や桜ヶ岡公園遺跡既調査区から
出土したものと共通している。

地区	遺構名	土師質土器										
		器種										
		皿	灯明皿	鉢	火鉢	焜炉	さな	焼塩壺	台座	碁石	蓋	合計
I区	SX25	11	1			1	1		1	1		16
I区	SX28	1										1
I区	SD6	1										1
I区	SX21				1							1
I区	SX26	3										3
II区	通路跡		1									1
II区	谷地形	4	1					2				7
II区	SX43	1										1
II区	SE1		1									1
II区	SK37	1										1
II区	V層			1								1
I区	IV a層	3		1		1						5
I区	IV b層	1										1
I区	II a層	1										1
I区	排土										1	1
	合計	27	4	2	1	2	1	2	1	1	1	42

4. 土製品

土製品は39点出土している。その内12点を掲載した。
土製品の内、土人形の形態は人形が天神、七福神、動物で
は犬、猿、猪がある。胎土は橙色・褐色が基本である。一部淡黄
色のものがあるが、被熱の影響で変色したものと考えられる。天
神は学業・習字の神様とされ、猿は庚申信仰や馬の病気を癒す守
護神として厩に祭り、犬は子供の守り神とされていた。出土層位
はII～IV層、出土遺構はSX17・25・45である。近世後半から幕
末にかけて、庶民に広く流通していたものと考えられる。類例は、
本調査区北側の、平成19・20年度第1次調査でも出土している。

第23表 土製品 遺構、層別掲載資料一覧表

地区	遺構名	土製品		合計
		土人形	羽口	
I区	SX25	3		3
I区	SX29		1	1
II区	SX39	1		1
II区	SX45	1		1
I区	IV a層	3		3
I区	IV b層	1		1
II区	II a層	2		2
	合計	11	1	12

5. 瓦質土器

瓦質土器は382点出土している。その内10点を掲載した。
SX25・61・IV a層からの出土量が多い。器種は火鉢・焜炉・涼炉・
焙烙で、火鉢は全体の50%ほどである。全て脚が3足で口縁内
面が肥厚する。

焜炉は部分的な残存のため正確な形状は把握できない。

第24表 瓦質土器 遺構、層別掲載資料一覧表

地区	遺構名	瓦質土器							合計
		蓋	鉢	火鉢	焜炉	涼炉	七輪	十能	
I区	SX25		1	1	1				3
I区	SX21							1	1
I区	SX30	1							1
II区	谷地形			1					1
II区	SX48			1					1
I区	IV c層				1				1
I区	III b層					1			1
II区	I層						1		1
	合計	1	1	3	2	1	1	1	10

6. 石器・石製品

石器・石製品は134点出土している。その内15点を掲載した。SX25・IV a層からの出土量が多い。器種は硯
が全体の50%を占める。形態は方形と円形、長さ5cm前後の小型のものや15cm前後の一般的な大きさのもの
がある。I層から出土した硯には海部分に彫刻が施されている(第123図6)。また、裏面に線刻による文字が確認
できるものがあるが摩耗が激しく、砥石として転用されていた可能性が考えられる。その他に磨製石斧、石匙、石
棒がある。

第25表 石器・石製品、骨角器 遺構、層別掲載資料一覧表

地区	遺構名	石器・石製品						合計
		石匙	石斧	碁石	硯	砥石	不明	
I区	SX25		1		1	1	1	4
I区	SX30					1		1
II区	通路跡					1		1
II区	谷地形					1		1
I区	V層				1			1
I・II区	IV a層				2	1		3
II区	IV c層	1						1
I区	III b層			1				1
II区	II b層				1			1
	I層				1			1
	合計	1	1	1	6	5	1	15

地区	遺構名	骨角器		合計
		器種	へら状工具	
II区	V層	1		1

7. 骨角器

骨角器は1点出土した。骨を薄くへら状に加工し、
先端に1ヶ所の穿孔を施した有孔へら状製品で、漁
網等を縫う道具の可能性が考えられる。また、道具
ではないがII区II層の検出作業時に、猪または牛の
脚の一部と考えられる獣骨が出土した。

8. 金属製品

第26表 金属製品 遺構、層別掲載資料一覧表

金属製品は和釘954点、煙管46点、楔20点、古銭72枚等が出土している。SX25からの出土量が最も多く全体の40%を占める。和釘は全てSX25の焼土層からの出土である。全て黒褐色に変色しており、火災により崩壊した寺社等の建物の残骸を窪地に廃棄したものである可能性が考えられる。武具は、腰刀・小刀・切羽がそれぞれ1点ずつ出土している。被熱の影響が強く腰刀・小刀とも赤褐色に変色している。煙管はSX25・26からの

地区	遺構名	金属製品														合計
		古銭	延べ煙管	煙管		腰刀	切羽	小刀	飾り釘	毛抜き	釘	簪	鏡	把手	錠前	
				雁首	吸い口											
I区	SX21	1														1
I区	SX25	10		4	3	1	1	1	5	1	12	1	7	2		48
I区	SX24			1												1
I区	SX26			1	2											3
II区	谷地形	10		1	2											13
II区	SX48				1											1
I区	SD3		1													1
II区	石積み	2														2
I	V層	3			1											4
I・II区	IV a層	6			1							1				8
I区	IV b層	1			1											2
I区	IV c層				1										1	2
I区	III b層	1			1											2
I区	II b層	1														1
I区	I層	1												2		3
	排土	1														1
	合計	37	1	7	13	1	1	1	5	1	12	1	8	4	1	93

の出土量が多い。雁首には肩が付けられ脂反しの湾曲が大きいものが4点出土しており17世紀末～18世紀前半の時期と考えられる。他に、火皿が小さく脂反しの湾曲が小さい雁首や、雁首と吸い口それぞれの付け根周りに「小松筋」と呼ぶ横線が入るものがあり18世紀前半～後半と考えられる。これらはIV層整地層やV層上面検出遺構内からの出土遺物で、19世紀代と考えられる延べ煙管はII層上面検出遺構のSD3から出土した。掲載した37枚の古銭は、寛永通宝（新寛永）14枚、寛永通宝（古寛永）18枚、寛永通宝（四文銭）1枚、文久永宝1枚、仙台通宝1枚、現代1枚である。仙台通宝としたものは被熱の影響が強く判読はできないが、鉄製であり形状が四角形であることから仙台通宝と判断した。非掲載35枚の内訳は、寛永通宝（新古不明）12枚、近・現代9枚、判読不明14枚である。

9. 瓦

瓦については出土量が膨大であったため、調査中に現場で選別を行い細片や瓦当が無い又は識別できないものを除いて取り上げを行った。取り上げた点数は3,540点で、遺構出土が3,083点、整地層及び表土出土が457点、総重量は約2.5tである。全体の出土点数はおおよそではあるが、10,000点以上、重量7t以上になると考えられる。仙台市史（『仙台市史（通史編4 近世2）2003 仙台市』）によると、江戸においては大身の武家屋敷は瓦葺化されていたのに対して、仙台では最上級家臣の屋敷でも板葺の一種である柿葺きであった。また、慶応元年仙台城下図屏風（第5図）では屋根が詳細に描き分けられており、塀や門及び蔵にのみ瓦が葺かれていた様子をうかがうことができる。また、本遺跡の既調査区に比べて出土量が格段に多いことから、廃棄された瓦が広範囲から集められたものと考えられ、今後の検討材料として貴重な資料になると考えられる。

確認した種類は、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・軒棧瓦・棧瓦・輪違い・熨斗瓦・袖瓦・鬼瓦・下駄紐熨斗瓦・角棧伏間瓦・塀瓦・隅瓦・駒形雪止棧瓦・面戸瓦・鳥衾・鯨瓦・行基瓦・T字瓦・丸棧伏間瓦・不明瓦の22種類である。尚、瓦当文様の呼称に関しては仙台城本丸跡1次調査（仙台市教育委員会2005）を参考にした。

出土した瓦は全て近世瓦で、燻し具合に違いは無く、粘土板の切り離しに鉄線が用いられるコビキB類である。SX25からの出土量が最も多い。調査区北西部の谷地形からの出土量はSX25の100分の1ほどである。また、SX25で検出した焼土層が谷地形には堆積していなかったことから、瓦の廃棄場所としてはSX25に限定していた可能性が考えられる。

軒丸瓦は31点、軒平瓦は37点、軒棧瓦は24点掲載した。瓦当文様は34種類確認された（第124図参照）。軒丸瓦の瓦当は全て径16cm前後である。瓦当文様は三つ巴文を施すものが80%で最も多い。巴の方向は左巻き右巻き両方があり、左巻きが全体の90%を占める。また巴の周囲に珠文が付くものが三巴文全体の5%ほどである。

他に、ある程度使用が制限されていたと考えられる九曜文や豎三引両文がある。豎三引両文は軒平瓦、軒棧瓦にも確認でき、軒棧瓦は丸瓦部と平瓦部両方にみられる。軒平瓦は三巴文、笹文、菊花文が多い。これらは仙台城跡に同様の出土例があるが、丸文と呼称した中央部に「○」を持つものとその「○」に波状のような加工を施したものはこれまで確認されていない。「○」の輪郭そのものは豎三引両文に類似する。軒棧瓦の瓦当文様は丸瓦部平瓦部両方に豎三引両文が施されているものがある。他の軒棧瓦に比べ大きく、丸瓦部瓦当径は10cm、平瓦部瓦当の幅は25cmであり、大規模な門のような施設で使用されていたものであると考えられる。

軒平瓦と軒棧瓦平瓦部分の瓦当は、唐草文様と中心飾りの組み合わせごとに、それぞれA～E類の5種類に分類される(第125図参照)。軒平瓦は、A～D類を唐草文様の太さの違いでa～dに細分した。軒棧瓦は、線で表される形態をA～D類に分類し、文様全体が盛り上がり太く表現される形態をE類とし、文様の違いでa～fに細分した。軒平瓦の唐草文様A類は、唐草が2本、左右それぞれ斜め上に上がる形態で、組み合わせられる中心飾りは花文(15弁)・三巴文がある。B類は唐草が3本で、組み合わせられる中心飾りは花文(8弁)である。C類は、唐草文様の端が尖る形態で組み合わせられる中心飾りは笹文三枚笹である。D類は、A類と同様唐草は2本だが、1本が真横へ延び、もう1本が下へ延びる形態である。組み合わせられる中心飾りは、笹文雪持ちと丸文がある。E類は細い線で唐草が表される形態で、組み合わせられる中心飾りは豎三引両文である。

軒棧瓦の唐草文様A類と中心飾りの組み合わせは、軒平瓦のA類と同類のものである。B・C類は、唐草の端が尖る形態で、大きさの違いで2種類に分けた。唐草文様B類は軒平瓦のC類と同様で、組み合わせられる中心飾りは豎三引両文である。唐草文様C・D類は組み合わせられる中心飾りを含め、それぞれ軒平瓦C・D類と同様である。唐草文様E類は、5種類ありE-a類が江戸式、E-cが尾張系で、他の3種は不明である。

SX45は小規模な遺構ではあるが、土坑状の掘り込みの中に80点の丸瓦が投棄されていた。平瓦は132点出土しているが、その内SX21の出土量は38点で、これらは整地面に規則性を持って並べられていたものである。

刻印が施された瓦は25点確認された(第126図参照)。平瓦・丸瓦・軒棧瓦がある。平瓦の側面部や丸瓦の玉縁部、玉縁から尻にかけての面、軒棧瓦丸瓦裏面と施されている場所は様々である。A～Hの8類に分けた。A類は、円形の竹管等を刺突したもので、半円状のものは同種の器具で刺突する際の工具の角度あるいは工具の先端を尖らせるような加工の違いと考えられる。また、No.10・11は中央部に窪みがあるが、刺突の際の意図的な加工では無いと考えられる。平瓦側面部に多く見られる。B類は、2重円のものである。A類と同様と考えられるが丸瓦玉縁部にのみ確認される。C類は円形の外郭に加え中央部にひし形の刺突が加わる。丸瓦玉縁部にのみ確認される。D類は、半截して半円形に加工した竹管等を使用して刺突したもので、平瓦側面部で確認される。E類は文様を彫った印判を押したもので丸瓦玉縁部に確認される。F類はへら状または串状の工具で刺突したもので平瓦側面部でのみ確認される。G類は先端を平坦な棒状に加工した工具を組み合わせる押したも

第28表 瓦当 種類別一覧表

用途	瓦当	点数
軒丸	珠文三巴文(左)	13
	珠文三巴文(右)	5
	九曜文	8
	豎三引両文	3
	三巴(左)	1
	不明	1
軒平	笹文雪持ち	11
	笹文三枚笹	5
	巴字文	2
	三巴(左)	4
	花文(8本)	6
	花文(15本)	1
	豎三引両文	1
	丸文	5
	不明	2
	三葉	1
軒棧	桔梗文?+花文(15本)	1
	桔梗文?+不明	1
	不明+花文(15本)	1
	三巴文(左)+豎三引両文	1
	三巴文(左)+笹文 雪持ち	1
	三巴文(左)+尾張系	1
	三巴文(左)+不明	1
	三巴文(右)+江戸式	2
	三巴文(右)+不明	1
	珠文三巴文(右)+江戸式	2
	珠文三巴文(左)+不明	1
	豎三引両文+豎三引両文	1
	豎三引両文+不明	4
	江戸式	2
	不明+笹文 三枚笹	1
	不明+尾張系	1
	無文	2
	不明	1
鳥衾	珠文三巴(左)	2
隅	三巴(左)	1

軒丸瓦瓦当

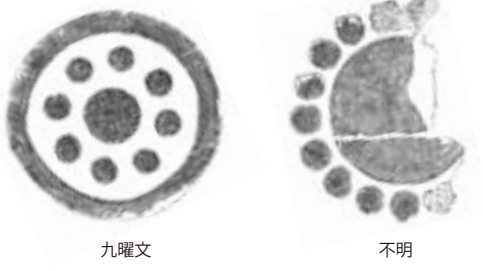


珠文三巴文 (左巻き、珠文 20 と 13)

珠文三巴文 (右巻き)

三巴文 (左巻き)

豎三引兩文



九曜文

不明

軒平瓦瓦当



三巴文 (左巻き)

巴字文

三葉文



花文

花文

笹文 雪持ち

笹文 三枚笹

豎三引兩文

丸文

不明

不明

軒棧瓦瓦当



三巴文 (左巻き) + 豎三引兩文

豎三引兩文 + 豎三引兩文

豎三引兩文 + ?

無文

三巴文 (左巻き) + 笹文 雪持ち

? + 笹文 三枚笹

? + 花文

桔梗文? + 花文

珠文三巴文 (右巻き) + 江戸式 (本丸大広間跡周辺)

三巴文 (左巻き) + 不明

? + 不明

三巴文 (左巻き) + 不明

三巴文 (右巻き) + 江戸式 (本丸大広間跡周辺)

? + 尾張系

珠文三巴文 (左巻き) + ?

三巴文 (左巻き) + 尾張系

鳥衾瓦当

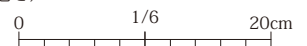


珠文三巴文 (左巻き)

隅瓦瓦当



三巴文 (左巻き)



第124図 瓦当分類集成図

軒平瓦瓦当

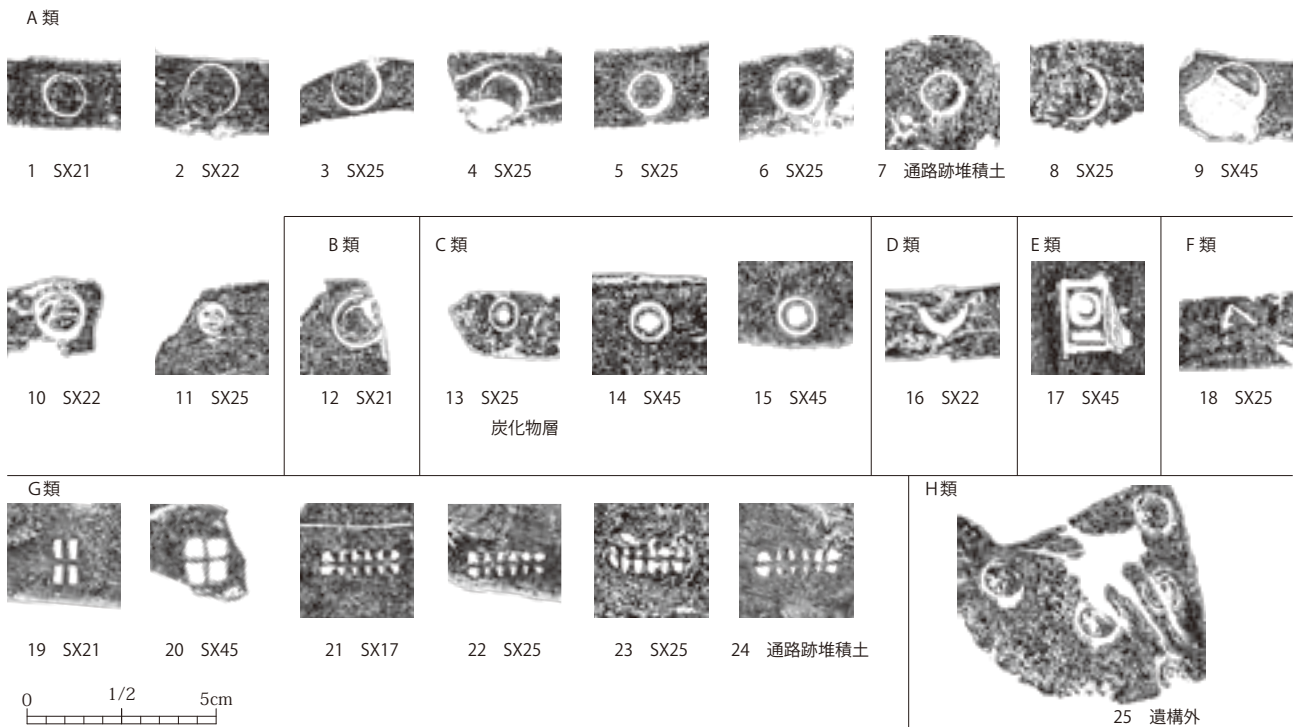
唐草文	中心飾り	唐草文	中心飾り
唐草文 A-a 	花文 	唐草文 D-a 	笹文 雪持ち a
唐草文 A-b 	三巴文 		笹文 雪持ち b
唐草文 B-a 	花文 a 	唐草文 D-b 	笹文 雪持ち c
唐草文 B-b 	花文 b 		笹文 雪持ち d
唐草文 C-a 	笹文 三枚笹 a 	唐草文 D-c 	笹文 雪持ち e
唐草文 C-b 	笹文 三枚笹 b 	唐草文 D-d 	丸文
唐草文 E 	豎三引両文 		不明

軒棧瓦瓦当

唐草文	中心飾り	唐草文	中心飾り
唐草文 A 	花文 	唐草文 E-a 	
唐草文 B 	豎三引両文 	唐草文 E-b 	
唐草文 C 	笹文 三枚笹 	唐草文 E-c 	
唐草文 D 	笹文 雪持ち 	唐草文 E-d 	不明
		唐草文 E-e 	
		唐草文 E-f 	

第125図 軒平瓦・軒棧瓦唐草文比較図

第2節



第126図 刻印集成図

ので単位は4個と12個である。丸瓦玉縁部及び玉縁から尻にかけての面に確認される。H類は、A類と同様のものが複数押されていたもので軒棧瓦の丸瓦部分裏面でのみ確認される。

前述したが、出土した瓦は、全て近世瓦で刻印が施された瓦は出土層位で比較しても胎土や燻し具合、製作技法に大きな差異は無い。また、A・G類は18世紀前半に埋没したと考えられるSX25からの出土が顕著であるが、19世紀前半頃に埋没したと考えられる通路跡堆積土からも出土しており、これらの刻印は近世後半から幕末にかけて長期にわたって用いられ続けてきたものと考えられる。

他に出土量が顕著なものとして、輪違いが63点出土しており、特にSX25からの出土が多い。縦・横軸とも12cm画に納まる方形のものと、縦軸14cm以上に対し横軸が10～12cmの長方形のもの2形態が確認された。配置した際の隙間を調整し安定性を保つために、2形態を使い分けていたものと考えられる。

10. 瓦塔

瓦塔の一部と考えられる破片は4点出土した。その内2点が接合され、計3点として報告した。第43図1・2は、三重塔あるいは五重塔の屋根部と考えられる。屋根は本瓦葺きで表わされており、精密に塔建築を再現している。

第29表 瓦塔 遺構、層別掲載資料一覧表

種類	瓦塔	
	点数	重量 (g)
SX21	2	16,689
IV a 層	1	185
合計	3	16,874

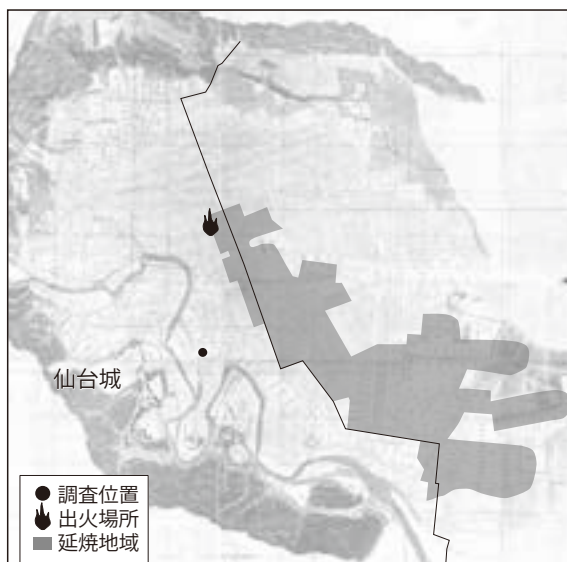
第2節 大火後の整地変遷

1. SX25 焼土層

第5章1節で報告したとおり、I区で検出した大型の落ち込み(SX25 性格不明遺構)の堆積土に、強い熱を受け変色した赤褐色基調の焼土層と炭化物を大量に含む層を確認した(第128図参照)。その規模は、長軸12.6m、短軸5.6m、層厚は60cm以上で、北と東方向から斜行堆積している。層中から陶器の碗・壺・徳利や瓦質の焜炉、

煙管・多量の和釘等が出土している。また、被熱によって釉薬の色調が変わったものや釉薬が膨れ上がった陶器、赤褐色化した瓦等が多数出土しており相当な火力で2次被熱したものと考えられる。和釘は954点以上出土している。

出土した遺物の年代は17世紀後半から、18世紀前半のものが主体である。仙台市史の当該時期の火災記録では、宝永4年(1707)の火災で、本調査区がある現在の大手町から荒町まで延焼した大火の記録がある。また、享保12年(1727)の火災では、北二番丁で発生した火災が、折からの激しい西方の風にあおられて城下の中心部を焼き、さらに東部へと燃え広がったとある。焼土層から出土した遺物の2次被熱の状況や遺物の年代、和釘の出土量から、検出した焼土層は、前述した2件の火災を含む18世紀前半に起きたいずれかの火災によって、焼け崩れた寺社や家屋の残骸とともに運び込まれた土の可能性が考えられる。



第127図 享保12年(1727)大火消失推定範囲

※仙台市史 通史編5近世3を改変

2. 整地・造成作業

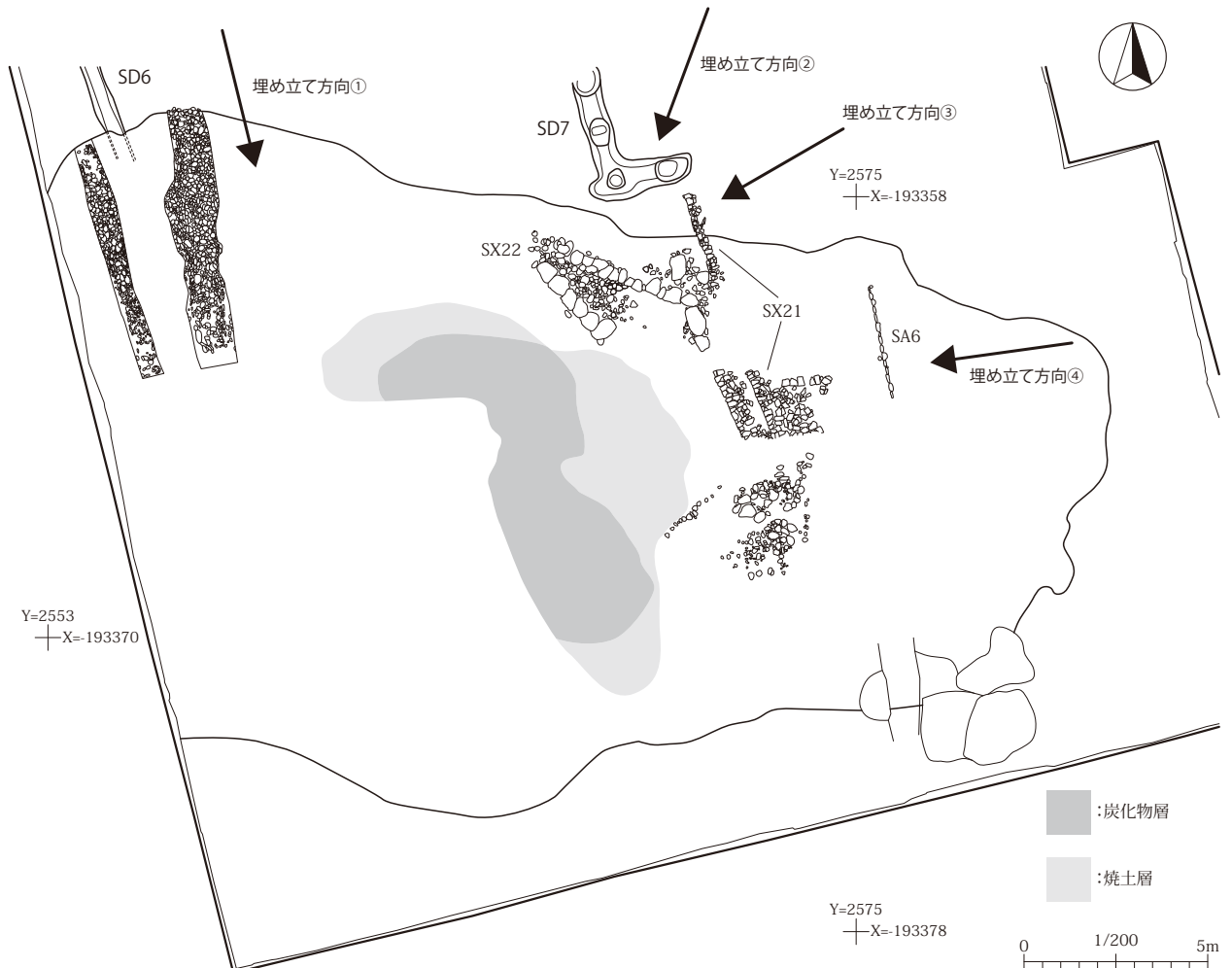
出土遺物の年代観と焼土層の堆積時期から、本調査区の整地変遷について検討する。

1期：近世半ば

IV・V層堆積及び整地期間を1期とする。SX25法面及び下層には黄灰色基調のシルト層が堆積しており、同層からは17世紀末～18世紀初頭の所産と考えられる唐津碗が出土している。SX25を人為的に埋め立て始めた時期は18世紀初頭以降と考えられる。堆積土は大きく北→南、東→西の2方向から斜行堆積している。D8グリッドのみの確認ではあるが、堆積土断面には带状にグライ化した状態になっている部分があり、黄灰色基調のシルト層を埋め立てた以後に池のような状態であった期間があったと考えられる。また、SX25北側法面の玉石は黄灰色基調のシルト層の下位に堆積しており、これら玉石は整地初期段階に投棄されたものと考えられる。また、前述した多量の焼土層の範囲は、さらに西側に広がっていくものと考えられる。焼土・炭化物層は黄灰色シルト層を覆うかたちで堆積している。炭化物層からは前述した唐津碗と同じ年代と考えられる煙管が出土しているが、他に18世紀前半と考えられる煙管も同層から出土しているため、黄灰色基調のシルト層が埋め立てられた後、18世紀半ばに埋められたものと考えられる。ここまでの第一段階であり、二段階目としてIV層で埋め立てられたものと考えられる。SX21・22・60を整地の際の土止め・整地範囲の目安と見立てた場合、①北→南、②北東→南西、③東北東→西南西、④東→西の4方向から埋め立てられており、標高の高いところから低いところへ微地形を利用した埋め立て作業が行われている。SX25の検出面及びIV層上面では建物跡は確認できなかったことから、建物建築を目的とした整地ではなく、火災後の廃棄場としてくぼ地を利用したものと考えられる。また、SD6・7はSX25に向かって伸びており、くぼ地へ排水を行っていた施設の可能性が考えられる。また、SX25の北側に位置するSX26は、長軸7m、深さ2m前後で、北壁・西壁が垂直気味に立ち上がっており土取り穴と考えられ、SX25及びその周辺は生活区域外だったと考えられる。調査区北西側の谷地形では下層から18世紀中頃と考えられる京風焼碗・相馬碗・煙管が出土しており、SX25の整地後に、埋め立て・整地されたものと考えられる。

第30表 仙台城下の宝永～享保年間の主な火災記録 ※仙台市史 通史編5 近世3を改変

年(西暦)	月	被害状況
宝永4年(1707)	2月	巳刻、東七番町で出火。城下東南部一帯に延焼し酉刻に鎮火。荒町・南鍛冶町・殻町・南材木町・南染師町はほぼ全焼。侍屋敷・足軽屋敷等128軒、町屋敷351軒、その他寺社を焼失。死者4名。
宝永4年(1707)	2月	巳下刻、北四番丁付近で出火し、南西方向に延焼し亥下刻に鎮火。北材木町・本材木町・立町・肴町・大町・新伝馬町・南町・柳町・袋町・北目町・上染師町・田町・国分町はほぼ全焼。侍屋敷・職人屋敷666軒、町屋敷892軒半が焼失。死者4名。
宝永4年(1707)	3月	未上刻、大聖寺で出火。侍屋敷7軒、門前町39軒、同心屋敷50軒、寺社5軒が焼失し、申下刻に鎮火。
宝永5年間(1708)	1月	午刻、竜宝寺門前で出火。侍屋敷863軒、足軽・職人屋敷405軒、町屋敷812軒等2,135軒が焼失。死者8名。
正徳3年(1713)	3月	北一番丁で出火。侍屋敷・寺社10軒の他、大町二三丁目・肴町・立町・北材木町等町屋敷237軒焼失。
享保3年(1718)	4月	辰刻、染師町西裏で出火。東南へ延焼し、侍屋敷15軒、足軽屋敷32軒、町屋敷204軒半等が焼失。田町・荒町・南鍛冶町はほぼ全焼。
享保3年(1718)	4月	午刻、肴町で出火。侍屋敷73軒、大町・南町・柳町・北目町・染師町等の町屋敷185軒を焼失。
享保12年(1727)	3月	巳上刻、北二番丁で出火。激しい西北風により東南へ延焼し、侍屋敷443軒、足軽屋敷493軒等1,525軒を焼失。
享保13年(1728)	10月	午刻、河原町で火災。町屋敷35軒半、その他付近の家47戸を焼く。



第128図 SX25焼土検出範囲・整地方向

2期：幕末～近代にかけて

Ⅱ・Ⅲ層整地層を2期とする。Ⅱ・Ⅲ層からは19世紀代と考えられる磁器が出土している。また、通路跡堆積土上層からも、同様の磁器が出土している。従ってⅢ層整地時期と通路跡埋没時期には大きな時間差は無いものと考えられる。整地方向は大きく北→南、東→西の2方向である。また、出土遺物の年代観から、Ⅱ層とⅢ層の整地作業が行われたのは同一時期ではないものの、それほど大きな時間差は無いと考えられる。Ⅱ層からは19世紀中葉と考えられる磁器が、Ⅱ層上面で検出したSD3からは延べ煙管が出土している。下位層とは異なり、整地土は水平である。また、SX21出土の瓦塔と接合した破片は、北側土塁の表土から出土していることから、近代の整地作業に伴い、下層整地土を南から北へ大きく移動させる作業が行われたものと考えられる。

第3節 絵図と検出された通路跡との比較

第4図に掲載した「仙台北城下絵図」寛文4年(1664)には、調査区推定位置の西側から南側へ廻り込む道路が描かれている。しかし「奥州仙台北城下絵図」天和2年(1682)以後の絵図には道路が描かれておらず、道路分の土地が屋敷地内に含まれているように見える。また、天和2年(1682)以前の絵図には、屋敷の居住者の名前が南から北や西から東に向かって書かれているが、これ以後に描かれた絵図では北から南に向かって描かれており、西側から廻り込む通路が消失したため、屋敷の敷地面積と玄関位置を変更した可能性が考えられる。

調査では道路跡の痕跡が確認できなかったため、消失した理由を明らかにすることはできなかった。仙台市史によると寛文8年(1668)年と延宝6年(1678)に大地震があり、マグニチュードは推定で前者が5.9、後者が7.5とされている(『仙台市史(通史編5近世3)』2004仙台市)(第31表)。道路消失が人為的な解体によるものではない場合、これらの地震によって崩壊した後、何らかの理由で復旧されなかったため、絵図に描かれなくなった可能性が考えられる。また、絵図では道路西側の崖法面が直線的に描かれているのに対し、調査区全景写真(写真図版11)で見る現況の法面は東側に入り込んでいる部分があり、当時の地震による崖崩れの影響で地形が変化した名残とも考えられる。また、調査区西側の法面には、調査地点から2mほど下の位置にテラス状の段になる部分があり、道路跡の痕跡である可能性も考えられるが、調査区外であり明らかにはできなかった。

調査区北西側で検出された通路跡は、幅が1.8～2mと狭い事と石組側溝が簡素な構造であり、西側のみにしか構築されていないこと、検出された位置が崖面から約20m離れているのに対し、絵図では敷地の崖面に沿って描かれていること等から絵図に描かれるような道路跡とは考えにくい。また、整地順から、通路跡は谷地形埋没後に構築されており、Ⅲ層またはⅡ層整地時のものと考えられるが、路面下からの遺物の出土が無いため、構築時期は今回の調査では明確にできなかった。但し、通路跡西側側溝の堆積土や路面上堆積土からは19世紀前半と考えられる瀬戸美濃や大堀相馬の製品等が出土しており、通路跡の埋没時期は19世紀前半頃と考えられる。天和2年(1682)の絵図以降に描かれなくなった道路の消失時期とは大きく時間差があるため、通路跡と絵図に描かれている道路には直接的な関連はないと考えられる。

また、調査区北端堆積土18・20層が固くしまった層であり(65頁注記表参照)、調査区外に延びていることから、側溝が機能した面より上位の段階でも通路として機能していた可能性が考えられる。

第31表 仙台北城下の地震記録 ※仙台市史 通史編5近世3を改変

年代		被害状況等
年	月	
寛文8年(1668)	8月	申下刻大地震。仙台北城本丸の石垣が崩れる 推定マグニチュード5.9
延宝6年(1678)	10月	地震により東照宮・瑞鳳殿・感仙殿および仙台北城内の祀堂等破損 推定マグニチュード7.5

第7章 まとめ

1. 本調査区は絵図から、武家屋敷の敷地内であると考えられる。Ⅵ・Ⅶ層上面で検出したSB10は、規模が小さいことから屋敷内に建つ倉庫あるいは厩等の建物跡である可能性が考えられるが、これを伴うと考えられる主要な建物跡は確認できなかった。Ⅴ層上面検出SA3とⅣ層上面検出のSA8は、両方とも南北方向に延びており、規則性をもった施設と考えられるが性格は不明である。また、Ⅰ区のD・E7グリッドに位置するSX26は、北壁面と西壁面が垂直気味に立ち上がり、北壁面は一部えぐるように削られていることから土取り穴の可能性があり、このグリッド付近を作業場と想定した場合、SX26が埋没した18世紀後半以前までは、屋敷の建物はD・E7グリッドより東側に展開していたものと考えられる。近世期の屋敷地は土地面積に対して建物面積が小さいと言われており(『仙台市史通史編4 近世2』2003 仙台市)、絵図に描かれる印象よりも建物域中心部は規模が小さかったものと考えられる。また、今回の調査では主要な建物跡は確認されなかったが、更に東側に屋敷の中心的な建物群が展開しているものと想定される。Ⅱ層上面の柱穴群は明治時代に建設・運営されていた養蚕試験場に伴うもので、江戸時代とは建物の範囲が変わったものと考えられる。

2. 出土遺物の年代は17世紀末～19世紀中頃のものである。産地は肥前・波佐見・唐津・織部・大堀相馬・小野相馬・信楽・瀬戸美濃等がある。Ⅳ層以下では17世紀末～18世紀前半の遺物が、Ⅱ・Ⅲ層中からは18世紀後半～19世紀中頃の遺物が出土している。陶器は唐津・相馬が主体である。磁器は肥前・波佐見が主体であるが、他に青磁・白磁がある。青磁・白磁の出土数は磁器全体の1割程度である。陶器には高台内面に墨書・線刻が、磁器には高台内面に墨書が確認出来るものがある。縄文土器、石器類が合わせて3点出しているが遺構の時期とは関わりはない。金属製品では古銭・煙管・簪・毛抜き・腰刀・刀子・切羽・鏝・和釘等が出土している。和釘はSX25の焼土層からの出土量が最も多く、火災により倒壊した寺社や家屋の残骸ごと運び込まれたものが多かったものと考えられる。

3. Ⅰ区では大型の落ち込みであるSX25、Ⅱ区では調査区北西で谷地形を確認した。「奥州仙台城絵図」(推定1645～1646年)から明治元年現状仙台城市之図(推定1868年)までの絵図の、どれにも描かれていないため、近世以前から落ち込んでいたのか、近世期に発生した地震等によって地形が変化したのかは不明である。SX25は調査区西側に向かって窄まると考えられるが、安全上全ての堆積土を掘削していないため、正確な規模や人為的に掘り込まれたものかは明らかにできなかった。Ⅱ区の谷地形はSX25埋没後に埋没したものと考えられる。

SX25の整地作業は大きく3段階で行われたものと考えられる。第1段階は、17世紀末～18世紀前半にかけて下層を埋めた後、火災によって生じた廃棄物を含む焼土によって行われた整地作業である。焼土層からは唐津・相馬・信楽・瓦質土器の他に大量の金属製品が出土した。第2段階は基本層Ⅳa層とした径40～50cmの大型の礫を大量に含む土による整地作業である。大型の礫は、加工痕が無い自然石で建物跡等の施設に伴うものとは考えにくく、土止めに使用された可能性が考えられる。また、Ⅴ層上面で検出したSX21・22は瓦や径40cm前後の礫を並べており、これらは整地作業時の目安として使用されていた可能性が考えられる。同じくⅤ層上面で検出したSX60は南北方向に玉石を並べており、SX21・22同様整地作業時の目安として使用していた可能性が考えられる。第3段階は18世紀前半以降～19世紀前半にかけて行われた整地で、基本層Ⅲ層によって整地されたものである。

生活面は整地作業の度に削平の影響を受けているものと考えられ、各層の上面に建てられていた建物は今回の調査では一部のみの検出にとどまり、全体を確認するには至らなかった。

4. Ⅱ区で検出した通路跡は規模が小さく側溝の造りが簡素であることと位置関係から、絵図に描かれたような基幹的な道路跡ではなく、屋敷地内の通路と考えられる。谷地形埋没後に構築されたものと考えられるが、付随する

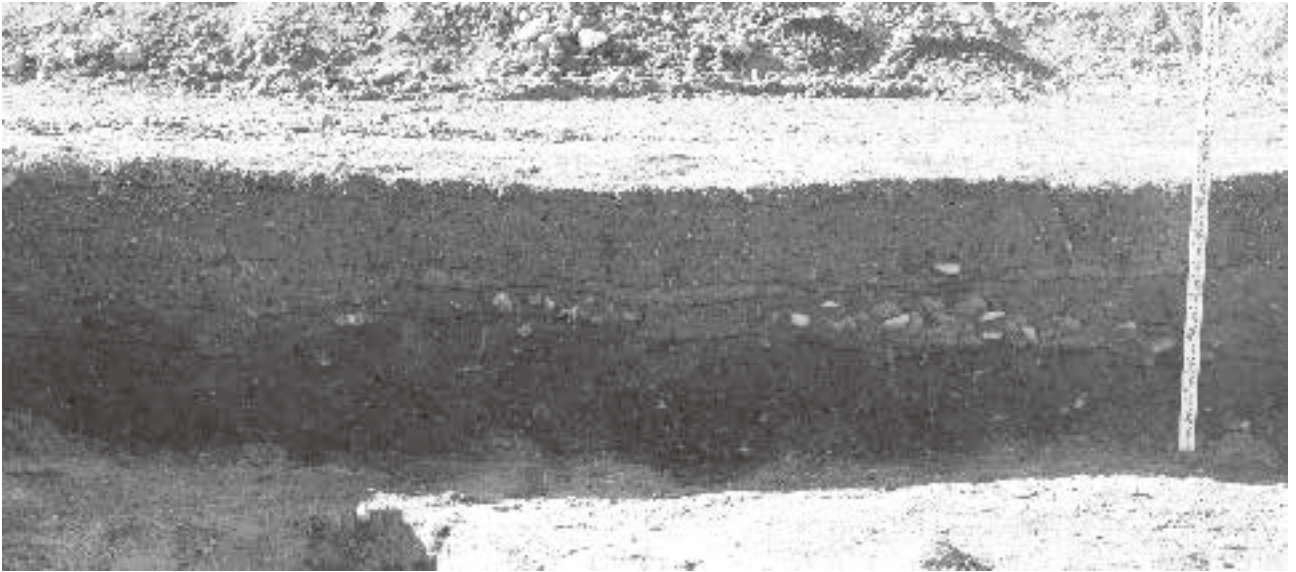
建物等は明確にできなかった。Ⅱ区東部で検出されたSX58は雨落ち溝の可能性が考えられ、石列の東側に建物が広がっていた可能性がある。調査区北側の土塁東部の石積みは、明治以降の井戸に付随する排水溝枠や排水土管の上部に積まれている。また、この範囲のみ上下2段に石積みが確認され、石積みを一部改修したのと考えられる。1876年(明治9)には桜ヶ岡公園を会場として宮城県博覧会が開催されている(『仙台市史通史編6近代1』2008仙台市)。また、同年に明治天皇の奥羽巡幸があり、これらの興行・行事に合わせて整備された可能性も考えられる。Ⅱ区岩盤上面で検出したSX42・43・45・48・49・51～53はC・D3グリッド付近に集中する掘り込みであるが性格等は不明である。Ⅰ区で検出したSX24・26同様土取り穴とも考えられるが2基に比べると規模が小さい。SX45には大量の丸瓦が混入しており廃棄土坑と考えられる。SX48・51には底面に周溝が確認できるが、これは樹木を移植する際の根廻しの痕跡である可能性が考えられる。

引用・参考文献

- 大橋康二 1989 『55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
- 大橋康二構成 2002 『そば猪口辞典』平凡社
- 櫻木晋一 2016 『貨幣考古学の世界』ニュー・サイエンス社
- 坪井利弘 1976 『日本の屋根瓦』理工学社
- 坪井利弘 1986 『図鑑 屋根瓦(改訂版)』理工学社
- 濱島正士監修 2000 『文化財探訪クラブ3寺院建築』山川出版社
- 三好一 2005 『楽しい小皿』青幻舎
- 山崎信二 2008 『近世瓦の研究』同成社
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』柏書房
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 財団法人 瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006 『江戸時代のやきもの』—生産と流通—
記念講演会・シンポジウム資料集
- 福島市教育委員会 公益財団法人 福島市振興公社 2015 『福島城跡4』福島市埋蔵文化財報告書第227集
- 福島市教育委員会 公益財団法人 福島市振興公社 2016 『福島城跡5』福島市埋蔵文化財報告書第231集
- 「新」目で見える仙台の歴史編集委員会 1989 『「新」目で見える仙台の歴史』宮城県教科書供給所
- 仙台市教育委員会 2004 『元袋遺跡—都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡—』
仙台市文化財調査報告書第272集
- 仙台市教育委員会 2005 『仙台城本丸跡1次調査—石垣修復工事に伴う発掘調査報告書—』
仙台市文化財調査報告書第282集
- 仙台市教育委員会 2007 『川内A遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書—』
仙台市文化財調査報告書第312集
- 仙台市教育委員会 2007 『桜ヶ岡公園遺跡—第2次調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第318集
- 仙台市教育委員会 2009 『仙台城跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—』
仙台市文化財調査報告書第342集
- 仙台市教育委員会 2011 『桜ヶ岡公園遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ—』
仙台市文化財調査報告書第384集

- 仙台市教育委員会 2012 『仙台城跡ほか―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ―』
 仙台市文化財調査報告書第 402 集
- 仙台市教育委員会 2012 『桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ―』
 仙台市文化財調査報告書第 403 集
- 仙台市教育委員会 2014 『大野田遺跡 第 1 次調査―都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡―』
 仙台市文化財調査報告書第 424 集
- 仙台市教育委員会 2016 『仙台城跡（仮称）公園センター建設に係る追廻地区第 4 次～第 6 次発掘調査報告書』
 仙台市文化財調査報告書第 444 集
- 仙台市教育委員会 2019 『若林城跡―第 10 次・12～15 次発掘調査報告書―』
 仙台市文化財調査報告書第 474 集
- 仙台市史編さん委員会 2003 『仙台市史 通史編 4 近世 2』
- 仙台市史編さん委員会 2004 『仙台市史 通史編 5 近世 3』
- 仙台市史編さん委員会 2008 『仙台市史 通史編 6 近代 1』

写 真 图 版



西壁 D9 グリッド (東から)



南壁 F9 グリッド (北から)



西壁 D8 グリッド (南東から)



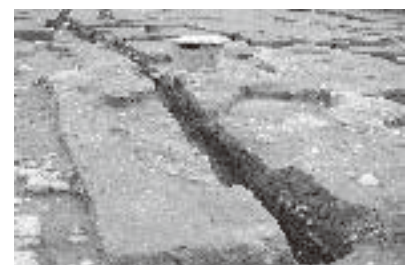
西壁 C6 グリッド (南東から)



西壁 C5 グリッド (北東から)



南北ベルト E8 グリッド (南東から)



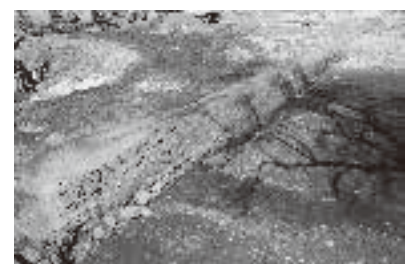
南北ベルト E7 グリッド (北東から)



東西ベルト D7 グリッド (南から)



南北ベルト E6 グリッド (南東から)



南北ベルト E5 グリッド (南東から)

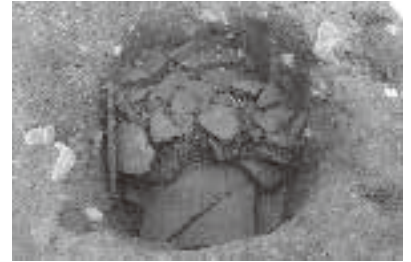
写真図版 1 基本層序



SB6 完掘 (西から)



SA9 完掘 (北から)



SA7-P7 瓦出土 (南から)



SA3 完掘 (南から)



SD6 北側完掘 (南から)



SD7 完掘 (南から)



SD6 南側礫出土 (南から)



SD9 礫出土 (南から)



SD9・10・12・13 完掘 (南から)

写真図版 2 SB6、SA3・9・7 (層位順)、SD6・7・9・10・12・13



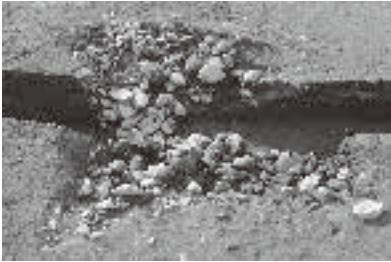
SX23 完掘 (北西から)



SX28 完掘 (南から)



SX29 完掘 (南西から)



SX30 礫出土 (東から)



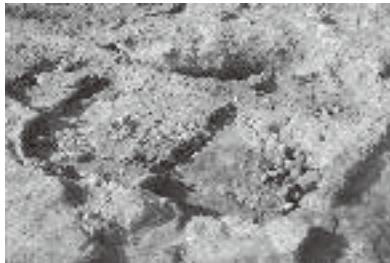
SX60 検出 (北から)



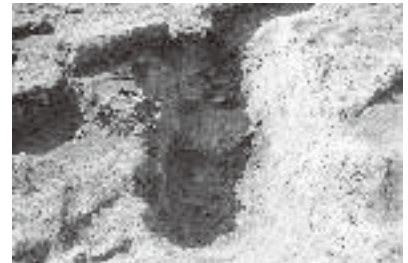
SX17 瓦出土 (東から)



SX17-P1 断面 D (北から)



SX42 完掘 (南東から)



SX43 完掘 (北東から)



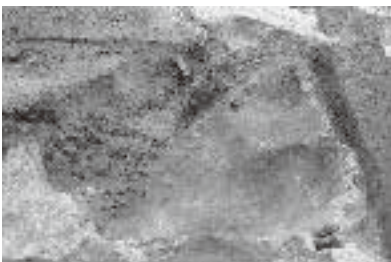
SX45 瓦出土 (北から)



SX45 断面 A (北から)



SX45 断面 B (東から)



SX45 完掘 (北から)



SX48・51 断面 A (南東から)



SX48 断面 B (東から)



SX48 完掘 (南から)



SX51 完掘 (南から)



SX58 検出 (南から)

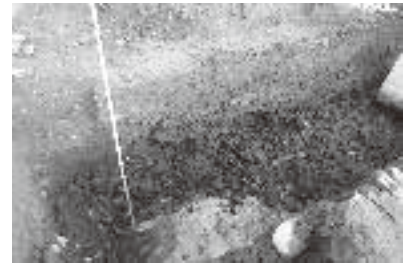
写真図版 3 SX23・28、29・30・60、17、42・43・45・48・51・58 (層位順)



SX25 全景 (南東から)



SX25 東西断面 A (南東から)



SX25 東西断面 A 補足 (南から)



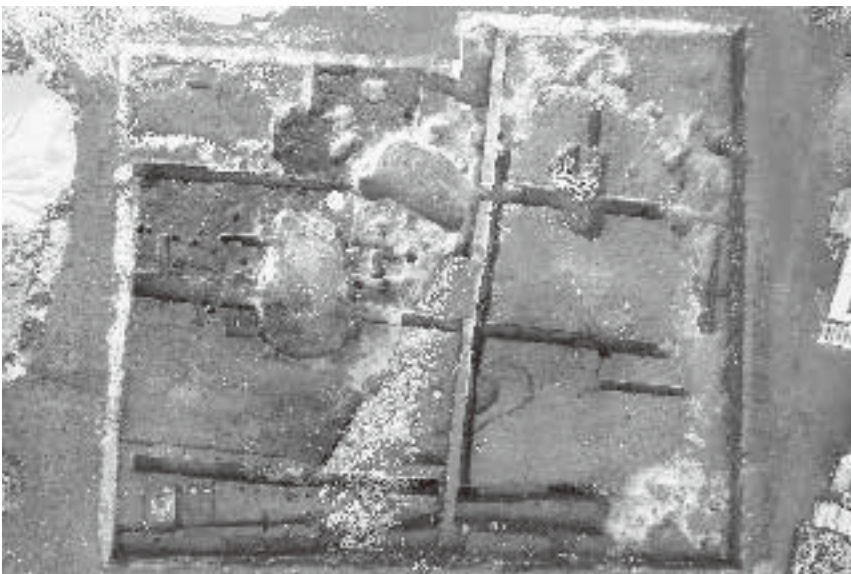
SX25 全景 (北西から)



SX25 南北断面 B 南① (北西から)



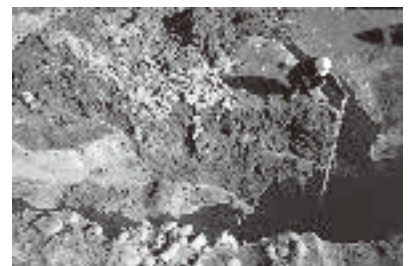
SX25 南北断面 B 南② (南西から)



SX25 全景 (写真左が北)



SX25 南北断面 B 北 (南西から)



SX25 南北断面 B 北補足 (西から)

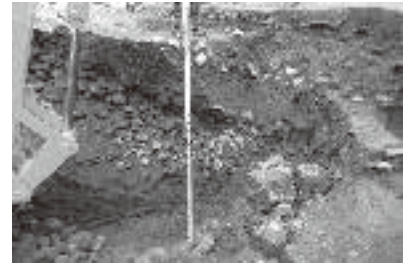
写真図版 4 SX25 (1)



SX25 南北断面 C 南 (南西から)



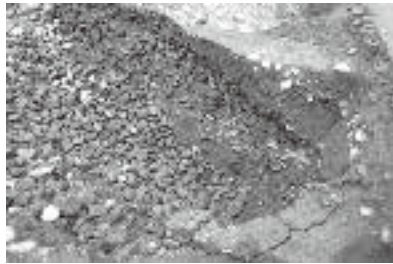
SX25 南北断面 C 北 (南西から)



SX25 南北断面 C 北補足 (西から)



SX25 南北断面 D (南東から)



SX25 玉石堆積状況 (西から)



SX25 玉石堆積状況 (南西から)



SX25 上位層内礫・瓦検出 (東から)



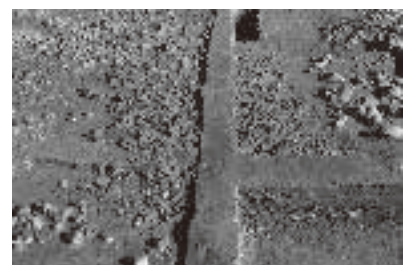
SX25 上位層内礫検出 (北西から)



SX25 上位層内礫検出 (北から)



SX25 上位層内礫・瓦検出 (南から)



SX25 上位層内瓦検出 (西から)



SX25 上位層内礫参考

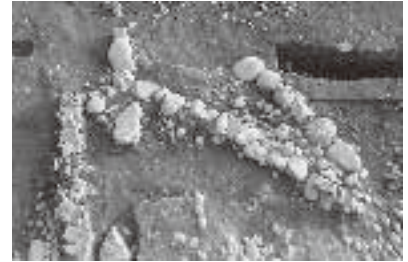
写真図版 5 SX25 (2)



SX21・22 検出 (写真上が北)



SX21 検出 (北西から)



SX22 検出 (北から)



SX21 北側立面 A (西から)



SX21 南側立面 B (西から)



SX21 南側断面 C (北から)



SX22 検出 (西から)



SX22 石列北側 (南から)



SX22 石列南側 (南から)

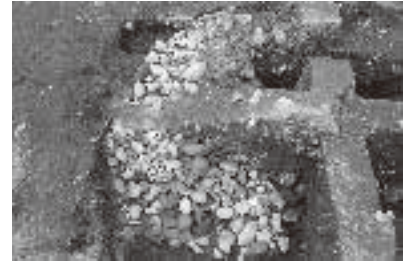
写真図版 6 SX21・22



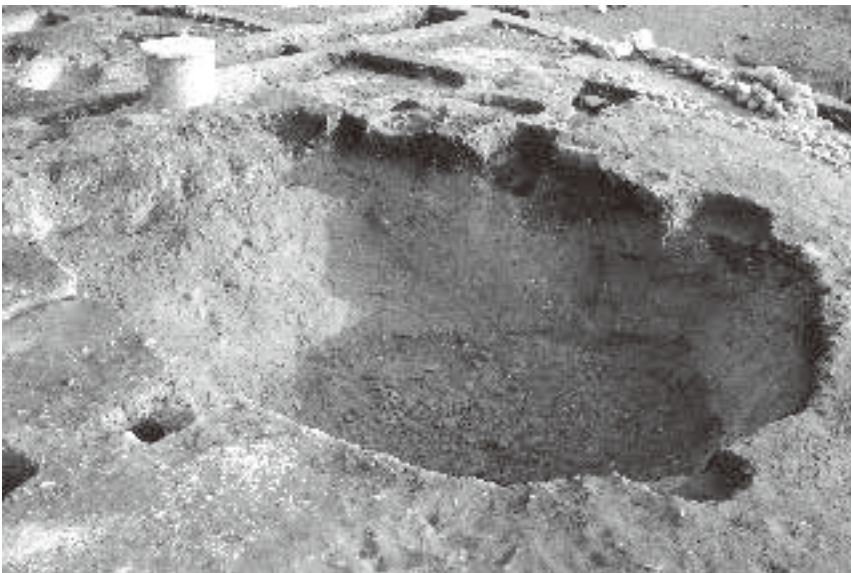
SX24 完掘 (南から)



SX24 断面 A (南東から)



SX26 礫検出 (南から)



SX26 完掘 (北西から)



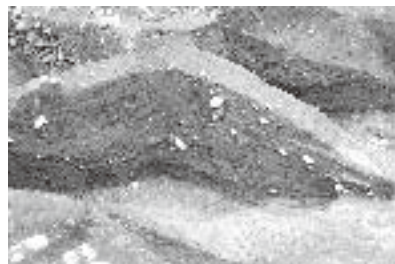
SX26 断面 A (東から)



SX26 断面 B (南西から)



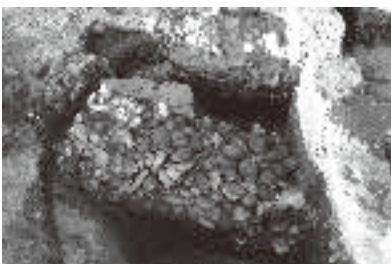
SX26 断面 B (南東から)



SX26 断面 C 東 (南東から)



SX26 断面 C 西 (南西から)



SX26 断面 C 西②(南から)



SX26 断面 C 補足 (南から)



掘削作業状況 (南東から)



通路跡 C3・4 検出 (南東から)



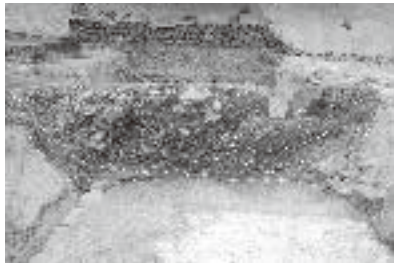
通路跡 断面 A (南東から)



通路跡 断面 C (南東から)



通路跡 断面 D (北西から)



通路跡 断面 B (南東から)



通路跡 断面 D・谷地形 断面 (北東から)



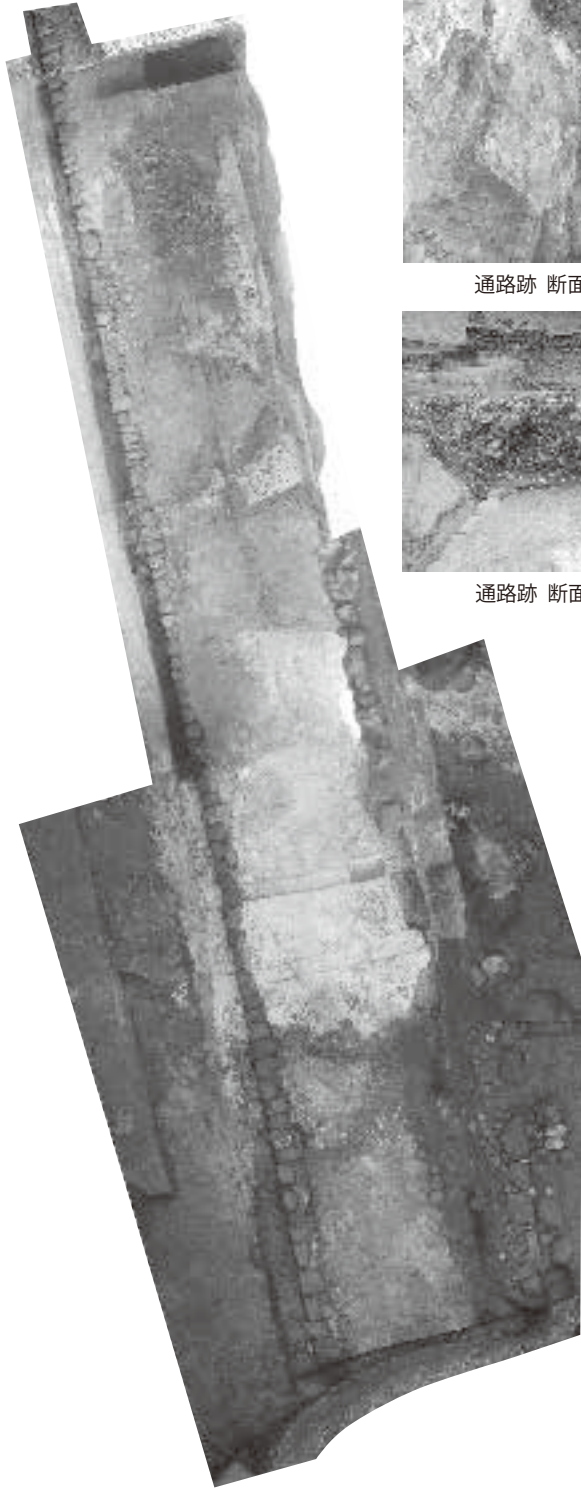
通路跡肩 SX59 検出 (北から)



通路跡内 -SK1 断面 D (北東から)



通路跡内 -SK1 断面 A (北東から)



通路跡 検出 (写真上が北)

写真図版 8 通路跡



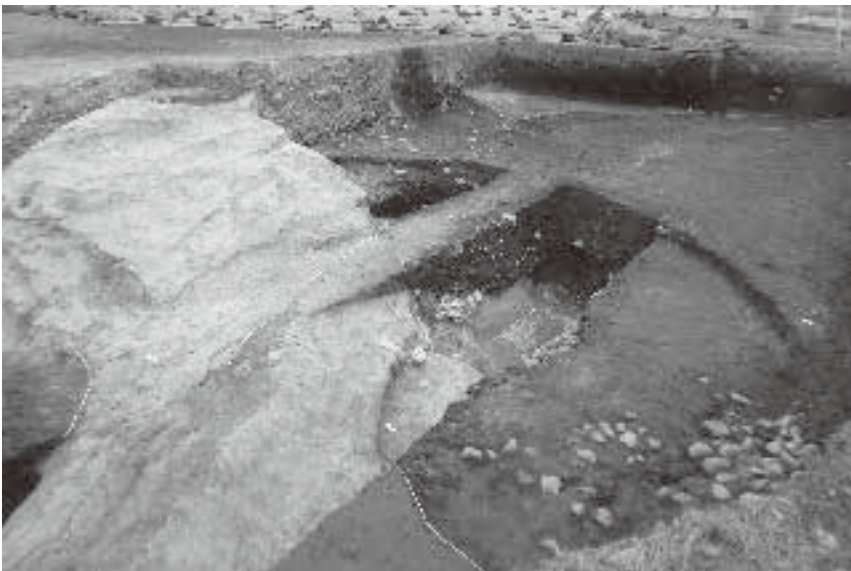
谷地形 掘削完了 (北西から)



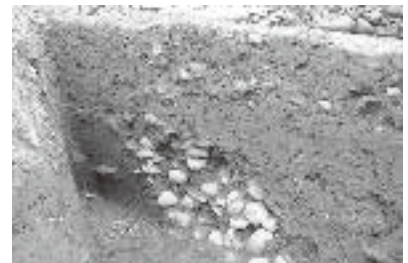
谷地形 掘削完了 (写真上が南西)



谷地形 南壁面断面 北西 (北東から)



谷地形 掘削完了 (南西から)



谷地形 南壁面断面 南東 (北から)



谷地形 断面 A (南から)



谷地形 掘削完了 (南東から)



谷地形 断面 A 西端 (南から)

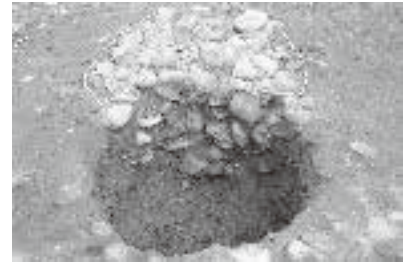


谷地形 断面 B (北西から)

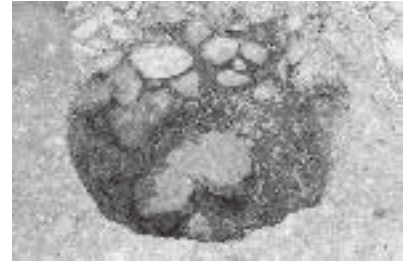
写真図版 9 谷地形



II層 建物跡完掘 (南から)



SB1-P1 断面 (西から)



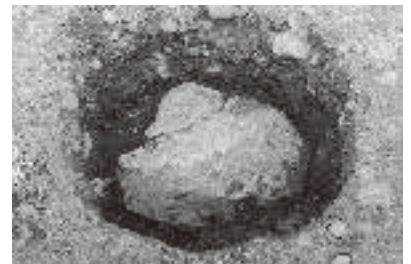
SB2-P3 断面 (西から)



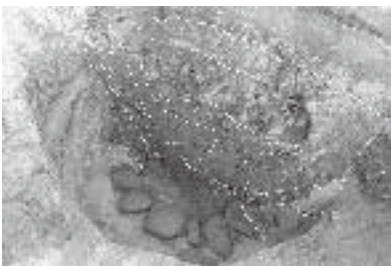
II層 建物跡完掘 (写真左が北)



SB2-P24 根石検出 (南西から)



SB2-P26 根石検出 (南から)



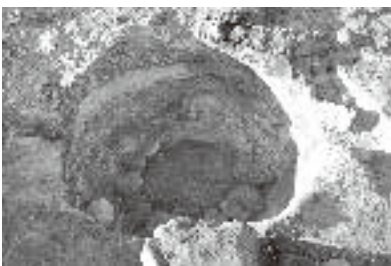
SE1 断面 A①(南西から)



SE1 断面 A②(南西から)



SE1 断面 A②(西から)



SE1 掘削状況 (南から)



SE1 完掘 (西から)

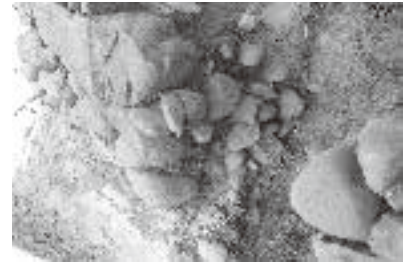


SE1 断面 A③(西から)

写真図版 10 SB1 ~ 5、SE1



土塁、表土撤去後（南東から）



断ち割り断面 B（南東から）



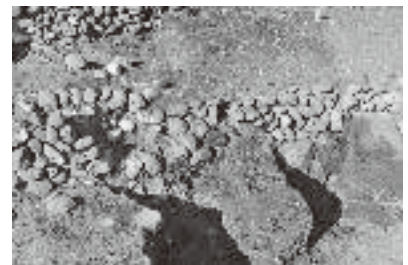
断ち割り断面 C（南東から）



土塁、表土撤去前（南東から）



C2 グリッド 裏込め検出（東から）



断ち割り断面 D（南西から）



石積み撤去後（南から）



C5 グリッド 地山検出（南東から）



C5 グリッド 地山検出（北東から）



調査区全景（北西から）

写真図版 11 北側土塁、その他



SX25 焼土層出土 皿 (第 21 図 12) 出土状況



SX25 焼土層出土 香炉 (第 22 図 8) 出土状況



SX25 出土 器台 (第 23 図 7) 出土状況



SX25 出土 かわらけ (第 23 図 14) 出土状況



SX25 焼土層出土 壺 (第 24 図 2) 出土状況



SX25 出土 鉢 (第 26 図 7) 出土状況



SX25 焼土層出土 焜炉 (第 26 図 9) 出土状況



SX21 出土 瓦塔 (第 43 図 1) 出土状況

写真図版 12 遺物出土状況



写真图版 13 出土遺物 (1)



写真图版 14 出土遺物 (2)



写真图版 15 出土遺物 (3)



写真图版 16 出土遺物 (4)



写真图版 17 出土遺物 (5)



写真图版 18 出土遺物 (6)



写真图版 19 出土遺物 (7)



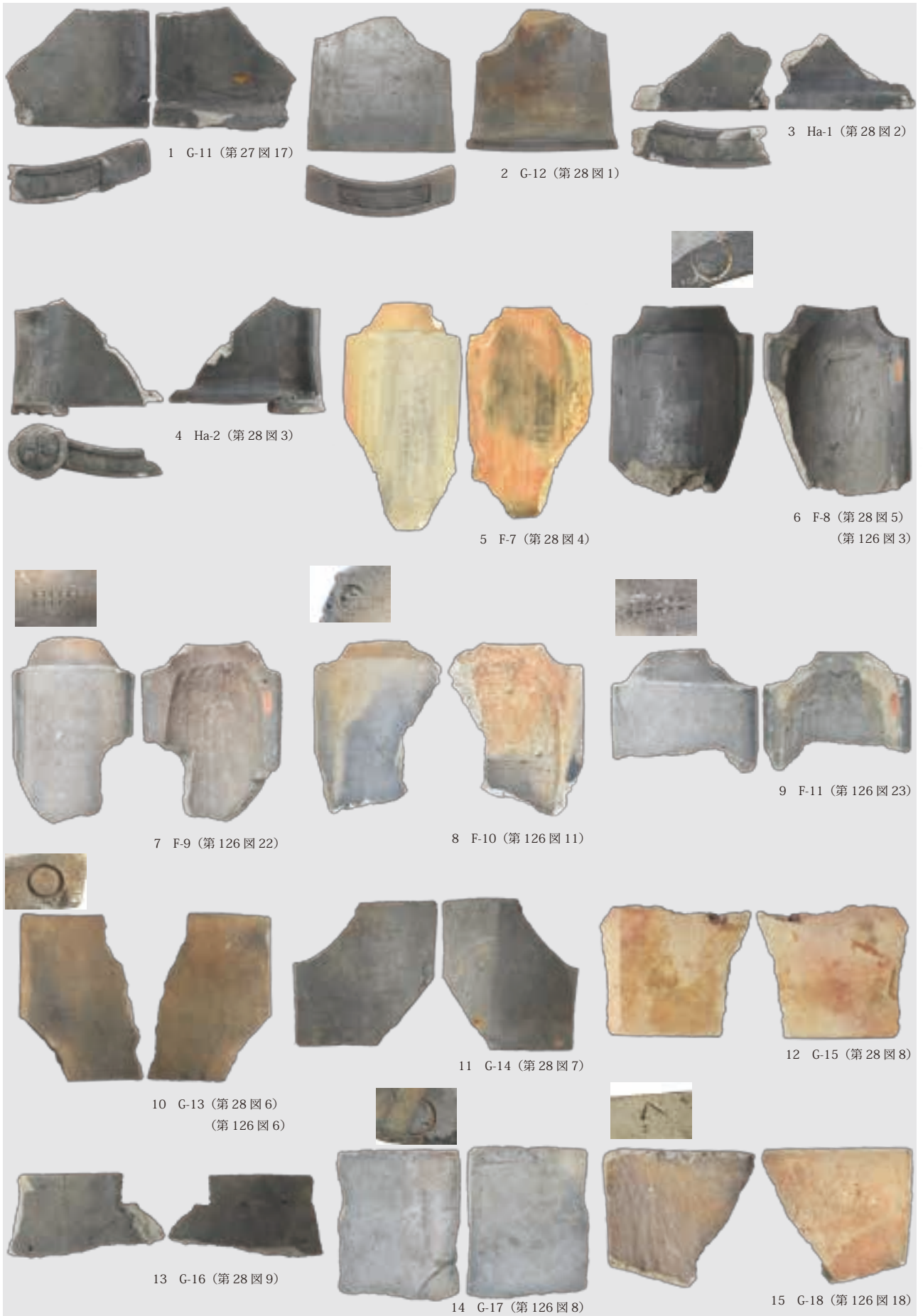
写真图版 20 出土遺物 (8)



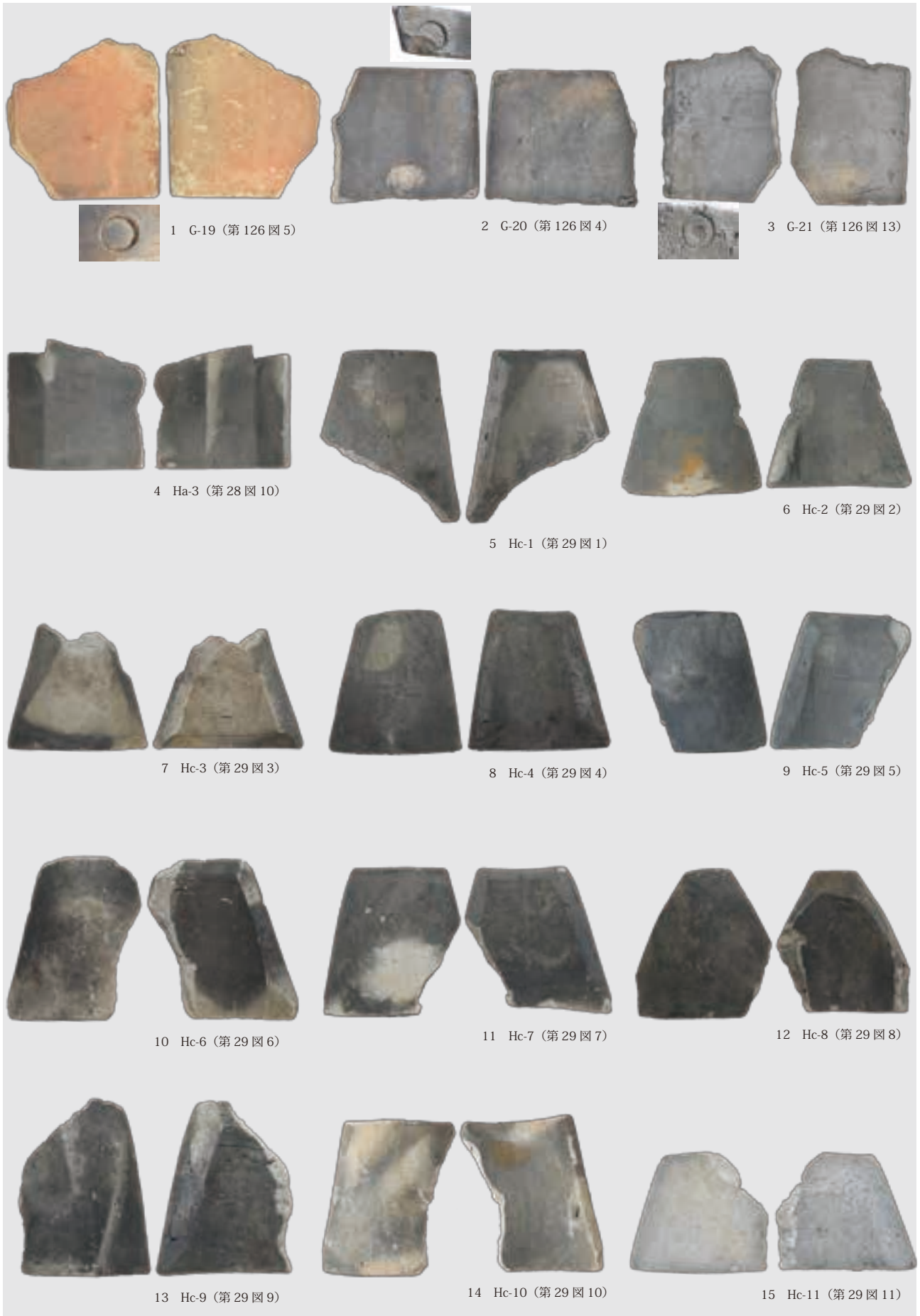
写真图版 21 出土遺物 (9)



写真图版22 出土遺物(10)



写真图版23 出土遺物(11)



写真图版24 出土遺物(12)



写真图版25 出土遺物(13)



写真图版26 出土遺物(14)



写真图版27 出土遺物(15)



2 F-17 (第44图2)



3 F-18 (第44图3)



4 F-19 (第44图4)



5 F-16 (第44图1)



8 G-25 (第126图2)



1 P-4 (第43图2)



6 G-23 (第44图5)

7 G-24 (第44图6)



9 G-26 (第126图16)

10 G-27 (第126图10)



11 Ha-4 (第44图7)



12 Hc-42 (第44图8)

写真図版28 出土遺物(16)



写真图版29 出土遺物(17)



写真图版30 出土遺物(18)



写真图版31 出土遺物(19)



写真图版32 出土遺物(20)



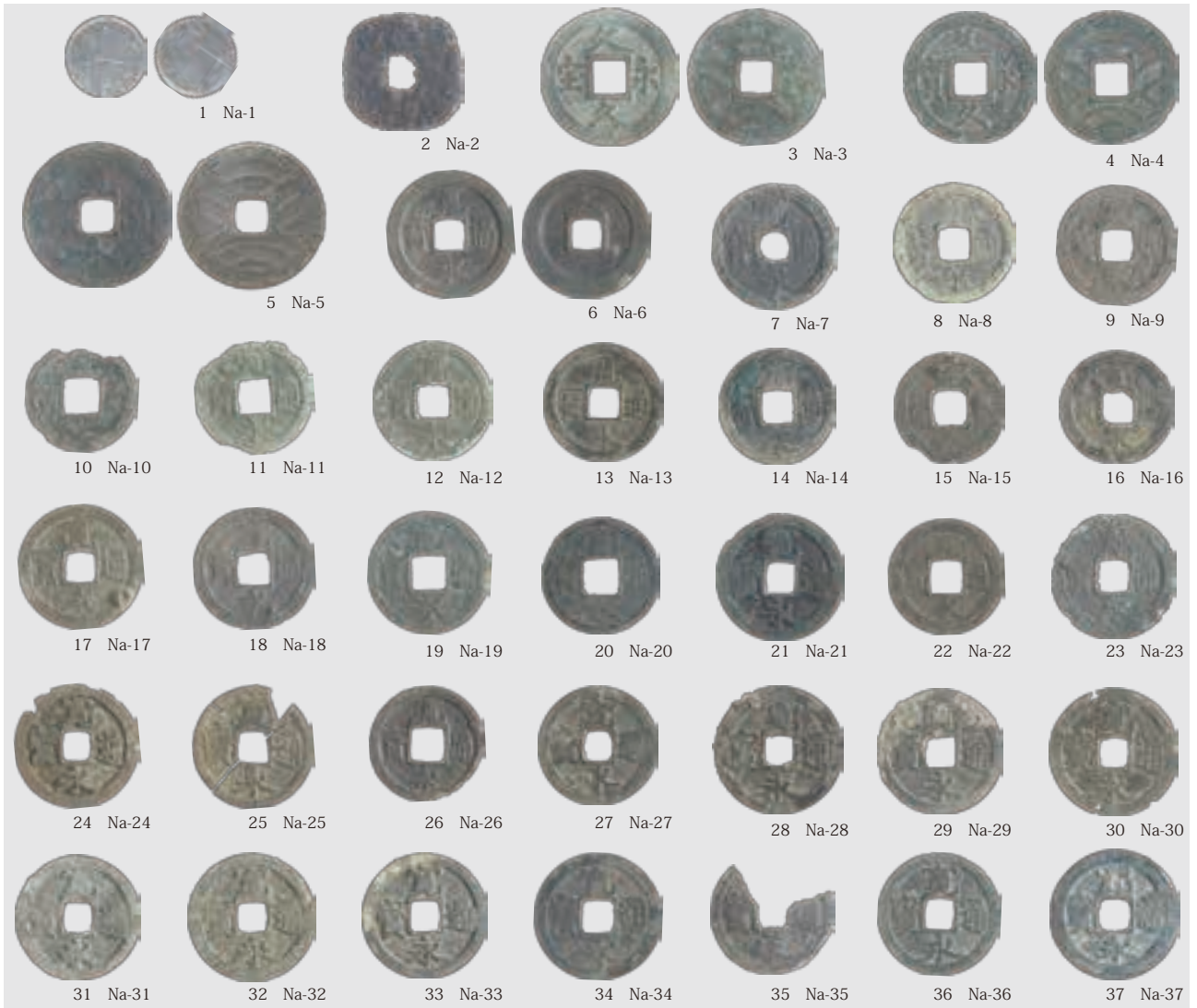
写真图版33 出土遺物(21)



写真图版34 出土遺物(22)



写真图版35 出土遺物(23)



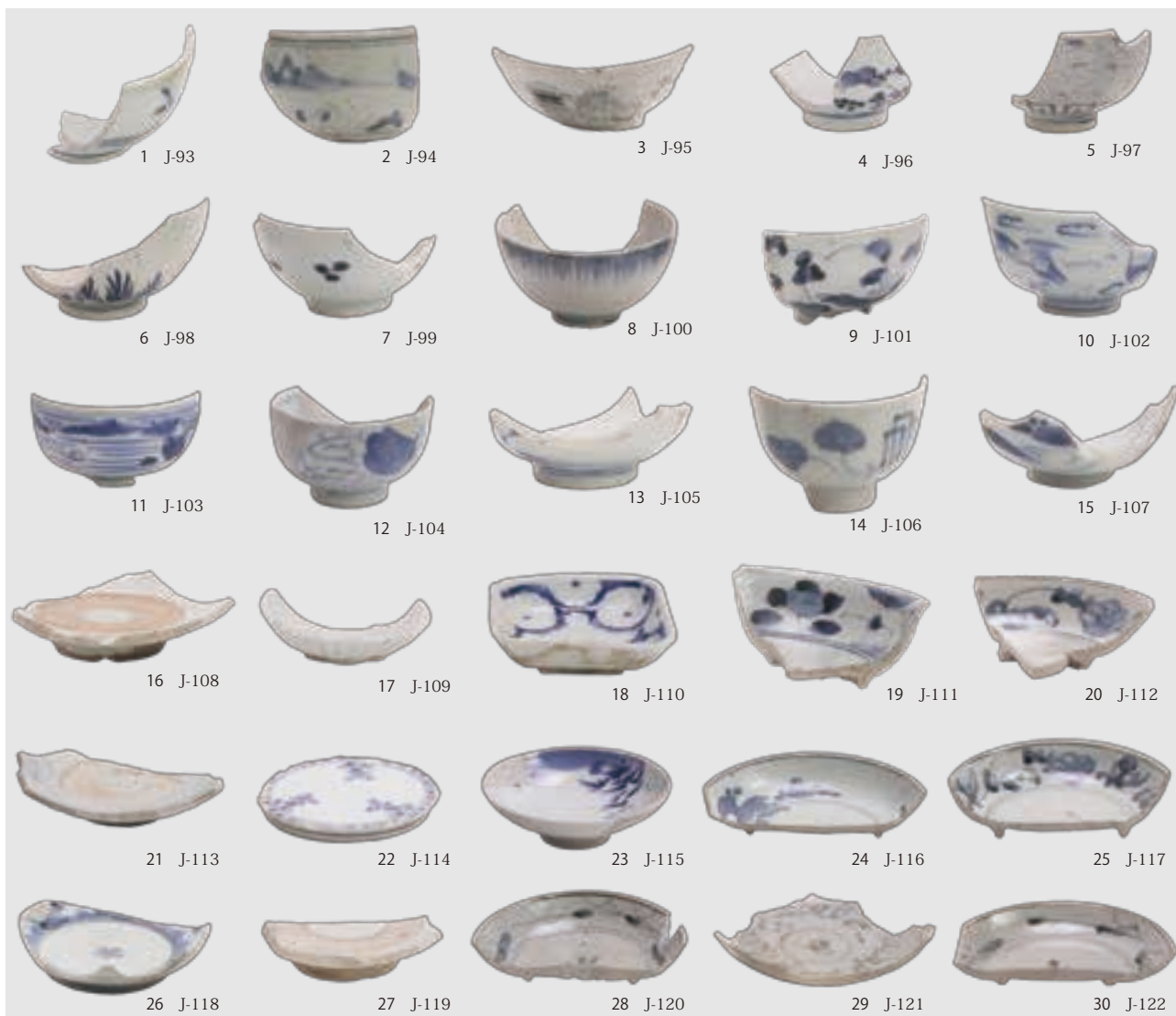
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	登録No.
					長さ	幅	厚さ	孔径		
1	土塁石積み内	金属製品	銭貨	一銭 昭和十八年	径 1.6	—	0.16	—	0.6	Na-1
2	SX25 8層	金属製品	銭貨	判読不明、鉄製、形状から仙台通宝?	2.2	2.25	0.18	0.6	2.6	Na-2
3	E8 IV a層	金属製品	銭貨	文久永宝 背「11波」	径 2.65	—	0.1	0.65	2.9	Na-3
4	D6 IV b層	金属製品	銭貨	文久永宝 背「11波」	径 2.6	—	0.09	0.62	2.5	Na-4
5	D・E6 II b層	金属製品	銭貨	寛永通宝四文銭 背「11波」	径 2.8	—	0.13	0.7	4.7	Na-5
6	SX25 15層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永 背上「文」	径 2.5	—	0.13	0.6	3.0	Na-6
7	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.4	—	0.15	0.55	3.8	Na-7
8	SX25 10層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.3	—	0.08	0.6	2.0	Na-8
9	SX21 4層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.3	—	0.09	0.6	2.4	Na-9
10	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	(2.0)	2.2	0.09	0.7	1.3	Na-10
11	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	(2.15)	2.25	0.12	0.65	2.0	Na-11
12	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.3	—	0.09	0.62	2.2	Na-12
13	G5 V層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.25	—	0.12	0.6	2.2	Na-13
14	C6 V層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永?	径 2.25	—	0.11	0.6	2.5	Na-14
15	D7 IV a層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.1	—	0.1	0.7	1.9	Na-15
16	E8 IV a層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.2	—	0.09	0.6	1.9	Na-16
17	F7 IV a層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.4	—	0.12	0.6	3.1	Na-17
18	E8 IV a層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.35	—	0.1	0.6	2.5	Na-18
19	E8 I層	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.4	—	0.11	0.65	2.4	Na-19
20	土塁石積み内	金属製品	銭貨	寛永通宝 新寛永	径 2.25	—	0.1	0.7	1.7	Na-20
21	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.42	—	0.12	0.55	2.5	Na-21
22	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.23	—	0.1	0.65	2.0	Na-22
23	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.4	—	0.11	0.6	2.7	Na-23
24	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.4	—	0.1	0.55	1.8	Na-24
25	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.3	—	0.12	0.57	1.9	Na-25
26	SX25 8層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.2	—	0.1	0.65	1.7	Na-26
27	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.3	—	0.12	0.6	3.1	Na-27
28	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.45	—	0.1	0.55	3.2	Na-28
29	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.4	—	0.1	0.55	3.3	Na-29
30	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.5	—	0.12	0.55	2.7	Na-30
31	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.4	—	0.13	0.55	3.6	Na-31
32	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.45	—	0.1	0.5	3.8	Na-32
33	谷地形 6層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.4	—	0.12	0.6	2.6	Na-33
34	C6 V層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.45	—	0.11	0.6	3.2	Na-34
35	E8 IV a層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	(0.9)	2.3	0.12	0.55	1.9	Na-35
36	E7 III b層	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.4	—	0.1	0.6	3.2	Na-36
37	排土	金属製品	銭貨	寛永通宝 古寛永	径 2.5	—	0.11	0.6	3.1	Na-37

写真図版 36 出土遺物 (24)



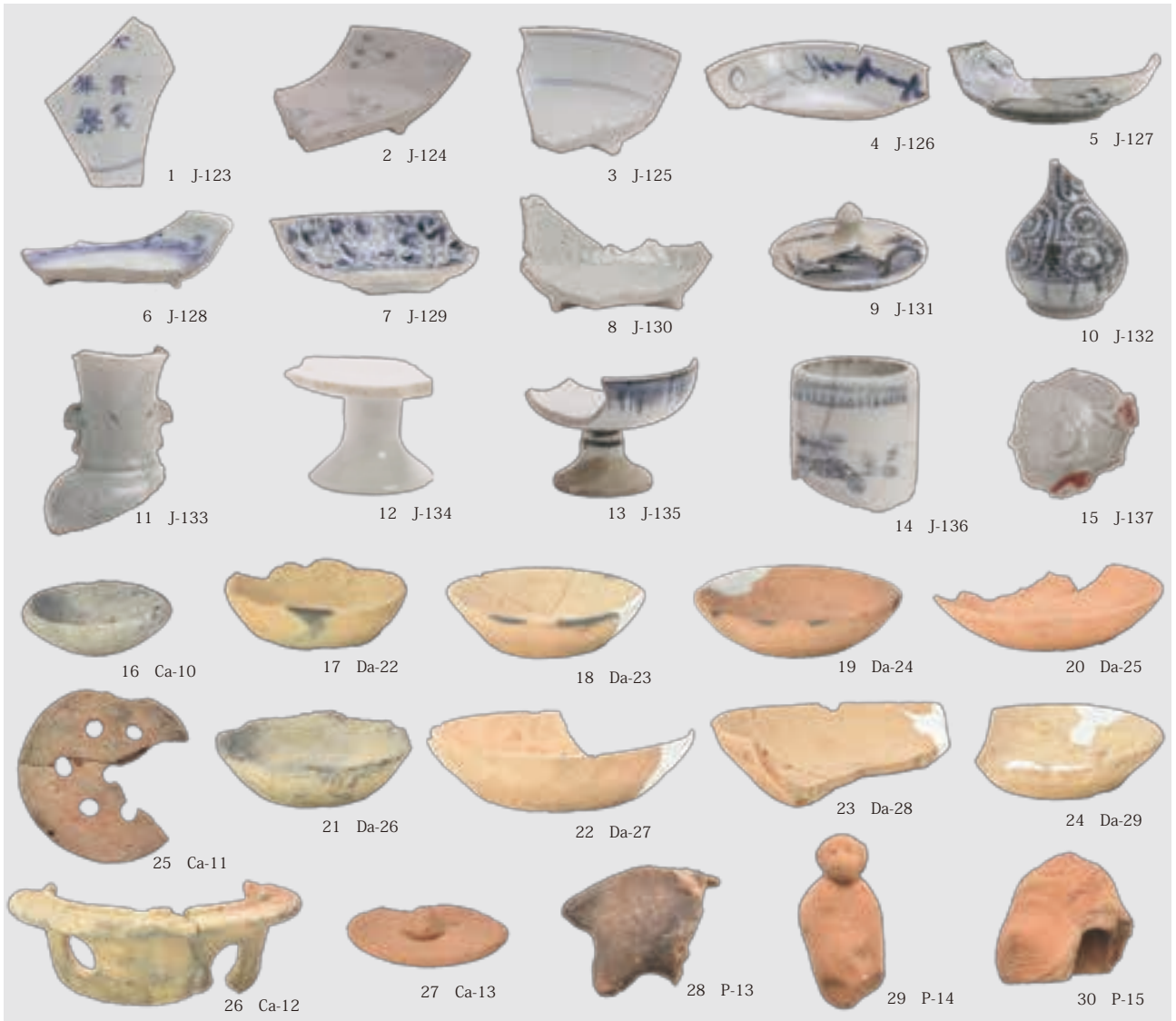
No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			登録 No.
							口径	器高	底径	
1	SX25 14層	陶器	碗				(10.0)	6.6	4.1	I-123
2	SX25 14層	陶器	碗				(11.0)	7.4	4.9	I-124
3	SX25 14層	陶器	平碗				(13.0)	4.7	4.9	I-125
4	谷地形 3層	陶器	碗				(11.0)	8.1	4.9	I-126
5	谷地形 3層	陶器	碗				—	「3.85」	4.4	I-127
6	谷地形 3層	陶器	碗				10.6	6.6	5.0	I-128
7	D6 V層	陶器	碗				11.8	「6.0」	—	I-129
8	D7 III b層	陶器	碗				(9.4)	6.5	5.0	I-130
9	SX25 14層	陶器	皿	見込み、蛇の目釉剥ぎ	肥前	18C 前半	—	「2.3」	5.0	I-131
10	SX26 10層	陶器	皿	見込み、蛇の目釉剥ぎ	肥前	18C 前半	(12.8)	3.5	(5.0)	I-132
11	SX25 8層	陶器	蓋	つまみ径 0.8cm			8.3(径)	3.0	6.6(口径)	I-133
12	SX25 14層	陶器	蓋				8.0(径)	「2.5」	6.2(口径)	I-134
13	SX25 14層	陶器	蓋	つまみ径 1.1cm			5.6(径)	2.9	3.8(口径)	I-135
14	SX25 8層	陶器	蓋	つまみ径 1.1cm			7.6(径)	2.7	5.2(口径)	I-136
15	SX25 14層	陶器	焙烙				「8.3」(長さ)	2.0(幅)	1.8(厚さ)	I-137
16	SX25 14層	陶器	土瓶				6.9	—	—	I-138
17	SX25 14層	陶器	土瓶				(6.0)	「7.6」	—	I-139
18	D7 IV a層	陶器	土瓶				0.15 ~ 0.2(厚さ)			I-140
19	SX25 14層	陶器	灯明皿				5.1	1.9	3.2	I-141
20	SX25 14層	陶器	灯明皿				6.0	1.8	3.8	I-142
21	SX25 14層	陶器	乗燭	胴部径 2.8cm			—	「6.8」	—	I-143
22	D3 1層	陶器	豆甃		小野相馬	18C 後半	—	「3.15」	25	I-144
23	SX25 14層	陶器	甃				37.0	「18.8」	—	I-145
24	SX25 14層	陶器	甃		堤	19C 前半	—	「10.5」	—	I-146
25	SX25 8層	陶器	甃				(29.0)	「15.3」	—	I-147
26	SX25 14層	陶器	甃				26.0	「7.9」	—	I-148
27	SX25 8層	陶器	播鉢				—	「7.6」	(13.6)	I-149
28	谷地形 6層	陶器	播鉢				—	「10.4」	16.3	I-150
29	谷地形 6層	陶器	播鉢				34.0	「13.8」	—	I-151

写真図版 37 出土遺物 (25)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			登録 No.
							口径	器高	底径	
1	SX25 15層	磁器	碗	外面に草文	肥前	近世	(10.0)	5.6	(5.0)	J-93
2	SX25 15層	磁器	碗	外面に山水文	肥前	近世	12.0	〔6.9〕	—	J-94
3	SX25 15層	磁器	碗		肥前	近世	(11.0)	〔6.2〕	(4.5)	J-95
4	谷地形 6層	磁器	碗	外面に梅の染付	肥前	近世	(10.4)	5.8	4.8	J-96
5	谷地形 6層	磁器	碗		肥前	近世	(12.0)	6.6	(5.2)	J-97
6	谷地形 6層	磁器	碗		肥前	近世	(10.8)	6.1	4.3	J-98
7	谷地形 6層	磁器	碗		肥前	近世	(8.0)	4.6	(3.9)	J-99
8	谷地形 6層	磁器	碗		肥前	近世	8.8	4.7	3.2	J-100
9	D7 V層	磁器	碗		肥前	近世	(10.0)	5.7	(3.8)	J-101
10	D7 IV a層	磁器	碗	外面に鳥?	肥前	近世	(9.8)	5.2	(4.0)	J-102
11	D7 IV a層	磁器	湯呑	外面に山水文	肥前	近世	(10.8)	5.5	(7.0)	J-103
12	D6 IV a層	磁器	湯呑		肥前	近世	7.0	4.5	3.3	J-104
13	D6 IV a層	磁器	碗		肥前	近世	—	〔3.6〕	4.0	J-105
14	D6 IV a層	磁器	碗		肥前	近世	(7.0)	5.0	(3.0)	J-106
15	D6 IV a層	磁器	碗		肥前	近世	—	〔4.0〕	(5.8)	J-107
16	SX25 15層	磁器	皿	見込み、蛇の目輪剥ぎ	肥前	近世	—	〔2.0〕	4.0	J-108
17	SX25 15層	磁器	皿		肥前	近世	4.4	1.3	1.6	J-109
18	SX25 15層	磁器	皿		肥前	近世	7.7	2.5	3.6	J-110
19	SX25 15層	磁器	皿		肥前	近世	(13.0)	4.5	(7.8)	J-111
20	SX25 15層	磁器	皿		肥前	近世	(13.0)	3.2	(8.0)	J-112
21	SX26 10層	磁器	皿	見込み、蛇の目輪剥ぎ	肥前	近世	—	〔2.5〕	4.2	J-113
22	SX26 10層	磁器	皿		肥前	近世	—	〔1.1〕	9.2	J-114
23	SX26 10層	磁器	皿		肥前	近世	11.2	3.5	4.0	J-115
24	SX26 10層	磁器	皿		肥前	近世	(14.8)	3.0	(9.0)	J-116
25	SX26 10層	磁器	皿		肥前	近世	(13.0)	3.7	(7.8)	J-117
26	SX26 10層	磁器	皿	見込みに五弁花	肥前	近世	(13.4)	3.3	8.2	J-118
27	谷地形 6層	磁器	皿	見込み、蛇の目輪剥ぎ	肥前 or 波佐見	近世	—	〔2.6〕	4.9	J-119
28	谷地形 6層	磁器	皿	内面に唐草文	肥前 or 波佐見	近世	(13.8)	3.3	7.0	J-120
29	谷地形 6層	磁器	皿	内面に唐草文	肥前	近世	(13.2)	3.5	5.4	J-121
30	谷地形 6層	磁器	皿	内面に唐草文	肥前	近世	(14.0)	2.6	(7.2)	J-122

写真図版 38 出土遺物 (26)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			登録 No.
							口径	器高	底径	
1	谷地形 6層	磁器	皿		肥前	近世	—	—	0.55	J-123
2	谷地形 6層	磁器	皿		肥前 or 波佐見	近世	(14.0)	3.4	(7.0)	J-124
3	谷地形 6層	磁器	皿		肥前	近世	(14.0)	3.45	(7.0)	J-125
4	谷地形 6層	磁器	皿		肥前	近世	(14.0)	「2.9」	—	J-126
5	E7 V層	磁器	皿		肥前	近世	13.7	3.3	7.4	J-127
6	E7 V層	磁器	皿		肥前	近世	(14.0)	3.2	(8.0)	J-128
7	D9 IV b層	磁器	皿		肥前	近世	(13.4)	4.2	(8.0)	J-129
8	D9 IV b層	磁器	輪花皿		肥前	近世	(15.4)	4.4	(8.0)	J-130
9	D9 IV a層	磁器	蓋	つまみ径 1.1cm	肥前	近世	6.0(径)	2.8	4.1(口径)	J-131
10	SX25 8層	磁器	一輪挿し		肥前	近世	6.5	「8.5」	4.3	J-132
11	D7 V層	磁器	仏花瓶		肥前	近世	—	「11.3」	4.0~11.0	J-133
12	SX25 15層	磁器	仏飯具		肥前	近世	—	「2.3」	5.0	J-134
13	D7 V層	磁器	仏飯具		肥前	近世	(8.0)	5.4	4.1	J-135
14	SX25 8層	磁器	灰吹		肥前	近世	6.4	「6.9」	—	J-136
15	E7 IV a層	磁器	人形		肥前	近世	「3.2」(長さ)	「1.7」(幅)	3.3(奥行)	J-137
16	SX25 15層	土師質土器	皿		不明	近世	4.2	1.5	1.5	Ca-10
17	SX25 15層	土師質土器	皿		不明	近世	5.5	1.5	4.0	Da-22
18	SX25 15層	土師質土器	皿		不明	近世	7.8	2.0	4.7	Da-23
19	SX25 15層	土師質土器	皿		不明	近世	8.1	2.0	4.3	Da-24
20	SX25 15層	土師質土器	皿		不明	近世	11.0	2.3	6.5	Da-25
21	SD6 1層	土師質土器	皿		不明	近世	「8.5」	「2.4」	5.2	Da-26
22	SX26 8層	土師質土器	皿		不明	近世	18.4	4.4	11.3	Da-27
23	SX26 8層	土師質土器	皿		不明	近世	21.0	5.0	13.3	Da-28
24	D7 IV a層	土師質土器	皿		不明	近世	11.8	2.9	7.0	Da-29
25	SX25 14層	土師質土器	さな	円盤型	不明	近世	3.7(径)、1.3(厚さ)			Ca-11
26	E8 IV a層	土師質土器	椀形		不明	近世	16.7	「5.6」	—	Ca-12
27	排土	土師質土器	蓋	つまみ 1.3 × 1.1cm	不明	近世	4.5	1.0	3.0	Ca-13
28	SX25 14層	土製品	土人形		不明	近世	4.6(長さ)	「5.0」(幅)	「1.8」(厚さ)	P-13
29	SX39 1層	土製品	土人形		不明	近世	4.5(長さ)	2.1(幅)	2.0(厚さ)	P-14
30	E7 IV a層	土製品	土人形		不明	近世	「3.7」(長さ)	「3.6」(幅)	2.5(厚さ)	P-15

写真図版 39 出土遺物 (27)



No.	遺構・層位	種類	用途	瓦当文様	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	登録 No.
						長さ	幅 (径)	厚さ	高さ		
1	SX24 5層	瓦	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	6.2	16.6	2.2	—	1027	F-40
2	SX25 15層	瓦	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	8.25	15.8	2.2	—	408.5	F-41
3	SX25 15層	瓦	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	10.1	15.8	1.75	—	1,184.5	F-42
4	SX25 15層	瓦	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、右巻き	7.1	9.8	1.8	—	180.3	F-43
5	C7 IV a層	瓦	軒丸瓦	珠文三巴文	巴、右巻き	20.0	15.5	2.4	—	1887	F-44
6	D7 IV a層	瓦	軒丸瓦	縦三引両文		10.4	16.8	2.0	—	408.5	F-45
7	D7 IV a層	瓦	軒丸瓦	九曜文		9.8	16.1	2.0	—	1113	F-46
8	SX25 15層	瓦	軒平瓦	三巴文	巴、左巻き	「7.8」	「14.5」	1.8	7.1	356	G-48
9	SX25 15層	瓦	軒平瓦	三枚笹		「7.3」	「17.5」	1.6	8.5	483	G-49
10	SX25 15層	瓦	軒平瓦	三枚笹		「8.8」	「16.8」	1.7	6.3	558.5	G-50
11	SX25 15層	瓦	軒平瓦	笹文雪持ち		「13.3」	「16.3」	1.9	6.5	627	G-51
12	SX25 15層	瓦	軒平瓦	笹文雪持ち		「13.6」	「25.3」	2.0	8.5	1,081	G-52
13	SX25 15層	瓦	軒平瓦	花文		「11.8」	「21.8」	2.0	7.7	714	G-53
14	SX25 15層	瓦	軒平瓦	三葉文		「8.8」	「10.3」	「2.3」	「5.6」	229	G-54
15	SX22 IV a層	瓦	軒平瓦	丸文		「17.0」	「17.5」	「1.5」	「6.4」	815	G-55
16	I層	瓦	軒平瓦	巴字文		「14.3」	「17.2」	1.4	「6.3」	623	G-56
17	SX25 15層	瓦	軒棧瓦	珠文三巴文+江戸式	巴、右巻き	「10.0」	「18.7」	1.6	「7.4」	559	Ha-15
18	SX46 1層	瓦	軒棧瓦	無文		「16.0」	「10.7」	2.1	「7.6」	446	Ha-16
19	D7 IV a層	瓦	軒棧瓦	桔梗文? +不明		「15.1」	「10.3」	「1.9」	「8.1」	543.5	Ha-17
20	D8 IV b層	瓦	軒棧瓦	三巴文+江戸式	巴、右巻き	「18.1」	「21.5」	2.2	「8.0」	1,027.5	Ha-18
21	SX25 15層	瓦	軒棧瓦	三巴文	巴、左巻き	「8.8」	「12.8」	「1.5」	「7.9」	403.5	Ha-19
22	D7 IV a層	瓦	軒棧瓦	縦三引両文		「11.0」	28.8	「2.1」	10.0	1,018	Ha-20
23	D5 IV a層	瓦	軒棧瓦	縦三引両文		「9.9」	「8.3」	1.9	「7.3」	255	Ha-21
24	D7 IV a層	瓦	軒棧瓦	三巴文	巴、右巻き	—	「9.9」	2.1	「9.7」	218	Ha-22

写真図版 40 出土遺物 (28)



No.	遺構・層位	種類	器種	瓦当文様	特徴	法量 (cm)				重量 (g)	登録 No.
						長さ	幅	厚さ	高さ		
1	D4 II a 層	瓦	軒棧瓦	豎三引両文		径9.0				213	Ha-23
2	E6・7 II a 層	瓦	軒棧瓦	珠文三巴文	巴、左巻き	7.5	7.6	1.8	—	143	Ha-24
3	I 層	瓦	軒棧瓦	江戸式		「11.5」	「14.2」	1.85	7.8	479	Ha-25
4	I 層	瓦	軒棧瓦	江戸式		「16.2」	「22.7」	1.9	6.9	854	Ha-26
5	I 層	瓦	軒棧瓦	三巴文+江戸式	巴、右巻き	24.6	26.2	1.8	8.6	2,120	Ha-27
6	I 層	瓦	軒棧瓦	三巴文+不明	巴、左巻き	24.8	27.2	1.8	8.2	2,110	Ha-28
7	I 層	瓦	軒棧瓦	不明+尾張系		「22.3」	24.9	1.5	8.0	1,716	Ha-29
8	I 層	瓦	軒棧瓦	三巴文+尾張系		「9.4」	「19.5」	1.75	「7.7」	584	Ha-30
9	SX45 3層	瓦	丸瓦	—		「28.5」 玉縁2.6	14.9	2.6	7.5	2,002	F-47
10	SX45 3層	瓦	丸瓦	—		29.5 玉縁3.3	15.3	2.3	7.5	1,653	F-48
11	SX45 3層	瓦	丸瓦	—		27.8 玉縁2.1	14.6	1.8	6.5	1,465	F-49
12	SX45 3層	瓦	丸瓦	—		26.6 玉縁3.1	14.7	2.3	7.3	1,627	F-50
13	SX25 8層	瓦	平瓦	—		24.1	25.5 広端 「11.2」 狭端	2.0	—	1,780	G-57
14	SX25 8層	瓦	棧瓦	—		24.1	27.1 広端 「11.2」 狭端	1.6	—	1,845	Ha-31
15	F8 II b 層	瓦	棧瓦	—		「7.25」	「6.3」	1.9	—	168	Ha-32
16	SX25 8層	瓦	鬼瓦	—		「11.0」	「5.5」	2.6	—	244	Hb-11
17	D8 IV a 層	瓦	鬼瓦	—		「9.1」	「5.0」	2.0	—	144.1	Hb-12
18	D8 III b 層	瓦	鬼瓦	—		「9.1」	径2.2~3.3		—	68.6	Hb-13
19	攪乱	瓦	鬼瓦	—		「6.5」	「6.3」	3.3	—	170.5	Hb-14
20	F9 IV b 層	瓦	飾り瓦	—		「14.5」	「13.3」	1.6	—	608	Hc-90
21	SX22 IV a 層	瓦	下駄紐	—		「11.6」	「6.5」	2.0	—	300	Hc-91
22	E8 IV a 層	瓦	伏間瓦	—		「15.1」	「16.0」	1.6	—	643	Hc-92
23	D8 IV a 層	瓦	不明	—		「13.8」	13.3	1.7	—	464.5	Hc-93
24	I 層	瓦	不明	—		「17.6」	「6.9」	1.8	—	467.5	Hc-94

写真図版 41 出土遺物 (29)



No.	遺構・層位	種類	器種	特徴	産地	時期	法量 (cm)			重量 (g)	登録 No.
							長さ	幅	厚さ		
1	SX25 8層	金属製品	煙管 (雁首)		不明	17C後半から18C前半	5.2	2.0	0.8	3.9	N-21
2	SX25 8層	金属製品	煙管 (雁首)		不明	18C中葉	2.2	1.9	0.7	2.9	N-22
3	SX25 8層	金属製品	煙管 (雁首)		不明	18C後半	4.4	1.8	0.7	2.7	N-23
4	SX24 2層	金属製品	煙管 (雁首)		不明	18C前半	5.5	2.0	1.15	9.8	N-24
5	谷地形 6層	金属製品	煙管 (雁首)		不明	18C前半	4.1	2.1	0.6	5.1	N-25
6	SX25 8層	金属製品	煙管 (吸い口)	肩有り	不明	18C前半	3.9	推定径 1.4		5.7	N-26
7	SX25 8層	金属製品	煙管 (吸い口)	六角形の断面形	不明	18C後半	7.3	最大 1.1	最小 0.6	8.4	N-27
8	SX26 10層	金属製品	煙管 (吸い口)		不明	18C前半	4.8	最大 0.9	最小 0.4	3.0	N-28
9	SX48 3層	金属製品	煙管 (吸い口)		不明	18C中葉	6.2	最大 1.25	最小 0.6	6.7	N-29
10	谷地形 6層	金属製品	煙管 (吸い口)		不明	18C前半	4.9	最大 0.8	最小 0.4	3.3	N-30
11	谷地形 6層	金属製品	煙管 (吸い口)	肩有り	不明	18C後半	4.0	最大 0.9	最小 0.5	1.7	N-31
12	D8 IV a層	金属製品	煙管 (吸い口)	肩有り	不明	18C中葉	5.4	最大 1.4	最小 0.4	8.0	N-32
13	D8 IV b層	金属製品	煙管 (吸い口)	肩有り	不明	18C前半	3.9	最大 1.4	最小 0.5	3.3	N-33
14	E8 IV c層	金属製品	煙管 (吸い口)		不明	19C前半	6.3	最大 1.1	最小 0.4	4.1	N-34
15	D8 III b層	金属製品	煙管 (吸い口)		不明	19C前半	9.7	最大 1.2	最小 0.4	8.8	N-35
16	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	4.2	最大 0.25	最小 0.15	1.6	N-36
17	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	7.2	最大 0.4	最小 0.2	6.0	N-37
18	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	4.3	最大 0.2	最小 0.05	1.2	N-38
19	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	11.3	最大 0.5	最小 0.25	12.8	N-39
20	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	6.3	最大 0.35	最小 0.2	4.3	N-40
21	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	7.2	最大 0.35	最小 0.15	5.1	N-41
22	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	5.3	最大 0.3	最小 0.1	3.0	N-42
23	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	4.2	最大 0.25	最小 0.1	1.8	N-43
24	SX25 8層	金属製品	釘		不明	近世	9.7	最大 0.4	最小 0.2	11.1	N-44
25	SX25 8層	金属製品	飾り釘		不明	近世	2.1	最大 1.2	最小 0.2	2.0	N-45
26	SX25 8層	金属製品	飾り釘		不明	近世	1.6	最大 1.3	最小 0.2	2.1	N-46
27	E8 IV c層	金属製品	錠前		不明	近世	7.6	7.6	0.5	133.1	N-47
28	SX25 8層	金属製品	把手		不明	近世	5.0	2.3	0.4	5.7	N-48
29	SX25 8層	金属製品	把手		不明	近世	8.4	4.2	0.65	18.1	N-49
30	E7 I層	金属製品	把手		不明	近世	12.1	11.3	1.7	97.4	N-50
31	E7 I層	金属製品	把手		不明	近世	11.4	5.0	1.2	50.0	N-51
32	SX25 8層	金属製品	錠		不明	近世	10.3	0.65	0.65	31.2	N-52
33	SX25 8層	金属製品	錠		不明	近世	10.0	0.65	0.65	30.3	N-53
34	SX25 8層	金属製品	錠		不明	近世	10.2	0.7	0.7	28.8	N-54
35	SX25 8層	金属製品	錠		不明	近世	25.6	1.9	0.8	235.4	N-55
36	SX25 8層	金属製品	錠		不明	近世	22.5	1.8	0.75	185.2	N-56

写真図版 42 出土遺物 (30)

報告書抄録

ふりがな	さくらがおかこうえんいせき
書名	桜ヶ岡公園遺跡
副書名	第6次発掘調査報告書
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第488集
編著者名	主濱光朗 稲垣裕二 名久井伸哉
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 TEL 022-214-8899 FAX 022-214-8399
発行年月日	2021年2月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
さくらがおかこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	みやぎけんせんだいしあおほくおおてまち 宮城県仙台市青葉区大手町	04101	01562	38° 25′ 83″	140° 86′ 25″	20180709～ 20190320	2.197	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜ヶ岡公園遺跡	武家屋敷	江戸時代	建物跡 柱列跡 通路跡 谷地形 溝跡 井戸跡 土坑 土塁 性格不明遺構	陶器 磁器 土師質土器 瓦質土器 金属製品 石器・石製品 瓦	

要約	<p>桜ヶ岡公園遺跡は、広瀬川左岸の仙台中町段丘、標高40～45mに立地する遺跡である。平成30年度に2,197㎡の調査を行った結果、江戸時代の遺構面を4面、近・現代の遺構面を1面検出した。各層の出土遺物の年代から、最下面から3面までが18世紀前半から19世紀初頭、江戸時代の最上面が19世紀前半に相当することがわかった。</p> <p>最下面で検出した1棟の建物跡は桁行き約4.8m、梁行き約1.9mと小規模であり、厩等、屋敷に付随する小規模な建物跡の可能性が考えられる。また、他に建物跡が確認出来なかったことから、本調査区は屋敷域の中心から外れた位置に該当するものと考えられる。</p> <p>調査区南側で検出した長軸約30m、短軸約20mの大規模な落ち込み(SX25)は、調査区外に延びる平面プランを正確に把握出来なかったことと、調査時の安全面を考慮し、底面部まで掘削・確認するに至らなかったことから、自然地形か人為的に掘り下げられたものかは不明である。この落ち込みから、18世紀前半のものと考えられる陶磁器・金属製品を伴う大量の焼土・炭化物層が確認された。仙台市史には18世紀前半に、本調査区が位置する旧大町を含んだ大火の記録が示されており、焼土・炭化物層は大火の際に倒壊した屋敷等の廃棄処理の痕跡と考えられる。</p> <p>V層上面において、約2.4mの長さで積まれた瓦と南北2.7m、東西1.5mの範囲に敷かれた瓦(SX21)、3列に並ぶ石列(SX22)を検出した。両方とも掘り方は無く、整地面に据えられたものであり、SX25を埋める際の土止め、または整地範囲を決める際の目安に用いられた可能性が考えられる。</p> <p>II層上面で検出した5棟の建物跡は、そのほとんどが径1～1.4mの大径の柱穴で構成されている。柱穴の底には径40～50cmほどの礎が設置され、その上部に径15～20cmの礎が大量に混入されていた。重量物に耐え得る工法を示しており、大型の施設が建てられていたものと想定される。明治前半の絵図には、本調査地点の位置に「養蚕試験場」と記されており、その建物跡の可能性が考えられる。しかし、養蚕試験場稼働時の状況や規模を記した詳細な記録・図面が残っていないため、今回の調査では確定することはできなかった。</p>
----	---

仙台市文化財調査報告書 第 488 集
桜ヶ岡公園遺跡 第 6 次発掘調査報告書
2021 年 2 月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号
文化財課 022(214)8899

印刷 株式会社東北プリント
宮城県仙台市青葉区立町 24-24
022(263)1166

